

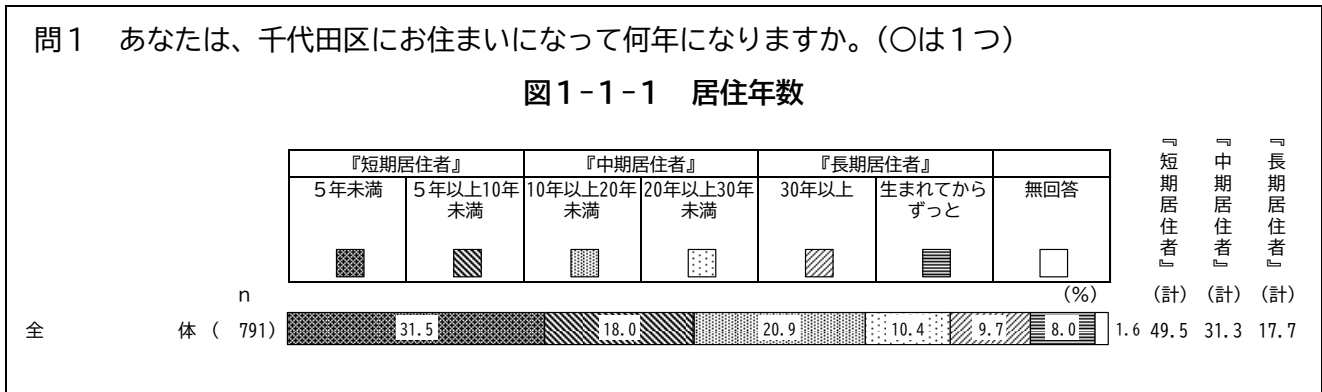
Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

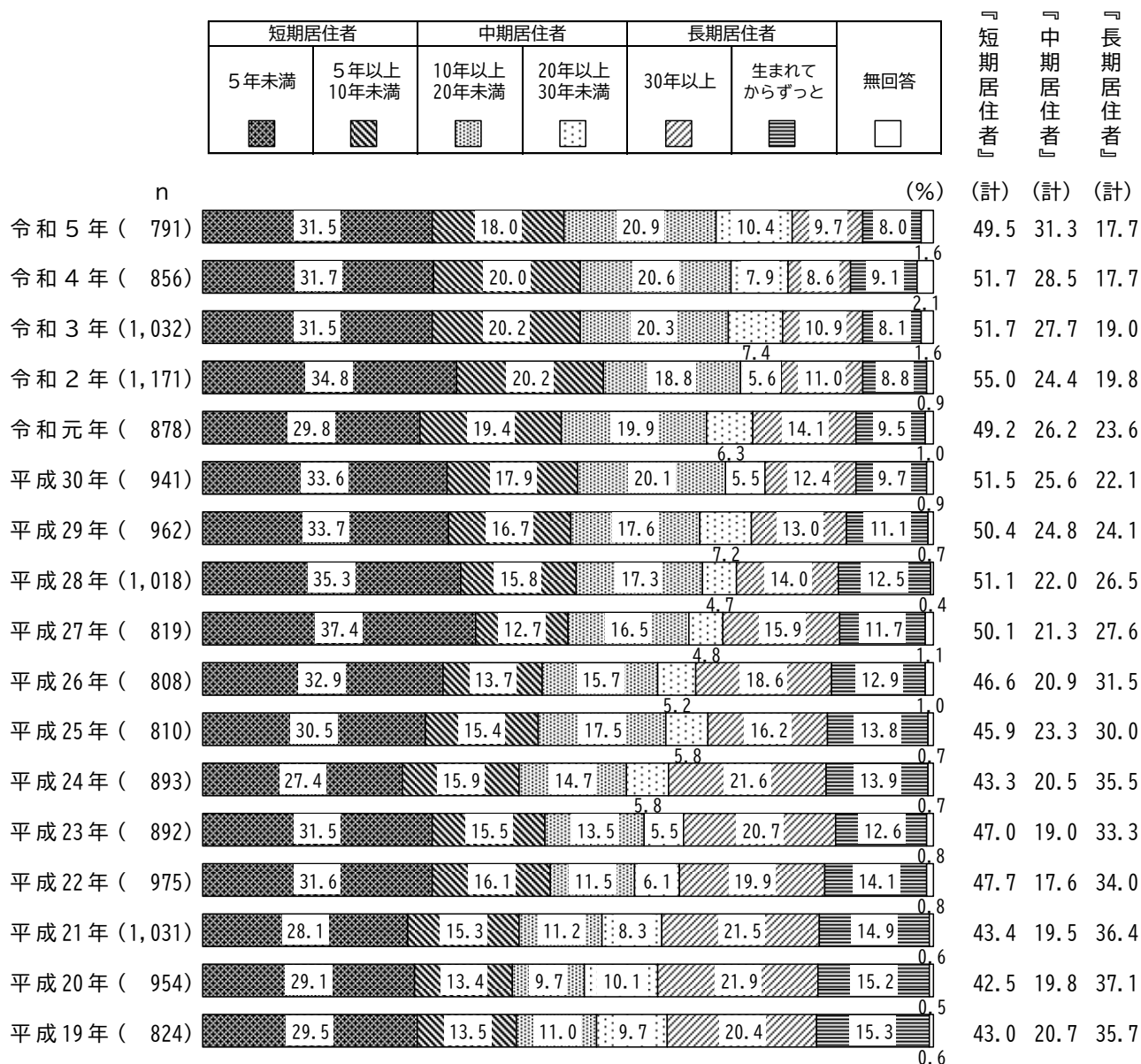
◇「5年未満」と「5年以上10年未満」を合わせた『短期居住者』が5割弱



居住年数について聞いたところ、「5年未満」(31.5%)が3割強で最も高く、これに「5年以上10年未満」(18.0%)を合わせた『短期居住者』(49.5%)は5割弱となっている。また、「30年以上」(9.7%)と「生まれてからずっと」(8.0%)を合わせた『長期居住者』(17.7%)は1割台半ばを超えている。(図1-1-1)

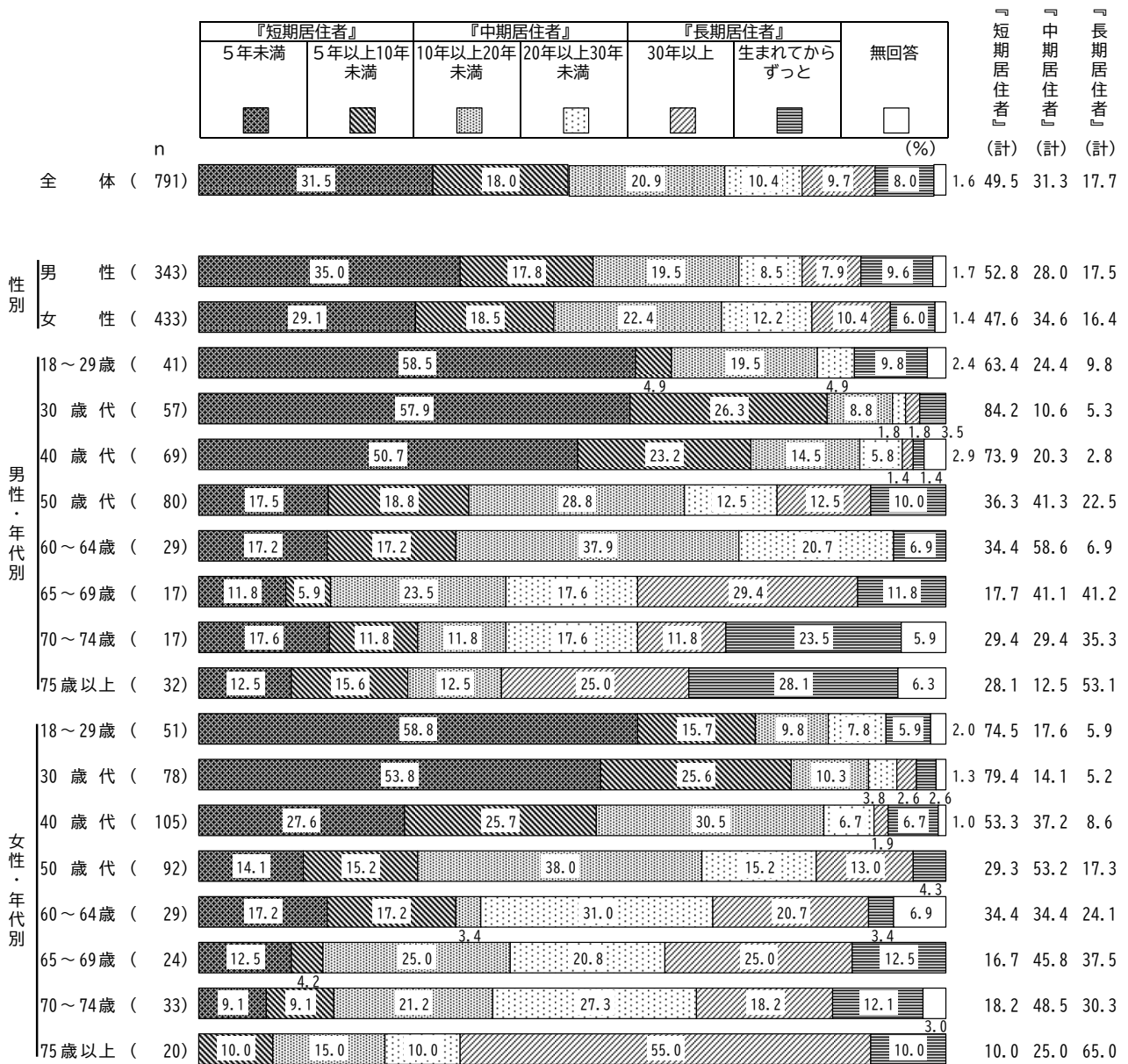
経年比較をみると、『中期居住者』は令和2年から増加傾向が続いている。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数（経年比較）



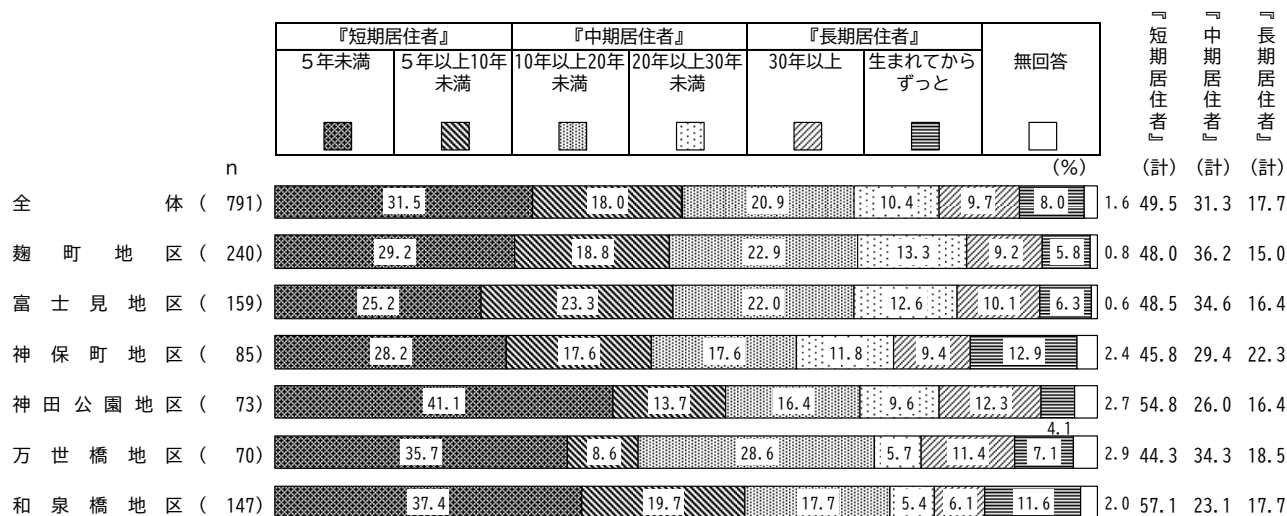
性・年代別にみると、男女ともに『短期居住者』は30歳代で、『長期居住者』は75歳以上で、それぞれ高い割合となっている。(図1-1-3)

図1-1-3 居住年数(性・年代別)



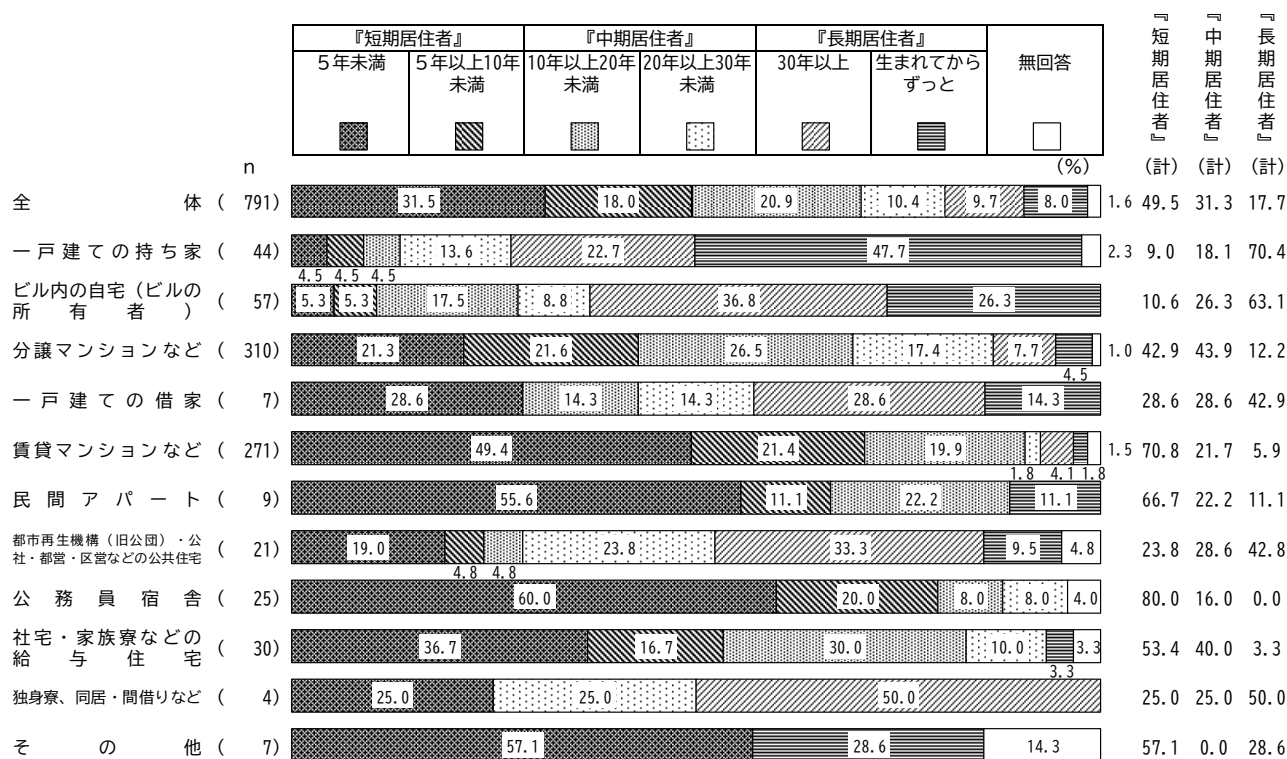
地区別にみると、『短期居住者』は和泉橋地区（57.1％）で、『中期居住者』は麴町地区（36.2％）で、『長期居住者』は神保町地区（22.3％）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-4）

図1-1-4 居住年数（地区別）



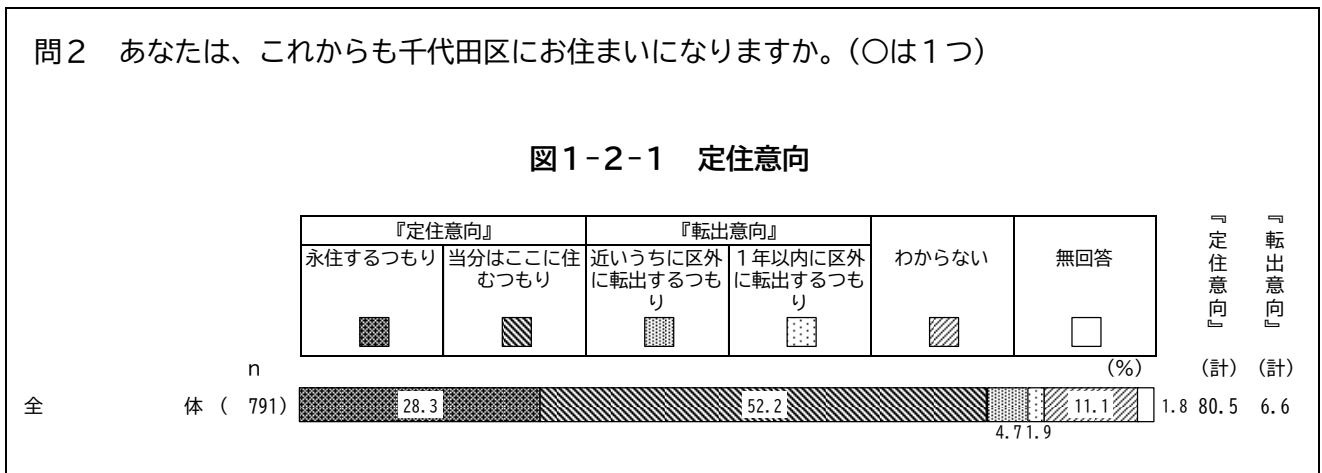
住居形態別にみると、『短期居住者』は公務員宿舎（80.0％）で、『中期居住者』は分譲マンションなど（43.9％）、社宅・家族寮などの給与住宅（40.0％）で、『長期居住者』は一戸建ての持ち家（70.4％）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-5）

図1-1-5 居住年数（住居形態別）



(2) 定住意向

◇「永住するつもり」と「当分はここに住むつもり」を合わせた『定住意向』が約8割



定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(52.2%)が5割強で最も高く、これに「永住するつもり」(28.3%)を合わせた『定住意向』(80.5%)は約8割となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.7%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(1.9%)を合わせた『転出意向』(6.6%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

経年比較をみると、平成18年以降「当分はここに住むつもり」が最も高い割合となっている。「永住するつもり」は令和5年調査では微増している。(図1-2-2、1-2-3)

図1-2-2 定住意向（経年比較）

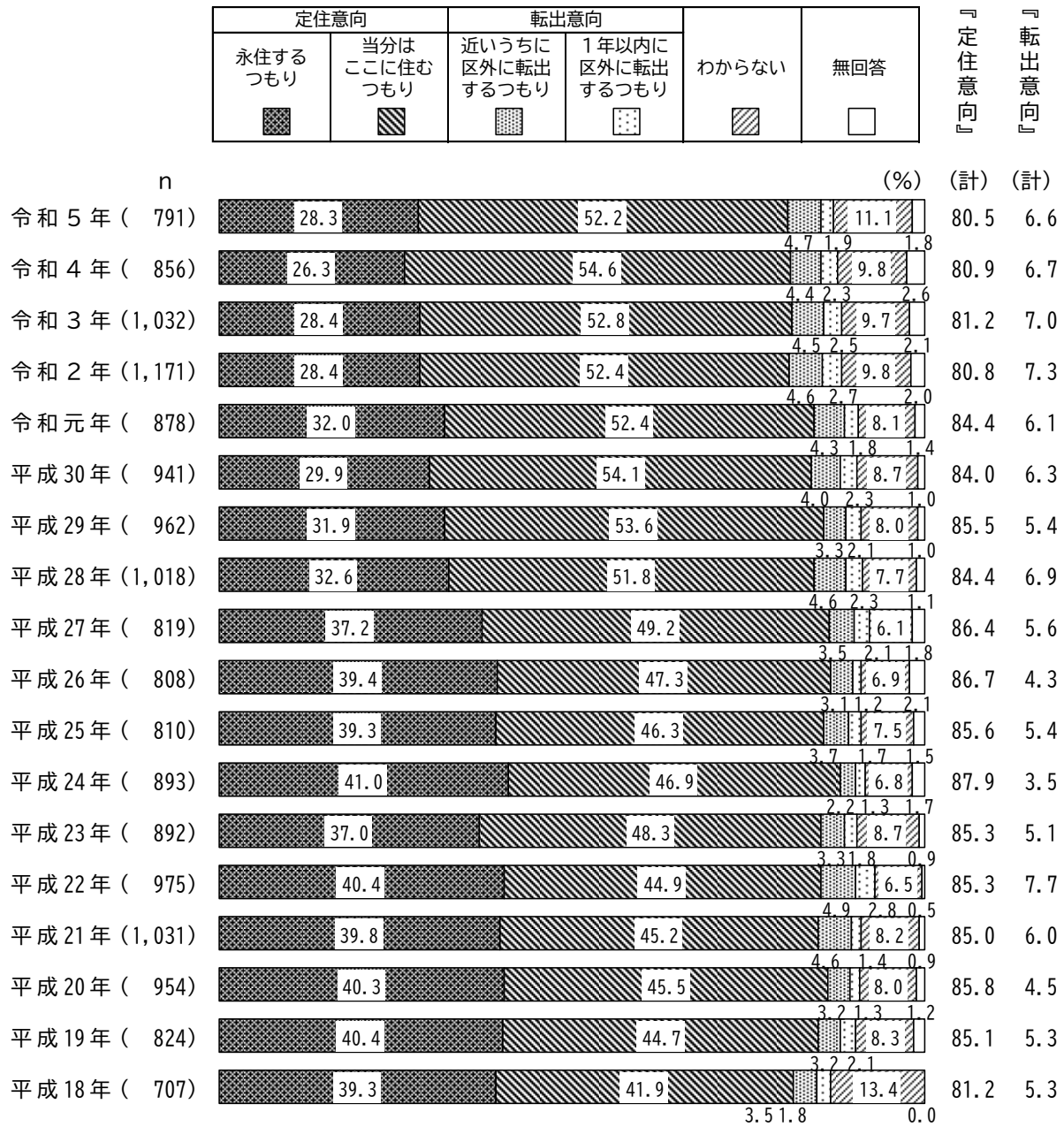
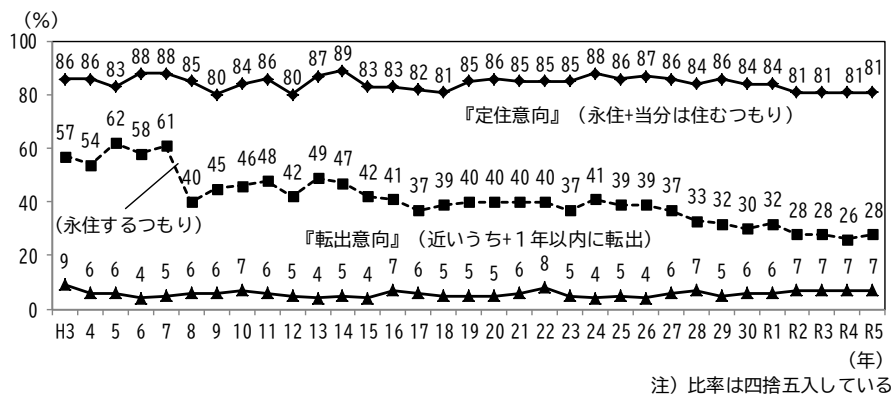
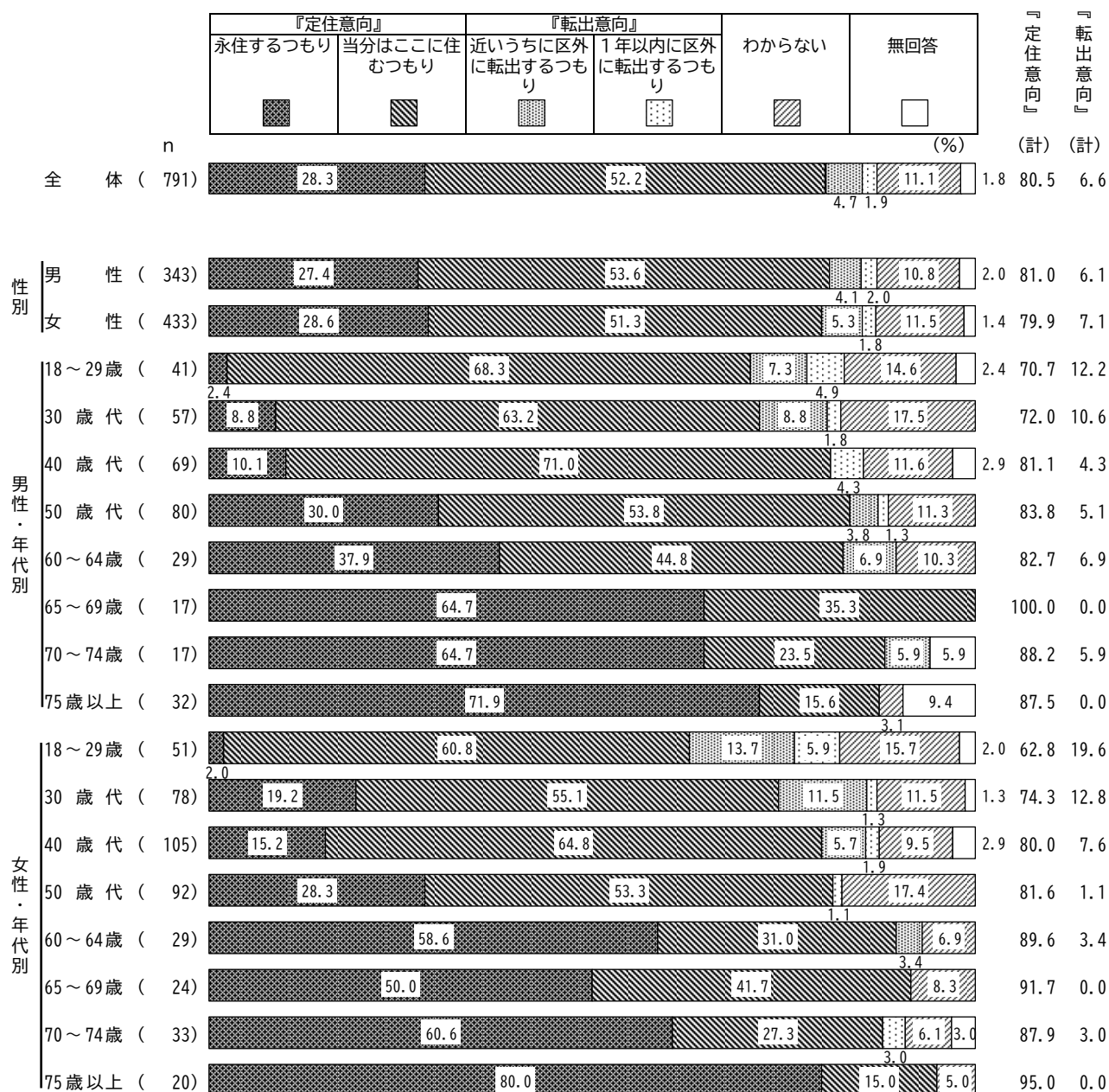


図1-2-3 定住意向（経年比較）



性・年代別にみると、「永住するつもり」は年代が上がるほど男性では割合が高くなる傾向がある。また、『定住意向』は男性 65～69 歳以上（100.0%）で高い割合となっている。また、いずれの年代でも『定住意向』が『転出意向』を上回っている。（図 1-2-4）

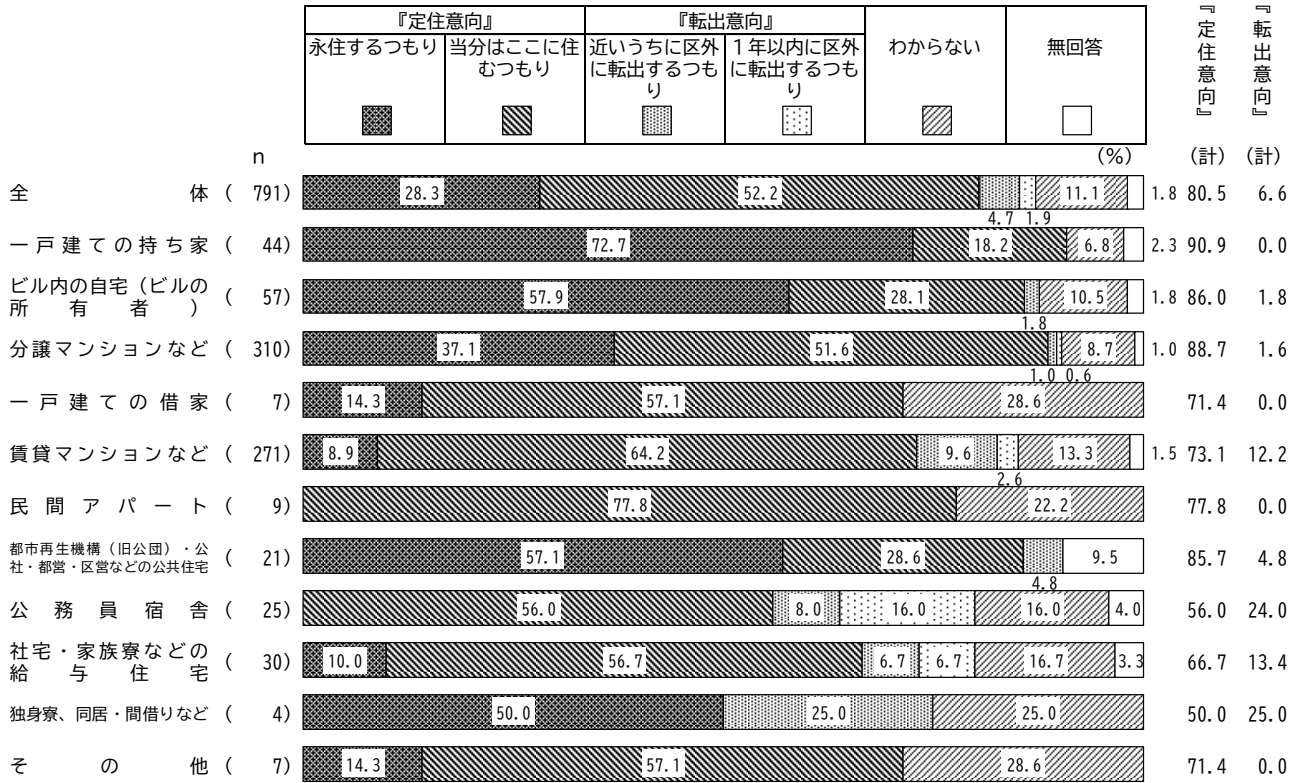
図 1-2-4 定住意向（性・年代別）



住居形態別にみると、『定住意向』は一戸建ての持ち家（90.9%）で約9割となっている。

（図1-2-5）

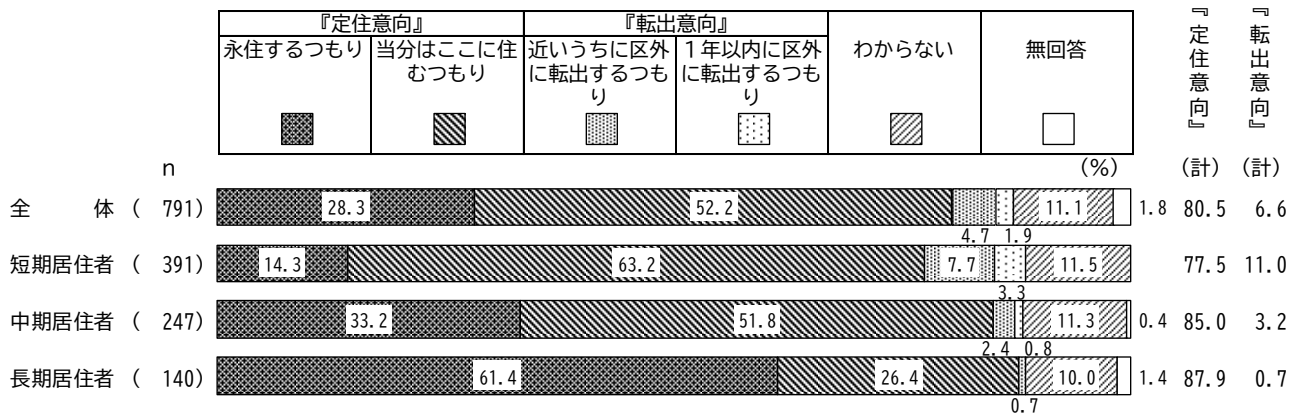
図1-2-5 定住意向（住居形態別）



居住年数別にみると、居住年数が長いほど定住意向の割合が高くなる傾向が見られる。

（図1-2-6）

図1-2-6 定住意向（居住年数別）

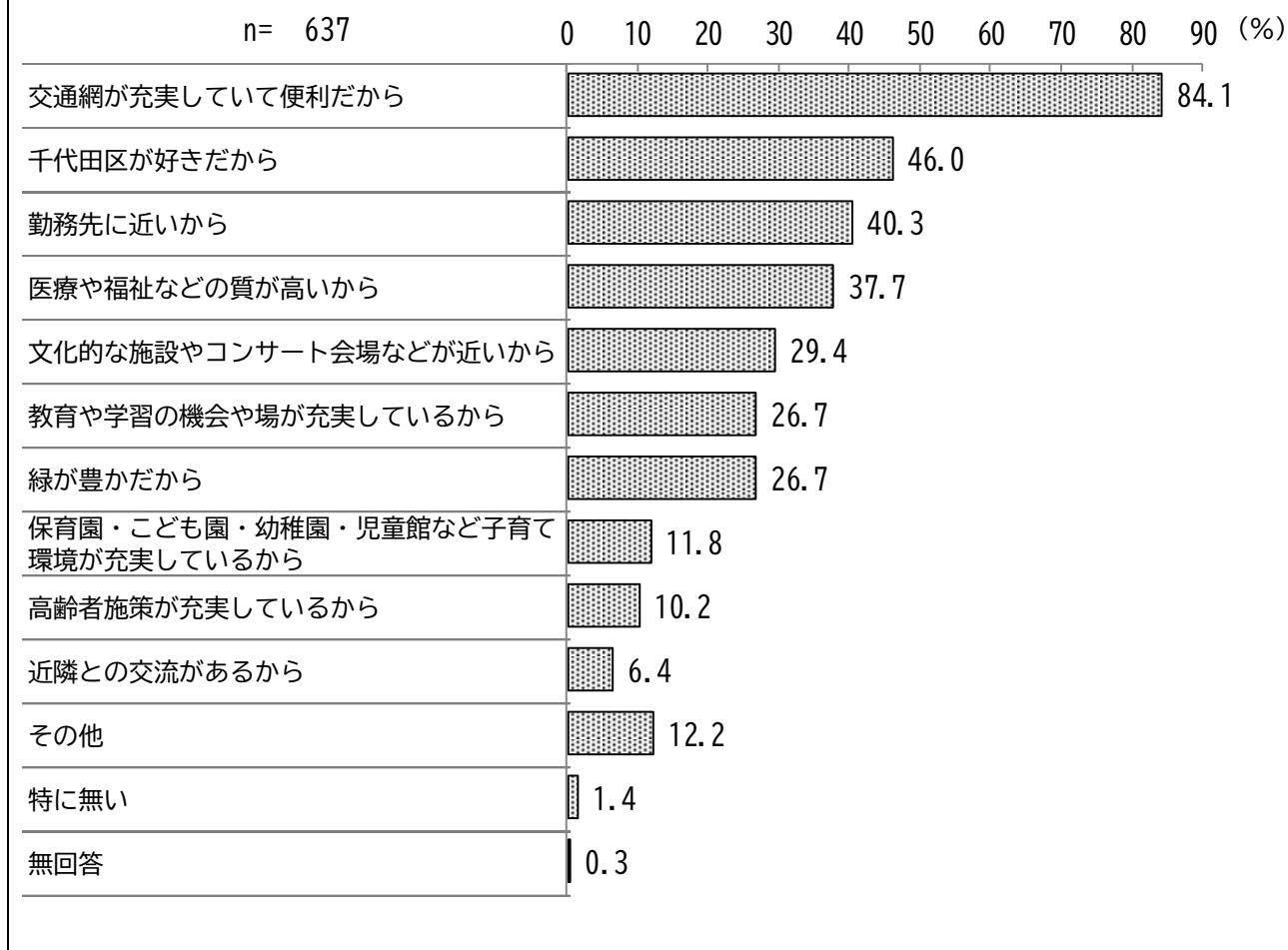


(2-1) 定住意向の理由

◇「交通網が充実していて便利だから」が8割台半ば近く

(問2で「1. 永住するつもり」か「2. 当分はここに住むつもり」とお答えの方に)
問2-1 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

図1-2-7 定住意向の理由

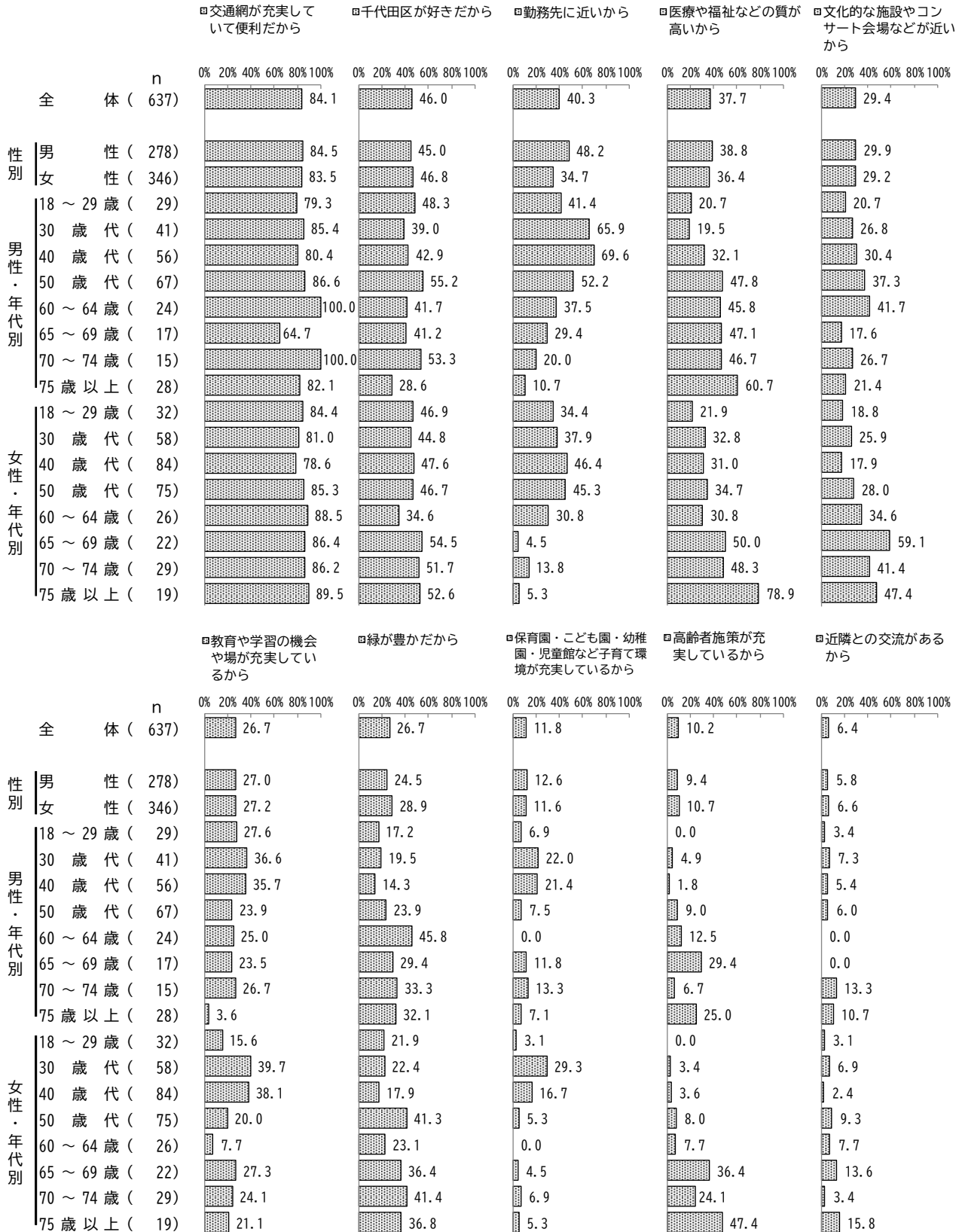


千代田区に「永住するつもり」か「当分はここに住むつもり」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(84.1%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「千代田区が好きだから」(46.0%)、「勤務先に近いから」(40.3%)、「医療や福祉などの質が高いから」(37.7%)、「文化的な施設やコンサート会場が近いから」(29.4%)と続いている。(図1-2-7)

その他を回答した方は78人おり、主な意見として「治安が良いから」、「実家があるから」、「生まれ育った場所だから」、「皇居に近いから」などが挙げられている。

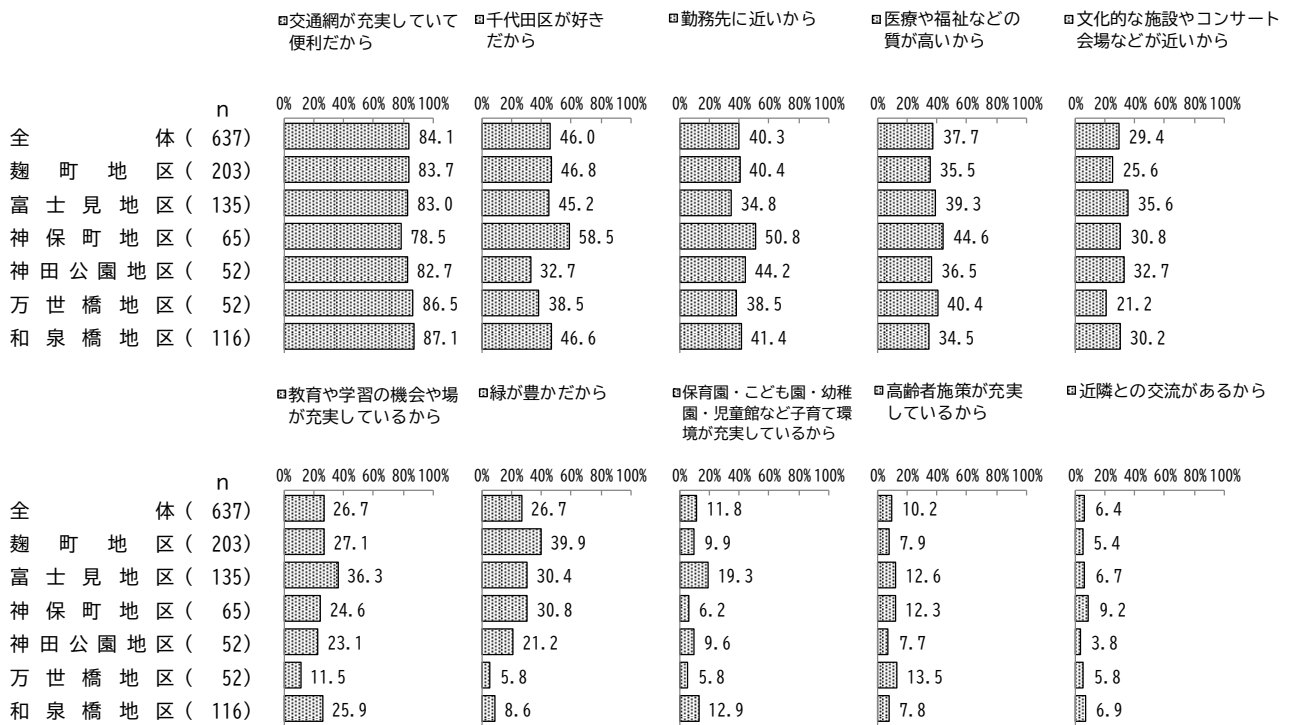
性・年代別にみると、「勤務先に近いから」は男性 40 歳代（69.6%）で7割弱と高く、「千代田区が好きだから」は男性 50 歳代（55.2%）が5割台半ば、「医療や福祉などの質が高いから」は女性 75 歳以上（78.9%）で8割近くと高い割合となっている。（図 1-2-8）

図 1-2-8 定住意向の理由（性・年代別）上位 10 項目



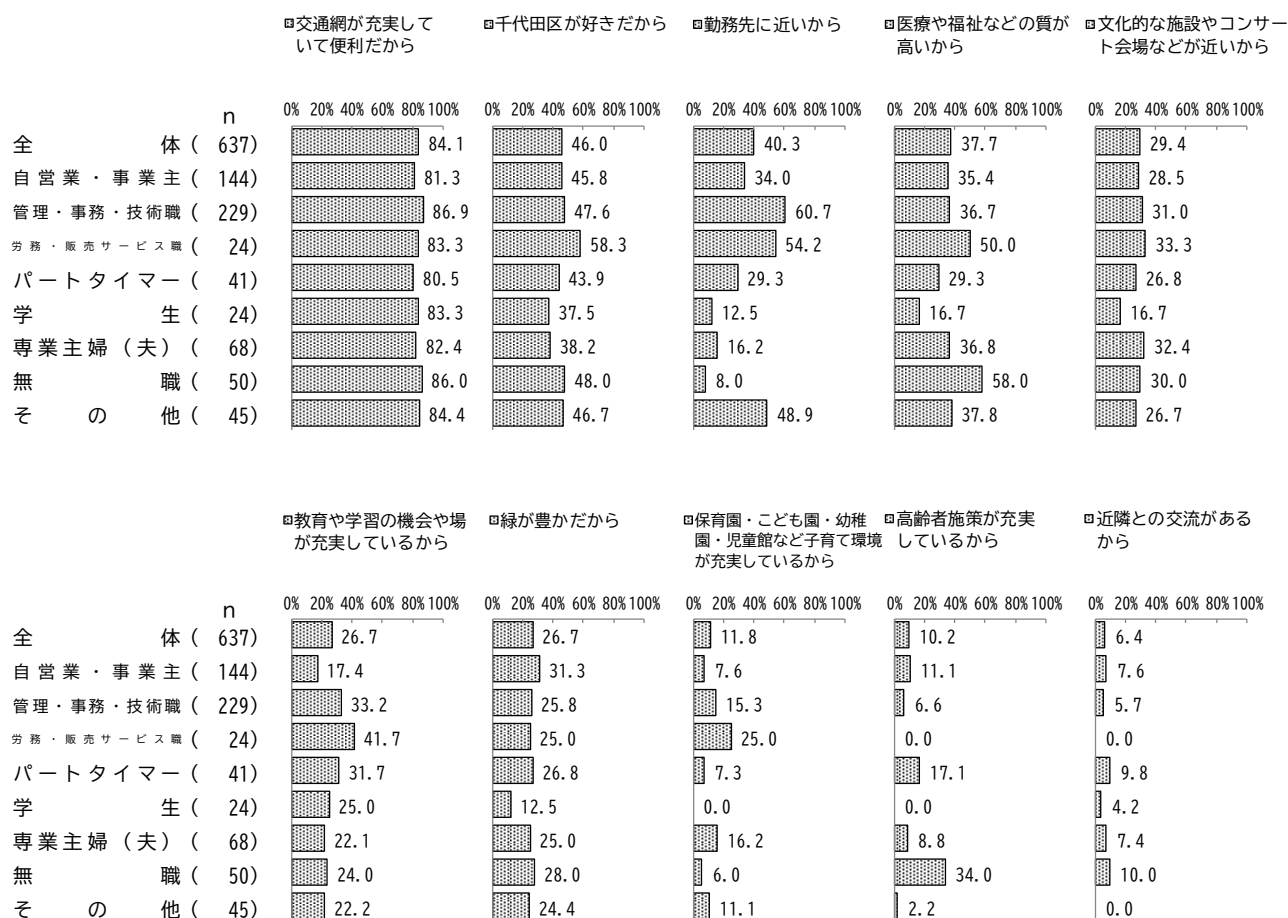
地区別にみると、「千代田区が好きだから」は神保町地区（58.5%）が6割近くと高くなっている。また、「教育や学習の機会や場が充実しているから」は富士見地区（36.3%）で、「緑が豊かだから」は麴町地区（39.9%）でそれぞれ高い割合となっている。（図1-2-9）

図1-2-9 定住意向の理由（地区別）上位10項目



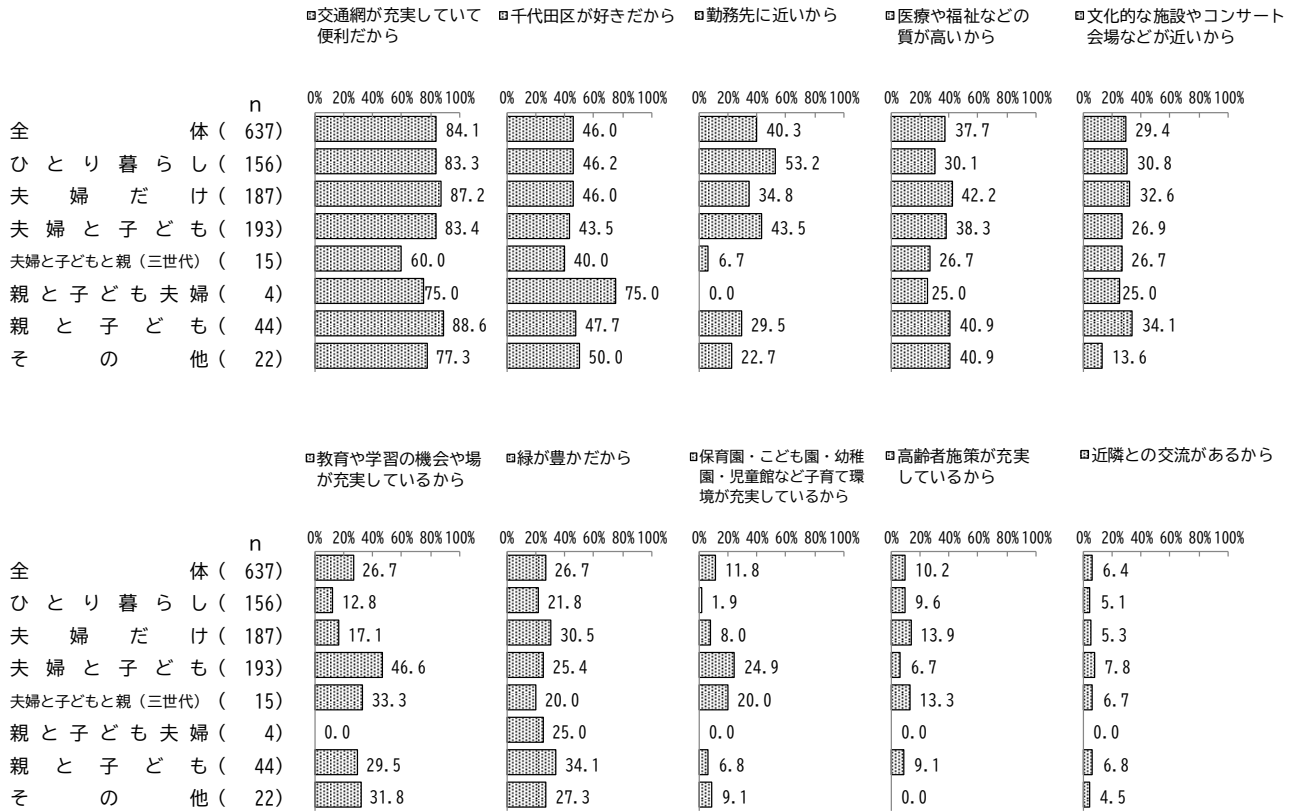
職業別にみると、「勤務先に近いから」は管理・事務・技術職（60.7%）が約6割と高くなっている。また、「医療や福祉などの質が高いから」は無職（58.0%）、労務・販売サービス職（50.0%）でそれぞれ5割台と高い割合となっている。（図1-2-10）

図1-2-10 定住意向の理由（職業別）上位10項目



世帯構成別にみると、「勤務先に近いから」はひとり暮らしの世帯（53.2%）が5割台半ば近く、「教育や学習の機会や場が充実しているから」は夫婦と子ども（46.6%）の世帯が4割台半ばを超え、それぞれ高い割合となっている。（図1-2-11）

図1-2-11 定住意向の理由（世帯構成別）上位10項目



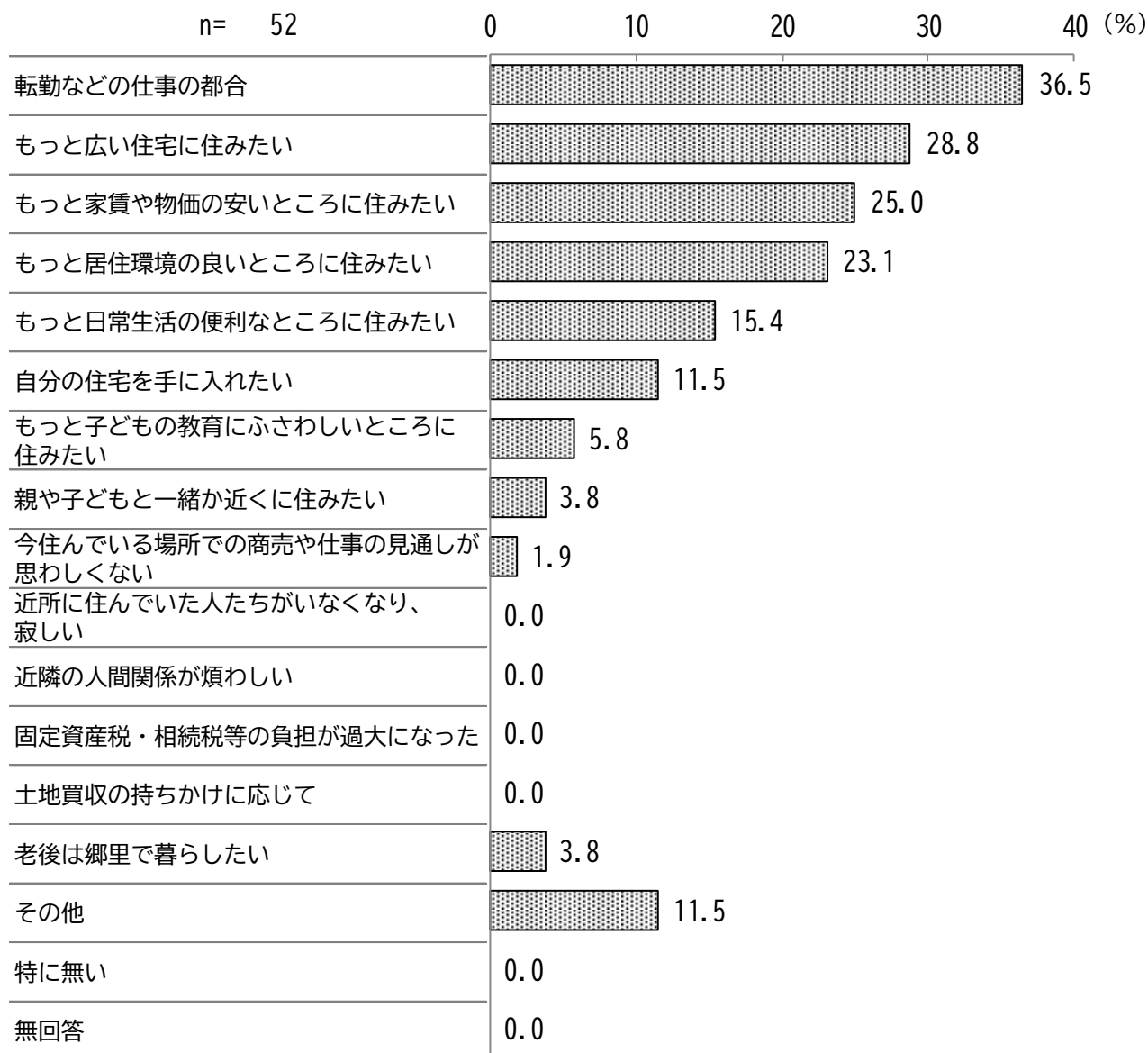
(2-2) 転出意向の理由

◇「転勤などの仕事の都合」が3割台半ば超え

(問2で「3. 近いうちに区外に転出するつもり」か「4. 1年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に)

問2-2 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

図1-2-12 転出意向の理由



千代田区から「近いうちに区外に転出するつもり」か「1年以内に区外に転出するつもり」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「転勤などの仕事の都合」(36.5%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「もっと広い住宅に住みたい」(28.8%)、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(25.0%)、「もっと居住環境の良いところに住みたい」(23.1%)、「もっと日常生活の便利なところに住みたい」(15.4%)と続いている。(図1-2-12)

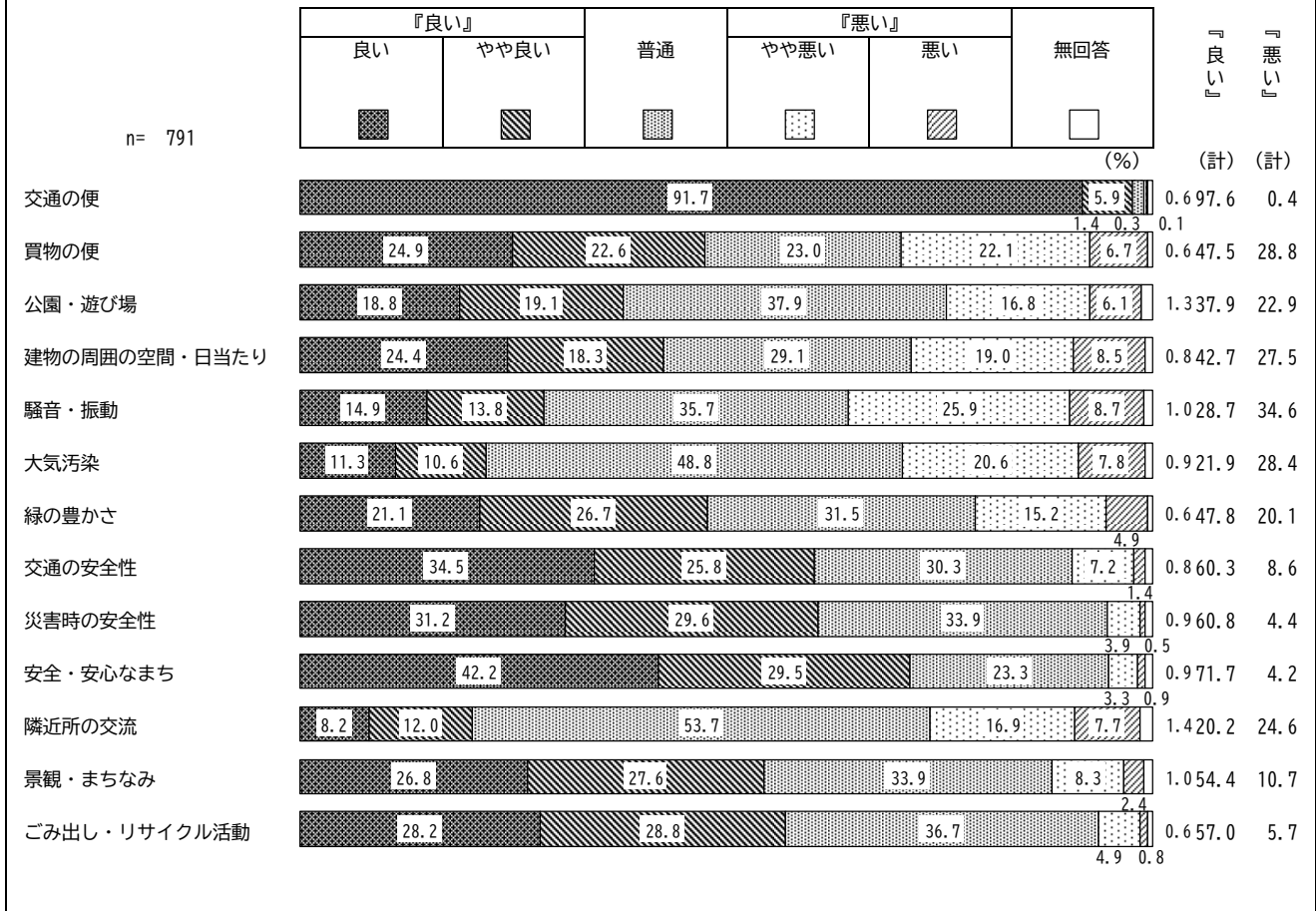
2. 居住環境評価

(1) 周辺の生活環境評価

◇『良い』は“交通の便”で9割台半ば超え、『悪い』は“騒音・振動”で3割台半ば近く

問3 あなたは、ご自宅の周辺の生活環境についてどう思いますか。各項目ごとに5段階で評価してください。(○はそれぞれに1つ)

図2-1-1 周辺の生活環境評価



周辺の生活環境の評価として、『良い』が最も高い項目は“交通の便”(97.6%)で9割台半ば超えと高くなっている。『悪い』が最も高い項目は“騒音・振動”(34.6%)で3割台半ば近くとなっている。(図2-1-1)

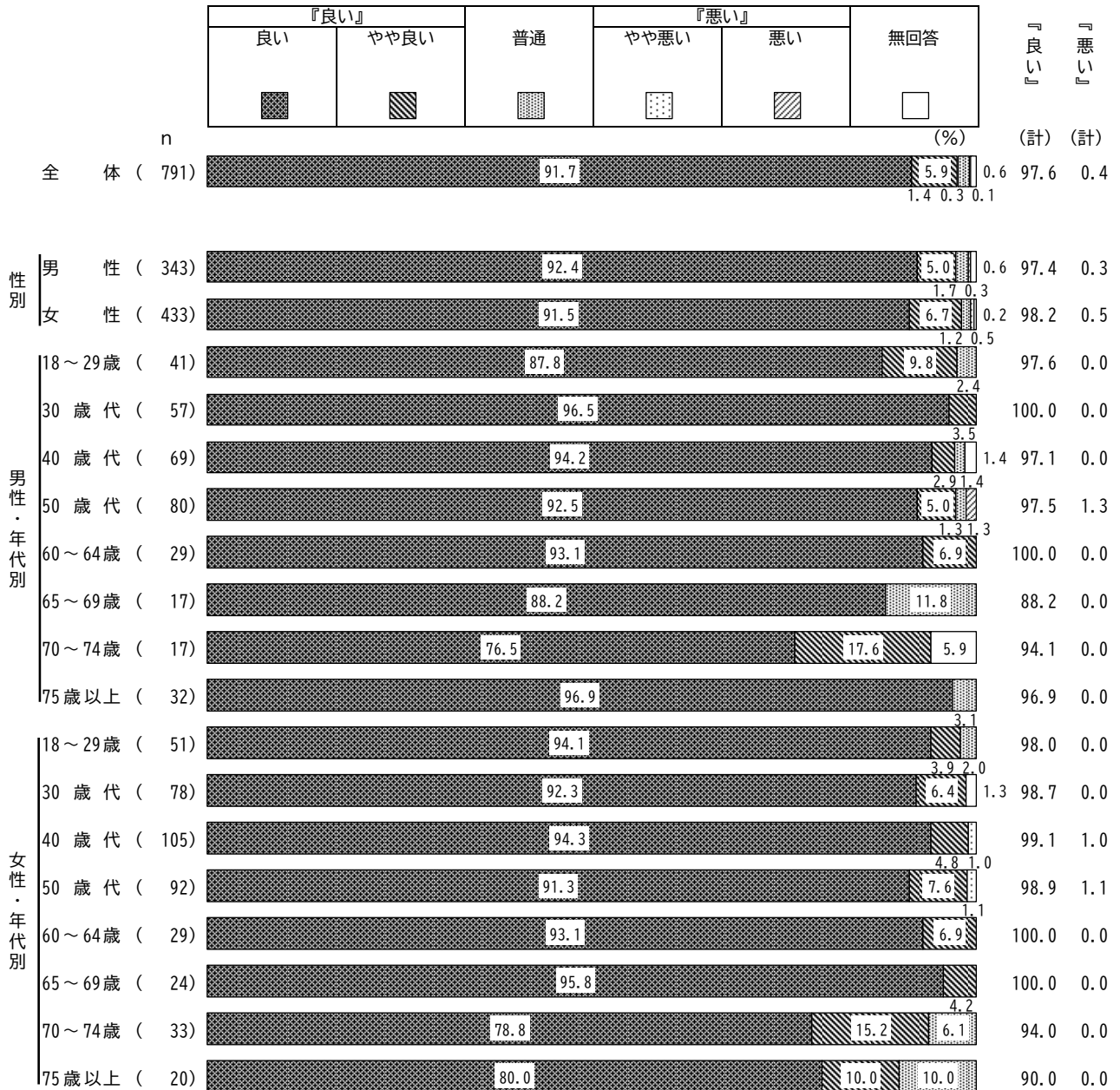
「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』と、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』の上位5項目を以下に表した。

『良い』上位5項目			『悪い』上位5項目		
1	交通の便	97.6%	1	騒音・振動	34.6%
2	安全・安心なまち	71.7%	2	買物の便	28.8%
3	災害時の安全性	60.8%	3	大気汚染	28.4%
4	交通の安全性	60.3%	4	建物の周囲の空間・日当たり	27.5%
5	ごみ出し・リサイクル活動	57.0%	5	隣近所の交流	24.6%

“交通の便”について性・年代別にみると、『良い』は男性 30 歳代、男性 60～64 歳、女性 60～64 歳、女性 65～69 歳（100.0%）で最も高くなっている。

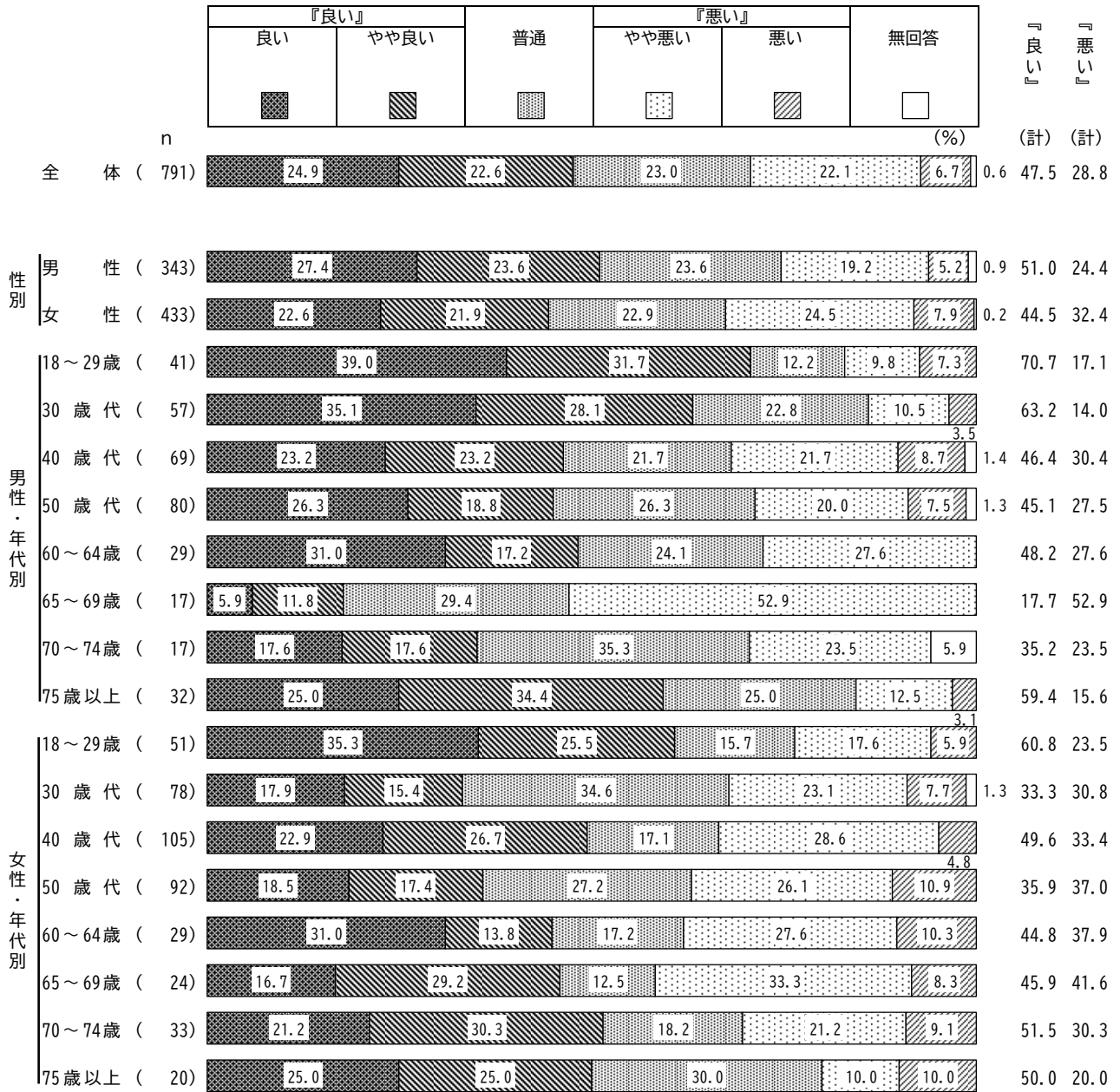
(図 2-1-2)

図 2-1-2 周辺の生活環境評価 1. 交通の便（性・年代別）



“買物の便”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳（70.7%）で約7割、男性30歳代（63.2%）、女性18～29歳（60.8%）で6割台と高くなっている。一方、『悪い』は男性65～69歳（52.9%）で5割強となっている。（図2-1-3）

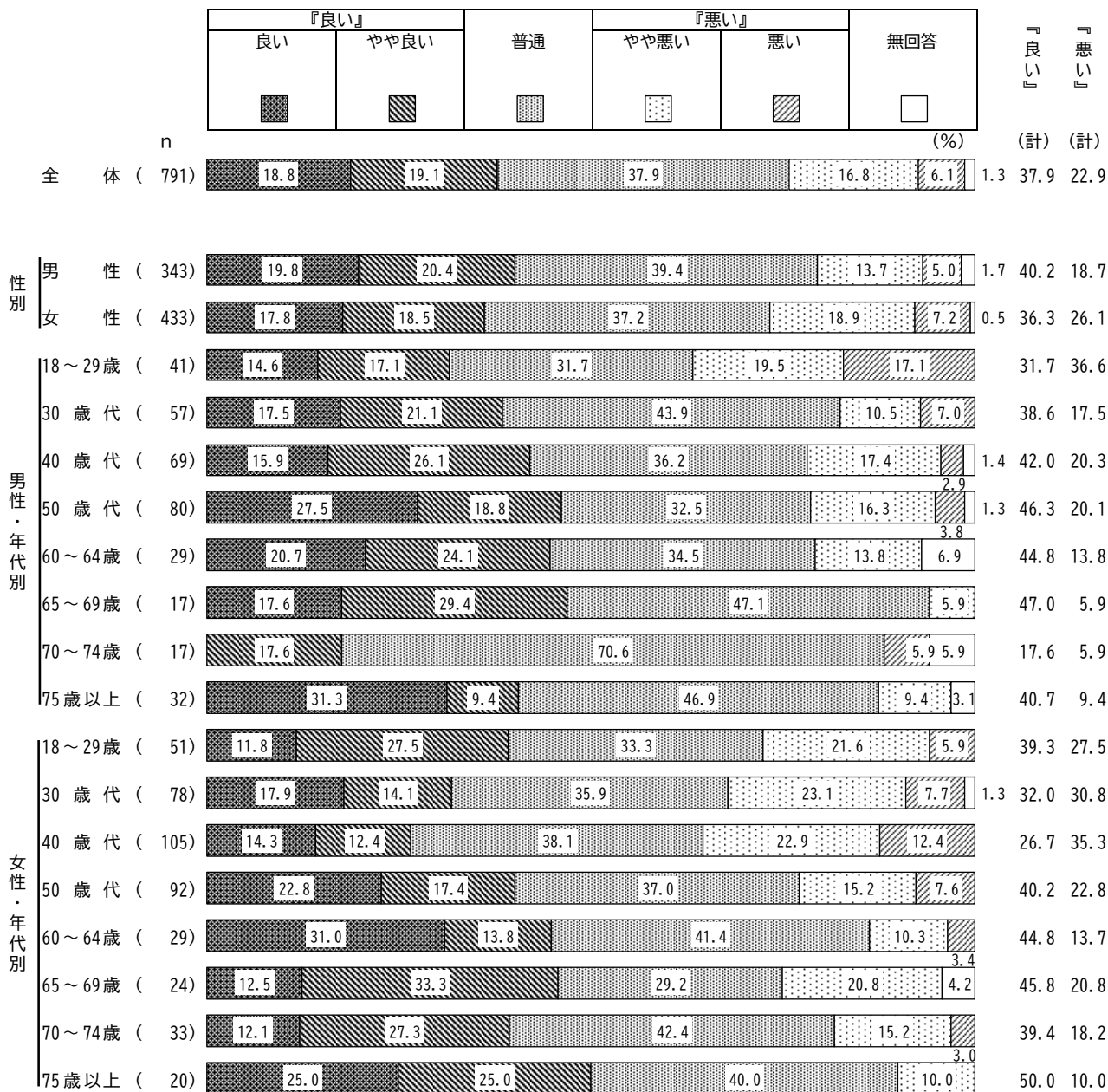
図2-1-3 周辺の生活環境評価 2. 買物の便（性・年代別）



“公園・遊び場”について性・年代別にみると、『良い』は女性75歳以上（50.0%）で5割と高くなっている。一方、『悪い』は男性18～29歳（36.6%）で3割台半ばを超え高くなっている。

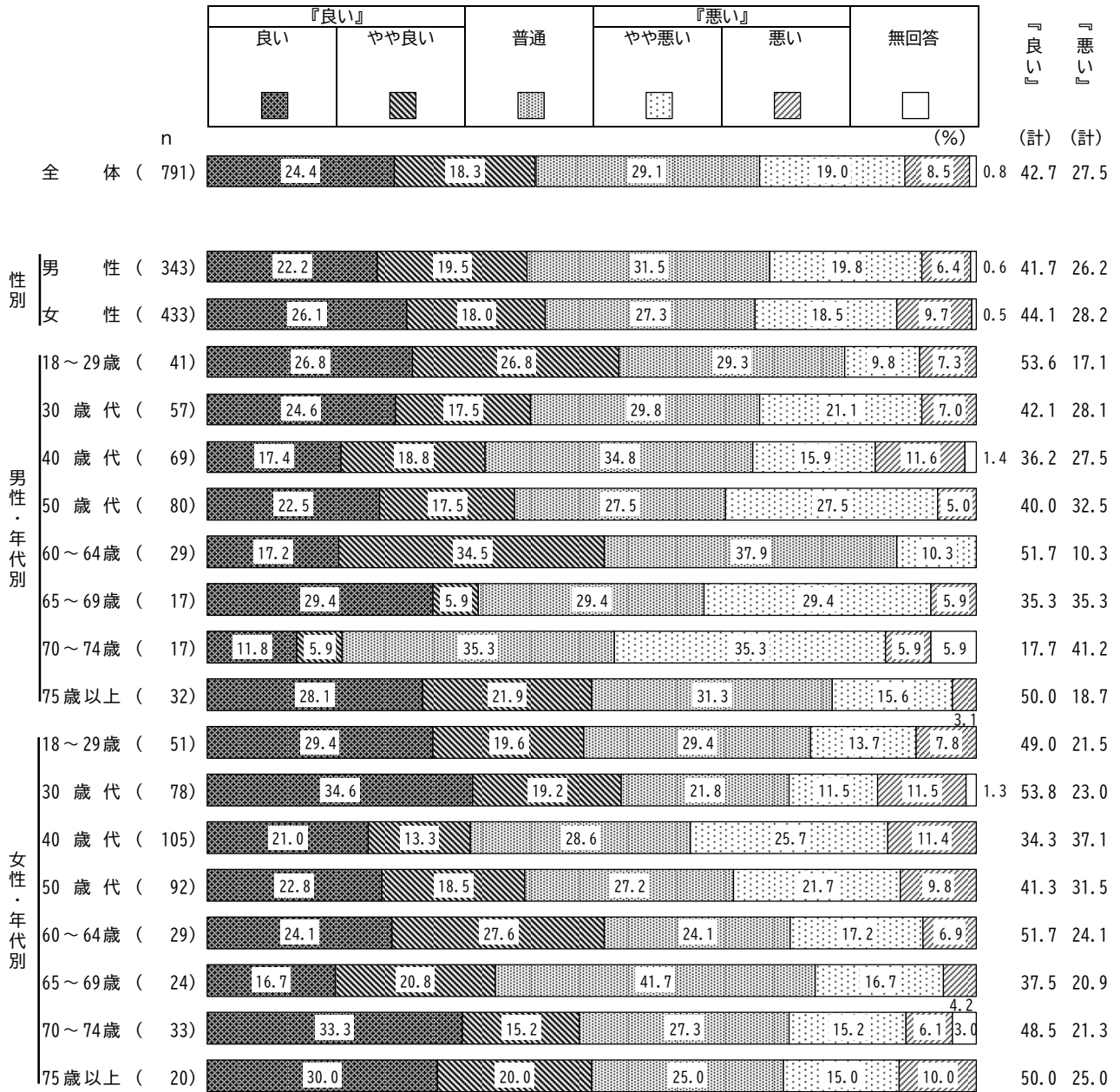
(図2-1-4)

図2-1-4 周辺の生活環境評価 3. 公園・遊び場（性・年代別）



“建物の周囲の空間・日当たり”について性・年代別にみると、『良い』は女性30歳代(53.8%)、男性18~29歳(53.6%)で5割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は男性70~74歳(41.2%)で4割強と高くなっている。(図2-1-5)

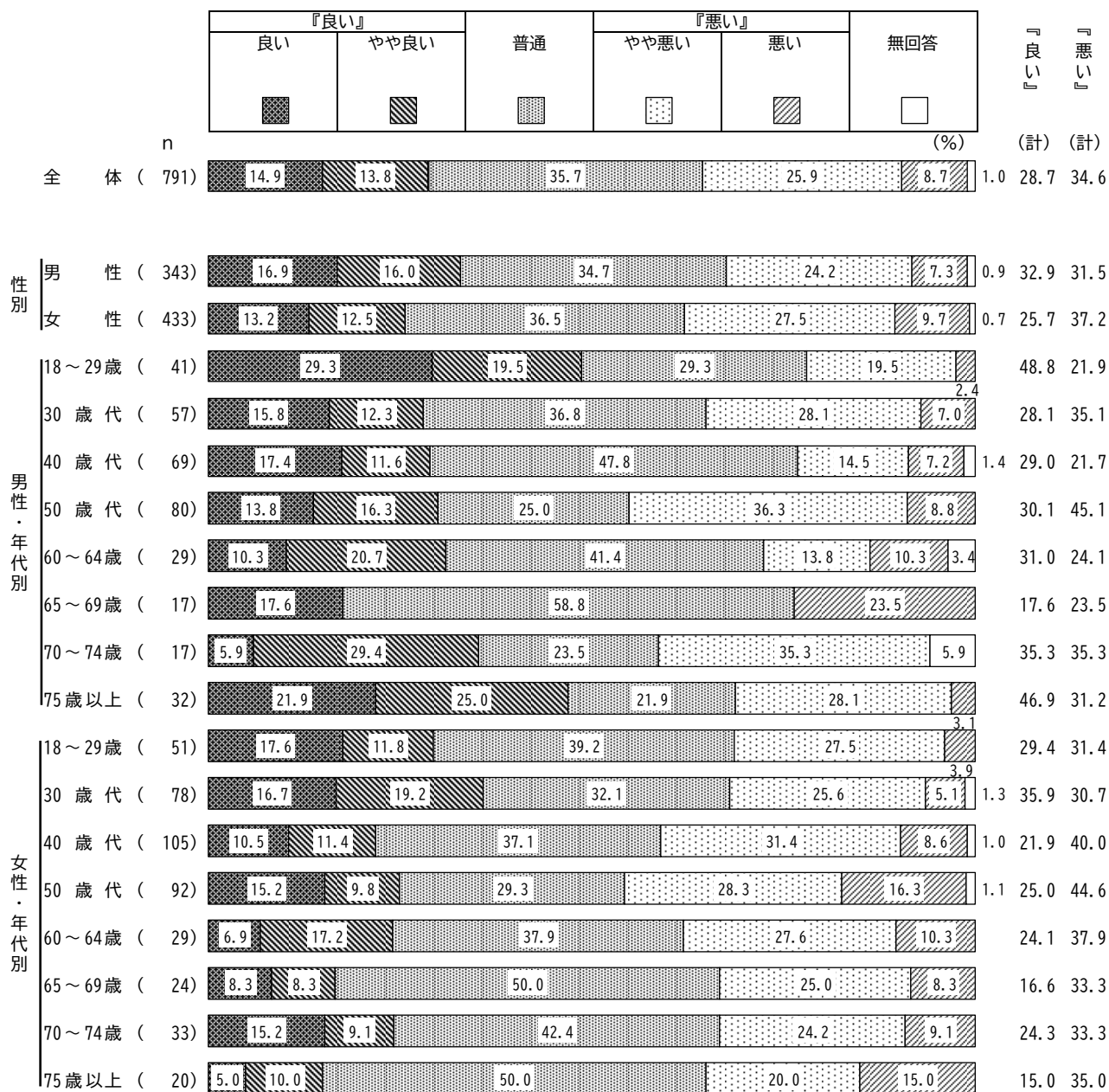
図2-1-5 周辺の生活環境評価 4. 建物の周囲の空間・日当たり(性・年代別)



“騒音・振動”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳（48.8%）で5割近くと高くなっている。一方、『悪い』は男性50歳代（45.1%）で4割台半ばと高くなっている。

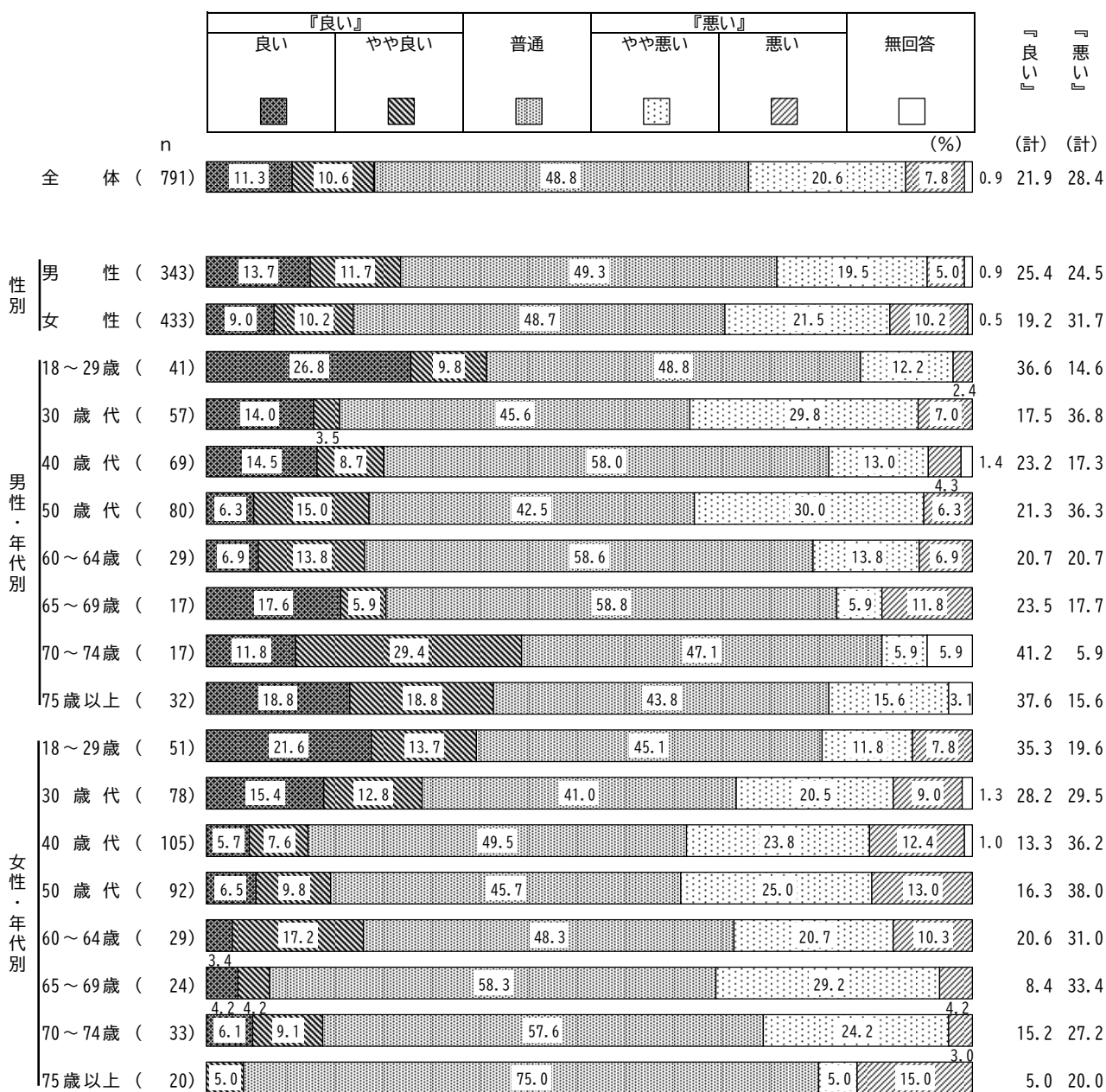
(図2-1-6)

図2-1-6 周辺の生活環境評価 5. 騒音・振動（性・年代別）



“大気汚染”について性・年代別にみると、『良い』は男性70～74歳（41.2%）で4割強と高くなっている。一方、『悪い』は女性50歳代（38.0%）で4割近くと高くなっている。（図2-1-7）

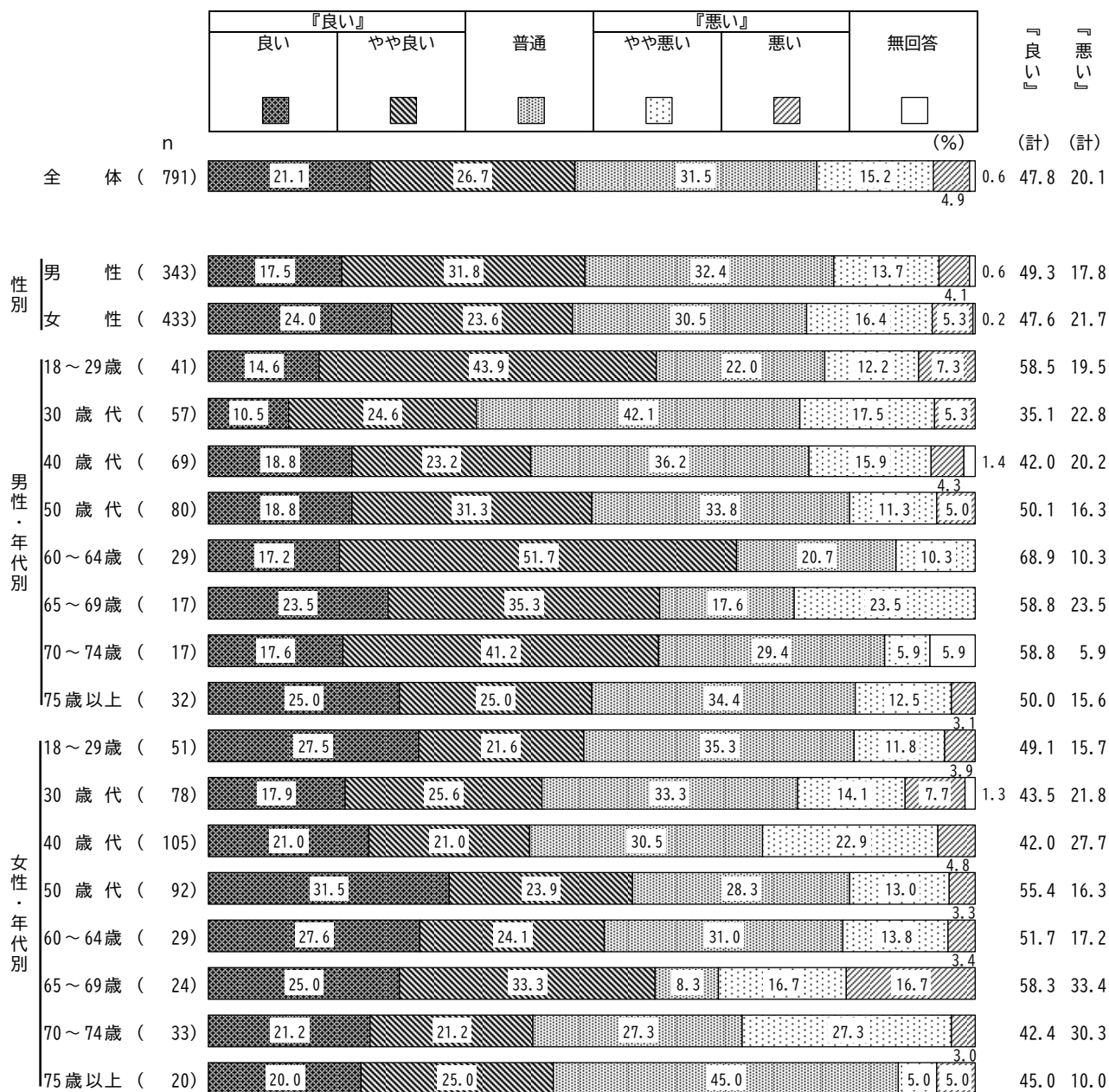
図2-1-7 周辺の生活環境評価 6. 大気汚染（性・年代別）



“緑の豊かさ”について性・年代別にみると、『良い』は男性60～64歳（68.9%）で7割近くと高くなっている。一方、『悪い』は女性65～69歳（33.4%）で3割台半ば近くと高くなっている。

(図2-1-8)

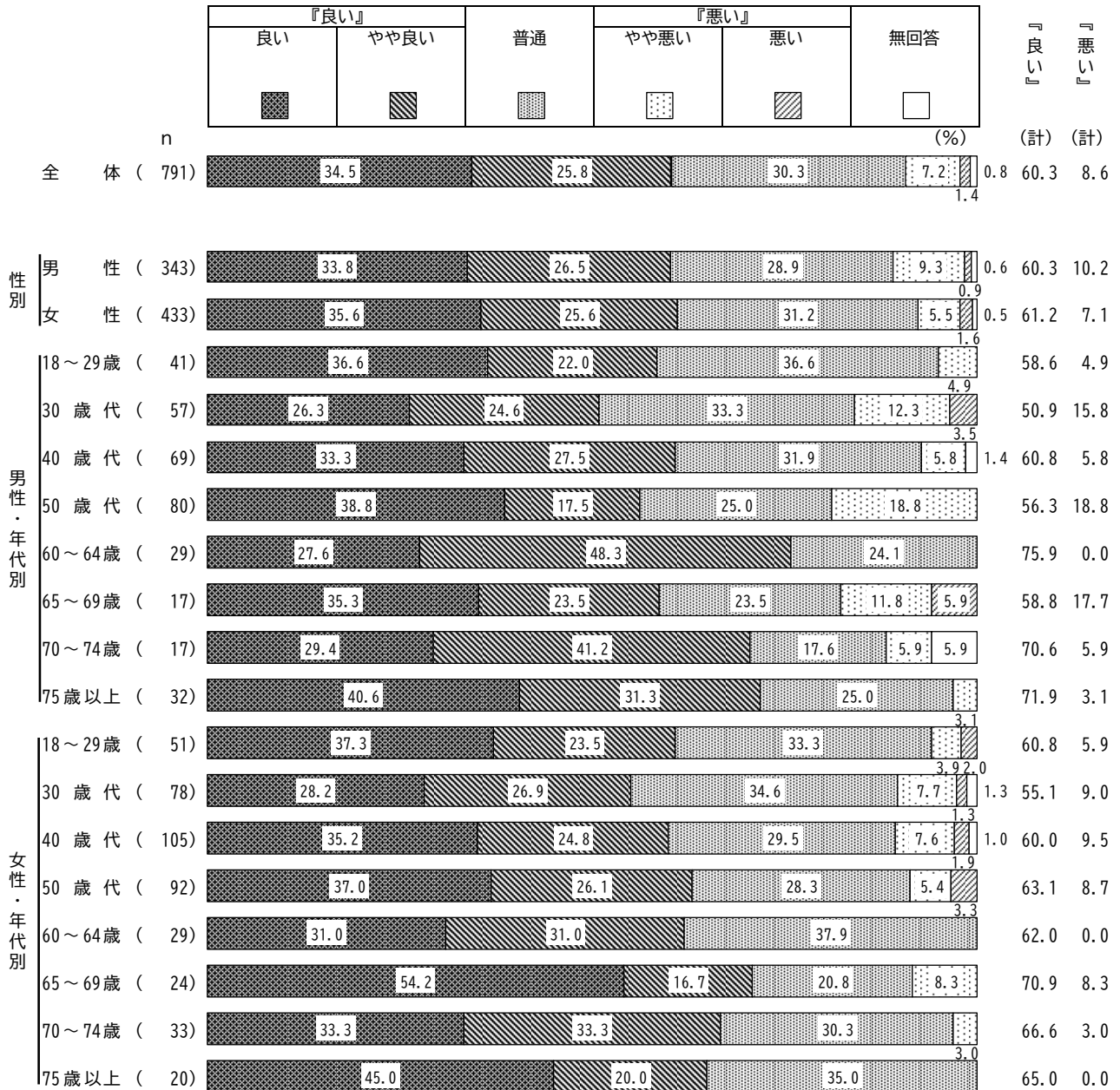
図2-1-8 周辺の生活環境評価 7. 緑の豊かさ (性・年代別)



“交通の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性60～64歳（75.9%）で7割台半ばと高くなっている。一方、『悪い』は男性50歳代（18.8%）で2割近くと高くなっている。

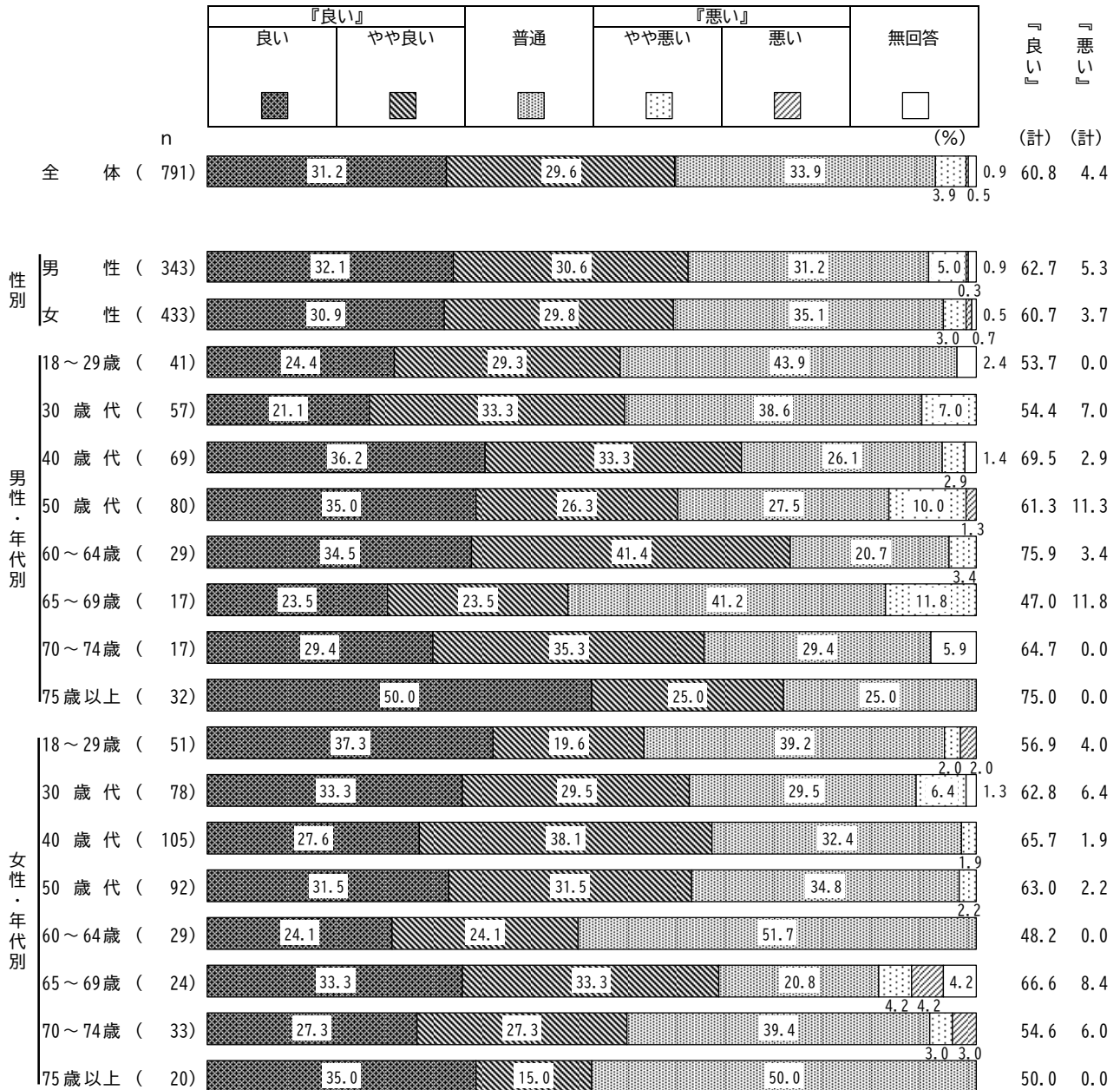
（図2-1-9）

図2-1-9 周辺の生活環境評価 8. 交通の安全性（性・年代別）



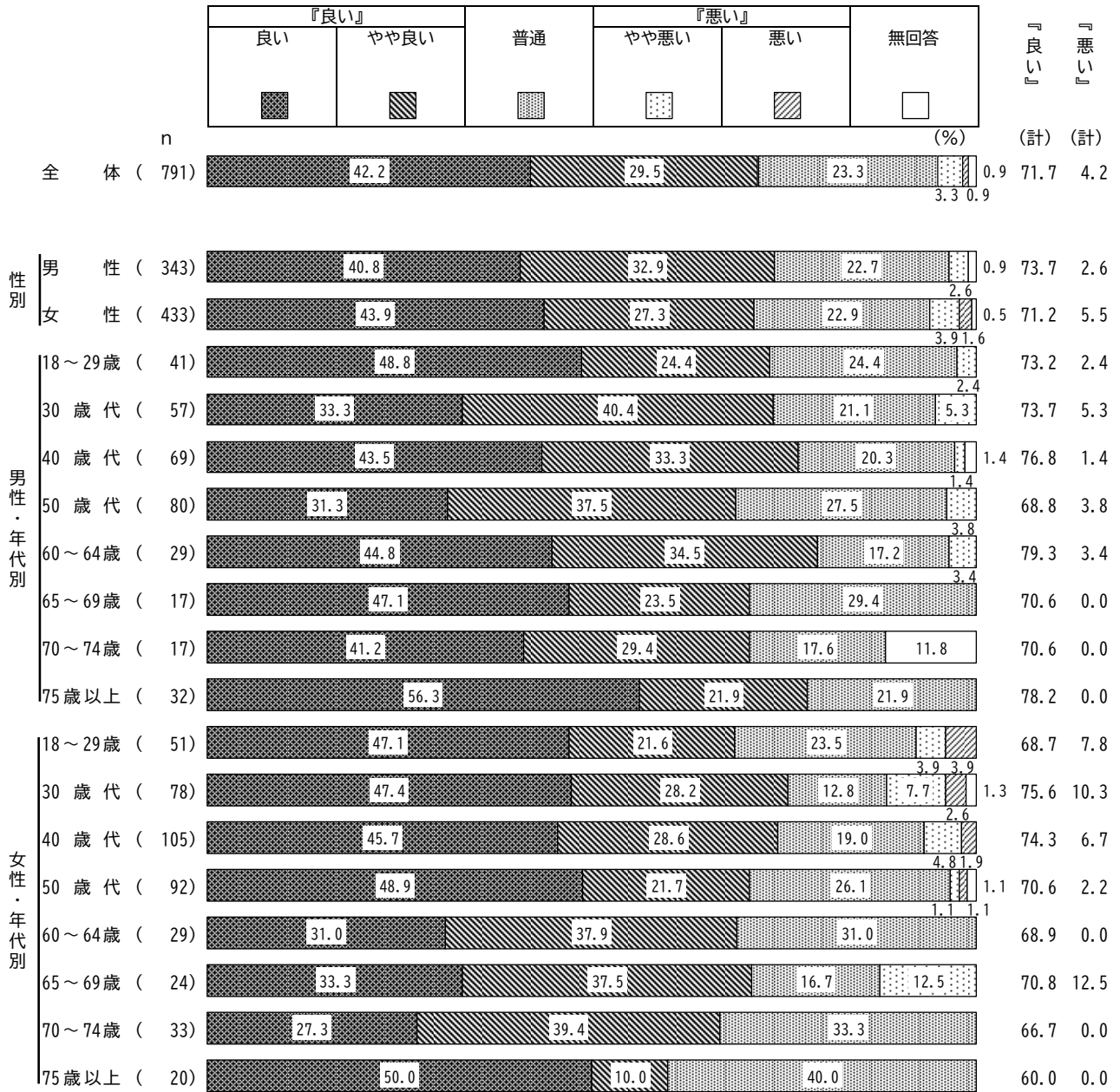
“災害時の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性60～64歳（75.9%）、男性75歳以上（75.0%）で7割台半ばと高くなっている。一方、『悪い』は男性65～69歳（11.8%）、男性50歳代（11.3%）が1割強と高くなっている。（図2-1-10）

図2-1-10 周辺の生活環境評価 9. 災害時の安全性（性・年代別）



“安全・安心なまち”について性・年代別にみると、『良い』は男性 60～64 歳（79.3%）で8割弱と高くなっている。一方、『悪い』は女性 65～69 歳（12.5%）、女性 30 歳代（10.3%）で1割台と高くなっている。（図2-1-11）

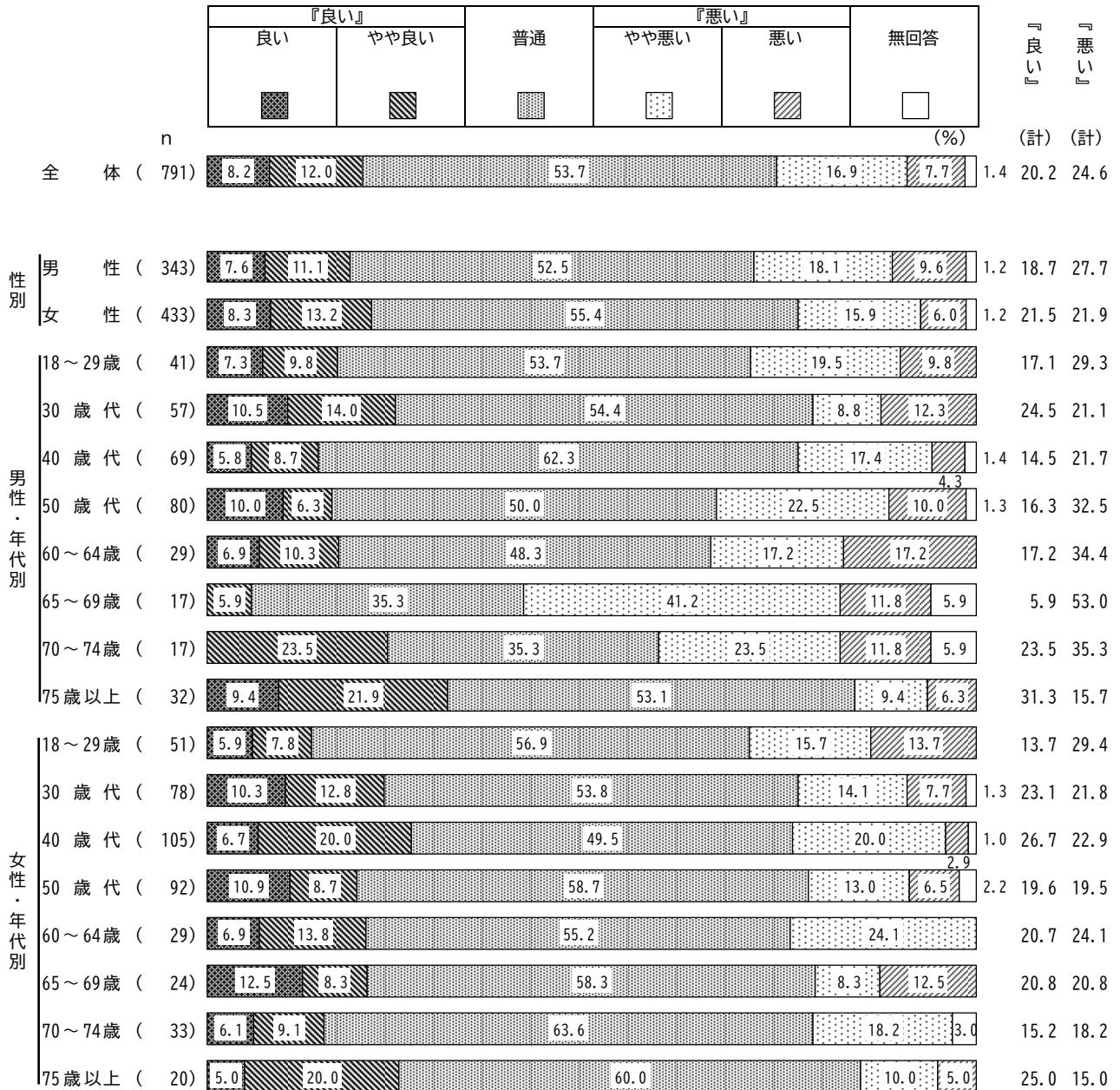
図2-1-11 周辺の生活環境評価 10. 安全・安心なまち（性・年代別）



“隣近所の交流”について性・年代別にみると、『良い』は男性75歳以上(31.3%)で3割強と高くなっている。一方、『悪い』は男性65～69歳(53.0%)で5割台半ば近くと高くなっている。

(図2-1-12)

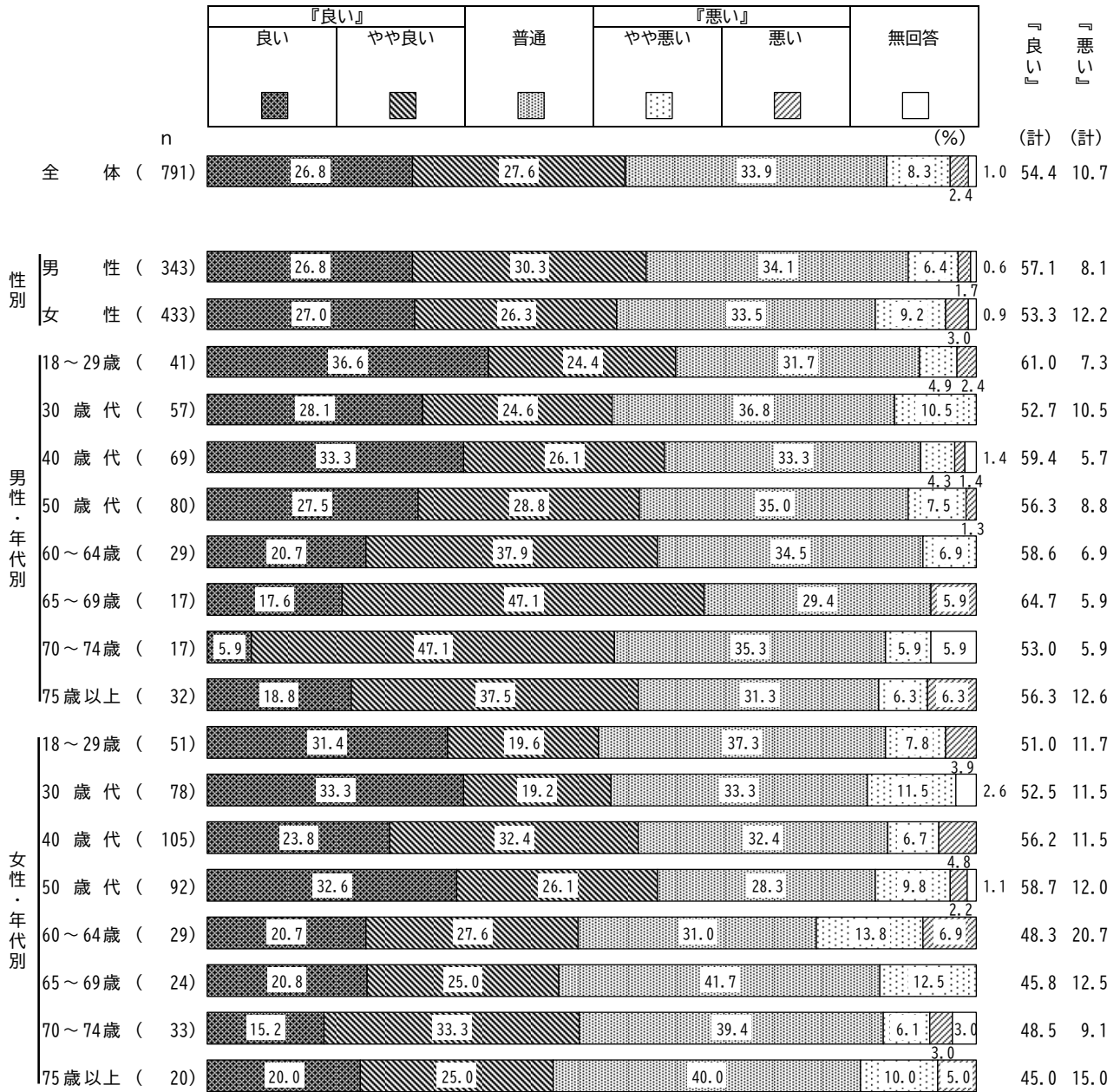
図2-1-12 周辺の生活環境評価 11. 隣近所の交流(性・年代別)



“景観・まちなみ”について性・年代別にみると、『良い』は男性65～69歳（64.7%）で6割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は女性60～64歳（20.7%）で約2割と高くなっている。

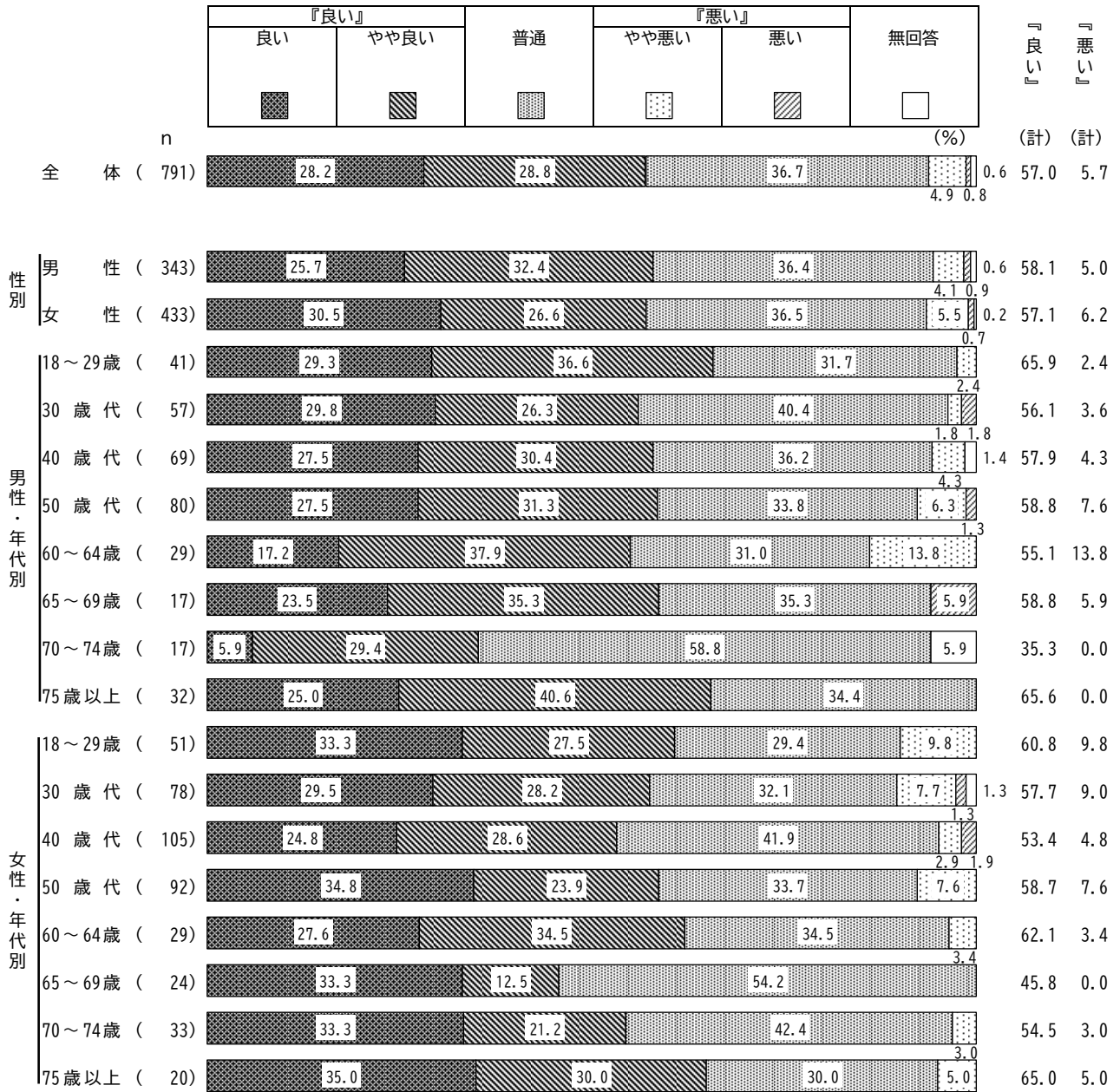
(図2-1-13)

図2-1-13 周辺の生活環境評価 12. 景観・まちなみ（性・年代別）



“ごみ出し・リサイクル活動”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳(65.9%)、男性75歳以上(65.6%)、女性75歳以上(65.0%)で6割台半ばと高くなっている。一方、『悪い』は男性60～64歳(13.8%)で1割台半ばと高くなっている。(図2-1-14)

図2-1-14 周辺の生活環境評価 13. ごみ出し・リサイクル活動(性・年代別)



◇加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、5段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「普通」については0点として扱った。

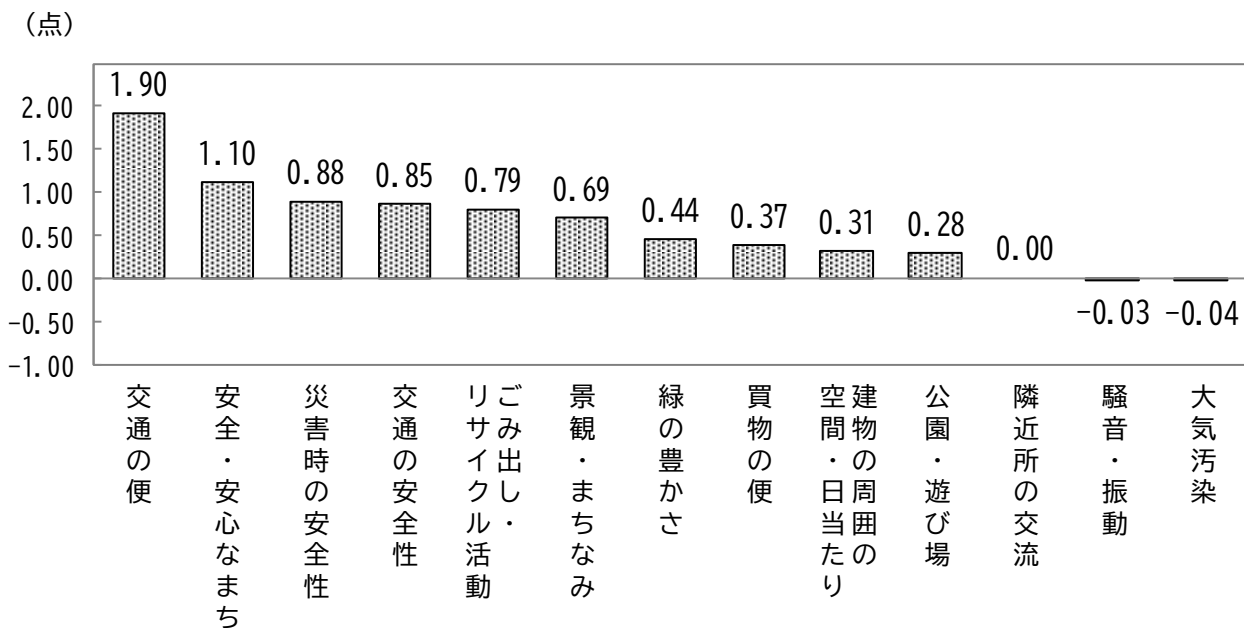
$$\text{評価点} = \frac{\text{「良い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

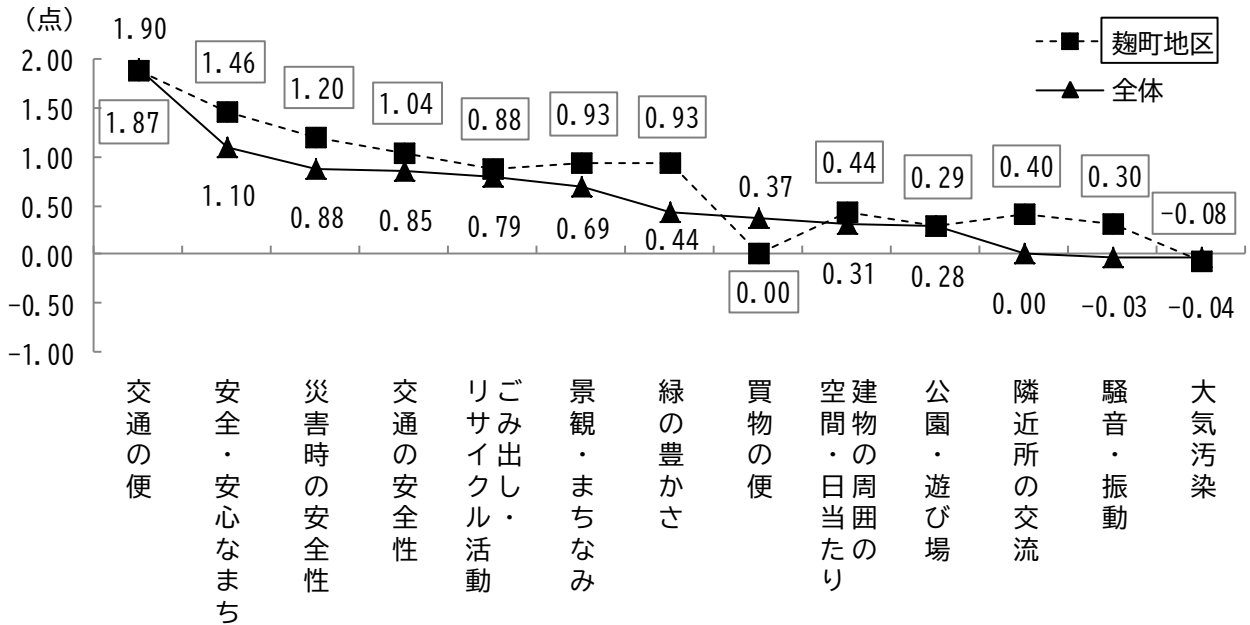
結果をみると、最もプラス評価が高いのは“交通の便” (1.90) で、際立って高くなっている。その他に満足度がプラス評価になっているのは、“安全・安心なまち” (1.10)、“災害時の安全性” (0.88)、“交通の安全性” (0.85)、“ごみ出し・リサイクル活動” (0.79)、“景観・まちなみ” (0.69)、“緑の豊かさ” (0.44)、“買物の便” (0.37)、“建物の周囲の空間・日当たり” (0.31)、“公園・遊び場” (0.28) の計 10 項目である。一方、マイナス評価となったのは“大気汚染” (-0.04) と “騒音・振動” (-0.03) の 2 項目となっている。(図 2-1-15)

図 2-1-15 周辺の生活環境評価 加重平均



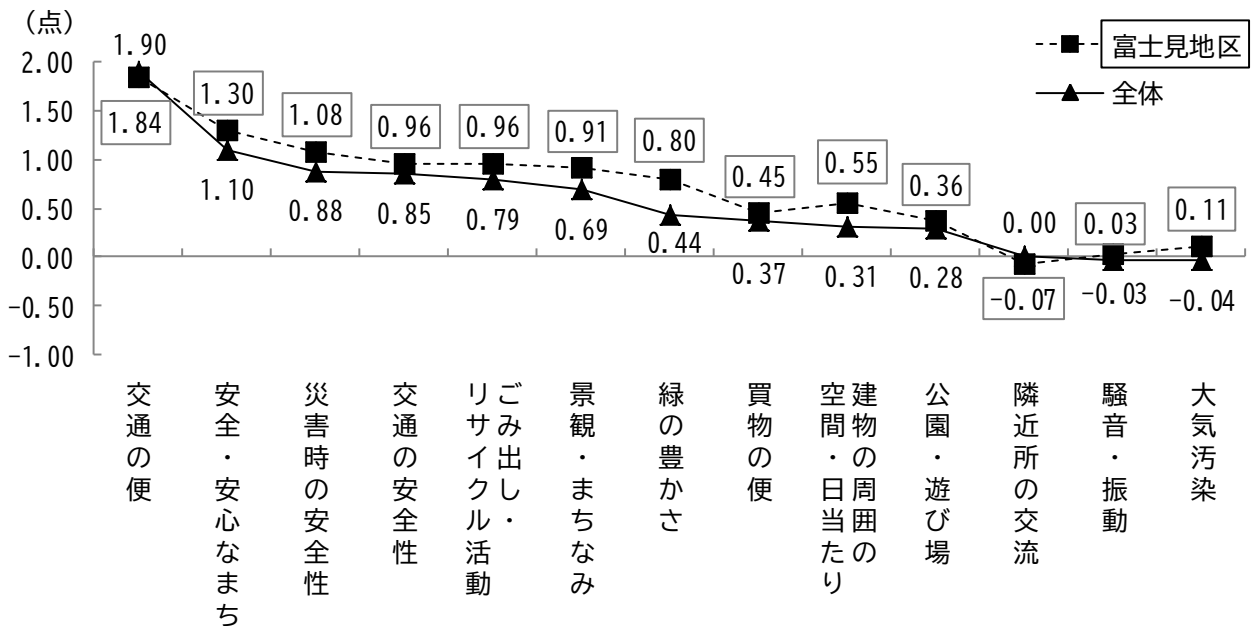
麴町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は10項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.49点差）、“騒音・振動”（0.40点差）、“安全・安心なまち”（0.36点差）、“大気汚染”（0.33点差）、“災害時の安全性”（0.32点差）などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“買い物の便”（0.37点差）、“隣近所の交流”（0.04点差）、“交通の便”（0.03点差）の3項目となっている。（図2-1-16）

図2-1-16 周辺の生活環境評価 加重平均（麴町地区）



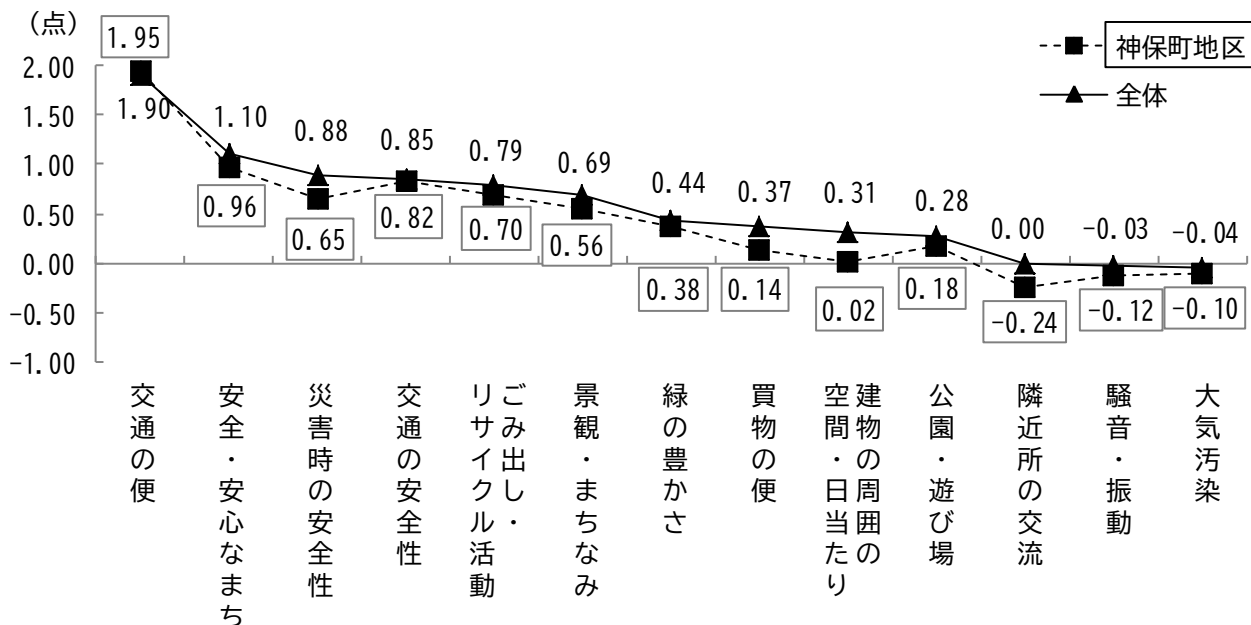
富士見地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.36点差）、“建物の周囲の空間・日当たり”（0.24点差）、“景観・まちなみ”（0.22点差）、“安全・安心なまち”と“災害時の安全性”（0.20点差）などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“騒音・振動”（0.07点差）、“交通の便”（0.06点差）の2項目となっている。（図2-1-17）

図2-1-17 周辺の生活環境評価 加重平均（富士見地区）



神保町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は交通の安全性” (0.05 点差) の1項目となっている。一方、全体より評価が低い項目は12項目となっており、特に“建物の周囲の空間・日当たり” (0.29 点差)、“騒音・振動” (0.24 点差)、“災害時の安全性”と“買い物の便” (0.23 点差) などの評価が低くなっている。(図2-1-18)

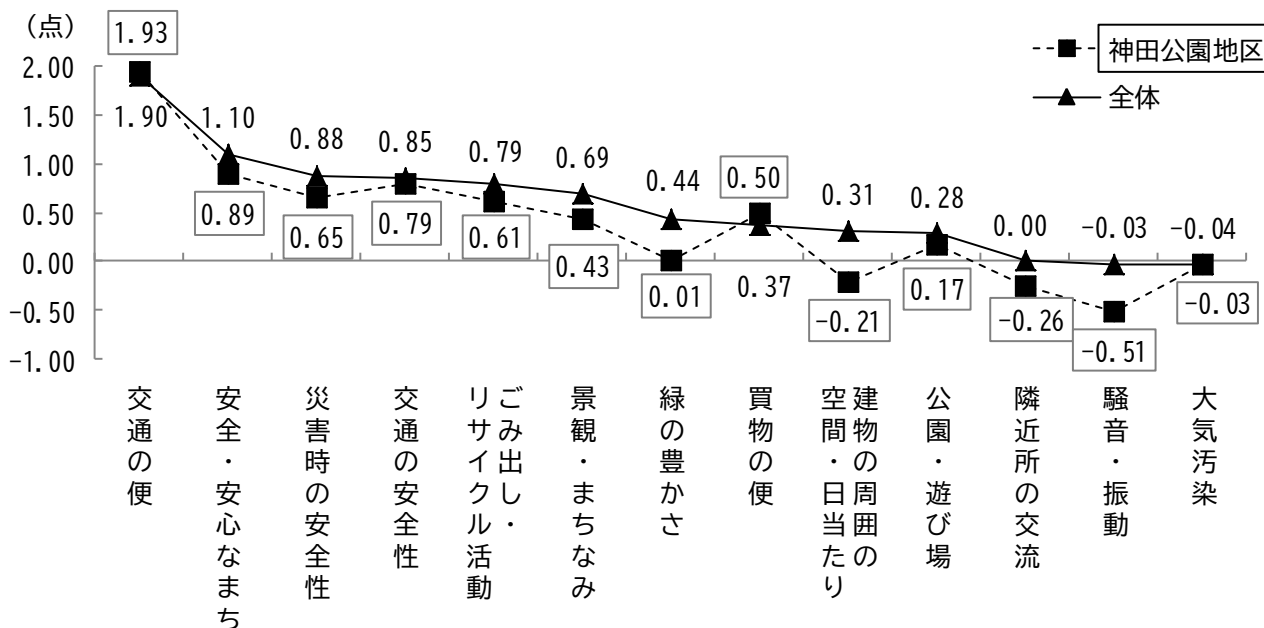
図2-1-18 周辺の生活環境評価 加重平均 (神保町地区)



神田公園地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は“買い物の便” (0.13 点差)、“交通の便” (0.03 点差)、“隣近所の交流” (0.01 点差) の3項目となっている。一方、全体より評価が低い項目は10項目となっており、特に“建物の周囲の空間・日当たり” (0.52 点差)、“大気汚染” (0.48 点差)、“緑の豊かさ” (0.43 点差) などの評価が低くなっている。

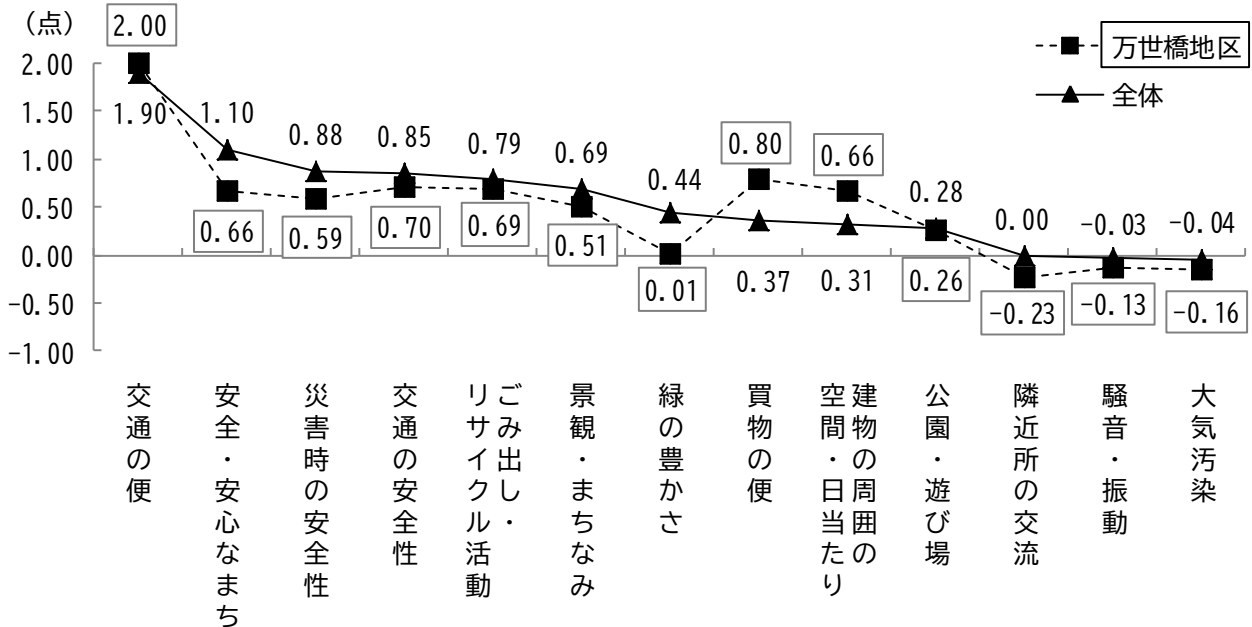
(図2-1-19)

図2-1-19 周辺の生活環境評価 加重平均 (神田公園地区)



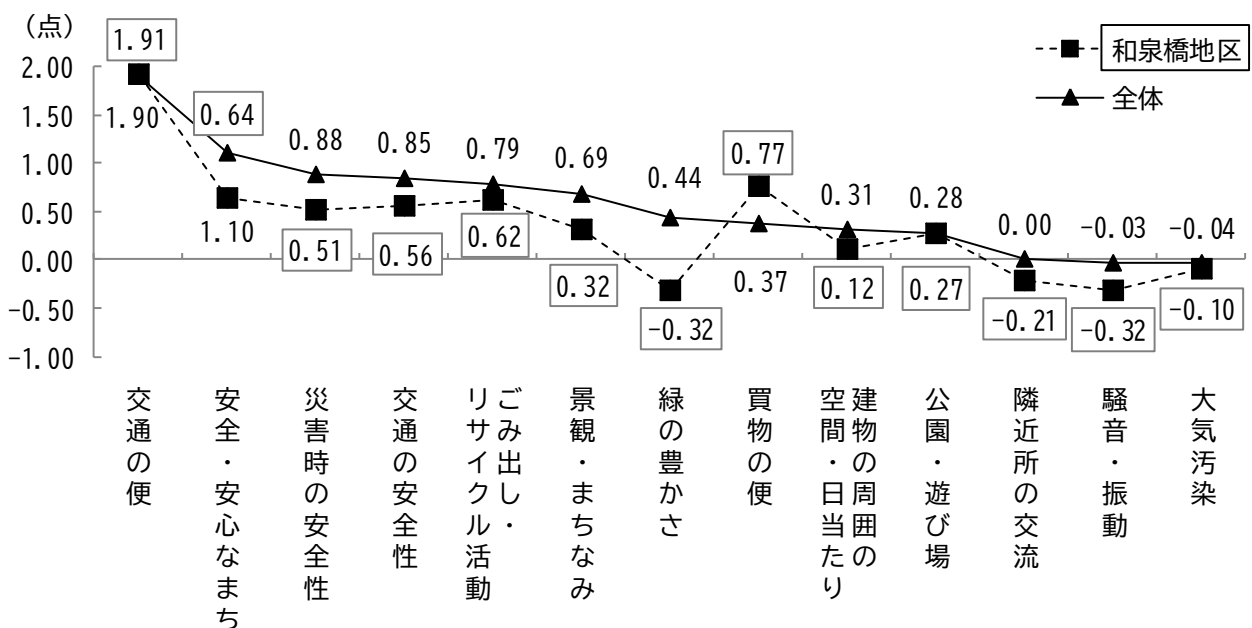
万世橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は3項目となっており、特に“買い物の便”（0.43点差）の評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は10項目となっており、特に“安全・安心なまち”（0.44点差）、“緑の豊かさ”（0.43点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-20）

図2-1-20 周辺の生活環境評価 加重平均（万世橋地区）



和泉橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は“買い物の便”（0.40点差）、“交通の便”（0.01点差）の2項目となっている。一方、全体より評価が低い項目は11項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.76点差）、“安全・安心なまち”（0.46点差）、“災害時の安全性”と“景観・まちなみ”（0.37点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-21）

図2-1-21 周辺の生活環境評価 加重平均（和泉橋地区）

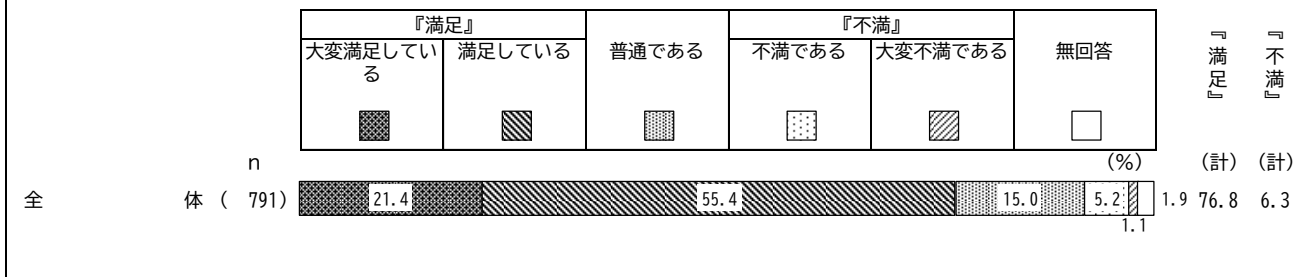


(2) 周辺の居住環境の満足度

◇「大変満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は7割台半ば超え

問4 あなたのお住まいやその居住環境について、当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

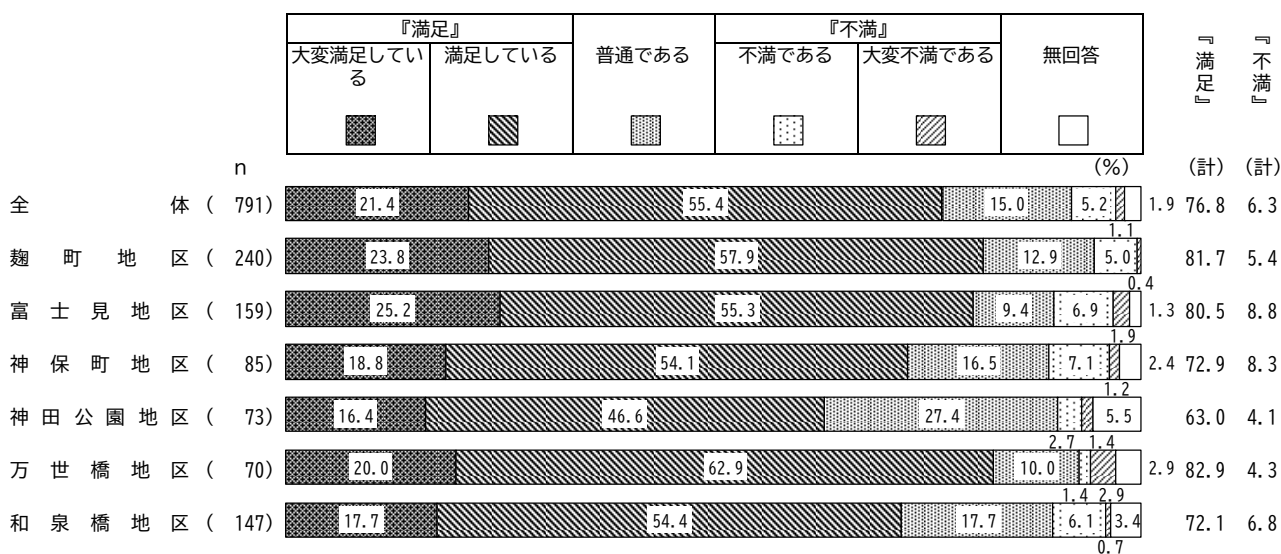
図2-2-1 周辺の居住環境の満足度



周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(55.4%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「大変満足している」(21.4%)を合わせた『満足』(76.8%)は7割台半ば超えとなっている。一方、「不満である」(5.2%)と「大変不満である」(1.1%)を合わせた『不満』(6.3%)は1割未満となっている。(図2-2-1)

地区別にみると、『満足』は万世橋地区(82.9%)で高い割合となっている。(図2-2-2)

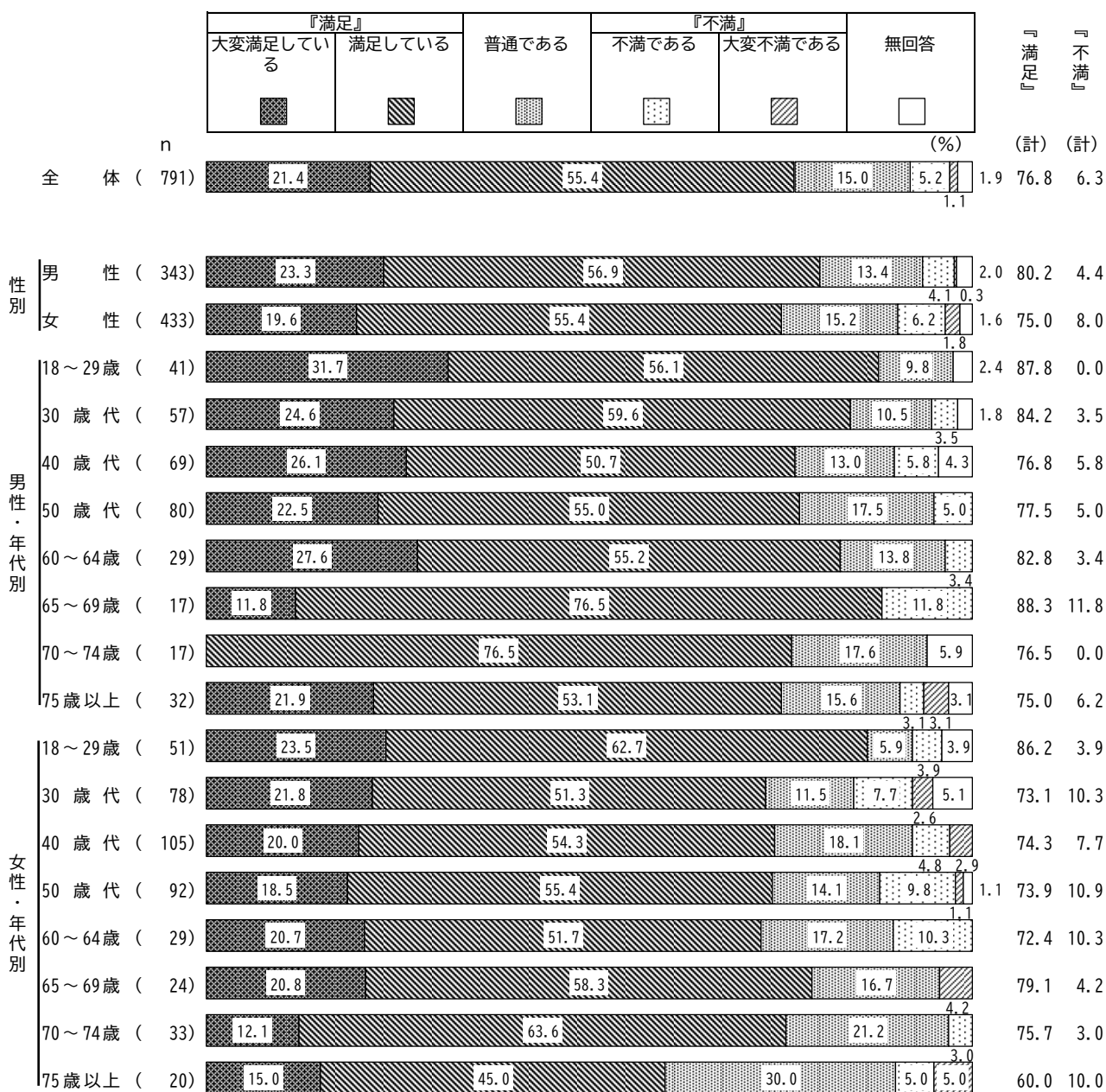
図2-2-2 周辺の居住環境の満足度(地区別)



性・年代別にみると、男性 65～69 歳で『満足』（88.3%）が9割近くと高くなっている。

(図2-2-3)

図2-2-3 周辺の居住環境の満足度（性・年代別）



(2-1) 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

「(1) 周辺の生活環境評価」の各項目と「(2) 周辺の居住環境の満足度」から相関係数 (r) を算出し、周辺の生活環境評価と居住環境の満足度の関係を分析した。

◇相関係数 (r)

相関係数 (r) とは、2つのデータの関係の強さを数値 (係数) で示したもので、-1 から +1 の間の数値となる。相関係数 (r) の絶対値が1に近づくほど関係が強くなり、関係が低いと0に近くなる。

相関係数(r)	考え方
$0 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 < r \leq 0.4$	弱い相関がある
$0.4 < r \leq 0.7$	中程度の相関がある
$0.7 < r \leq 1.0$	強い相関がある

◇満足度と相関係数 (r)

「周辺の生活環境評価」の各項目について、満足度と相関係数 (r) を一覧にすると以下のようになった。

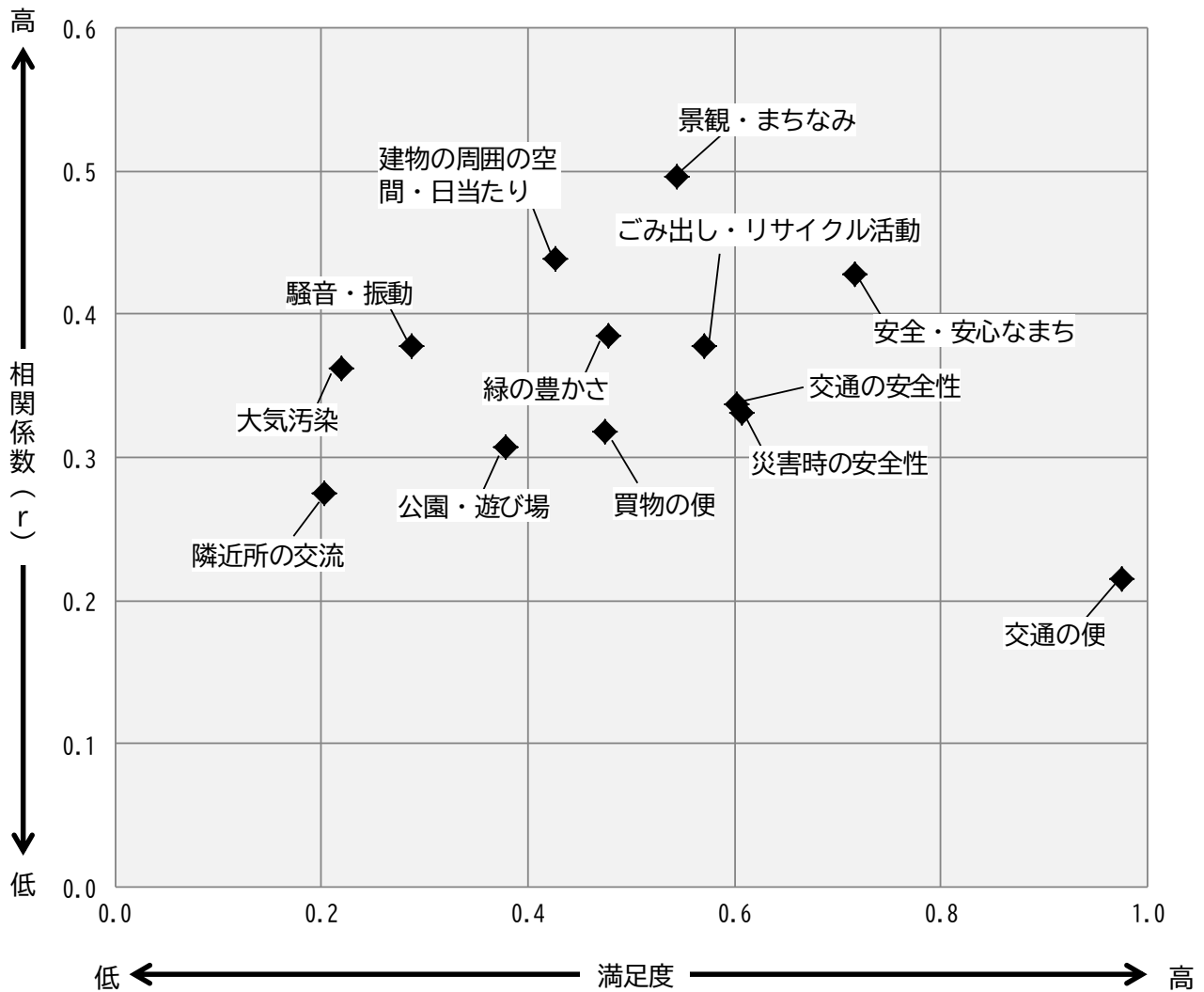
周辺の生活環境評価	満足度	相関係数(r)
交通の便	0.98	0.21
買物の便	0.48	0.32
公園・遊び場	0.38	0.31
建物の周囲の空間・日当たり	0.43	0.44
騒音・振動	0.29	0.38
大気汚染	0.22	0.36
緑の豊かさ	0.48	0.38
交通の安全性	0.60	0.34
災害時の安全性	0.61	0.33
安全・安心なまち	0.72	0.43
隣近所の交流	0.20	0.27
景観・まちなみ	0.54	0.50
ごみ出し・リサイクル活動	0.57	0.38

注) 満足度は、各項目の「良い」・「やや良い」の割合の合計となる。

「周辺の生活環境評価」の各項目について、「周辺の居住環境の満足度」との相関係数（r）、満足度を基に散布図に示した。

“景観・まちなみ”（0.50）・“建物の周囲の空間・日当たり”（0.44）・“安全・安心なまち”（0.43）の3項目は相関係数（r）が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。周辺の生活環境の中でも、特にこれらの評価が向上することが、居住環境満足度向上に影響すると考えられる。（図2-2-4）

図2-2-4 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析



3. 区の施策への要望

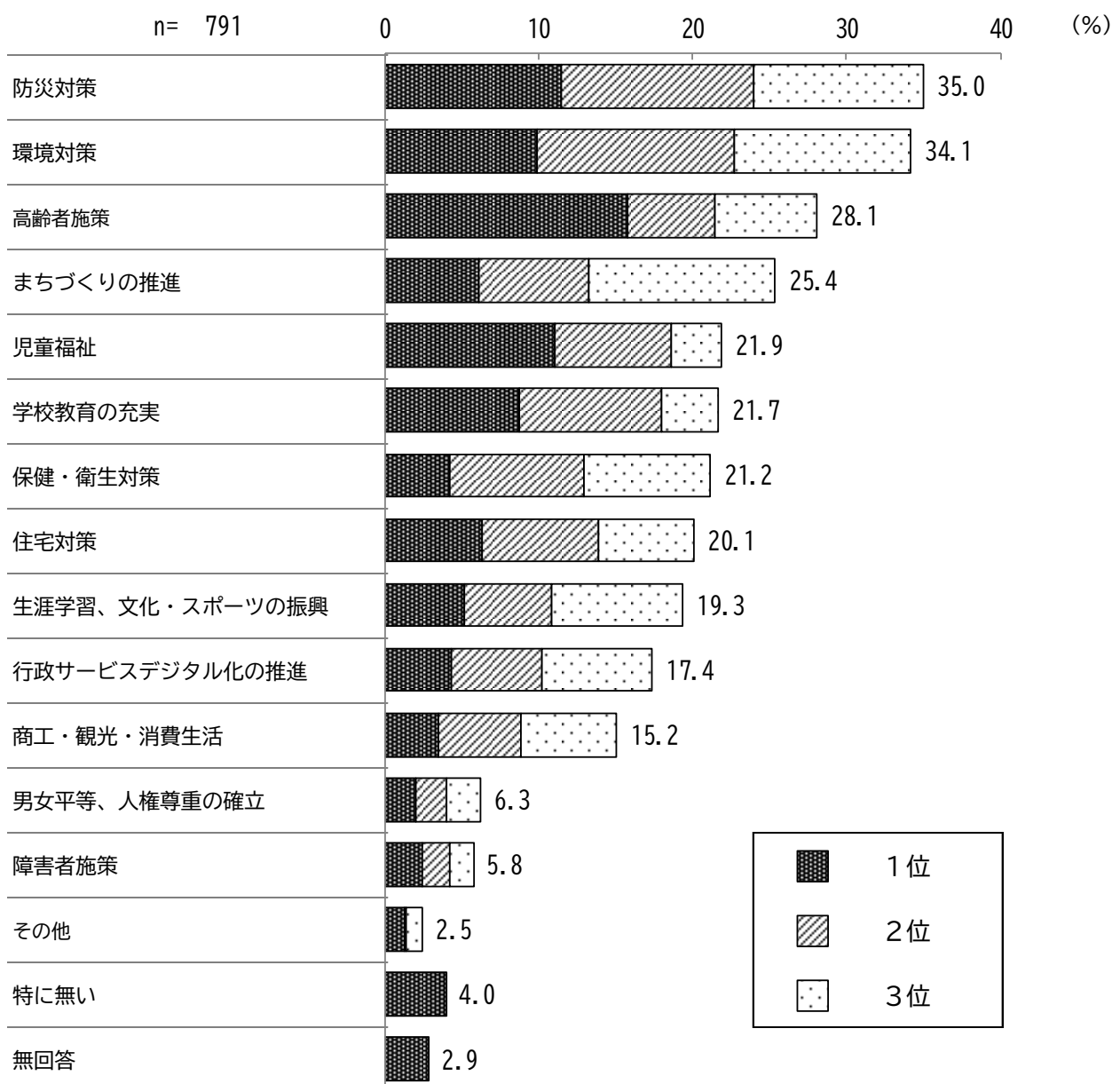
(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が3割台半ば

問5 これからの区政全体について考えた場合、あなたは、どの分野に力を入れてもらいたいと思いますか。特に力を入れて取り組んでほしい分野について、下記1～15の中から優先順位の高い順に3つ選んで番号を記入してください。ただし、「15. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

問5-1 問5で選んだ分野の中の「具体的な要望」で優先度の高い項目を3つ選んでご記入ください。

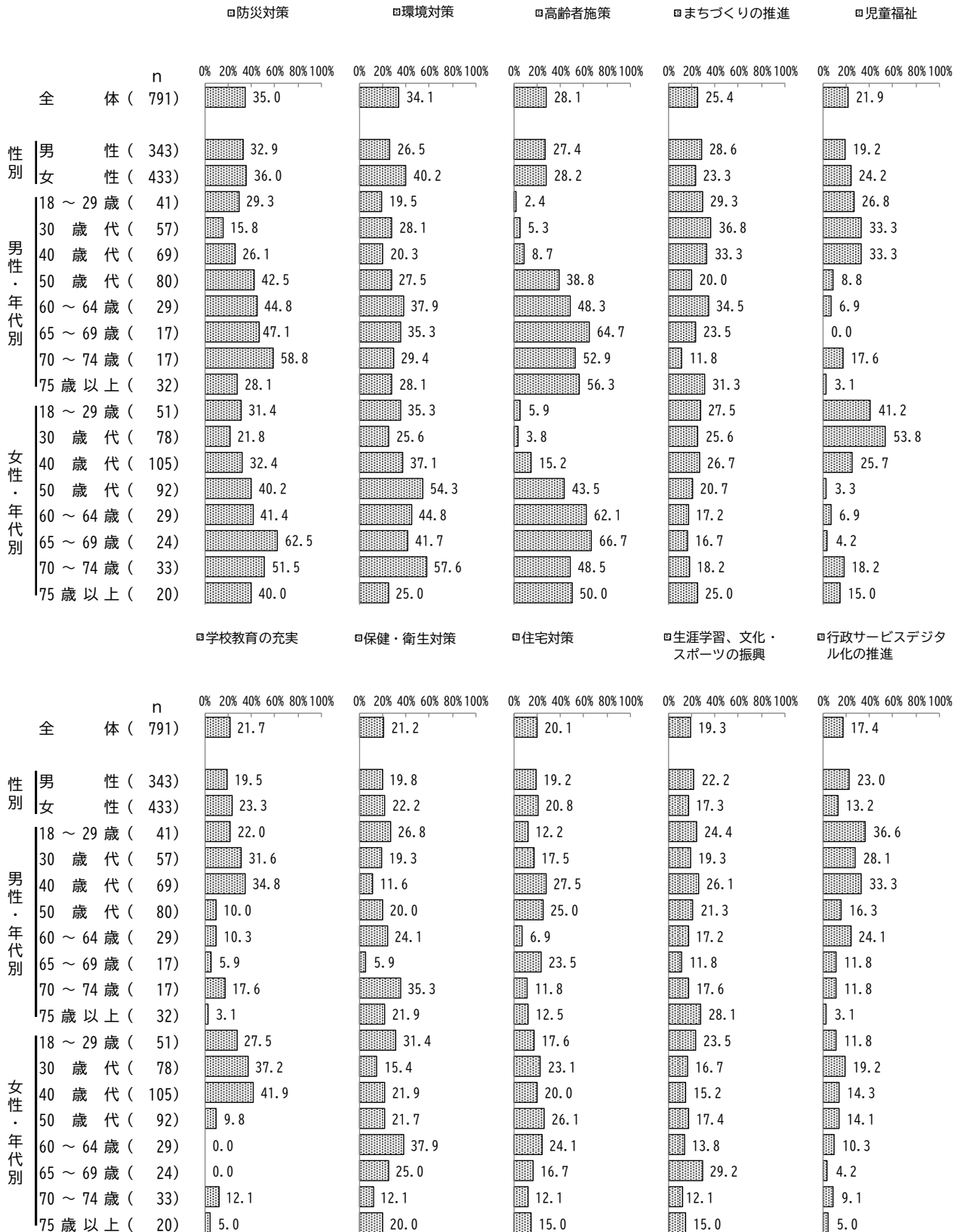
図3-1-1 力を入れてほしい施策



力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(35.0%)が3割台半ばと最も高く、次いで「環境対策」(34.1%)、「高齢者施策」(28.1%)、「まちづくりの推進」(25.4%)と続いている。(図3-1-1)

性・年代別にみると、「防災対策」は男性ではおおむね年齢層が高いほど割合が高くなっている。また、「高齢者施策」は女性65～69歳（66.7%）、男性65～69歳（64.7%）、女性60～64歳（62.1%）で6割台と高くなっており、「児童福祉」では女性30歳代（53.8%）で5割台半ば近くと高くなっている。（図3-1-2）

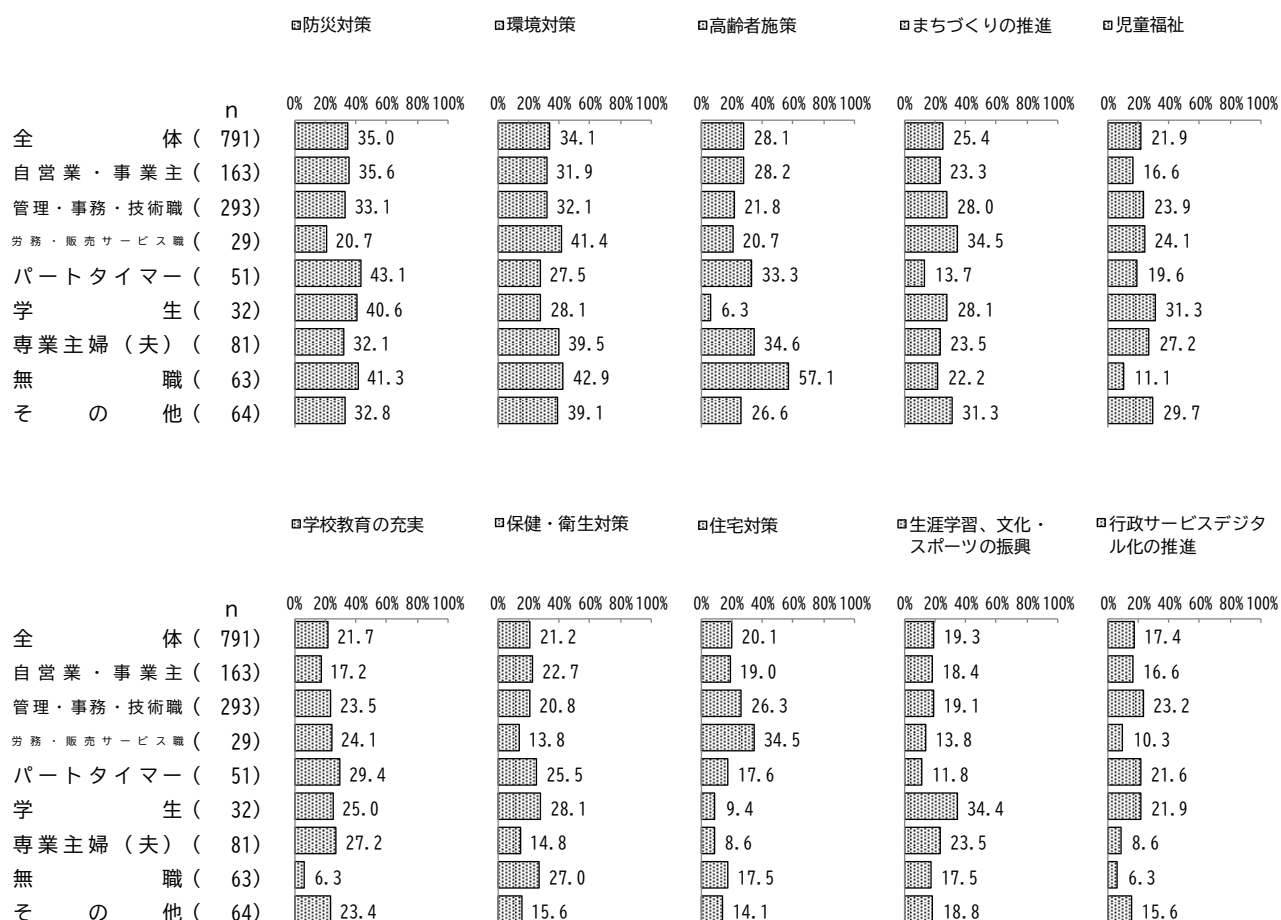
図3-1-2 力を入れてほしい施策（性・年代別）－上位10分野－



職業別にみると、「高齢者施策」は無職（57.1%）で5割台半ばを超え高くなっている。また、「生涯学習、文化・スポーツの振興」は学生（34.4%）で3割台半ば近くと高くなっている。

（図3-1-3）

図3-1-3 力を入れてほしい施策（職業別）－上位10分野－



世帯構成別にみると、「学校教育の充実」は夫婦と子どもの世帯（50.4%）で約5割と高くなっている。（図3-1-4）

図3-1-4 力を入れてほしい施策（世帯構成別）－上位10分野－

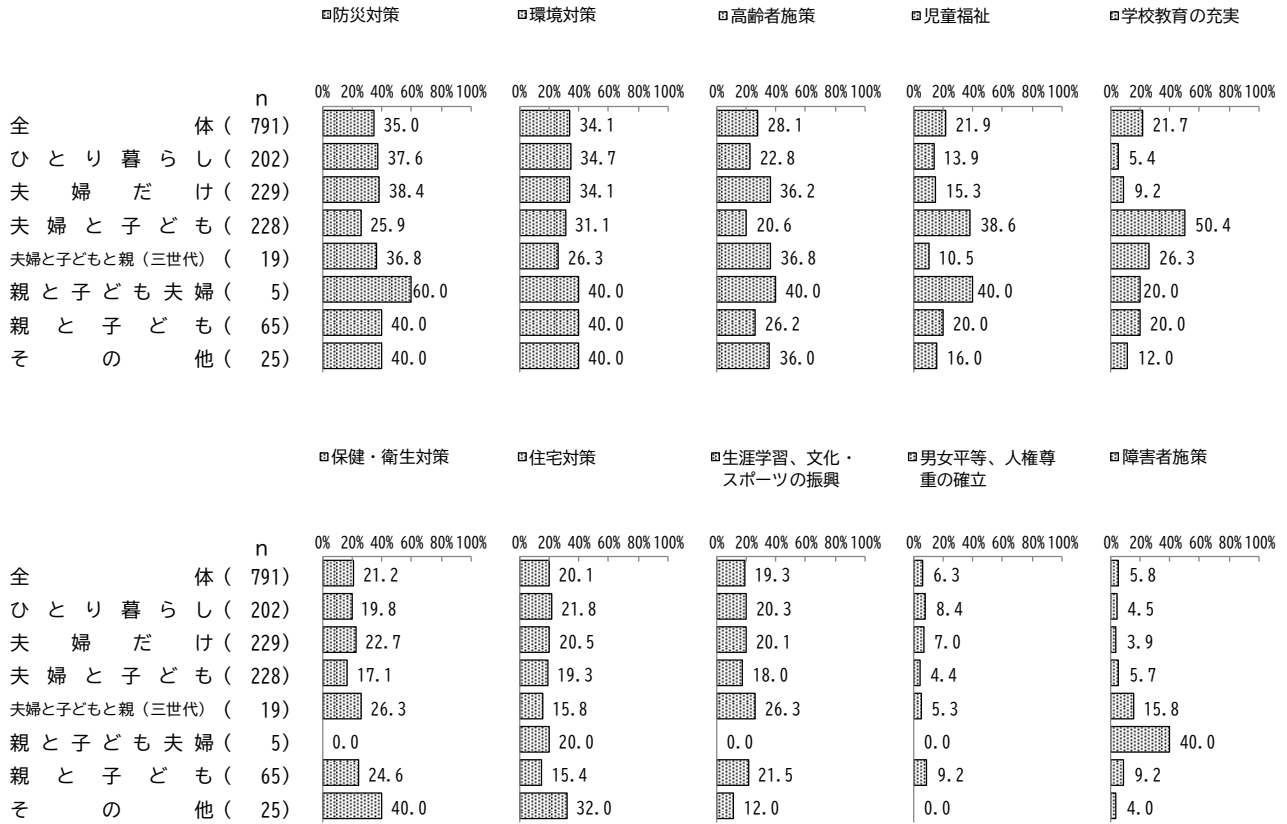
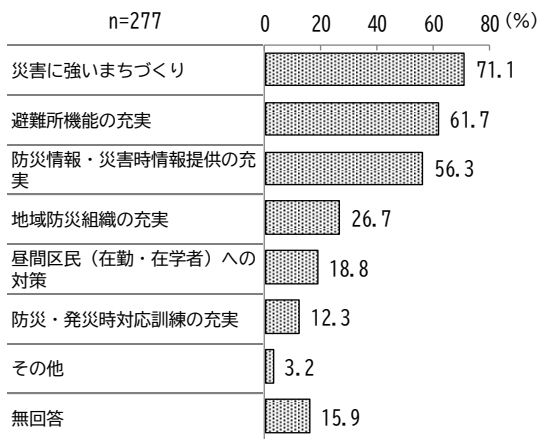
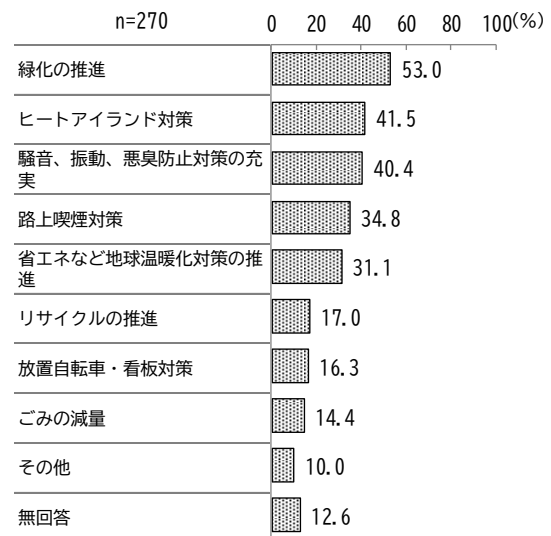


図3-1-5 力を入れてほしい施策－分野別要望－（問5-1）

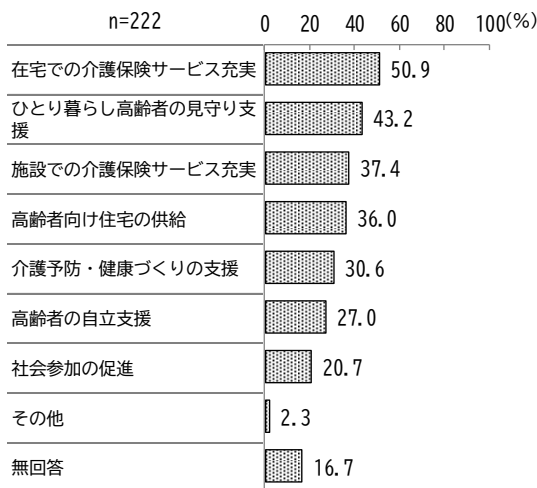
第1位【防災対策】



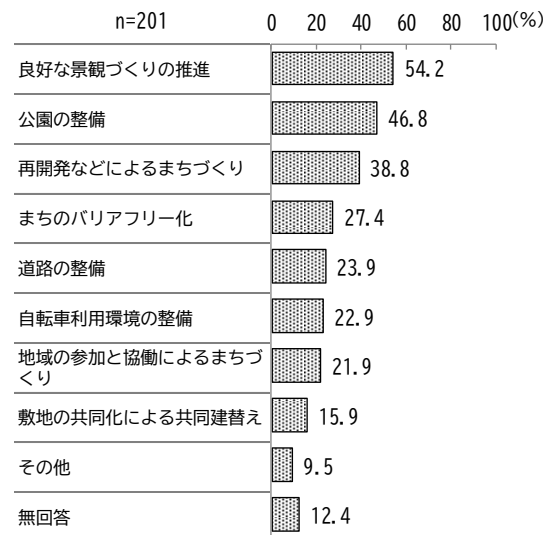
第2位【環境対策】



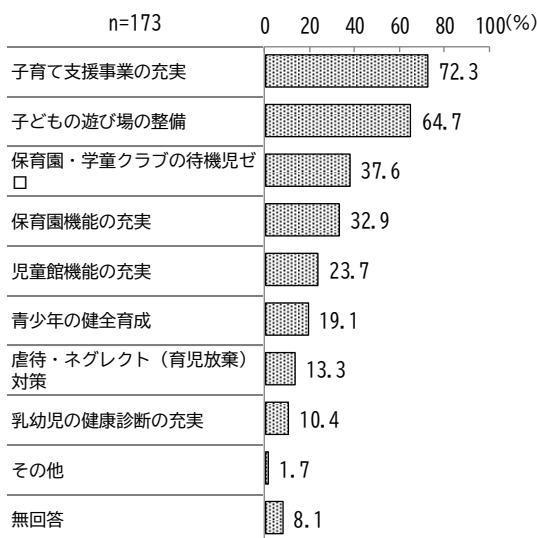
第3位【高齢者施策】



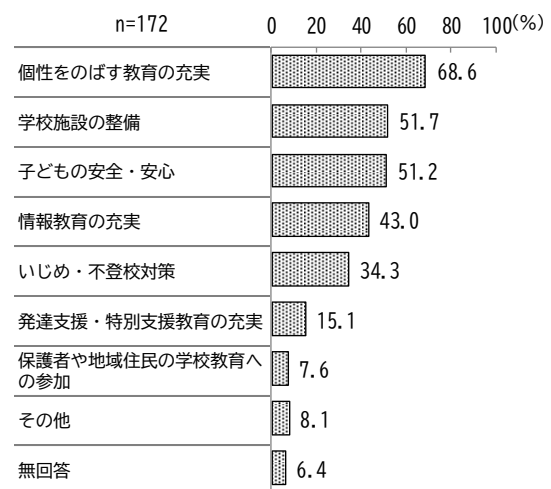
第4位【まちづくりの推進】



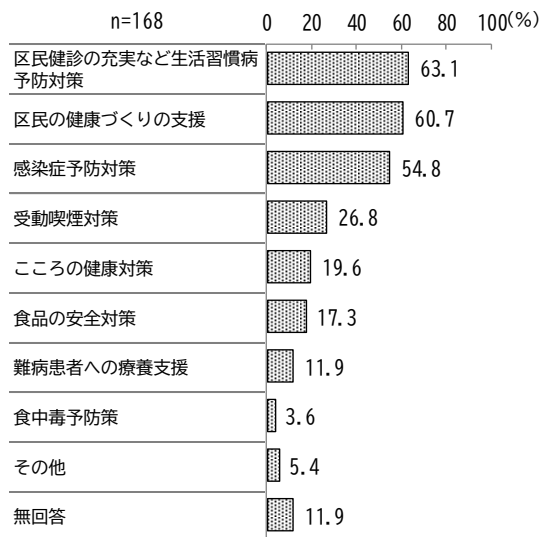
第5位【児童福祉】



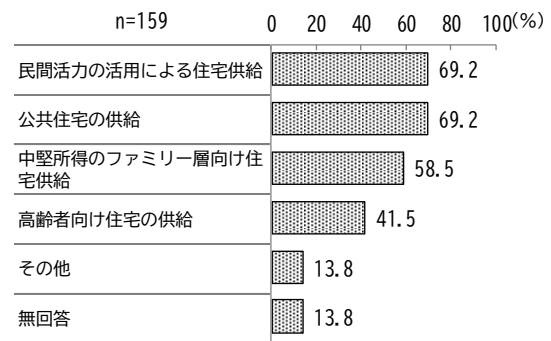
第6位【学校教育の充実】



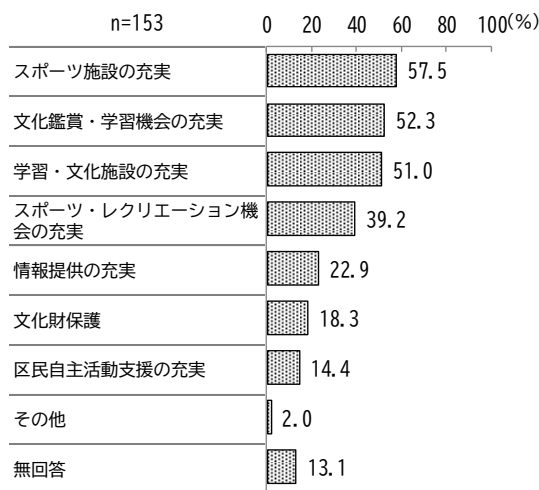
第7位【保健・衛生対策】



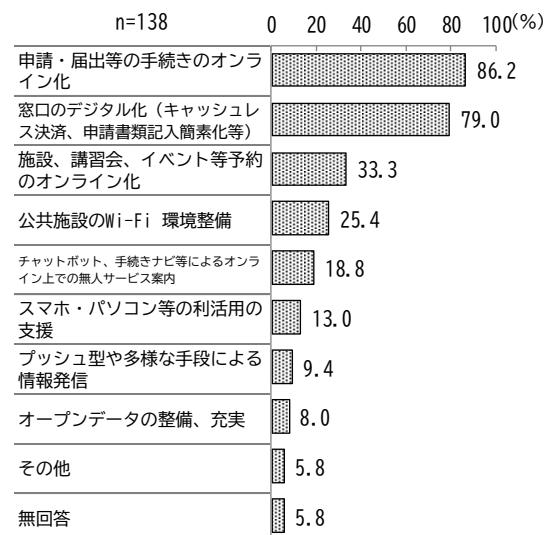
第8位【住宅対策】



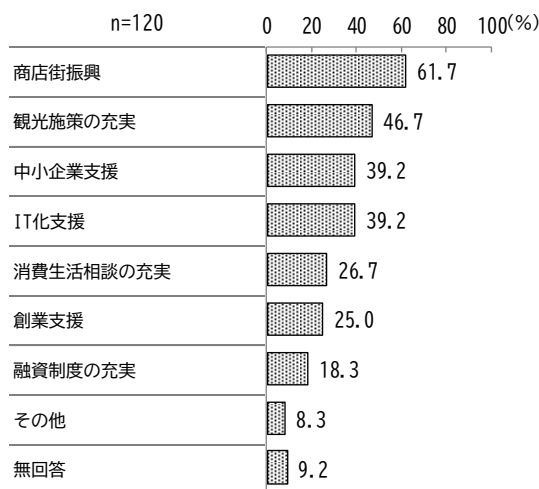
第9位【生涯学習、文化・スポーツの振興】



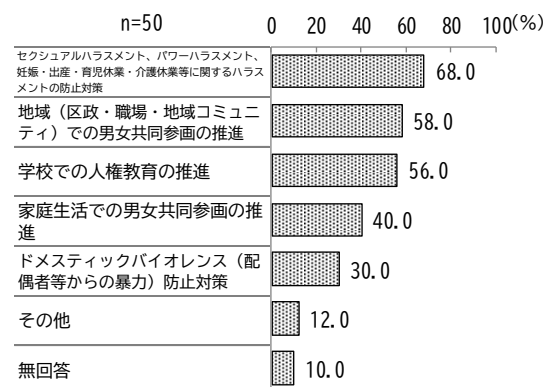
第10位【行政サービスデジタル化の推進】



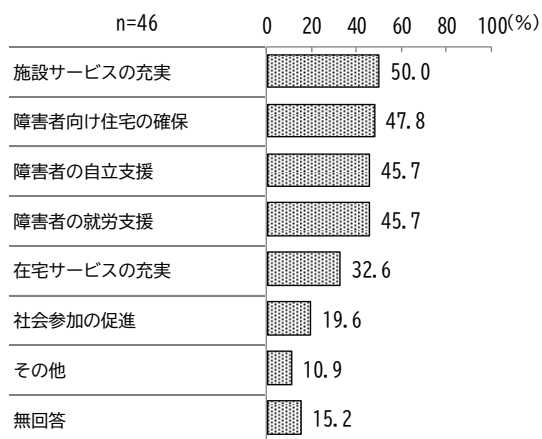
第11位第【商工・観光・消費生活】



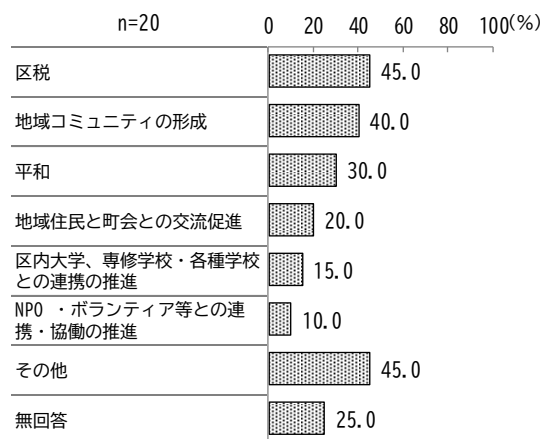
第12位【男女平等、人権尊重の確立】



第13位【障害者施策】



第14位【その他】



具体的な要望についてその他を回答した方の人数と主な意見は以下のとおりである。

【高齢者施策】

5人 「1人1人に対応した各種サービス」「有料老人ホームを作ってほしい」など

【障害者施策】

5人 「金銭支援」「障害児の扶養者の所得制限の撤廃」など

【保健・衛生対策】

9人 「ねずみ、害虫対策」「予防接種」「タバコ吸い殻、ゴミのポイ捨て対策」

【児童福祉】

3人 「児童手当の拡大」「区外の保育の助成」など

【学校教育の充実】

14人 「英語教育」「国際交流」「教育資金の援助」「社会教育の充実」など

【男女平等、人権尊重の確立】

6人 「LGBTQをはじめ、マイノリティへの支援」「区議会や区の管理職の女性比率の向上」など

【生涯学習、文化・スポーツの振興】

3人 「アートや芸術の支援や、公共の場への設置など」など

【住宅対策】

22人 「住宅補助」「単身者向けの住宅」「電線などの地下埋め込み」など

【環境対策】

27人 「電線の地中化」「路上生活者対策」「高層ビル禁止」「ネズミ・害虫」など

【防災対策】

9人 「食料備蓄」「ペット同行避難」「電線の地下化の加速」など

【まちづくりの推進】

19人 「ドッグランの設置」「街路樹の整備」「買い物施設の充実」「無電柱化」など

【商工・観光・消費生活】

10人 「大型スーパーの誘致」「地域と一体化した商工」「インボイス制度の撤廃」など

【行政サービスデジタル化の推進】

8人 「住民教育」「子供関連行政サービスのオンライン化」など

【その他】

9人 「少子化対策」「スーパーがほしい」など

4. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

◇満足度が最も高いのは“保健・衛生対策”、最も低いのは“障害者施策”

◇重要度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“男女平等、人権尊重の確立”

満足度（重要度）が高い ⇒ 「満足（重要）」と「やや満足（まあ重要）」の合計が高い

満足度（重要度）が低い ⇒ 「不満（重要でない）」と「やや不満（あまり重要でない）」の合計が高い

問6 あなたは、問5のそれぞれの分野についてどれくらい満足していますか。

また、どのくらい重要(大切)だと思いますか。項目ごとに5段階で評価し、該当する番号に○を付けてください。(14分野すべてにご回答ください。)

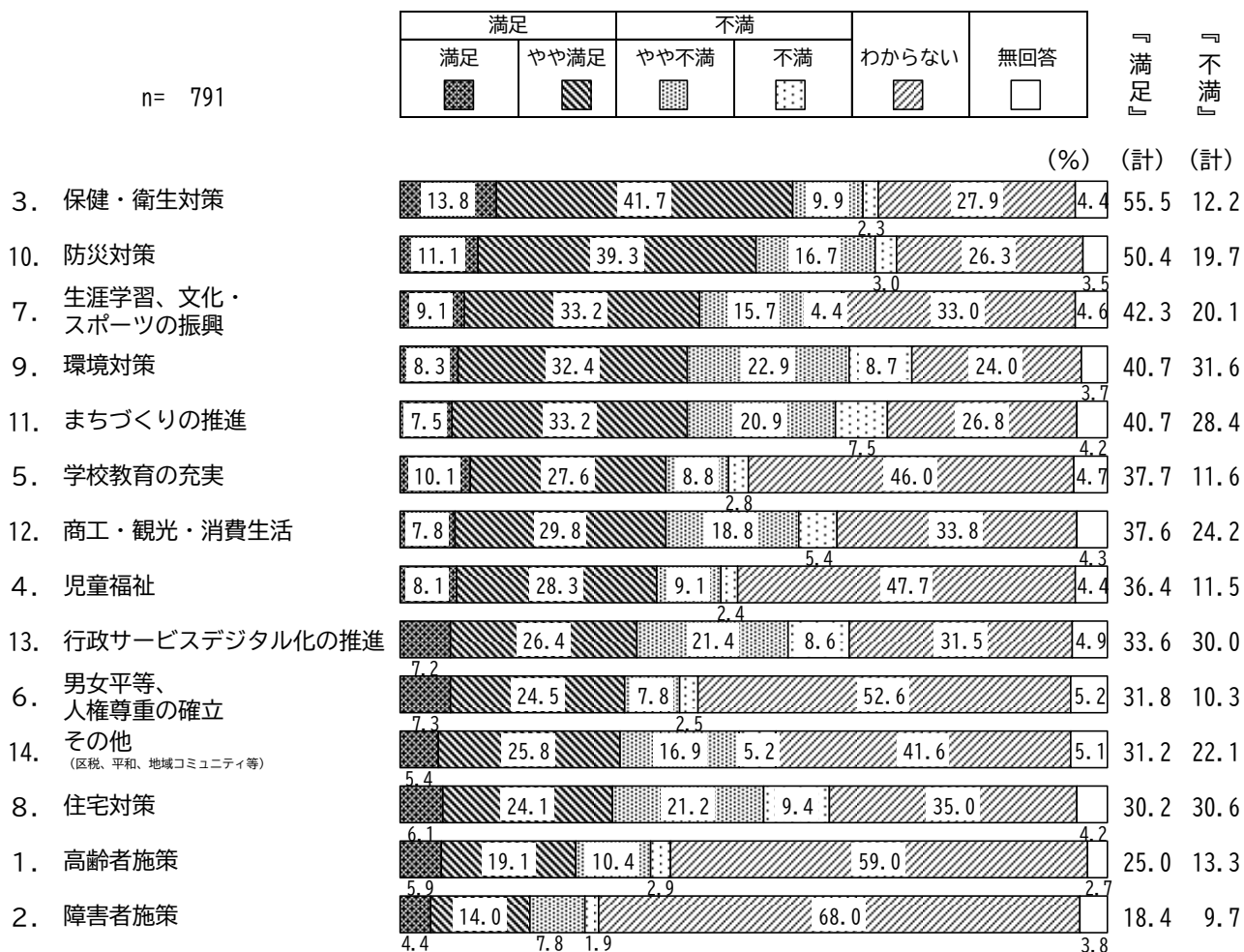
表4-1-1 施策の満足度・重要度

	満足度						重要度						(%)
	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない	無 回答	1 重要	2 まあ重要	3 あまり重要でない	4 重要でない	5 わからない	無 回答	
n=791													
1. 高齢者施策	5.9	19.1	10.4	2.9	59.0	2.7	42.2	33.4	8.6	4.7	7.6	3.5	
2. 障害者施策	4.4	14.0	7.8	1.9	68.0	3.8	35.1	37.3	7.0	3.2	12.9	4.6	
3. 保健・衛生対策	13.8	41.7	9.9	2.3	27.9	4.4	52.8	35.0	1.6	0.5	4.9	5.1	
4. 児童福祉	8.1	28.3	9.1	2.4	47.7	4.4	49.9	29.7	3.9	1.9	9.6	4.9	
5. 学校教育の充実	10.1	27.6	8.8	2.8	46.0	4.7	51.8	27.4	3.7	1.8	10.4	4.9	
6. 男女平等、 人権尊重の確立	7.3	24.5	7.8	2.5	52.6	5.2	31.7	40.6	9.0	3.4	9.6	5.7	
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	9.1	33.2	15.7	4.4	33.0	4.6	30.0	43.9	13.1	1.9	5.7	5.4	
8. 住宅対策	6.1	24.1	21.2	9.4	35.0	4.2	41.7	40.3	5.6	1.8	5.8	4.8	
9. 環境対策	8.3	32.4	22.9	8.7	24.0	3.7	56.6	33.0	1.9	0.4	3.2	4.9	
10. 防災対策	11.1	39.3	16.7	3.0	26.3	3.5	71.8	21.1	0.8	0.0	2.1	4.2	
11. まちづくりの推進	7.5	33.2	20.9	7.5	26.8	4.2	40.6	42.0	7.7	0.9	4.0	4.8	
12. 商工・観光・消費生活	7.8	29.8	18.8	5.4	33.8	4.3	27.4	46.6	13.8	1.4	5.9	4.8	
13. 行政サービスデジタル化の推進	7.2	26.4	21.4	8.6	31.5	4.9	37.8	38.7	8.2	3.3	6.8	5.2	
14. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	5.4	25.8	16.9	5.2	41.6	5.1	23.5	42.1	9.9	1.0	17.6	5.9	

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。

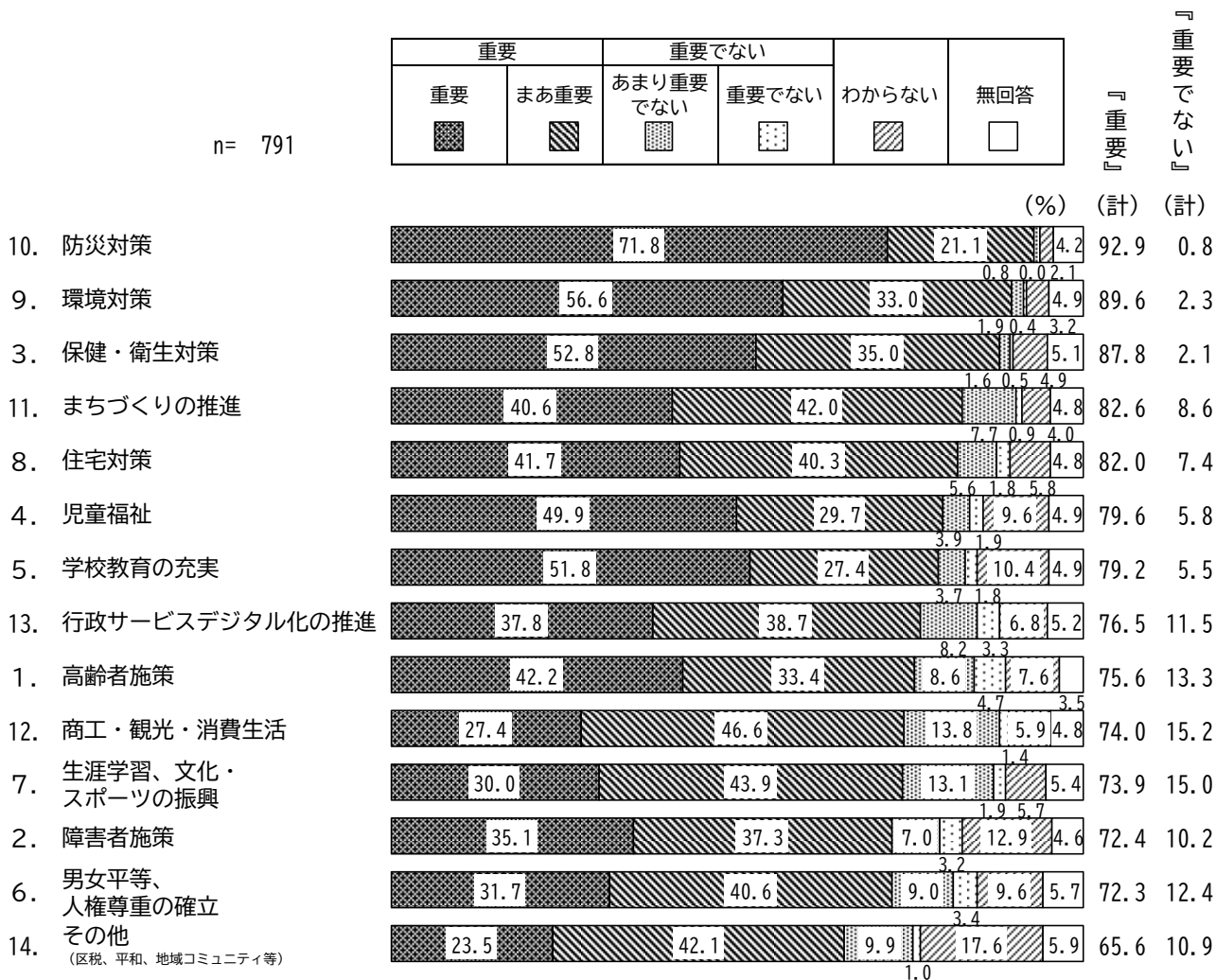
「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”（55.5%）が5割台半ばと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“環境対策”（31.6%）が3割強と高くなっている。（図4-1-2）

図4-1-2 施策の満足度



「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”（92.9%）が9割強と最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“商工・観光・消費生活”（15.2%）、“生涯学習、文化・スポーツの振興”（15.0%）が1割台半ばと高くなっている。
 (図4-1-3)

図4-1-3 施策の重要度



◇加重平均値

満足度・重要度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、4段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{\text{「重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ重要」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、「わからない」と無回答を除く。

この算出方法では、満足度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

また、重要度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど重要度が高くなり、マイナスの値が大きいほど重要度が低くなる。

地区別に満足度をみると、麴町地区では、「保健・衛生対策」(0.91)、「男女平等、人権尊重の確立」(0.71)が高くなっている。一方、「行政サービスデジタル化の推進」(-0.09)が低くなっている。

富士見地区では、「保健・衛生対策」(0.91)、「児童福祉」(0.88)、「学校教育の充実」(0.88)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.04)が低くなっている。

神保町地区では、「児童福祉」(0.81)、「男女平等、人権尊重の確立」(0.77)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.28)が低くなっている。

神田公園地区では、「保健・衛生対策」(0.80)、「男女平等、人権尊重の確立」(0.54)が高くなっている。一方、「環境対策」(-0.13)が低くなっている。

万世橋地区では、「高齢者施策」(0.83)、「保健・衛生対策」(0.75)が高くなっている。一方、「環境対策」(-0.15)が低くなっている。

和泉橋地区では、「保健・衛生対策」(0.66)、「学校教育の充実」(0.52)が高くなっている。一方、「環境対策」(-0.12)が低くなっている。(表4-1-4)

地区別に重要度をみると、麴町地区では、「防災対策」(1.81)、「環境対策」(1.59)、「保健・衛生対策」(1.55)が高くなっている。

富士見地区では、「防災対策」(1.76)、「環境対策」(1.60)、「学校教育の充実」(1.56)が高くなっている。

神保町地区では、「防災対策」(1.72)、「保健・衛生対策」(1.60)、「学校教育の充実」(1.53)が高くなっている。

神田公園地区では、「防災対策」(1.68)、「環境対策」(1.47)、「保健・衛生対策」(1.44)が高くなっている。

万世橋地区では、「防災対策」(1.75)、「環境対策」(1.63)、「保健・衛生対策」(1.50)が高くなっている。

和泉橋地区では、「防災対策」(1.67)、「環境対策」(1.51)、「保健・衛生対策」(1.49)が高くなっている。(表4-1-4)

表4-1-4 施策の満足度評価点・重要度評価点(地区別)

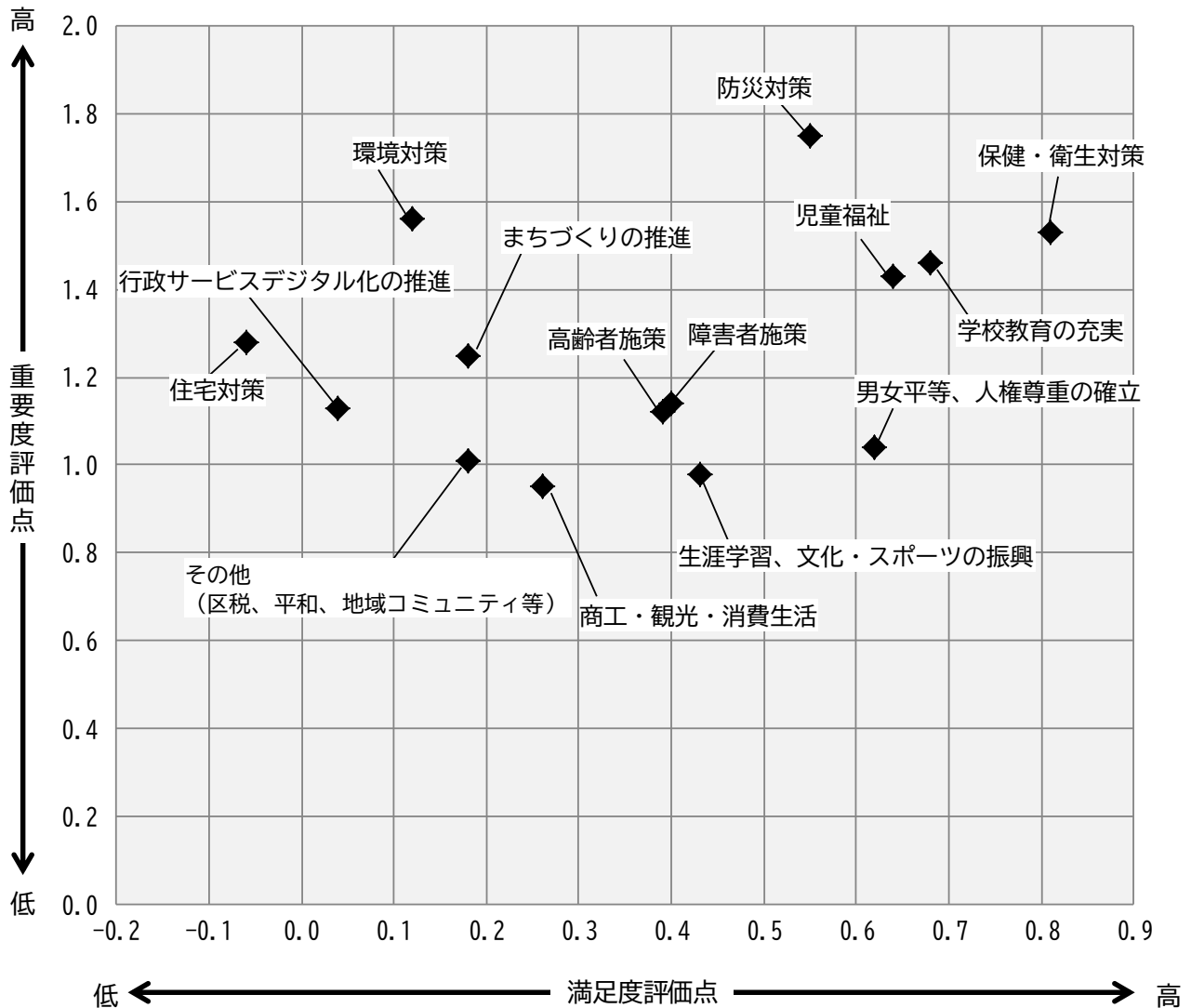
	満足度							重要度						
	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区
1. 高齢者施策	0.39	0.22	0.51	0.24	0.35	0.83	0.47	1.12	1.12	1.28	1.03	1.15	0.93	1.02
2. 障害者施策	0.40	0.15	0.72	0.31	0.46	0.47	0.49	1.14	1.18	1.35	0.96	1.11	1.12	0.97
3. 保健・衛生対策	0.81	0.91	0.91	0.70	0.80	0.75	0.66	1.53	1.55	1.54	1.60	1.44	1.50	1.49
4. 児童福祉	0.64	0.54	0.88	0.81	0.46	0.61	0.51	1.43	1.42	1.54	1.37	1.37	1.42	1.36
5. 学校教育の充実	0.68	0.67	0.88	0.70	0.38	0.64	0.52	1.46	1.44	1.56	1.53	1.43	1.40	1.36
6. 男女平等、 人権尊重の確立	0.62	0.71	0.76	0.77	0.54	0.58	0.28	1.04	1.11	1.18	1.07	1.03	0.94	0.82
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	0.43	0.35	0.67	0.55	0.47	0.33	0.15	0.98	1.00	0.94	0.96	1.08	0.75	1.02
8. 住宅対策	-0.06	-0.07	-0.04	-0.28	-0.08	0.02	-0.02	1.28	1.25	1.32	1.29	1.23	1.35	1.30
9. 環境対策	0.12	0.30	0.29	-0.02	-0.13	-0.15	-0.12	1.56	1.59	1.60	1.49	1.47	1.63	1.51
10. 防災対策	0.55	0.66	0.79	0.50	0.16	0.18	0.45	1.75	1.81	1.76	1.72	1.68	1.75	1.67
11. まちづくりの推進	0.18	0.03	0.38	0.31	-0.11	0.34	0.14	1.25	1.24	1.33	1.24	1.38	1.08	1.17
12. 商工・観光・消費生活	0.26	-0.01	0.40	0.68	0.12	0.27	0.35	0.95	0.90	1.01	0.93	0.95	1.03	0.94
13. 行政サービスデジタル化の推進	0.04	-0.09	0.10	0.03	0.11	-0.02	0.09	1.13	1.16	1.23	1.23	0.92	1.02	1.11
14. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	0.18	0.09	0.36	-0.13	0.13	0.08	0.25	1.01	1.08	1.13	1.02	1.09	0.79	0.76

次の図は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いと言える。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図4-1-5)

図4-1-5 施策の満足度評価点・重要度評価点の相関



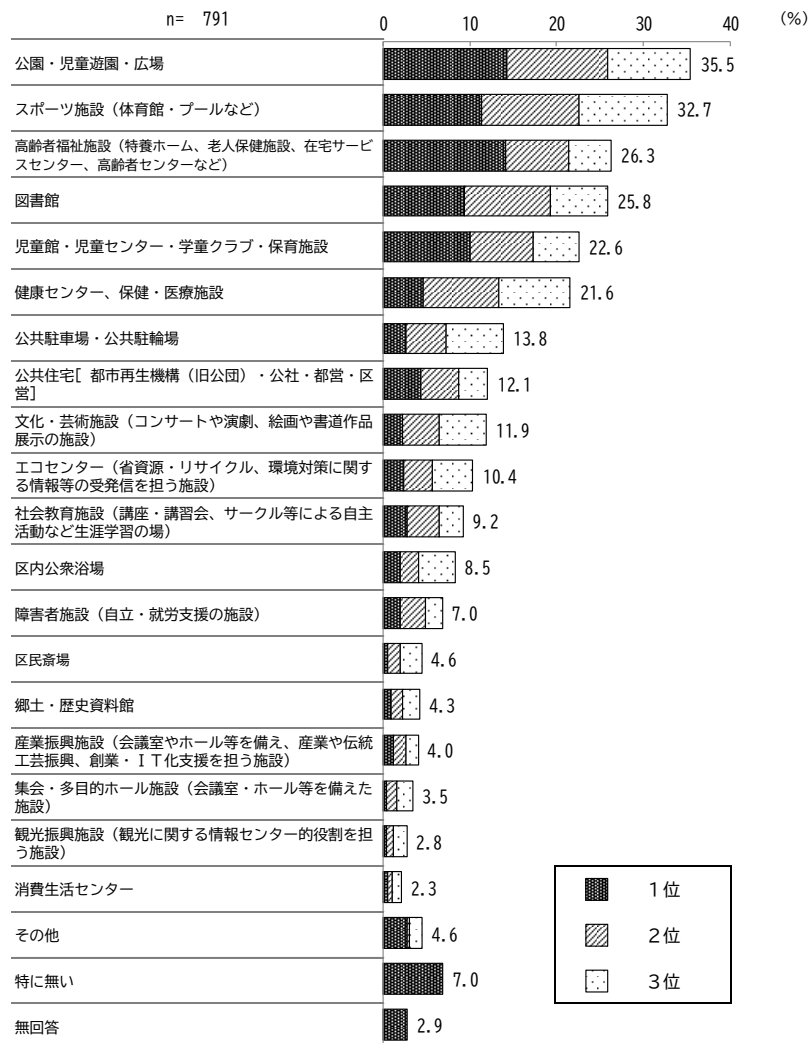
5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

◇「公園・児童遊園・広場」が3割台半ば

問7 あなたは、区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。下記1～21の施設から優先順位の高い順に3つを選んで番号を記入してください。ただし、「21. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

図5-1-1 整備・充実すべき施設



整備・充実すべき施設について聞いたところ、第1位から第3位までの積み上げでみると、「公園・児童遊園・広場」(35.5%)が最も高く、次いで、「スポーツ施設」(32.7%)、「高齢者福祉施設」(26.3%)、「図書館」(25.8%)の順となっている。

また、1位の項目に着目すると、「公園・児童遊園・広場」>「高齢者福祉施設(特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど)」>「スポーツ施設(体育館・プールなど)」>「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」>「図書館」の順に高くなっており、「図書館」を2位、3位で選択している方が多いことがうかがえる。(図5-1-1)

その他を回答した方は36人おり、主な意見として「大型スーパー」、「ドッグラン」などが挙げられている。

令和4年度で3位だった「高齢者福祉施設」が令和5年度で2位、令和4年度で2位だった「スポーツ施設」が令和5年度で3位になっている。また、平成29年以降上位5つの施設は変わっていない。(表5-1-2)

表5-1-2 整備・充実すべき施設（経年比較）
(単位：%)

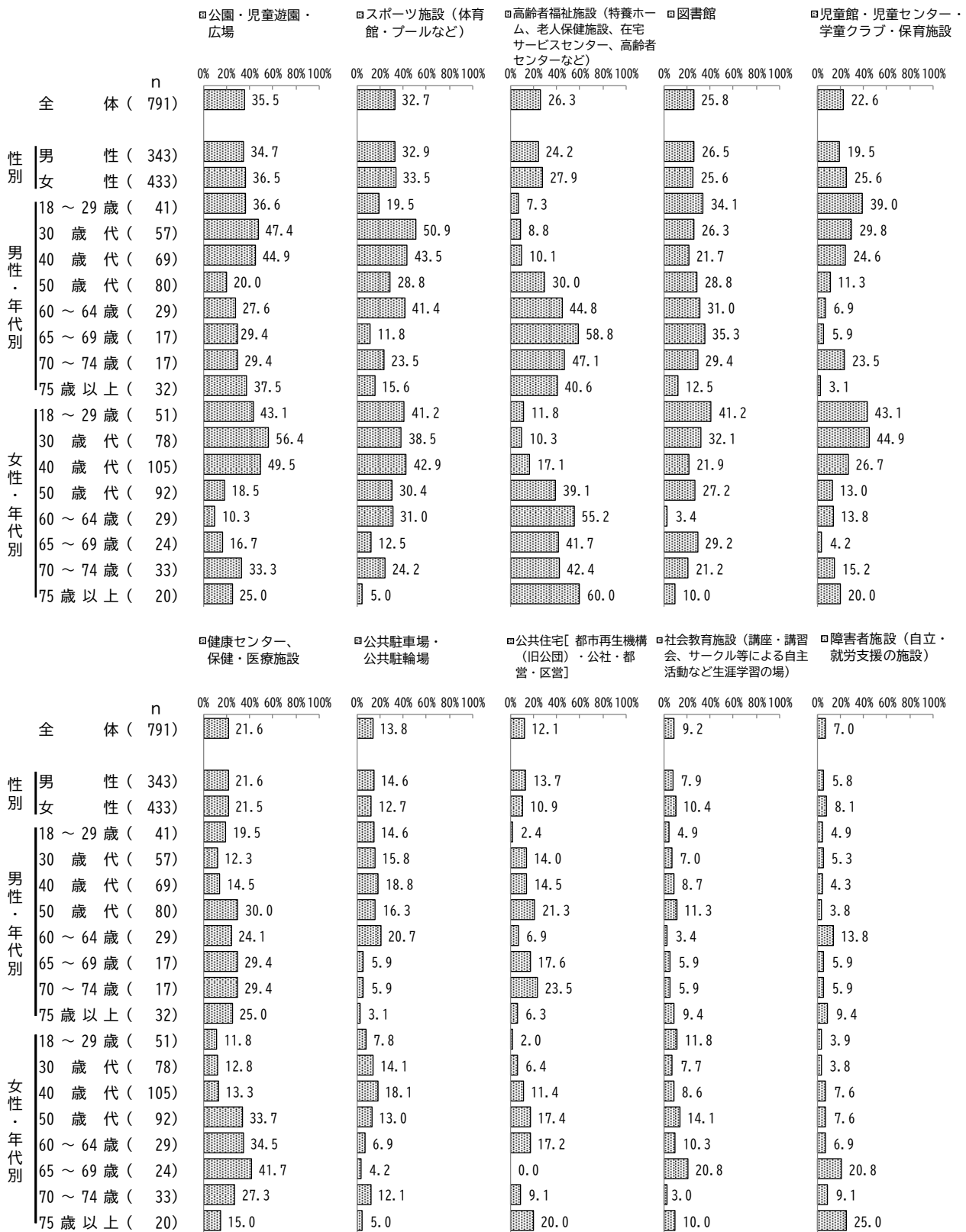
	1位	2位	3位	4位	5位
令和5年	公園・児童遊園・広場 (14.3)	高齢者福祉施設 (14.2)	スポーツ施設 (11.4)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.1)	図書館 (9.4)
令和4年	公園・児童遊園・広場 (13.3)	スポーツ施設 (13.2)	高齢者福祉施設 (12.4)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.6)	図書館 (7.9)
令和3年	公園・児童遊園・広場 (17.3)	高齢者福祉施設 (13.9)	スポーツ施設 (12.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (8.0)	図書館 (7.1)
令和2年	高齢者福祉施設 (15.0)	公園・児童遊園・広場 (13.7)	スポーツ施設 (13.3)	図書館 (10.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.9)
令和元年	高齢者福祉施設 (17.2)	スポーツ施設 (12.8)	公園・児童遊園・広場 (11.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.3)	図書館 (6.8)
平成30年	高齢者福祉施設 (18.2)	スポーツ施設 (13.0)	公園・児童遊園・広場 (12.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.9)	図書館 (8.7)
平成29年	高齢者福祉施設 (16.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (13.3)	スポーツ施設 (12.4)	公園・児童遊園・広場 (11.1)	図書館 (8.3)
平成28年	高齢者福祉施設 (17.9)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (12.6)	公園・児童遊園・広場 (11.3)	スポーツ施設 (9.7)	公共住宅 (7.1)
平成27年	高齢者福祉施設 (23.3)	スポーツ施設 (11.5)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.5)	公園・児童遊園・広場 (9.2)	図書館 (7.3)
平成26年	高齢者福祉施設 (20.2)	スポーツ施設 (11.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.8)	公園・児童遊園・広場 (10.5)	図書館 (7.4)
平成25年	スポーツ施設 (14.2)	高齢者福祉施設 (13.6)	公園・児童遊園 (10.1)	健康センター・保健施設・医療施設、公共住宅 (各7.9)	
平成24年	高齢者福祉施設 (13.8)	スポーツ施設 (11.5)	健康センター・保健施設・医療施設、 公園・児童遊園 (各9.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.5)	
平成23年	スポーツ施設 (23.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.6)	高齢者福祉施設 (7.6)	区営住宅 (4.6)
平成22年	スポーツ施設 (22.5)	図書館 (17.2)	高齢者福祉施設 (8.3)	公園・児童遊園 (6.6)	健康センター (4.3)
平成21年	スポーツ施設 (23.2)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (8.1)	公園・児童遊園 (7.7)	区営駐車場 (4.6)
平成20年	スポーツ施設 (22.6)	図書館 (17.3)	高齢者福祉施設 (9.1)	公園・児童遊園 (8.0)	健康センター、 区営駐車場 (各4.9)
平成19年	スポーツ施設 (22.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.5)	高齢者福祉施設 (8.0)	区営駐車場 (6.6)
平成18年	スポーツ施設 (27.0)	図書館 (16.3)	公園・児童遊園 (8.1)	区営駐車場 (7.8)	高齢者福祉施設 (7.2)
平成17年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (15.8)	健康センター (6.9)	区営駐車場 (6.9)	公園・児童遊園 (6.4)
平成16年	スポーツ施設 (21.5)	図書館 (15.7)	高齢者福祉施設 (8.7)	健康センター (7.0)	公園・児童遊園 (7.0)
平成15年	スポーツ施設 (20.8)	図書館 (13.9)	高齢者福祉施設 (11.5)	公園・児童遊園 (8.6)	区営駐車場 (6.9)
平成14年	スポーツ施設 (19.8)	図書館 (13.2)	高齢者福祉施設 (10.6)	区営駐車場 (8.4)	健康センター (5.9)
平成13年	スポーツ施設 (24.8)	図書館 (13.4)	高齢者福祉施設 (12.8)	区営駐車場 (12.4)	健康センター (11.1)
平成12年	スポーツ施設 (30.7)	図書館 (18.2)	文化会館 (13.3)	区営駐車場 (13.0)	高齢者福祉施設 (12.5)
平成11年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (14.7)	区営駐車場 (13.7)	健康センター (12.3)
平成10年	スポーツ施設 (31.2)	図書館 (16.0)	文化会館 (13.1)	健康センター (12.8)	区営駐車場 (11.8)
平成9年	スポーツ施設 (29.6)	図書館 (17.0)	区営駐車場 (14.6)	健康センター (12.9)	公園・児童遊園 (11.1)
平成8年	区営駐車場 (23.5)	スポーツ施設 (23.1)	健康センター (17.5)	図書館 (14.0)	高齢者福祉施設 (13.1)

注)平成13年以前の調査では「近くにあればよいと思う施設を最大2つまで」答えたものの割合を、平成14年～平成23年の調査では「もっとも近くにあればよい(第1位)」と答えた施設の割合を、平成24年からは「整備・充実すべき(第1位)」と答えた施設の割合をまとめたものである。

性・年代別にみると、「公園・児童遊園・広場」は女性30歳代（56.4%）で5割台半ばを超えと高くなっている。また、「スポーツ施設」は男性30歳代（50.9%）で約5割台と高くなっている。

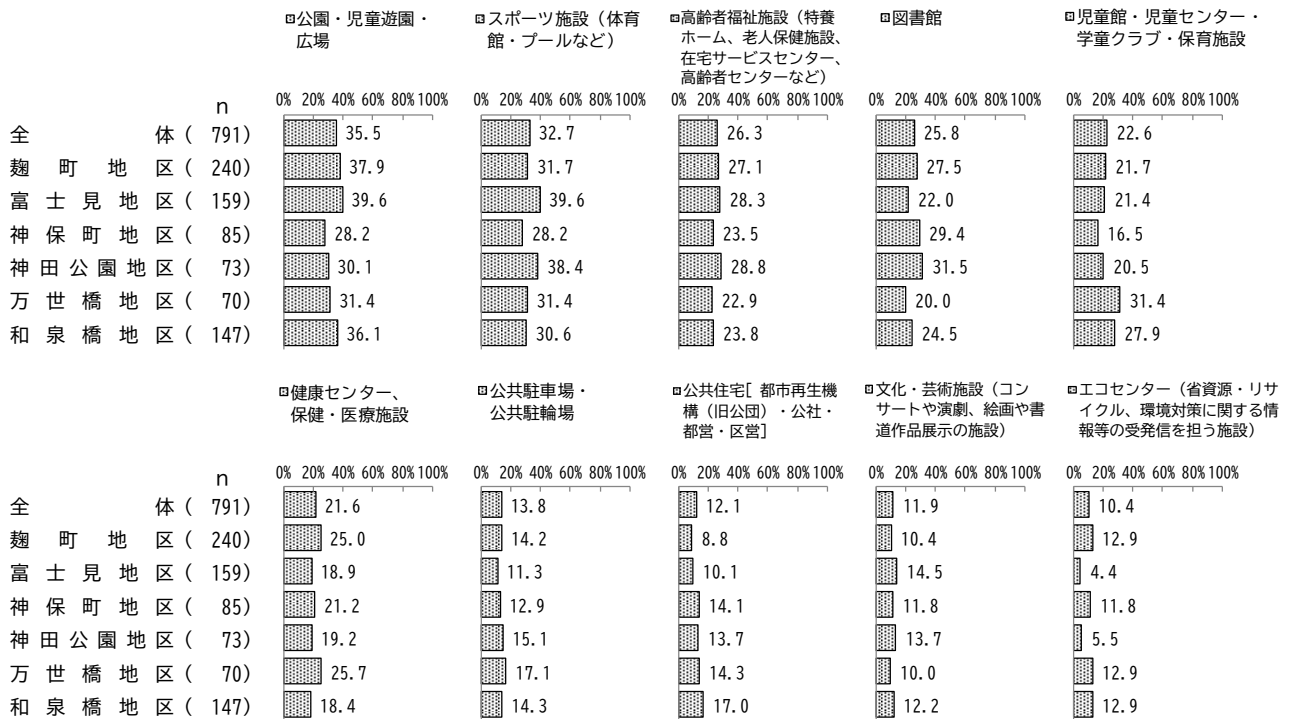
(図5-1-3)

図5-1-3 整備・充実すべき施設（性・年代別）－上位10施設－



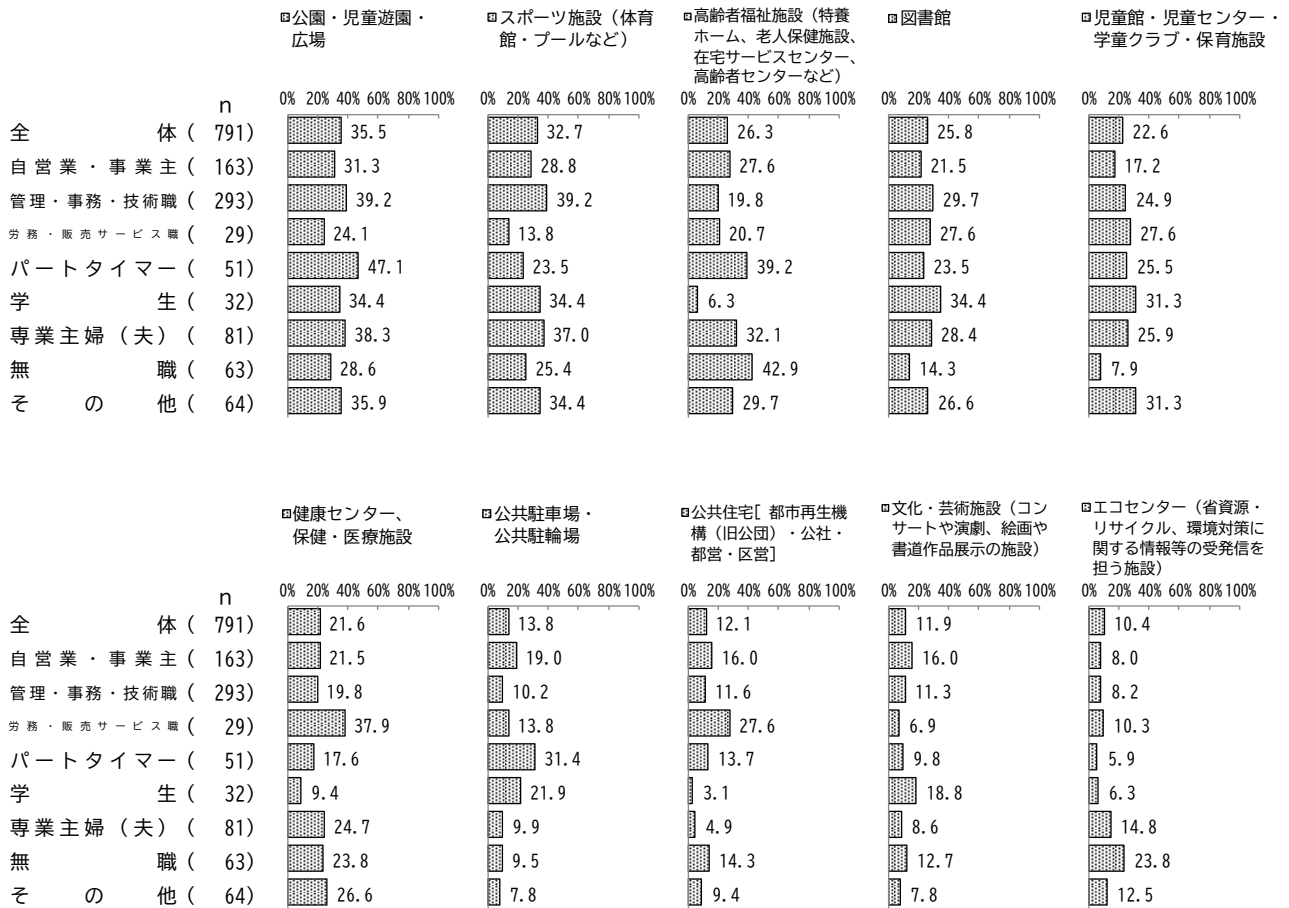
地区別にみると、「スポーツ施設」は富士見地区（39.6％）が4割弱と高くなっている。また、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」は万世橋地区（31.4％）で3割強と高くなっている。（図5-1-4）

図5-1-4 整備・充実すべき施設（地区別）－上位10施設－



職業別にみると、「公園・児童遊園・広場」はパートタイマー（47.1%）が4割台半ばを超え高くなっている。また、「スポーツ施設」は管理・事務・技術職（39.2%）が4割弱、「高齢者福祉施設」は無職（42.9%）で4割強と高くなっている。（図5-1-5）

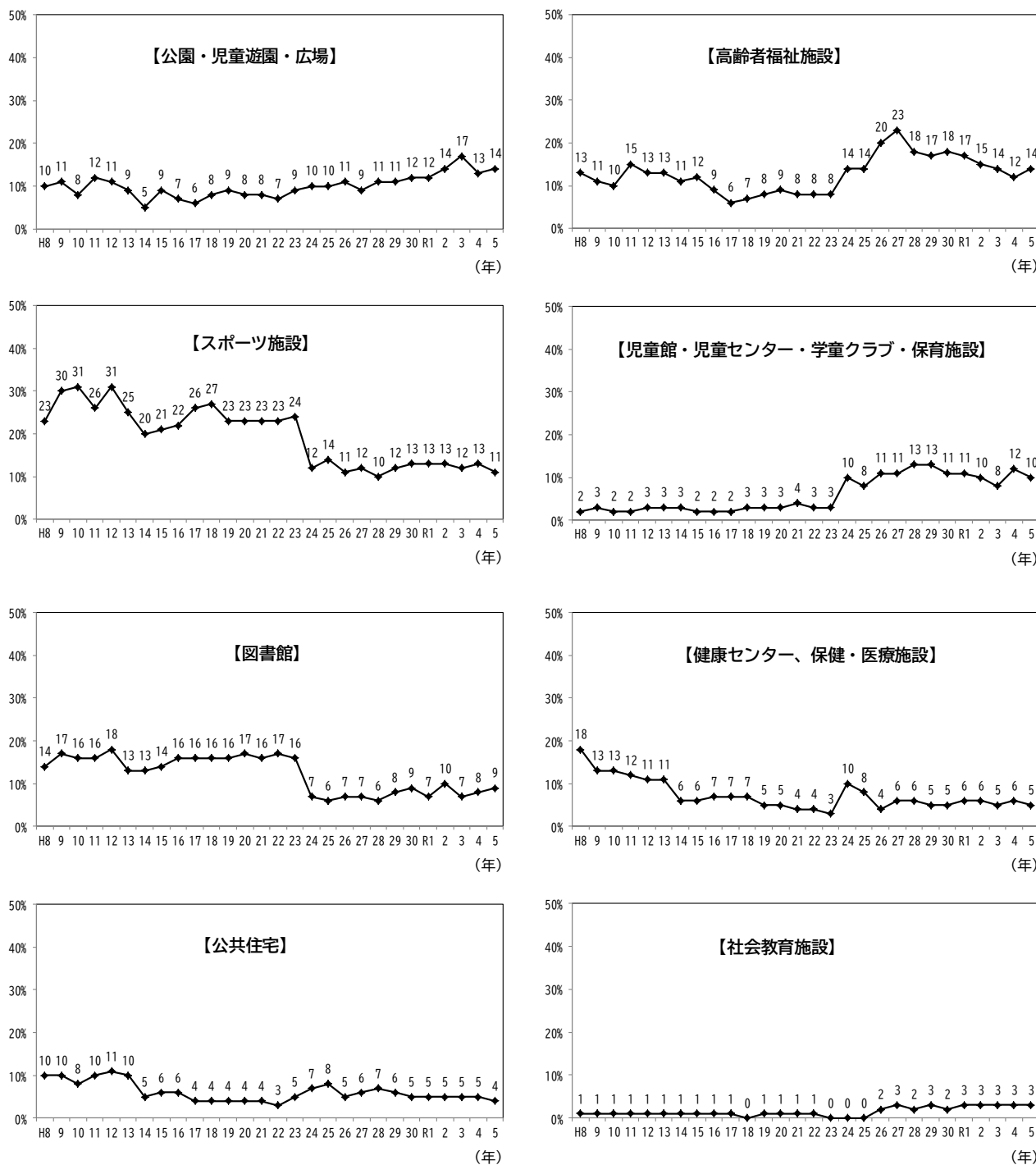
図5-1-5 整備・充実すべき施設（職業別）－上位10施設－

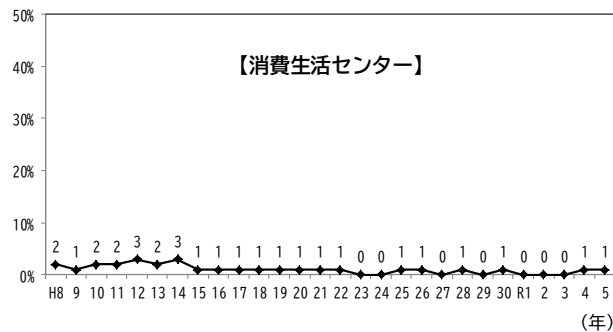
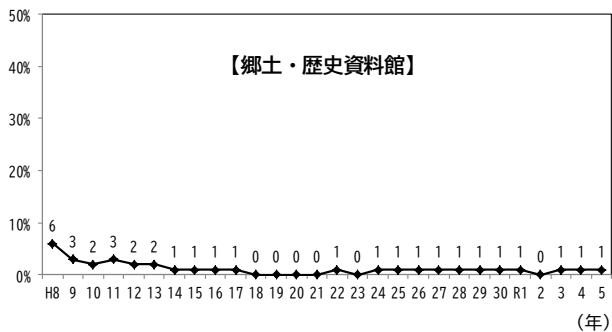
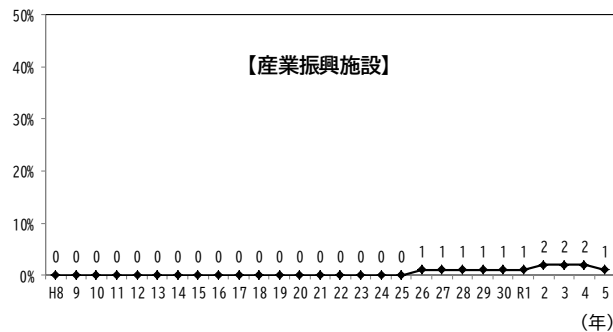
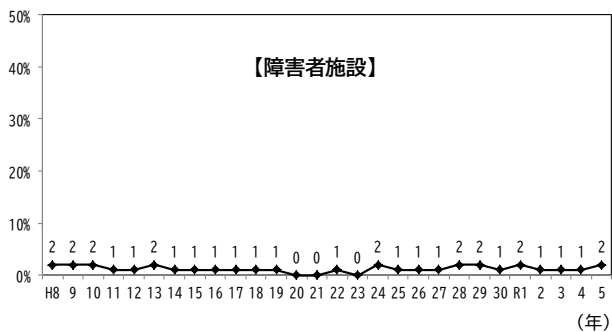
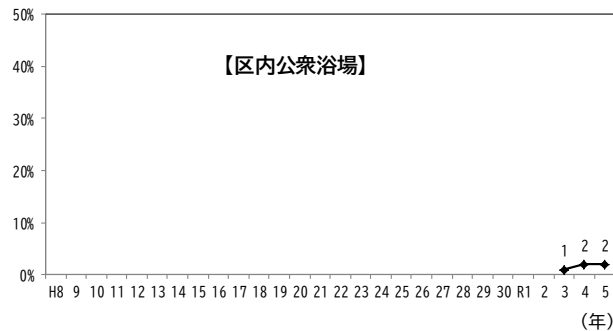
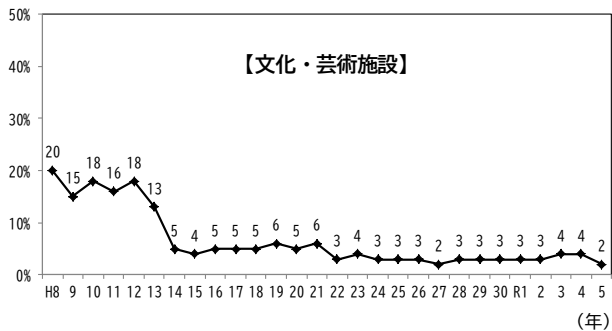
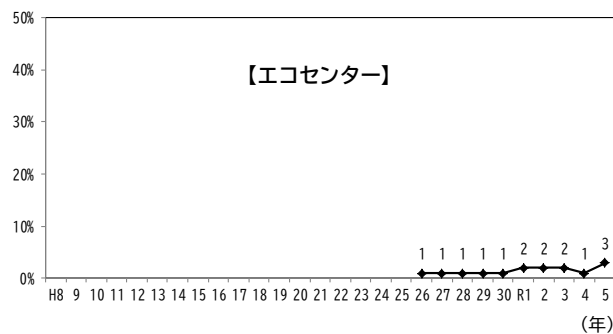
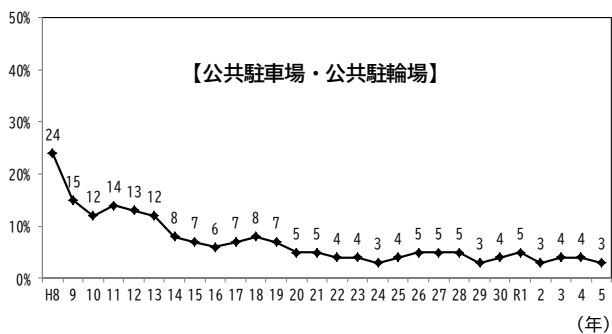


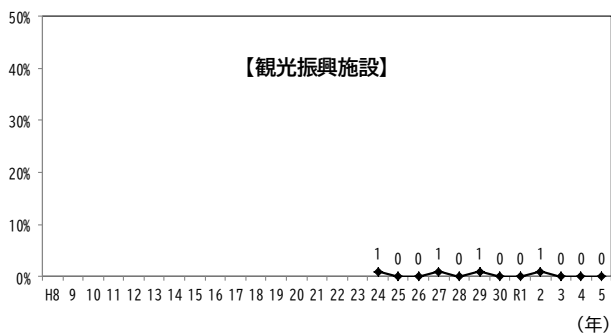
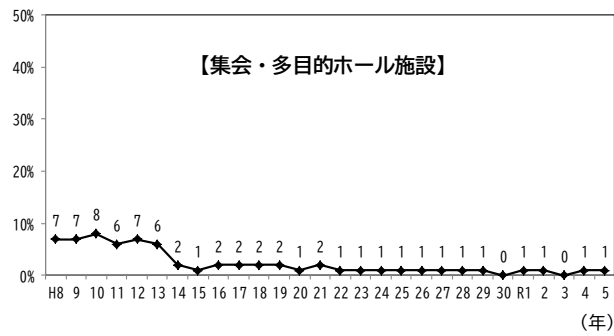
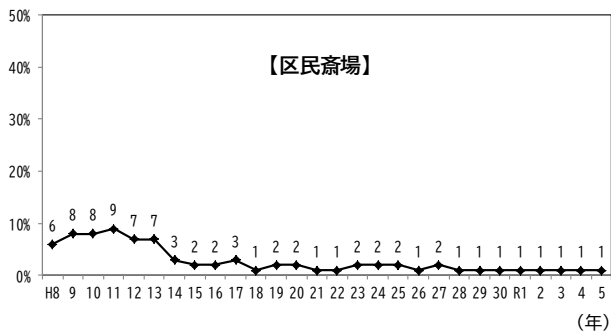
施設別に経年比較をみると、「図書館」は令和3年以降増加傾向がみられる。

(図5-1-6)

図5-1-6 整備・充実すべき施設（第1位）－施設別経年比較－







注) 比率は四捨五入している。「0」は[0.4%以下]であることを示す。選択肢の文言は年度により異なる場合がある。

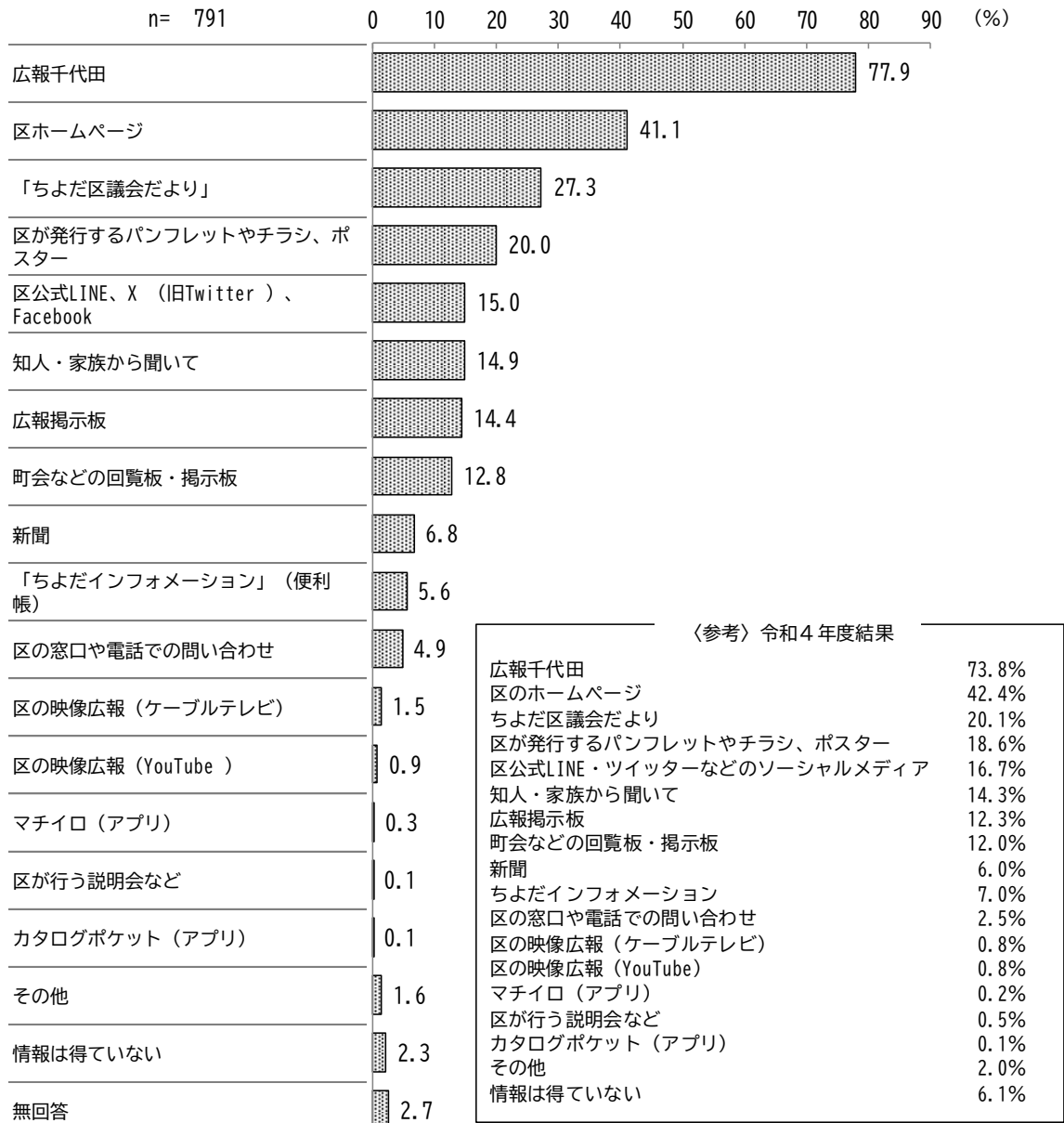
6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

◇広報千代田が7割台半ば超え

問8 あなたは区に関する情報をどこから得ていますか。次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図6-1-1 区政情報の取得媒体



区政情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田」(77.9%)が7割台半ばを超え最も高く、次いで「区のホームページ」(41.1%)の順となっている。

令和4年度と比較すると、17項目中「広報千代田」、「ちよだ区議会だより」、「区が発行するパンフレットやチラシ・ポスター」、「知人・家族から聞いて」、「町会などの回覧板・掲示板」、「新聞」、「区の窓口や電話での問い合わせ」、「区の映像広報(ケーブルテレビ)」、「区の映像広報(YouTube)」、「マチイロ(アプリ)」の10項目で増加傾向が見られた。一方、「情報は得ていない」は令和4年度より3.8ポイント減少しており、区に関する情報を得ている人が増えていることがわかる。

(図6-1-1)

図6-1-2 広報千代田・区ホームページ・区公式SNSからの情報取得状況の分布図

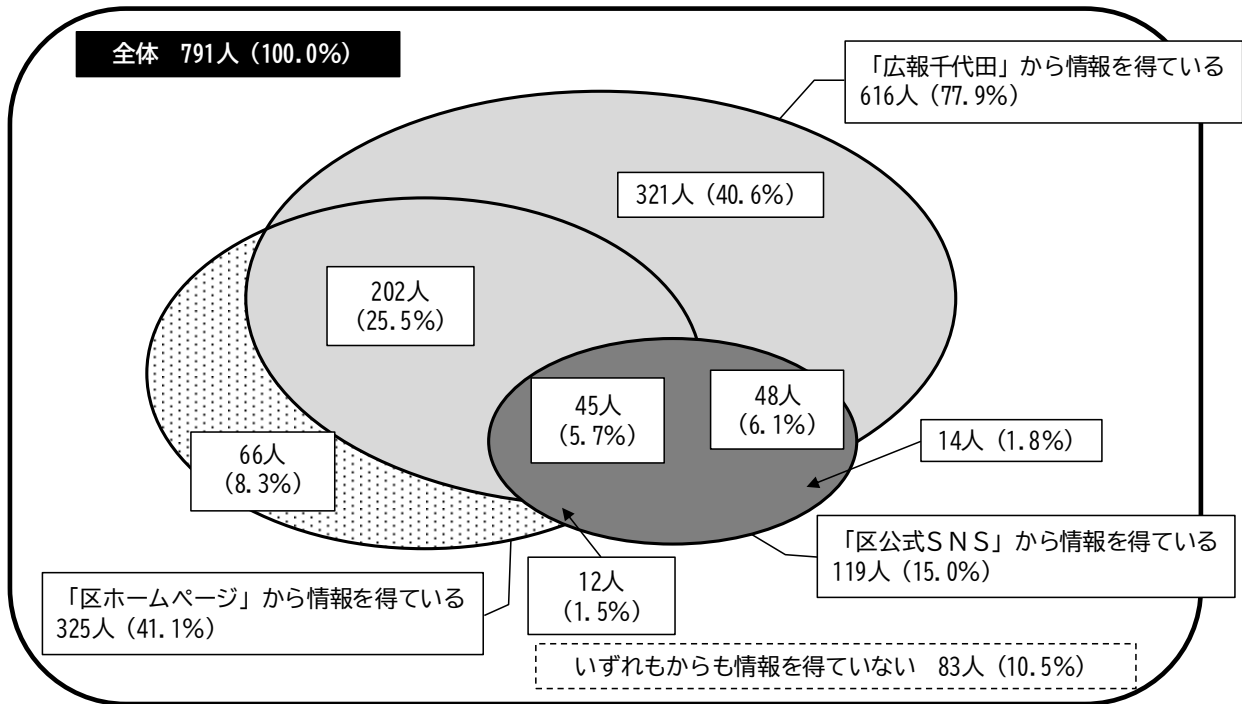


図6-1-3 広報千代田・区ホームページ・区公式 SNS からの情報取得状況の分布表

広報千代田	区ホームページ	区公式 SNS	人数	割合
情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	45人	5.7%
情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	202人	25.5%
情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	48人	6.1%
情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ていない	321人	40.6%
情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ている	12人	1.5%
情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ていない	66人	8.3%
情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ている	14人	1.8%
情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ていない	83人	10.5%
合 計			791人	100.0%

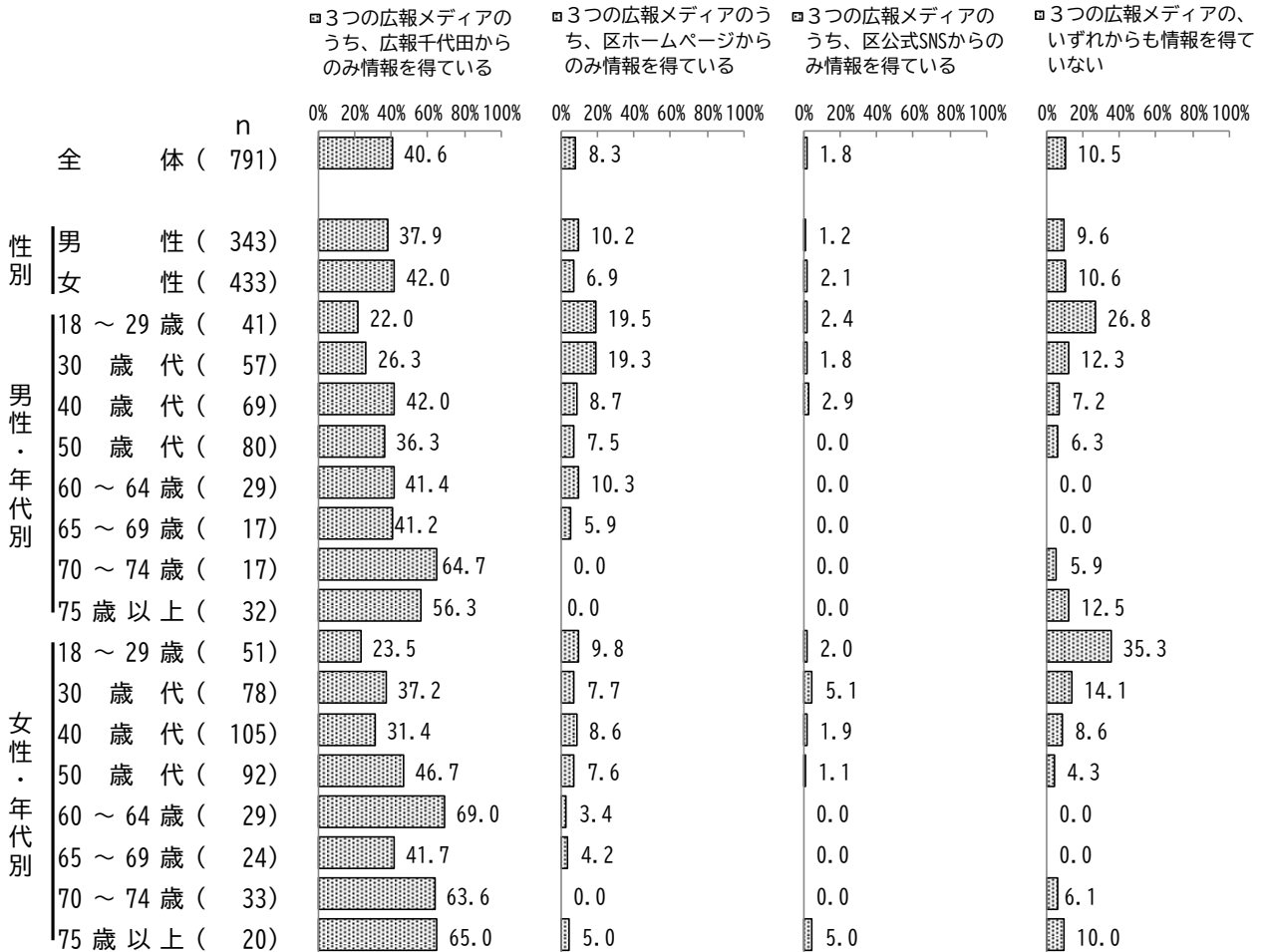
問8で各項目について選択した方を「情報を得ている」に、選択していない方を「情報を得ていない」に分類した。

広報千代田、区ホームページ、区公式 SNS の3つの広報メディアからの情報取得の有無によって分類し、ベン図（図6-1-2）と表（図6-1-3）に示した。

3つの広報メディアすべてから区政情報を取得している方は 5.7%（45人）で、「広報千代田」のみを利用している方は 40.6%（321人）と最も多くなっている。「広報千代田」と「区ホームページ」の2つを利用している方は 25.5%（202人）となっている。一方、3つの広報メディアいずれからも情報を取得していない方は 10.5%（83人）となっている。（図6-1-2、図6-1-3）

性・年代別にみると、「3つの広報メディアのうち、広報千代田からのみ情報を得ている」は女性60～64歳（69.0%）で7割弱と高くなっている。また、「3つの広報メディアのうち、区のホームページからのみ情報を得ている」は男性18～29歳（19.5%）、男性30歳代（19.3%）で2割弱と高くなっている。一方、「3つの広報メディアの、いずれからも情報を得ていない」は女性18～29歳（35.3%）で3割台半ばと高くなっている。（図6-1-4）

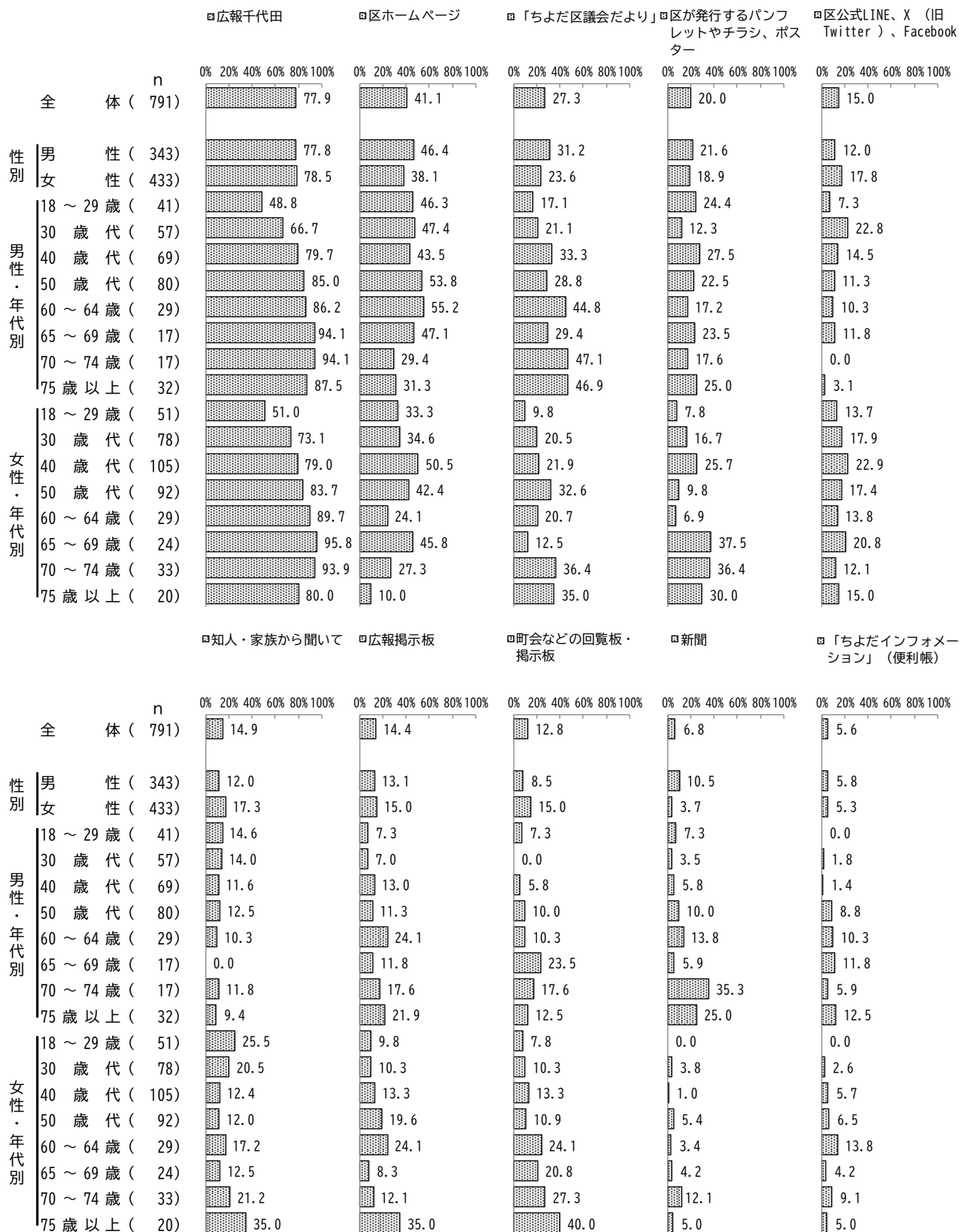
図6-1-4 広報千代田・区ホームページ・区公式SNSからの情報取得状況（性・年代別）



性・年代別にみると、「広報千代田」は女性 65～69 歳（95.8%）で 9 割台半ばと高くなっている。また、「区のホームページ」は男性 60～64 歳（55.2%）で 5 割台半ばと高く、「ちよだ区議会だより」は男性 70～74 歳（47.1%）、男性 75 歳以上（46.9%）で 4 割台半ばを超えと高くなっている。

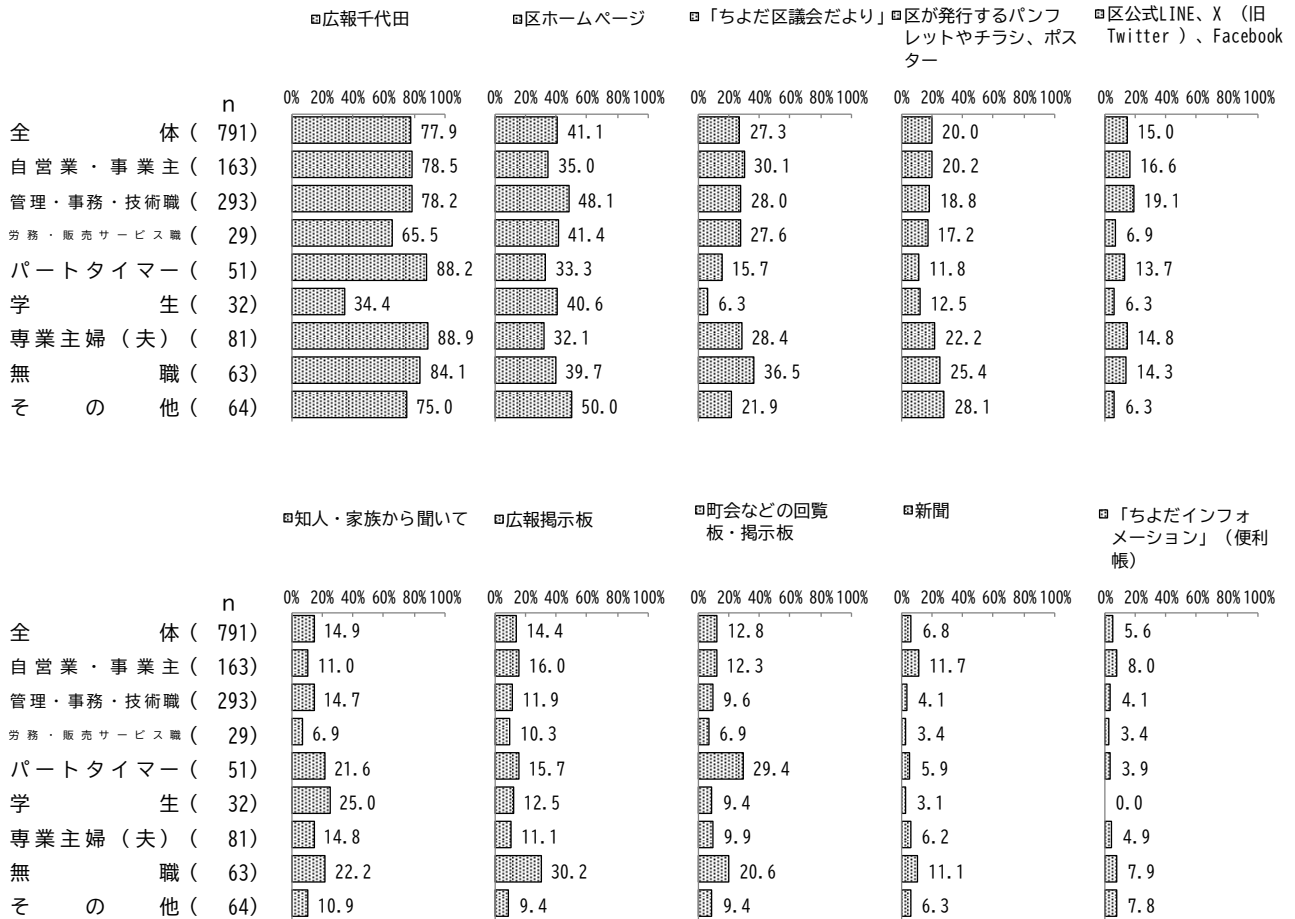
（図 6-1-5）

図 6-1-5 区政情報の取得媒体（性・年代別）—上位 10 回答—



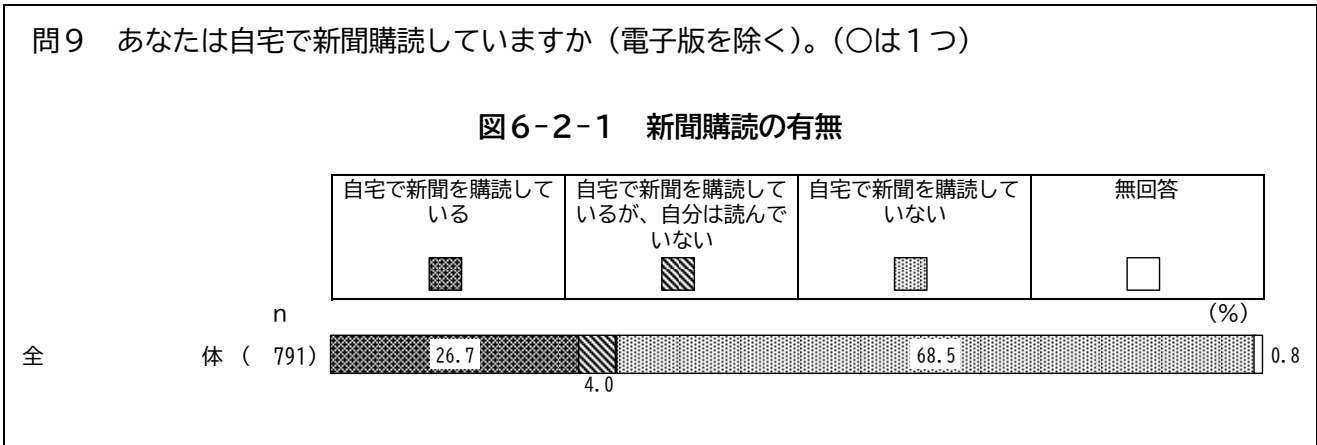
職業別にみると、「広報千代田」は専業主婦（夫）（88.9%）、パートタイマー（88.2%）で9割近くと高くなっている。また、「ちよだ区議会だより」は無職（36.5%）で3割台半ばを超えと高く、「知人・家族から聞いて」は学生（25.0%）で2割台半ばと高くなっている。（図6-1-6）

図6-1-6 区政情報の取得媒体（職業別）—上位10回答—



(2) 新聞購読の有無

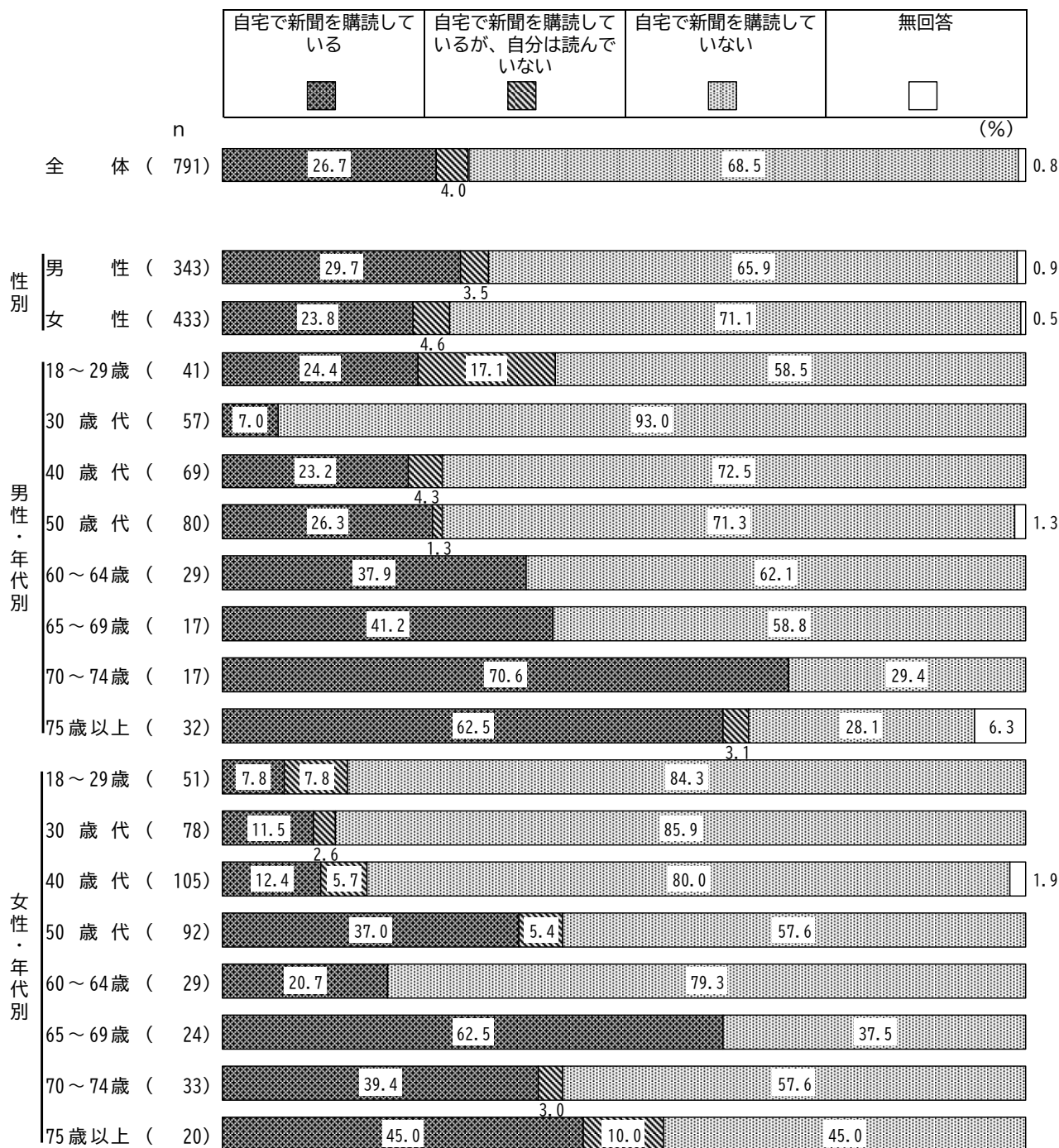
◇「自宅で新聞を購読していない」が7割近く



新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」が68.5%で最も高くなっている。一方、「自宅で新聞を購読している」(26.7%)は2割台半ばを超えている。(図6-2-1)

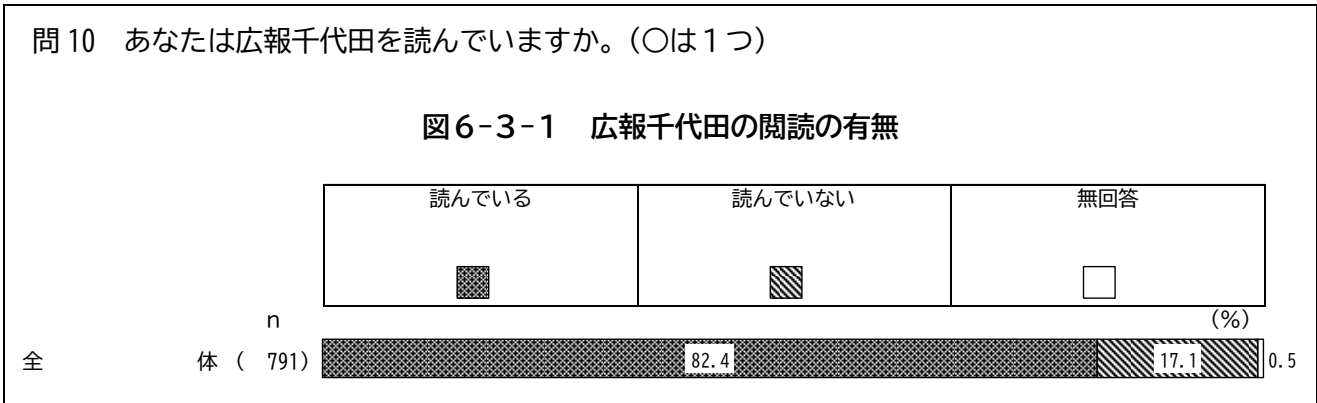
性・年代別にみると、「自宅で新聞を購読していない」は男性30歳代（93.0%）で9割台半ば近くと高くなっている。一方、「自宅で新聞を購読している」は男性70～74歳（70.6%）で約7割と高くなっている。（図6-2-2）

図6-2-2 新聞購読の有無（性・年代別）



(3) 広報千代田の閲読の有無

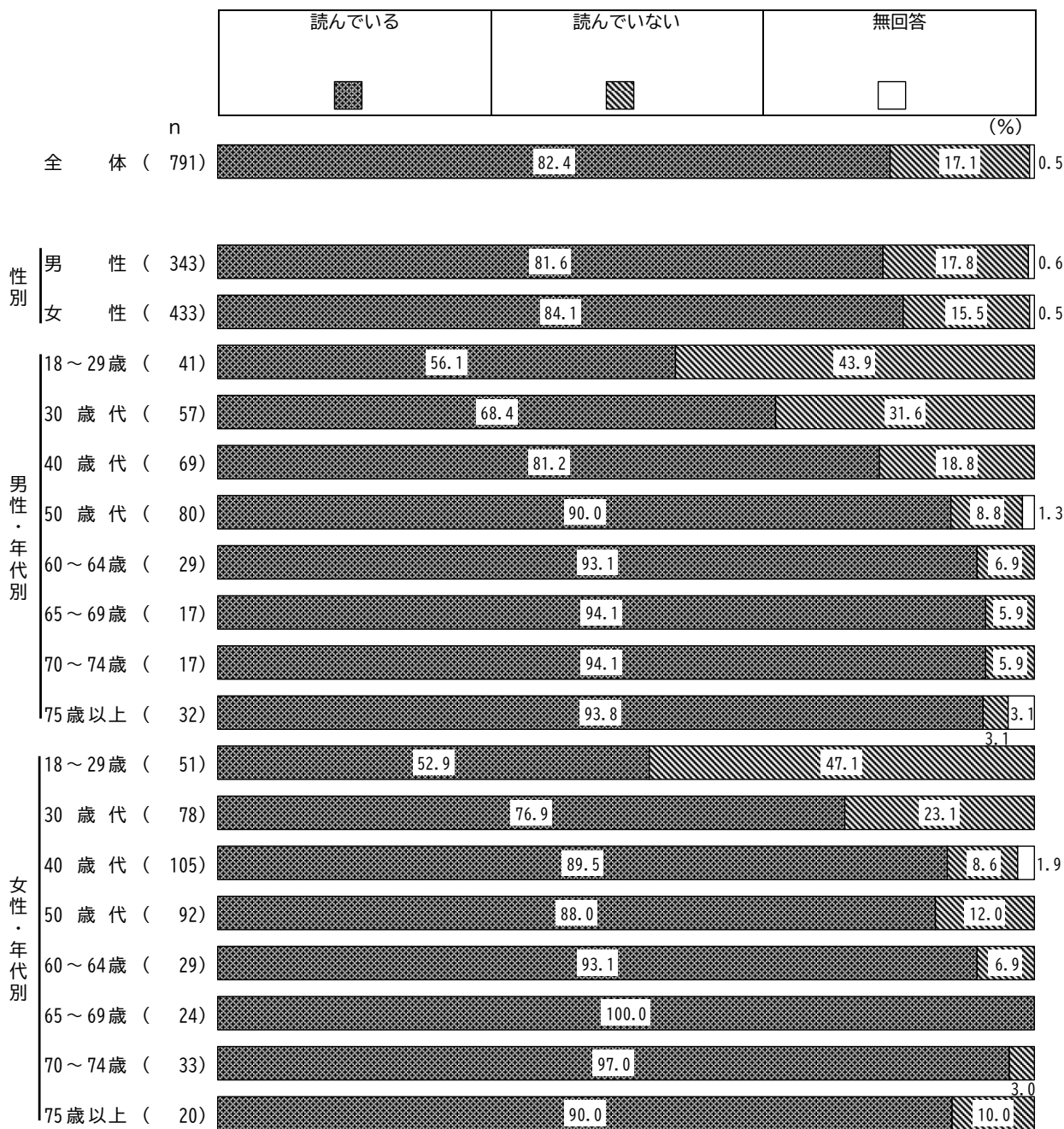
◇「読んでいる」が8割強



広報千代田の閲読の有無について聞いたところ、「読んでいる」(82.4%)が8割強、「読んでいない」(17.1%)は1割台半ばを超えている。(図6-3-1)

性・年代別にみると、「読んでいる」は女性 65～69 歳（100.0%）で 10 割と高くなっている。一方、「読んでいない」は女性 18～29 歳（47.1%）、男性 18～29 歳（43.9%）で 4 割台と高くなっている。また、令和 4 年度と比較すると、男性 18～29 歳で「読んでいる」が大きく伸びている。（図 6-3-2）

図 6-3-2 広報千代田の閲読の有無（性・年代別）



〈参考〉令和 4 年度結果（「読んでいる」と回答した人の割合）

男性 18～29 歳	30.6%	女性 18～29 歳	50.0%
男性 30 歳代	70.6%	女性 30 歳代	74.0%
男性 40 歳代	69.9%	女性 40 歳代	84.3%
男性 50 歳代	85.3%	女性 50 歳代	86.0%
男性 60～64 歳	88.0%	女性 60～64 歳	76.5%
男性 65～69 歳	81.8%	女性 65～69 歳	96.9%
男性 70～74 歳	82.4%	女性 70～74 歳	92.3%
男性 75 歳以上	92.3%	女性 75 歳以上	79.3%

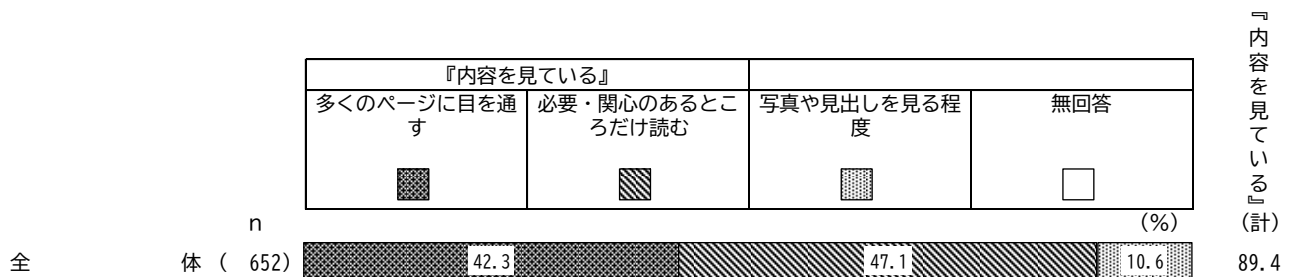
(3-1) 広報千代田の閲読状況

◇『内容を見ている』が9割弱

(問10で「1. 読んでいる」とお答えの方に)

問10-1 あなたは広報千代田をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

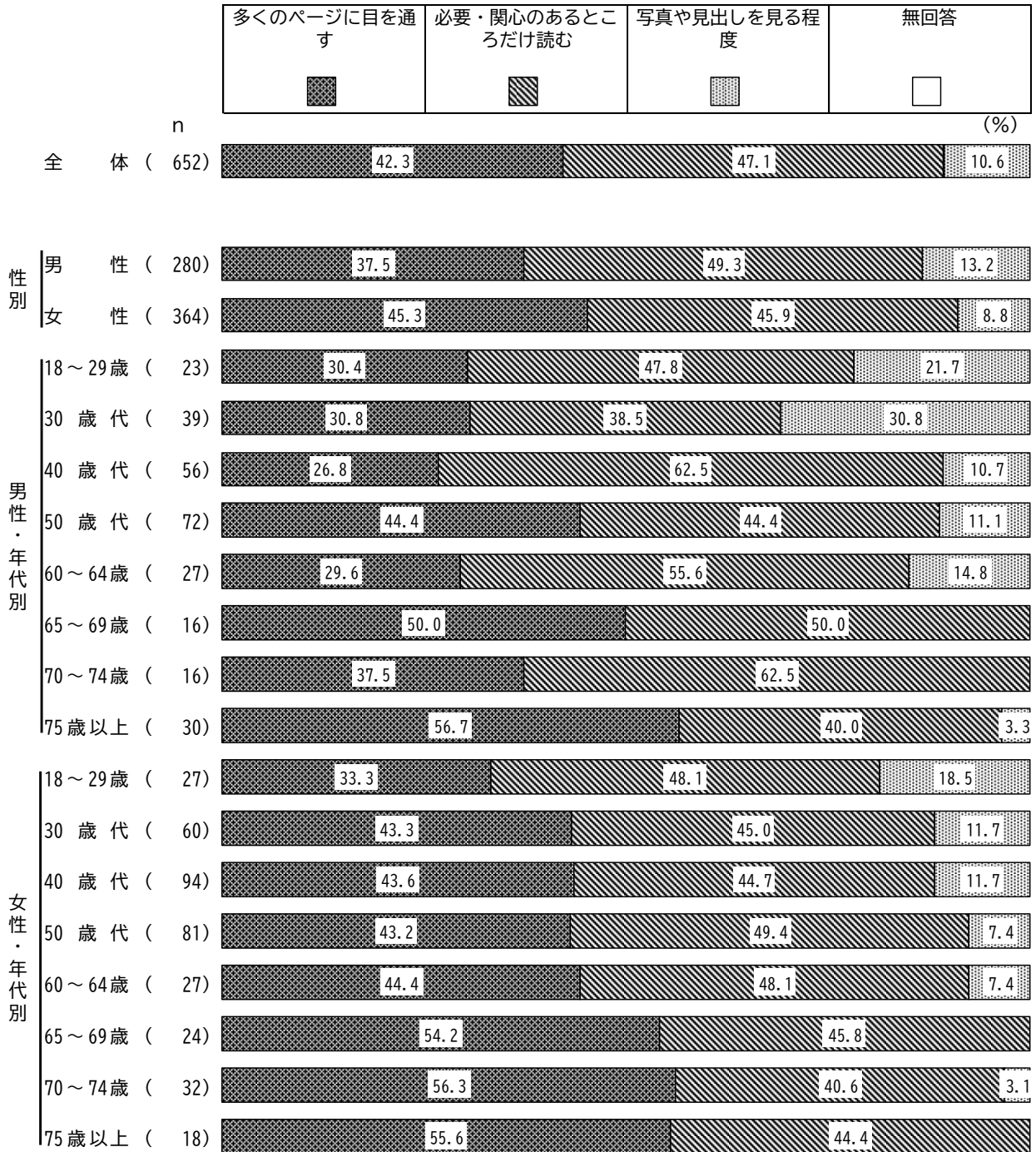
図6-3-3 広報千代田の閲読状況



広報千代田をどの程度読むか聞いたところ、「多くのページに目を通す」(42.3%)と「必要・関心のあるところだけ読む」(47.1%)を合わせた『内容を見ている』(89.4%)が9割弱となっている。一方、「写真や見出しを見る程度」(10.6%)は約1割となっている。(図6-3-3)

性・年代別にみると、「多くのページに目を通す」は男性75歳以上(56.7%)、女性70~74歳(56.3%)が5割台半ばを超え高くなっている。「必要・関心のあるところだけ読む」は男性40歳代(62.5%)、男性70~74歳(62.5%)で6割強と高くなっている。(図6-3-4)

図6-3-4 広報千代田の閲読状況(性・年代別)



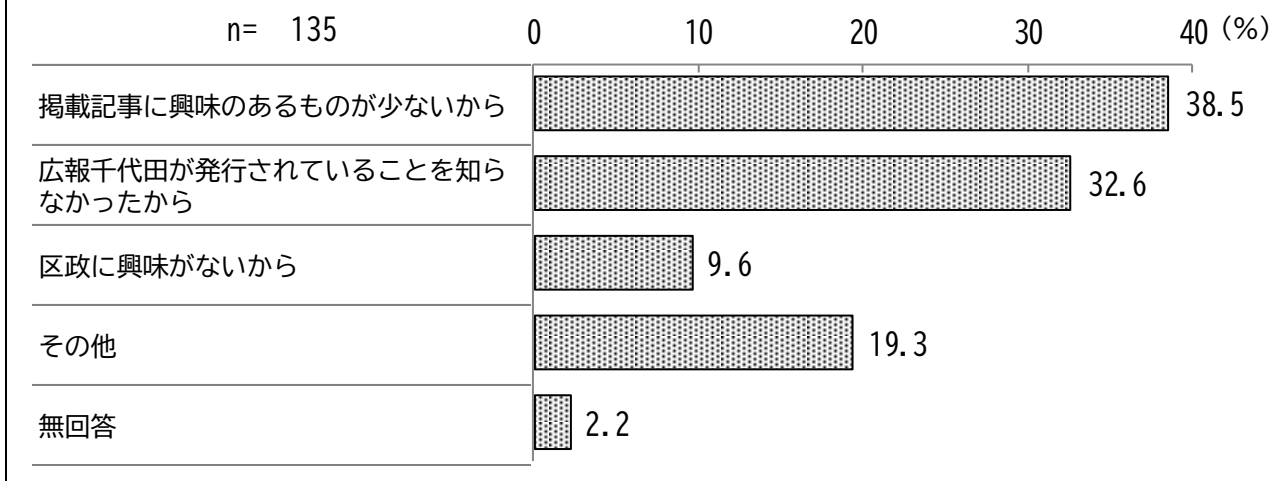
(3-2) 広報千代田を読まない理由

◇「掲載記事に興味のあるものが少ないから」が4割近く

(問10で「2. 読んでいない」とお答えの方に)

問10-2 読んでいない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図6-3-5 広報千代田を読まない理由

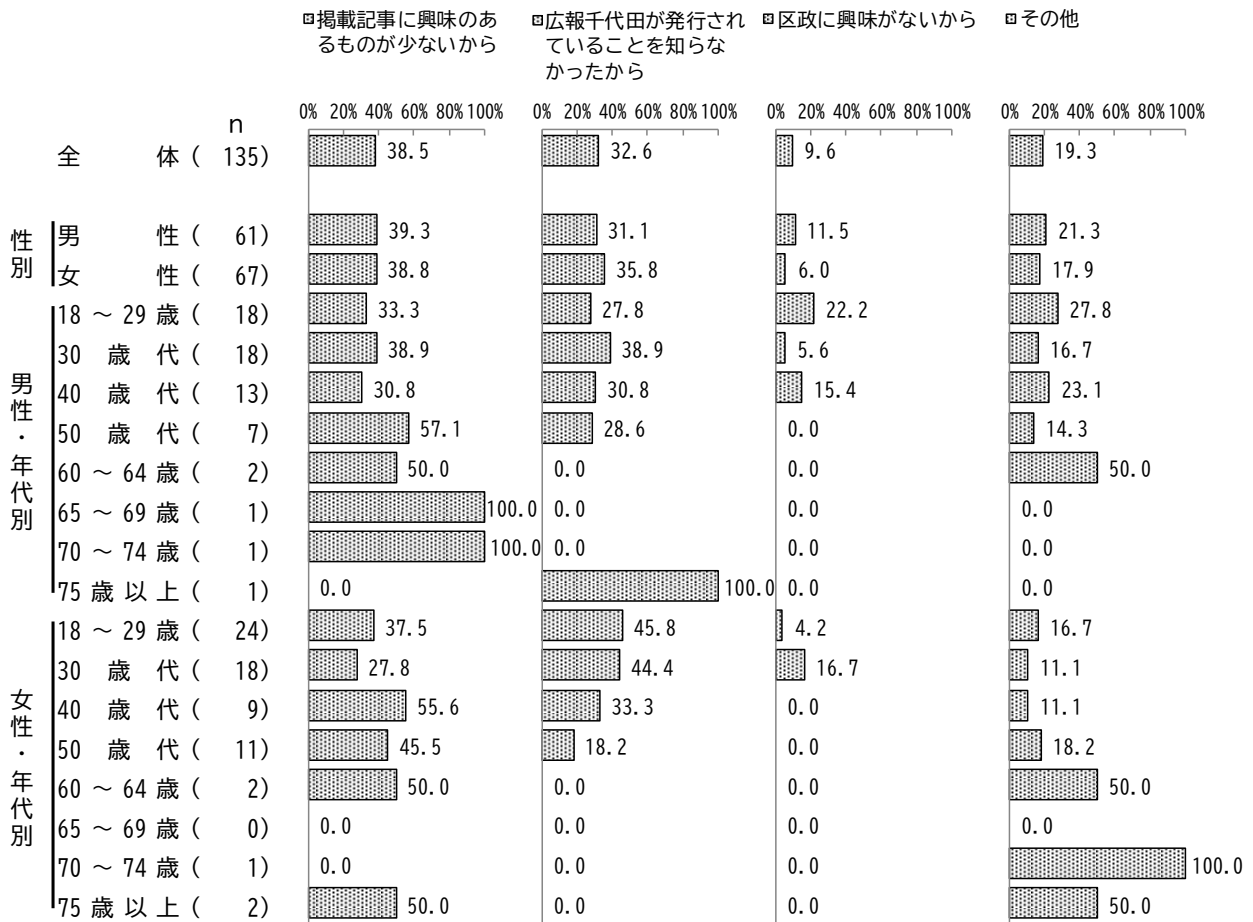


広報千代田を読まない理由を聞いたところ、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(38.5%)が4割近くで最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(32.6%)、「区政に興味がないから」(9.6%)と続いている。(図6-3-5)

その他を回答した方は26人おり、主な意見として「ホームページを見ているから」、「時間がない」、「必要な情報は必要なときに自分で調べるから」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」は男女とも60歳～74歳は0%となっている。(図6-3-6)

図6-3-6 広報千代田を読まない理由(性・年代別)



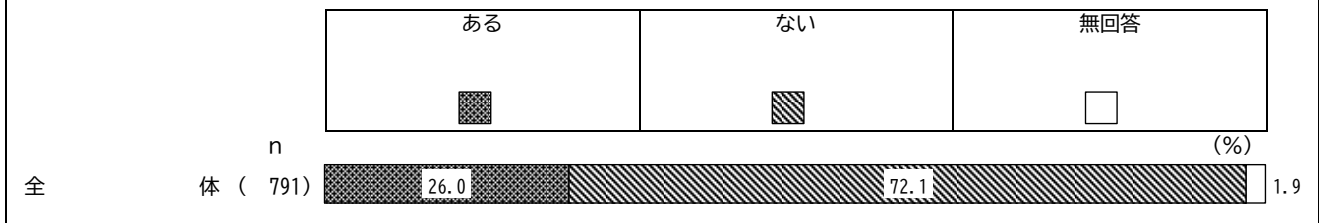
7. 区政情報の把握

(1) 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無

◇「ない」が7割強

問11 区では東京ケーブルネットワークで番組を放送しています。あなたは現在自宅で東京ケーブルネットワークの番組を見られる環境にありますか。(○は1つ)

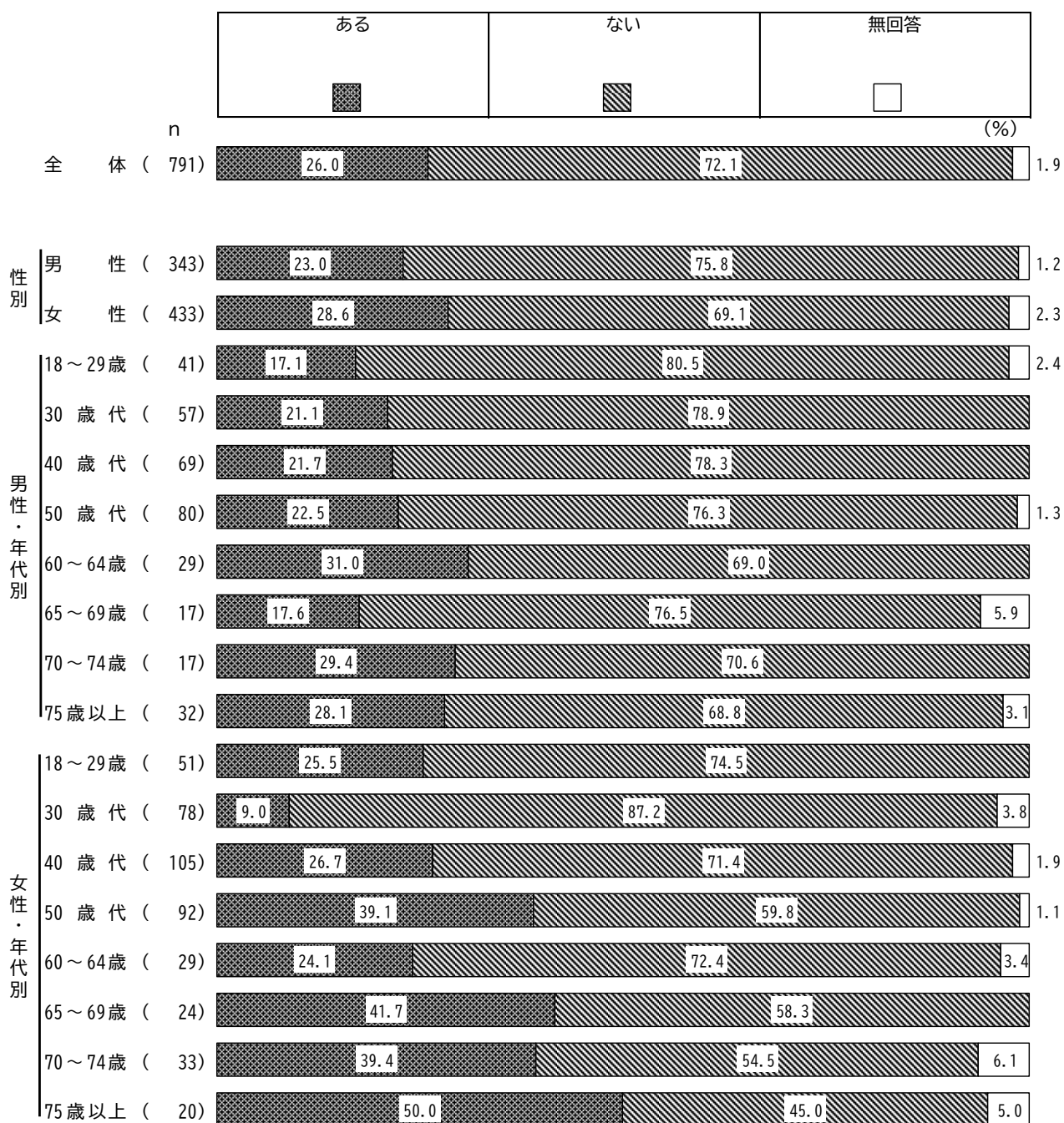
図7-1-1 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無



東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無について聞いたところ、「ない」(72.1%)が7割強と高くなっている。一方、「ある」(26.0%)は2割台半ばを超えとなっている。(図7-1-1)

性・年代別にみると、「ない」は女性 30 歳代(87.2%)で8割台半ばを超え高くなっている。一方、「ある」は女性 75 歳以上(50.0%)で5割と高くなっている。(図7-1-2)

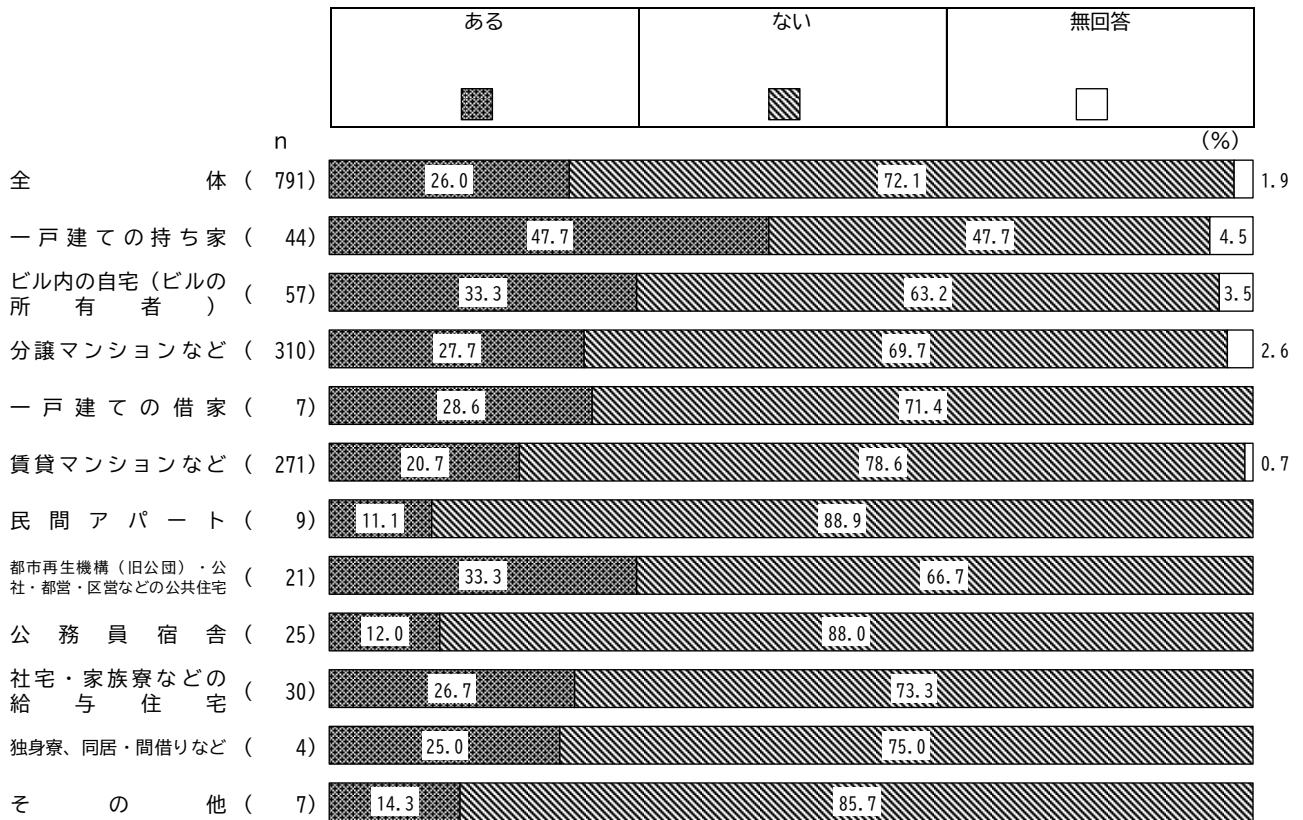
図7-1-2 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無(性・年代別)



住居形態別にみると、「ない」は公務員宿舎（88.0%）で9割近くと高くなっている。一方、「ある」は一戸建ての持ち家（47.7%）で4割台半ばを超え高くなっている。

(図7-1-3)

図7-1-3 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無（住居形態別）

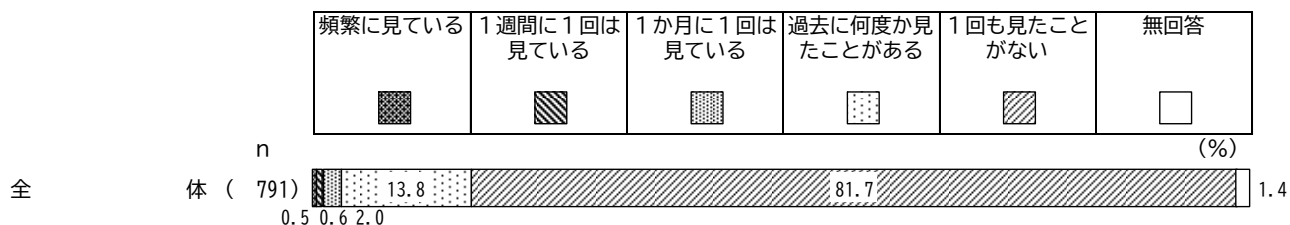


(2) 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験

◇「一度も見たことがない」が8割強

問12 あなたはこれまで、自宅で区が制作した東京ケーブルネットワークの番組を見たことがありますか。(〇は1つ)

図7-2-1 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験

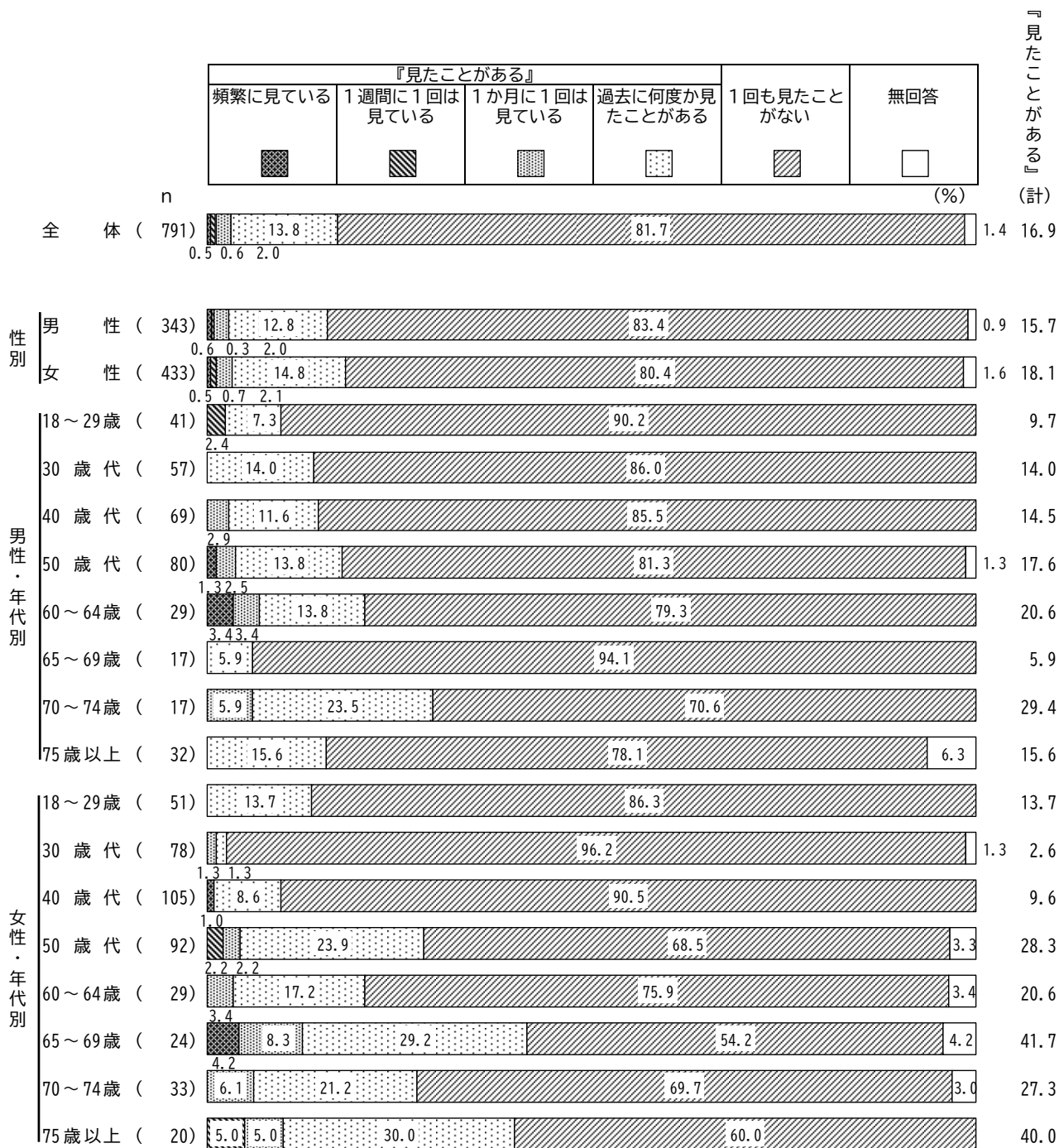


区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験について聞いたところ、「1回も見たことがない」(81.7%)が8割強で最も高くなっている。一方、「頻繁にみている」(0.5%)、「1週間に1回は見ている」(0.6%)、「1か月に1回は見ている」(2.0%)となり、日常的に見ている方はわずか3.1%にとどまっている。(図7-2-1)

性・年代別にみると、「1回も見たことがない」は男性65～69歳（94.1%）で9割台半ば近くと高くなっている。一方、『見たことがある』は女性65～69歳（41.7%）で4割強と高くなっている。

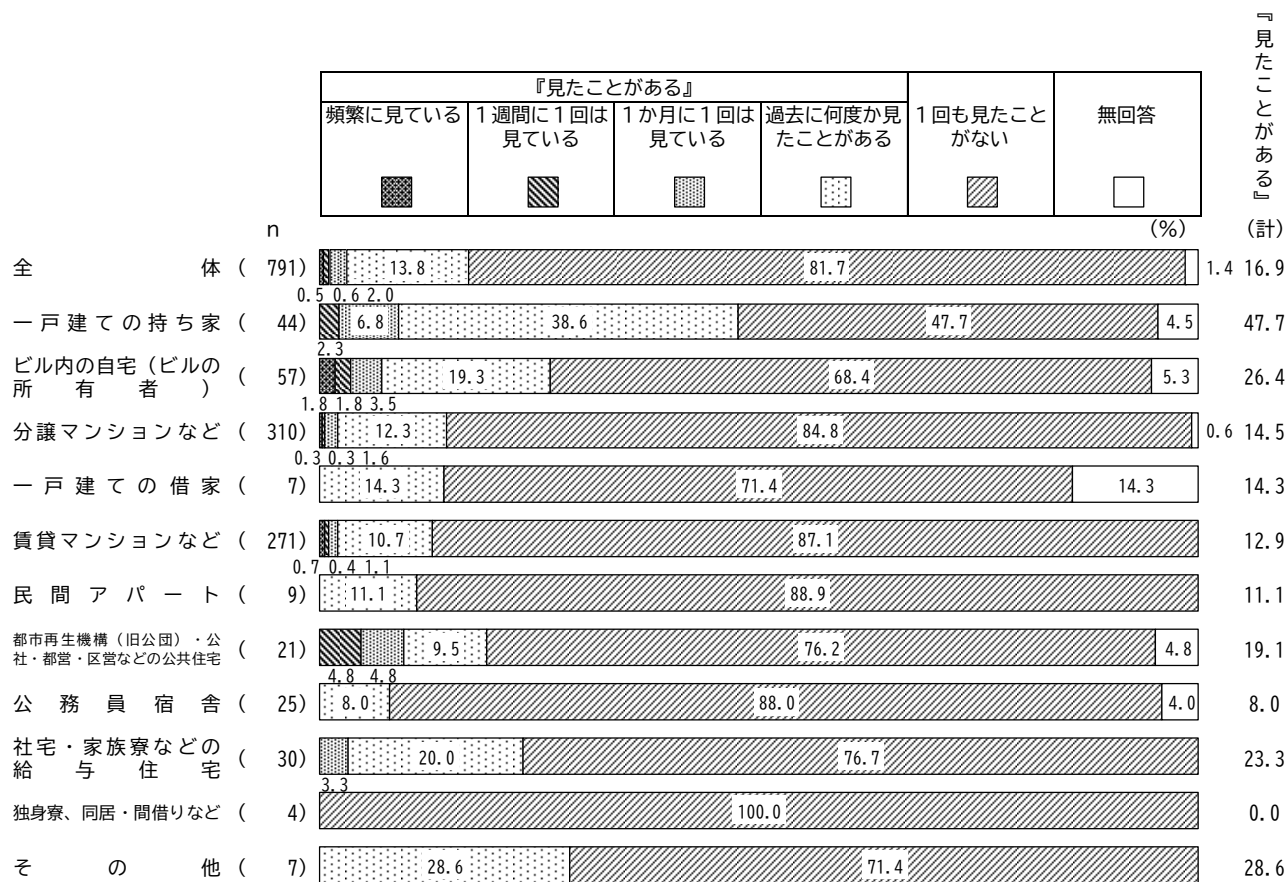
（図7-2-2）

図7-2-2 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験（性・年代別）



住居形態別にみると、「1回も見たことがない」は公務員宿舎（88.0%）で9割近くと高くなっている。一方、『見たことがある』は一戸建ての持ち家（47.7%）で4割台半ば超えと高くなっている。（図7-2-3）

図7-2-3 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験（住居形態別）

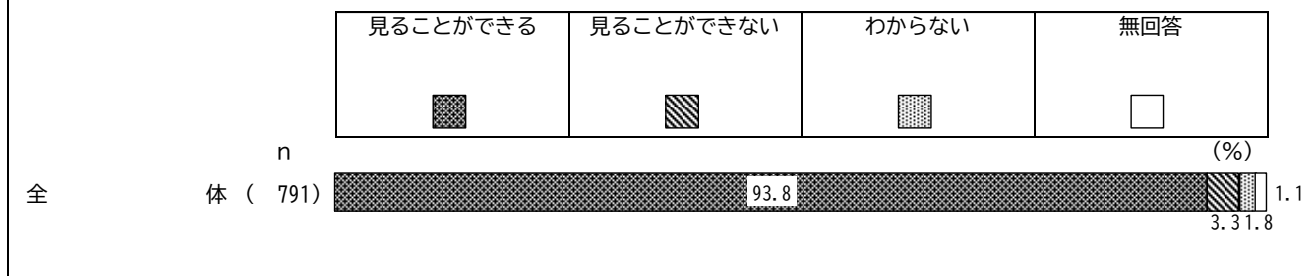


(3) YouTubeの視聴環境の有無

◇「見ることができる」が9割台半ば近く

問13 あなたは現在お持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等でYouTubeを見られる環境にありますか。(○は1つ)

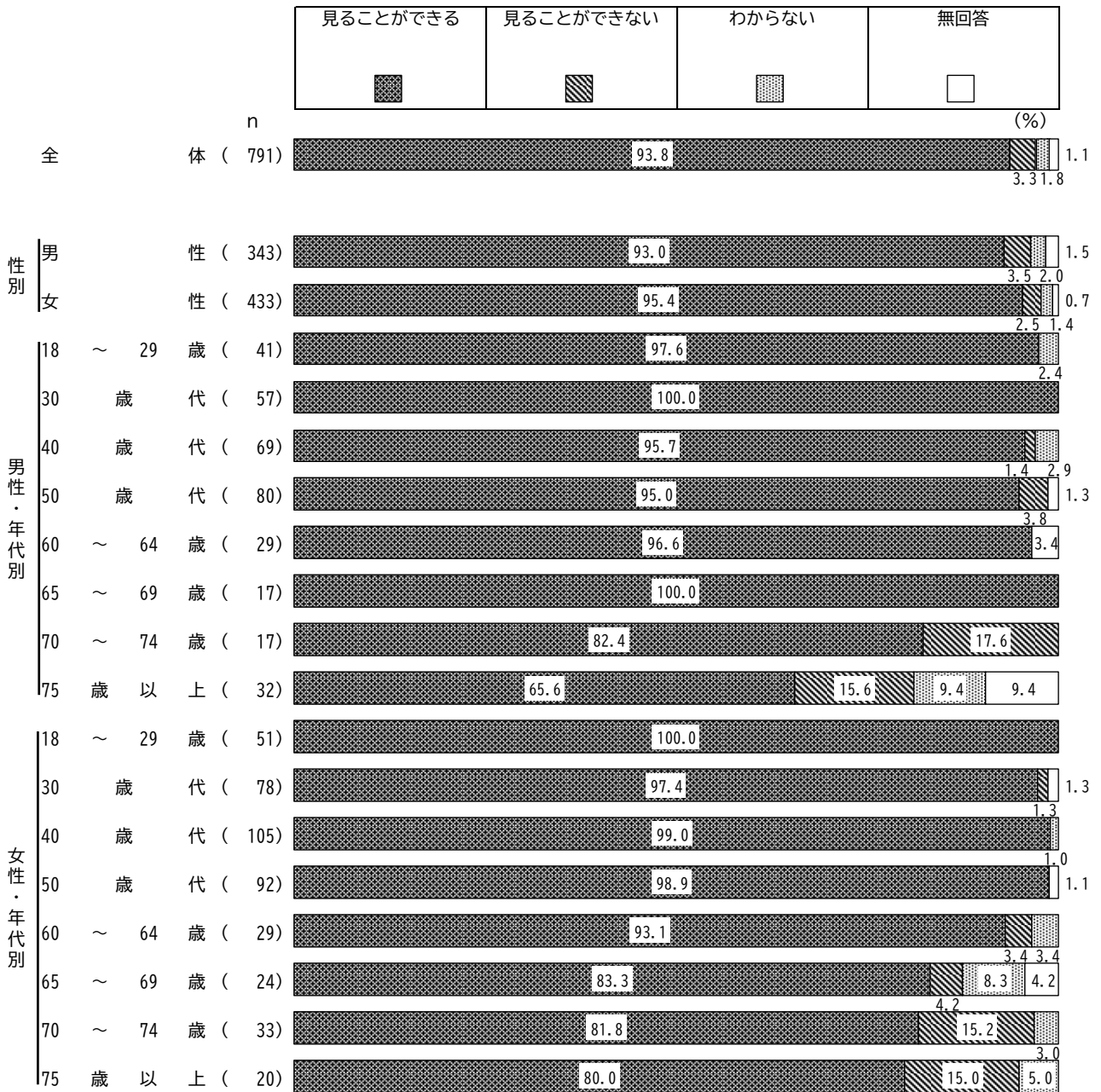
図7-3-1 YouTubeの視聴環境の有無



YouTube の視聴環境の有無について聞いたところ、「見ることができる」(93.8%) が9割台半ば近くと最も高く、「見ることができない」(3.3%) は1割未満となっている。(図7-3-1)

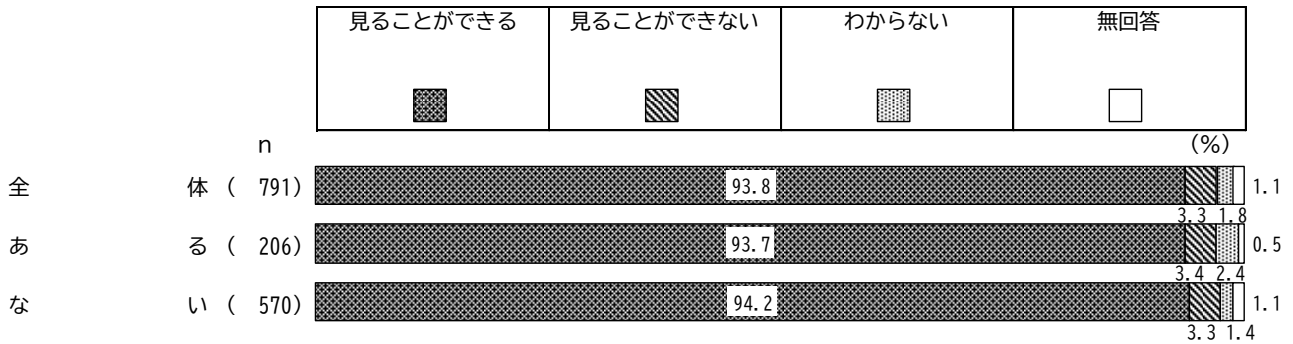
性・年代別にみると、「見ることができる」は男性では60歳以下、女性では64歳以下で9割以上と高くなっている。一方、「見ることができない」は男性70～74歳(17.6%)、男性75歳以上(15.6%)、女性70～74歳(15.2%)、女性75歳以上(15.0%)で1割を超え、高くなっている。(図7-3-2)

図7-3-2 YouTubeの視聴環境の有無(性・年代別)



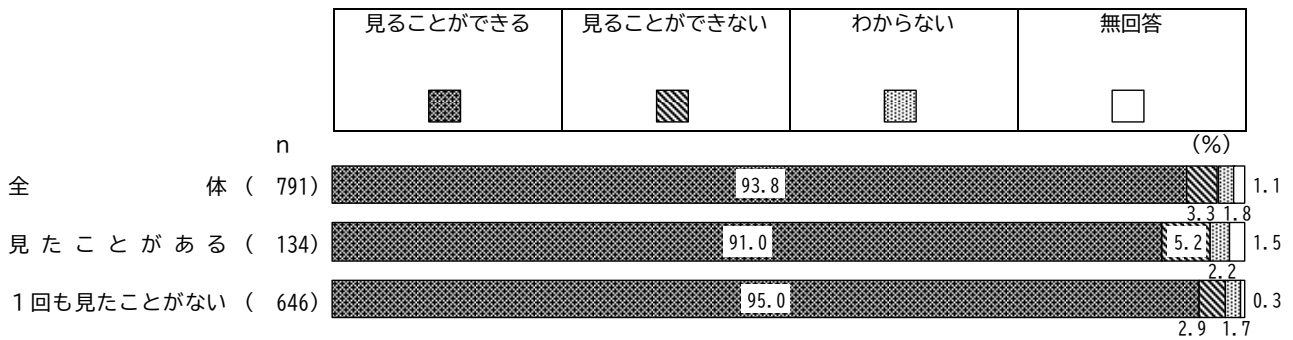
区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別にみると、大きな差はみられない。(図7-3-3)

図7-3-3 YouTubeの視聴環境の有無
(区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別)



東京ケーブルネットワークの視聴経験別にみると、大きな差はみられない。(図7-3-4)

図7-3-4 YouTubeの視聴環境の有無(東京ケーブルネットワークの視聴経験別)

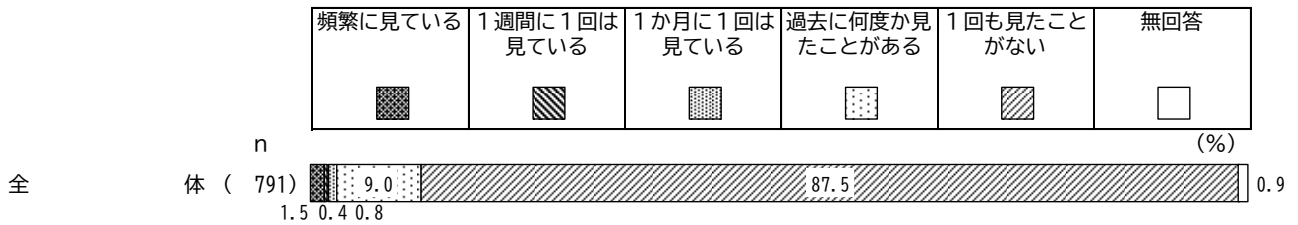


(4) 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

◇「一度も見たことがない」が8割台半ば超え

問 14 あなたはこれまで、区公式 YouTube チャンネルを見たことがありますか。(○は1つ)

図 7-4-1 区公式 YouTube チャンネルの視聴経験

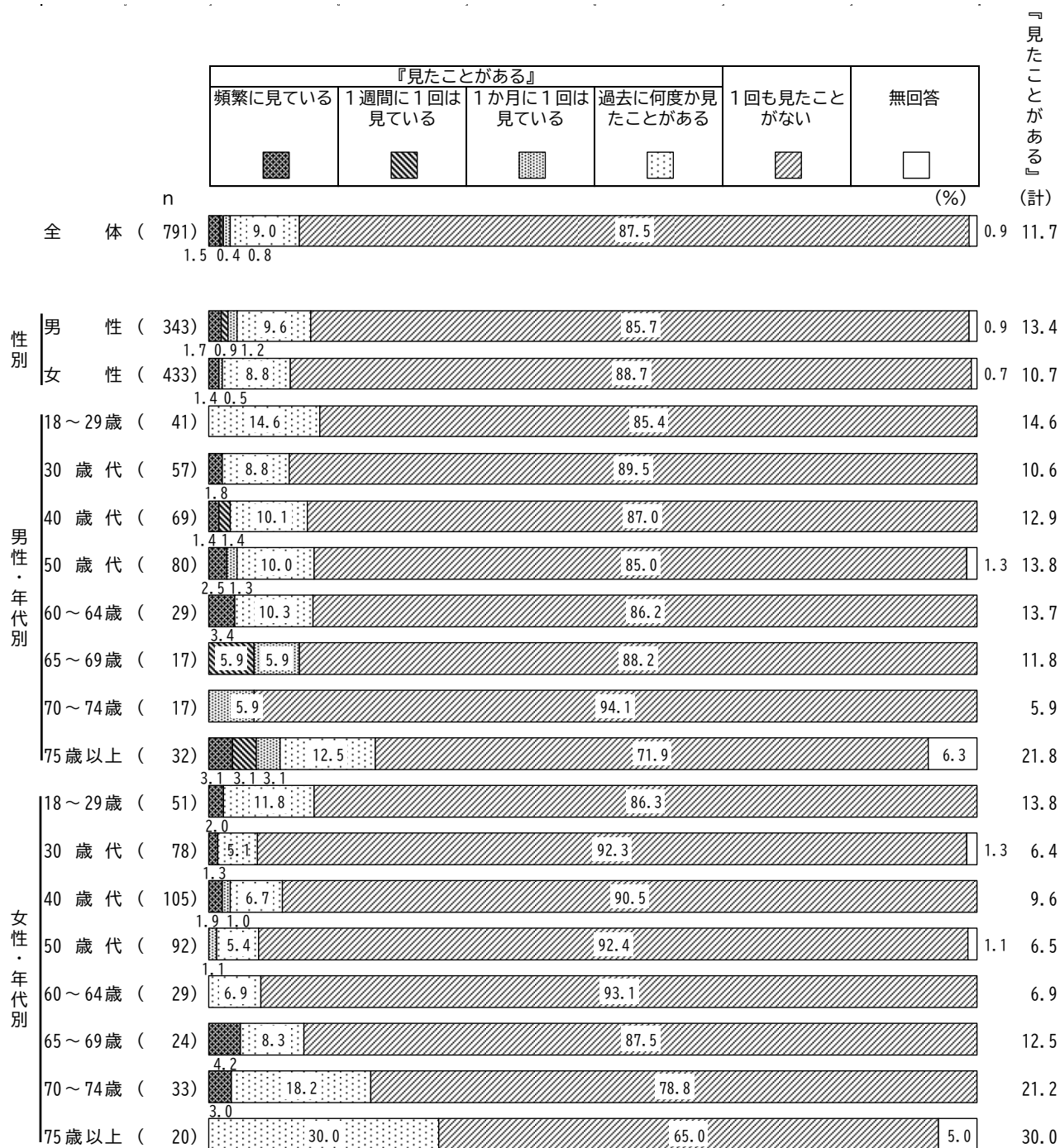


区公式 YouTube チャンネルの視聴経験について聞いたところ、「一度も見たことがない」(87.5%)が8割台半ば超えと最も高くなっている。一方、「頻繁にみている」(1.5%)、「1週間に1回は見ている」(0.4%)、「1か月に1回は見ている」(0.8%)となり、日常的に見ている方はわずか2.7%にとどまっている。(図7-4-1)

性・年代別にみると、『見たことがある』は女性75歳以上（30.0%）で3割と高くなっている。

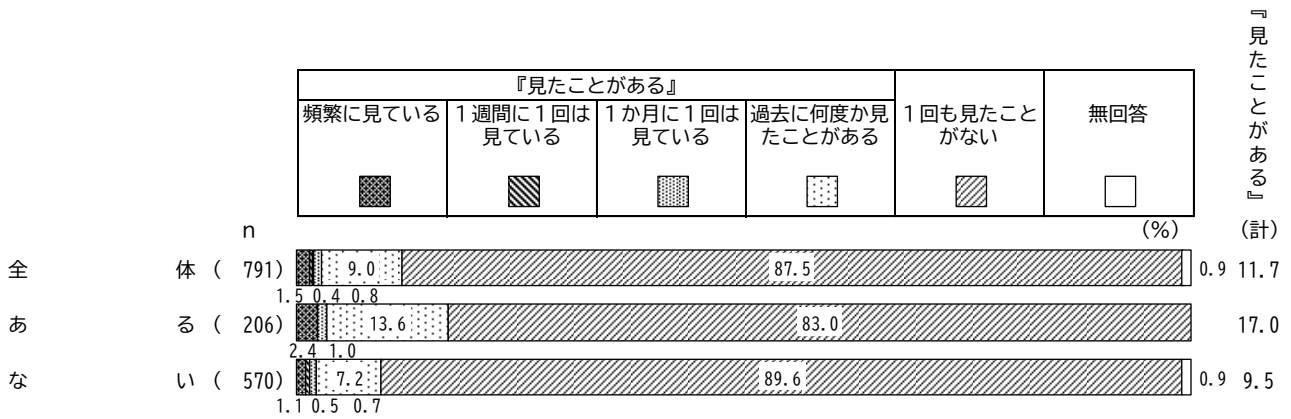
（図7-4-2）

図7-4-2 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験（性・年代別）



区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別にみると、「1回も見たことがない」と答えた方は区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境がないと答えた方の中（89.6%）で9割弱と高くなっている。一方、『見たことがある』と答えた方は区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境がある（17.0%）と答えた方の中で1割台半ばを超え高くなっている。（図7-4-3）

図7-4-3 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験
（区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別）



8. 町会・ボランティア

(1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

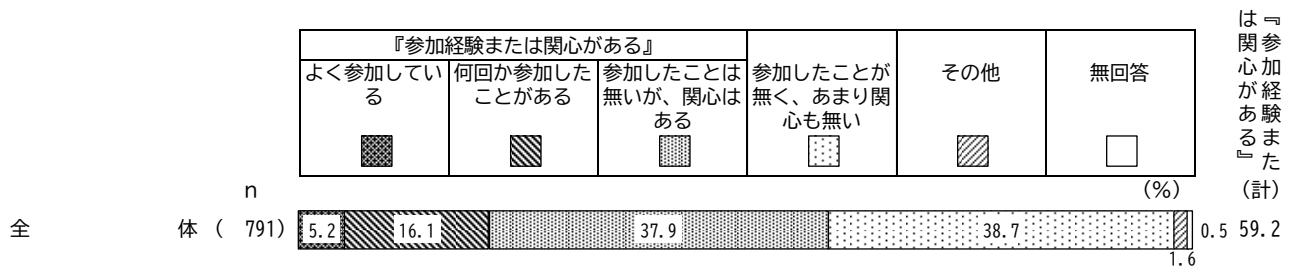
◇『参加経験または関心がある』が6割弱

問15 あなたは地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがありますか。

（○は1つ）

※例えば、地域で行われる防災訓練、防犯パトロール、道路・公園の清掃活動や花壇の手入れ、イベントの企画・運営のほか、各種ボランティア活動への参加

図8-1-1 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況



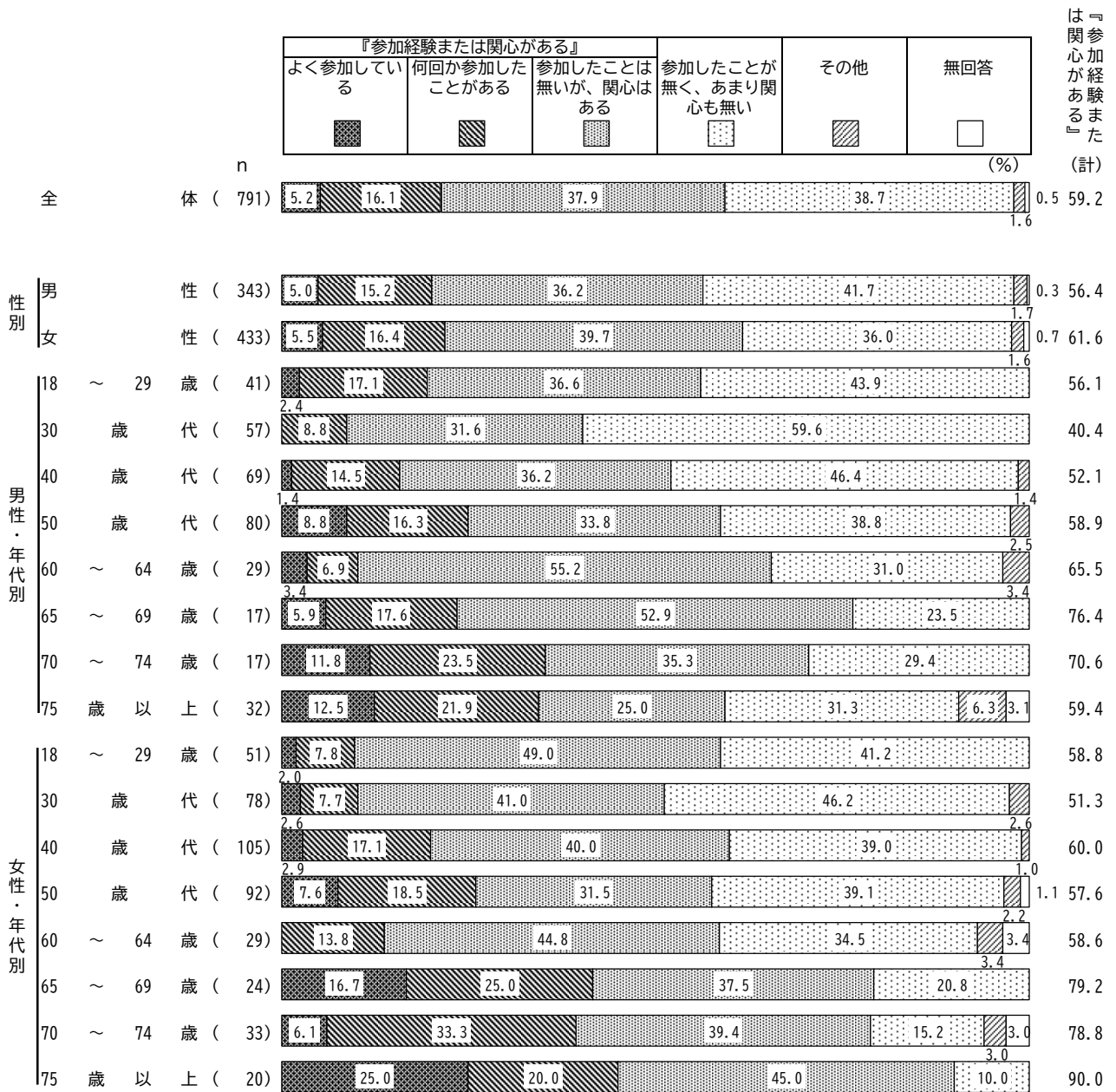
地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがあるか聞いたところ、「よく参加している」（5.2%）、「何回か参加したことがある」（16.1%）、「参加したことは無いが、関心はある」（37.9%）を合わせた『参加経験または関心がある』（59.2%）は6割弱となっている。一方、「参加したことが無く、あまり関心も無い」（38.7%）は3割台半ばを超えているとなっている。

（図8-1-1）

その他を回答した方は13人おり、主な意見として「どうやって参加するのかわからない」、「仕事が忙しい」、「病気で活動できない」などが挙げられている。

性・年代別にみると、『参加経験または関心がある』は女性 75 歳以上（90.0%）で 9 割と高くなっている。（図 8-1-2）

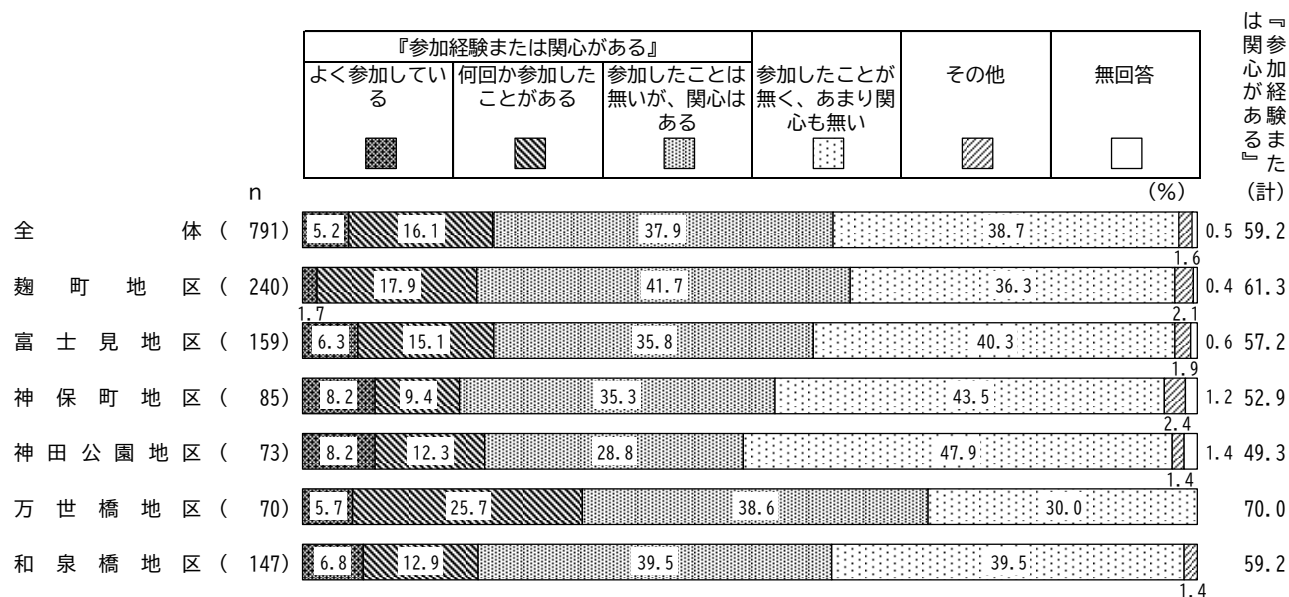
図 8-1-2 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（性・年代別）



地区別にみると、『参加経験または関心がある』は万世橋地区（70.0%）で7割となっている。

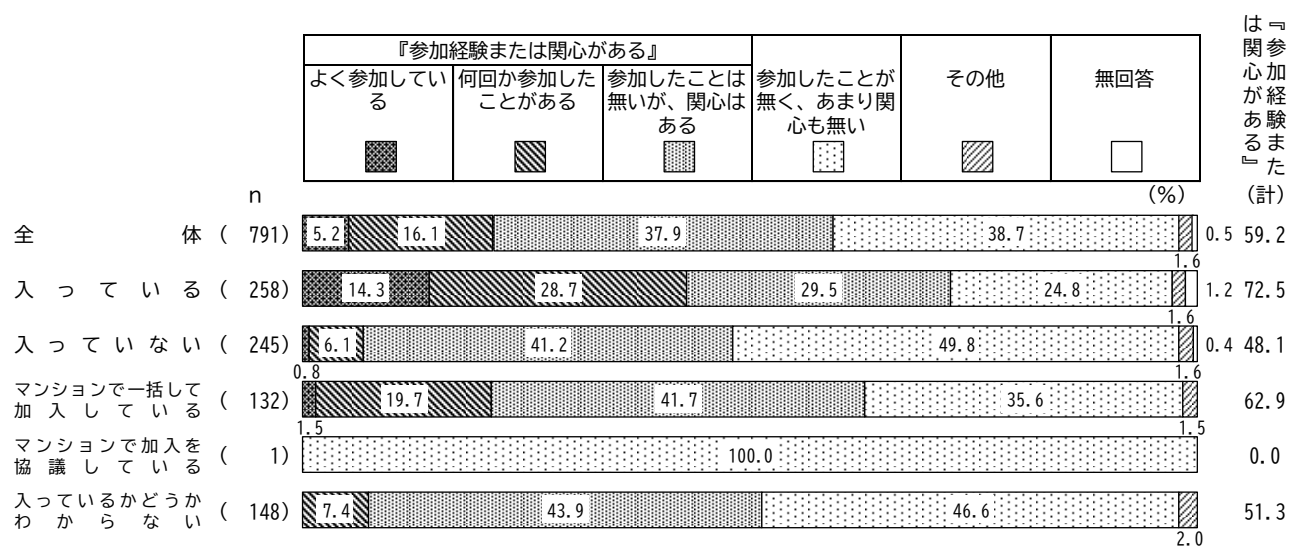
（図8-1-3）

図8-1-3 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（地区別）



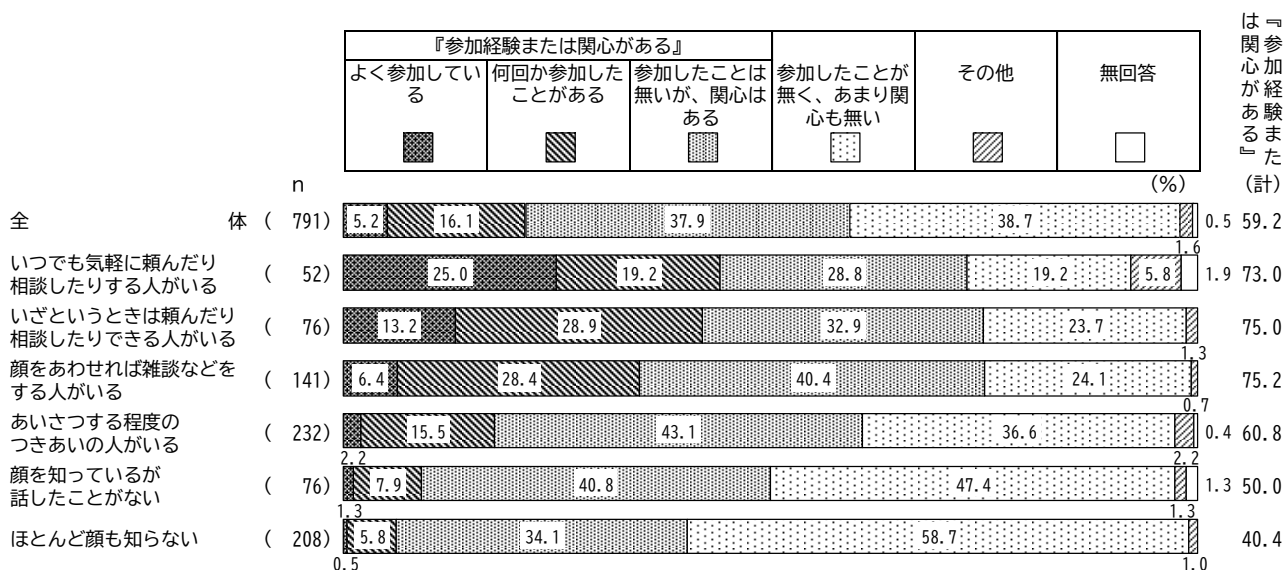
町会加入状況別にみると、『参加経験または関心がある』は町会に入っている方（72.5%）で7割強と高くなっている。（図8-1-4）

図8-1-4 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（町会加入状況別）



地域の人との関わり別にみると、『参加経験または関心がある』は住んでいる地域に顔をあわせれば雑談などをする人がいる（75.2%）、いざというときは頼んだり相談できる人がいる（75.0%）で7割台半ばとなっている。（図8-1-5）

図8-1-5 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（地域の人との関わり別）

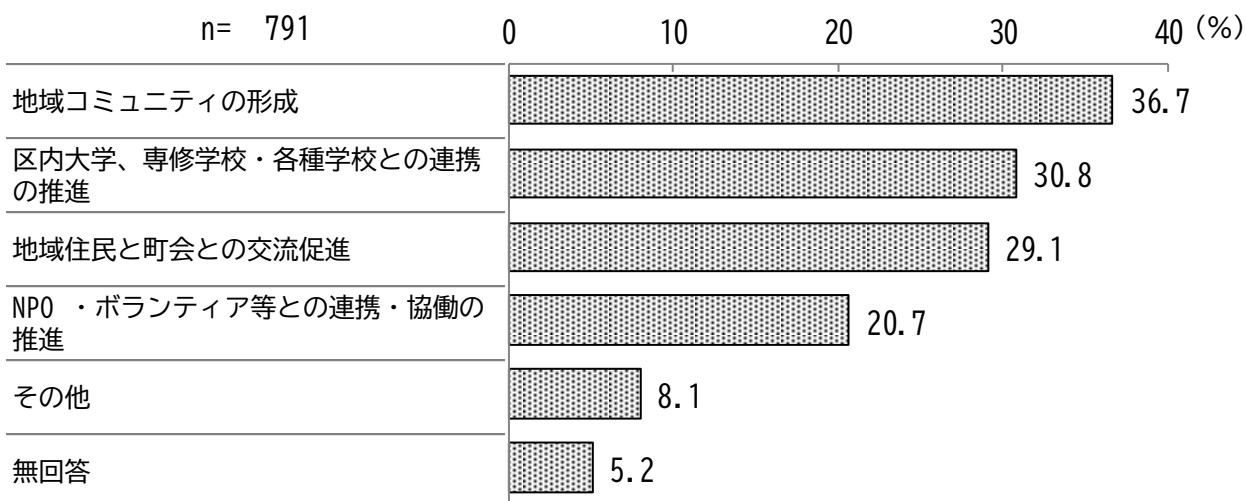


(2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

◇「地域コミュニティの形成」が3割台半ば超え

問16 町会・ボランティア活動に関して、あなたが「力を入れて欲しい分野」は何ですか。
(〇はいくつでも)

図8-2-1 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

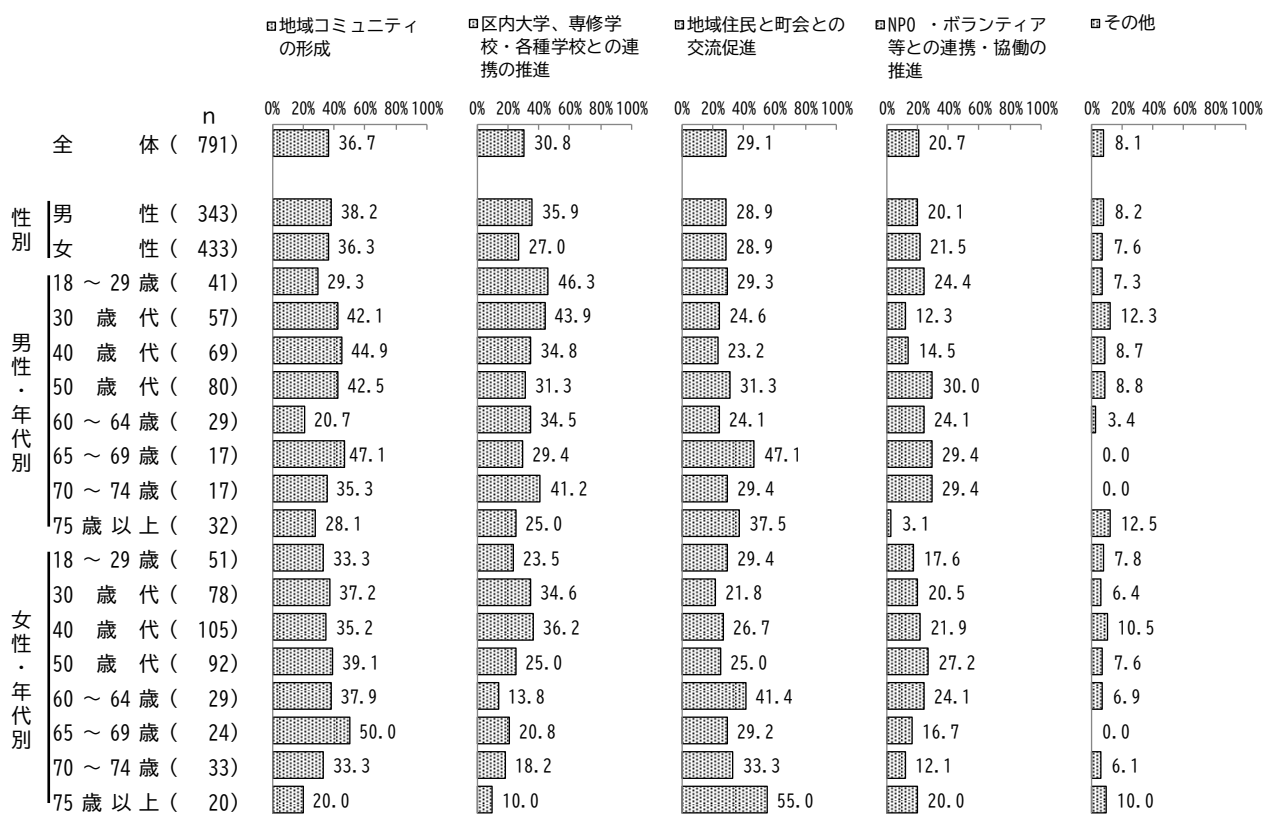


町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(36.7%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(30.8%)、「地域住民と町会との交流促進」(29.1%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の推進」(20.7%)と続いている。(図8-2-1)

その他を回答した方は64人おり、主な意見として「環境美化」、「防犯パトロール」、「ペット関連、ホームレス支援」などが挙げられている。

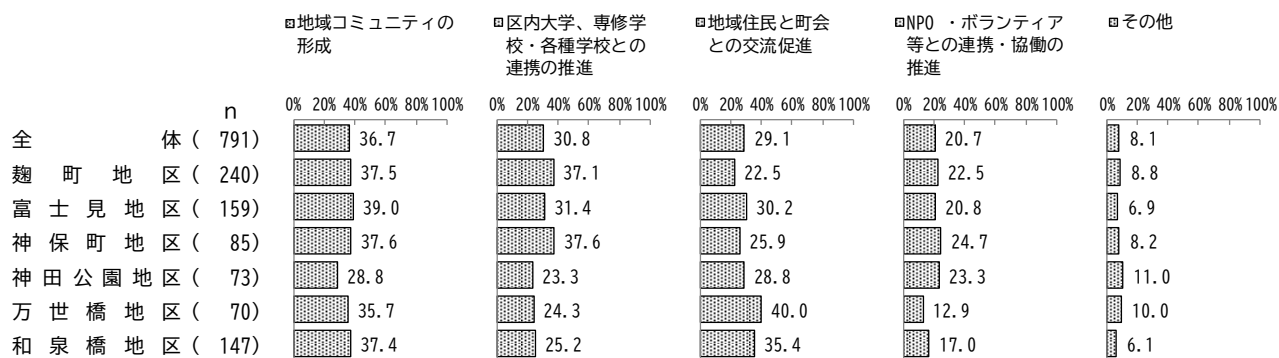
性・年代別にみると、「地域コミュニティの形成」は女性 65～69 歳（50.0%）で 5 割とたかくなっている。また、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は男性 18～29 歳（46.3%）で 4 割台半ば越え、「地域住民と町会との交流促進」は女性 75 歳以上（55.0%）で 5 割台半ばとそれぞれ高くなっている。（図 8-2-2）

図 8-2-2 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（性・年代別）



地区別にみると、「地域住民と町会との交流促進」は万世橋地区（40.0%）で 4 割と高くなっている。（図 8-2-3）

図 8-2-3 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（地区別）



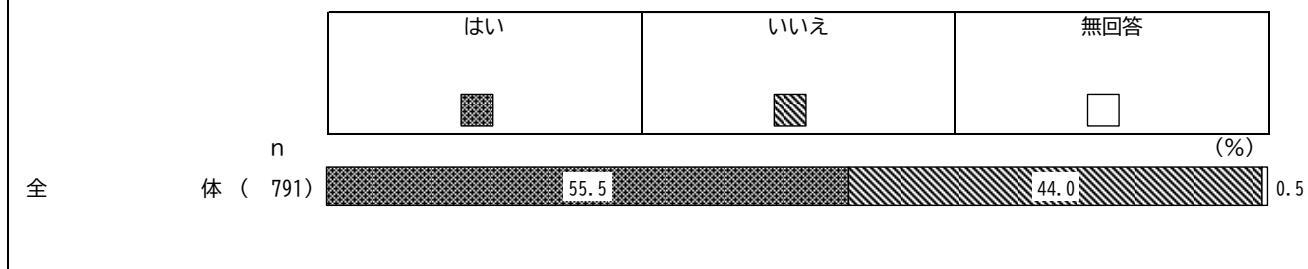
9. かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

◇かかりつけ医がいるのは5割台半ば

問17 あなたは、かかりつけ医を持っていますか。(○は1つ)

図9-1-1 かかりつけ医の有無

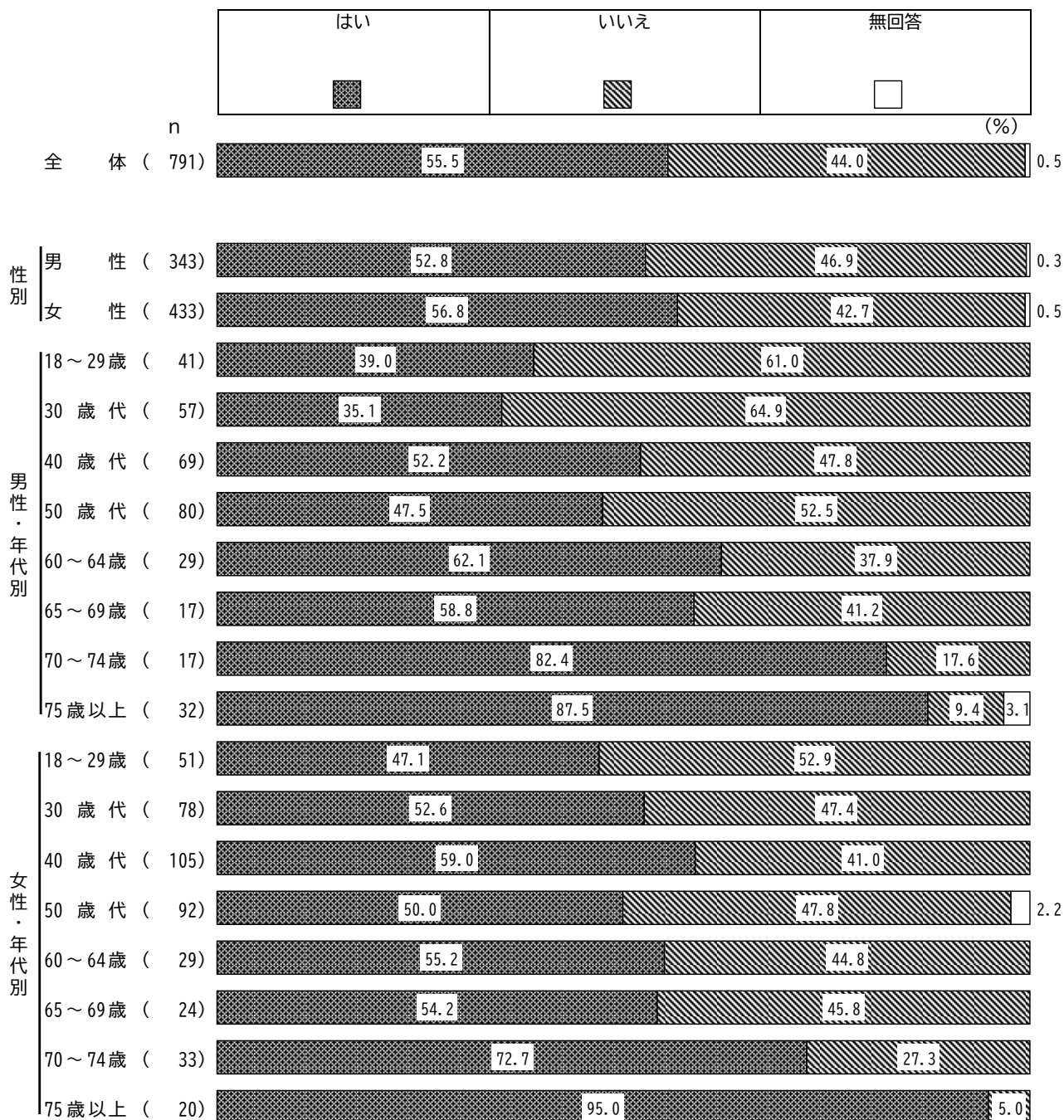


かかりつけ医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (55.5%) が5割台半ば、一方「いいえ」(いない) (44.0%) は4割台半ば近くとなっている。(図9-1-1)

性・年代別にみると、「はい」(いる)は女性75歳以上(95.0%)で9割台半ばと高くなっている。一方、「いいえ」(いない)は男性30歳代(64.9%)で6割台半ば近くと高くなっている。

(図9-1-2)

図9-1-2 かかりつけ医の有無(性・年代別)



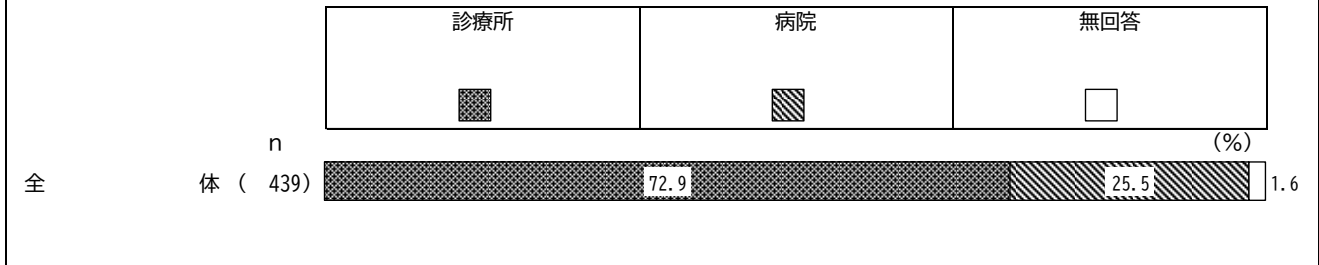
(1-1) かかりつけ医の医療機関

◇かかりつけ医の医療機関は「診療所」が7割強

(問17で「1. はい」とお答えの方に)

問17-1 そのかかりつけ医は、診療所の医師ですか、それとも病院の医師ですか。(○は1つ)

図9-1-3 かかりつけ医の医療機関

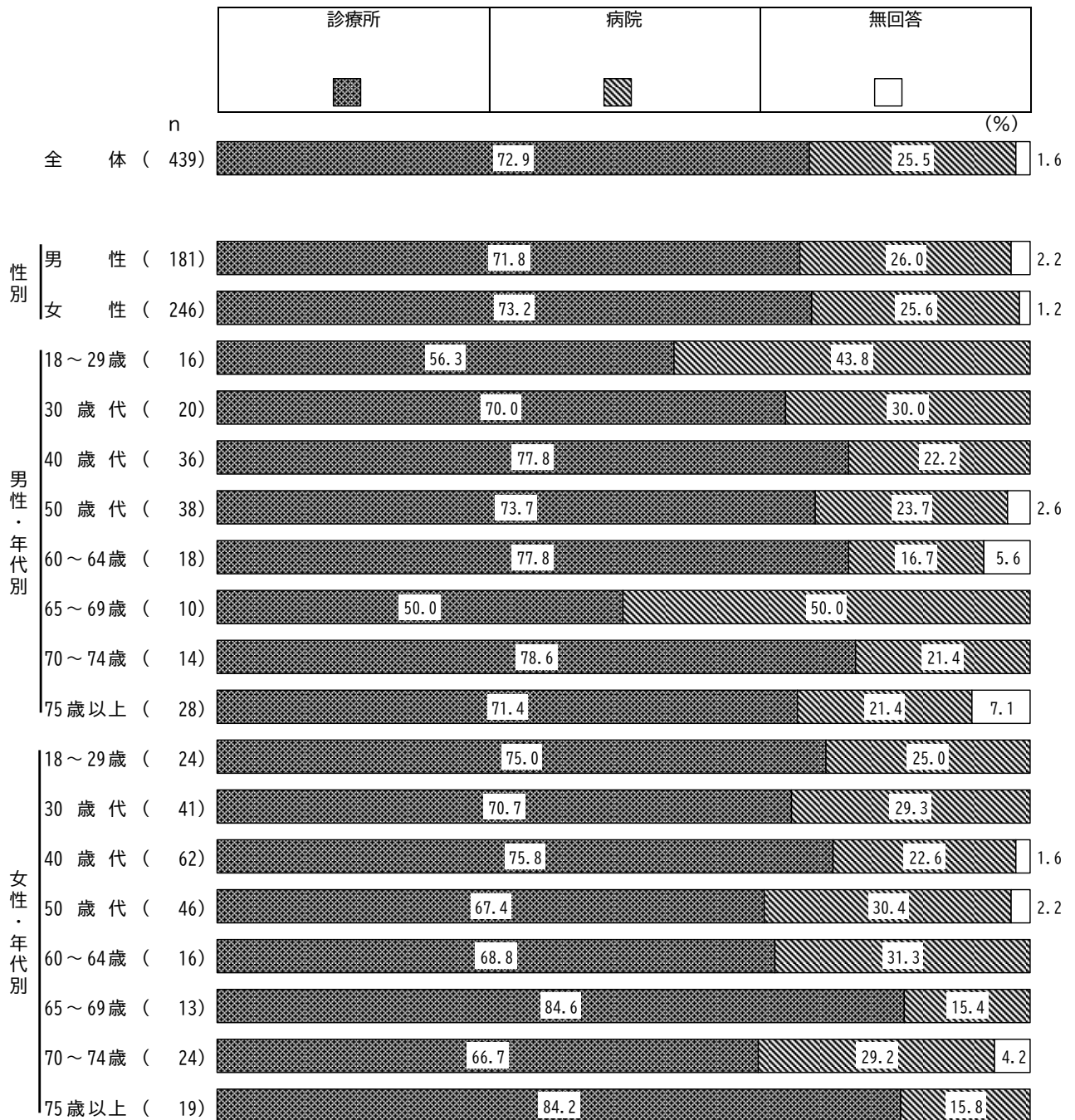


かかりつけ医の有無について「はい」(いる)と回答した方に、かかりつけ医の医療機関について聞いたところ、「診療所」(72.9%)が7割強、「病院」(25.5%)が2割台半ばとなっている。

(図9-1-3)

性・年代別にみると、「診療所」は女性 65～69 歳（84.6%）、女性 75 歳以上（84.2%）で 8 割台半ばと高くなっている。（図 9-1-4）

図 9-1-4 かかりつけ医の医療機関（性・年代別）

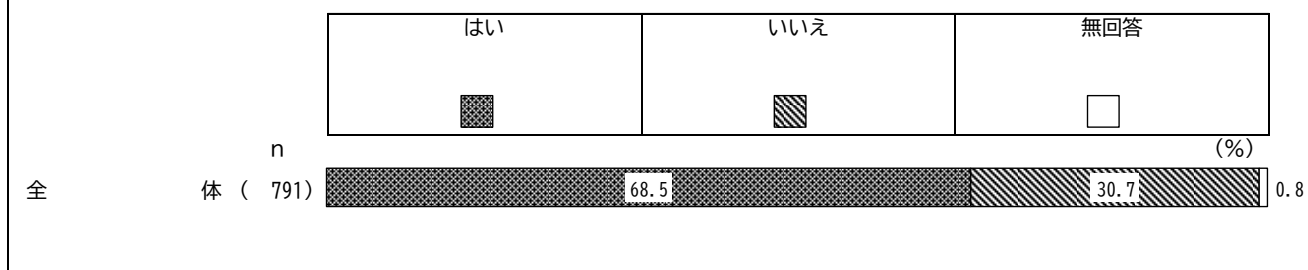


(2) かかりつけ歯科医の有無

◇かかりつけ歯科医がいるのは7割近く

問18 あなたは、かかりつけ歯科医を持っていますか。(○は1つ)

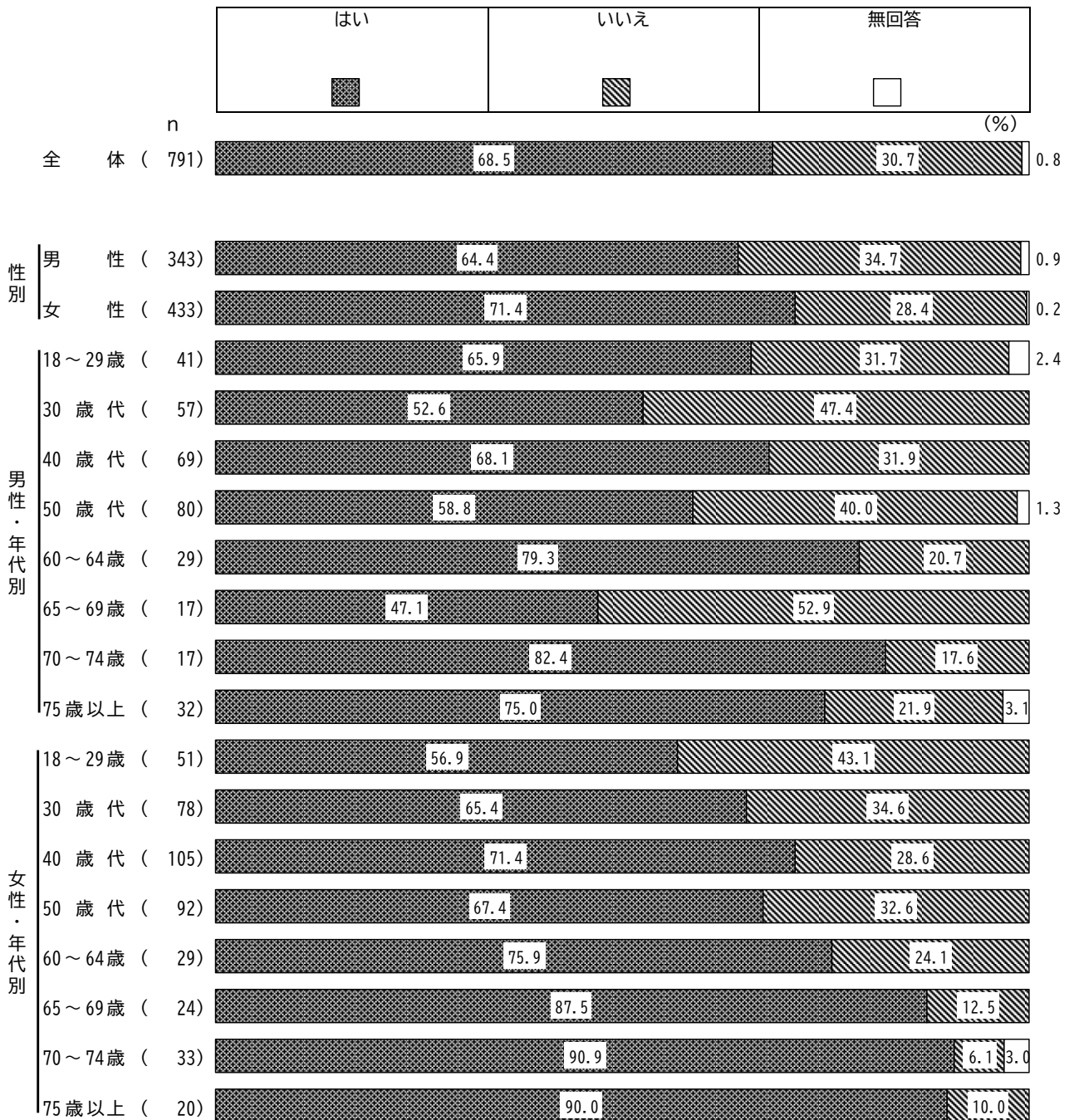
図9-2-1 かかりつけ歯科医の有無



かかりつけ歯科医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (68.5%) が7割近く、一方「いいえ」(いない) (30.7%) は約3割となっている。(図9-2-1)

性・年代別にみると、「はい」(いる)は女性 70～74 歳 (90.9%) で約9割と高くなっている。一方、「いいえ」(いない)は男性 65～69 歳 (52.9%) で5割強と高くなっている。(図9-2-2)

図9-2-2 かかりつけ歯科医の有無 (性・年代別)



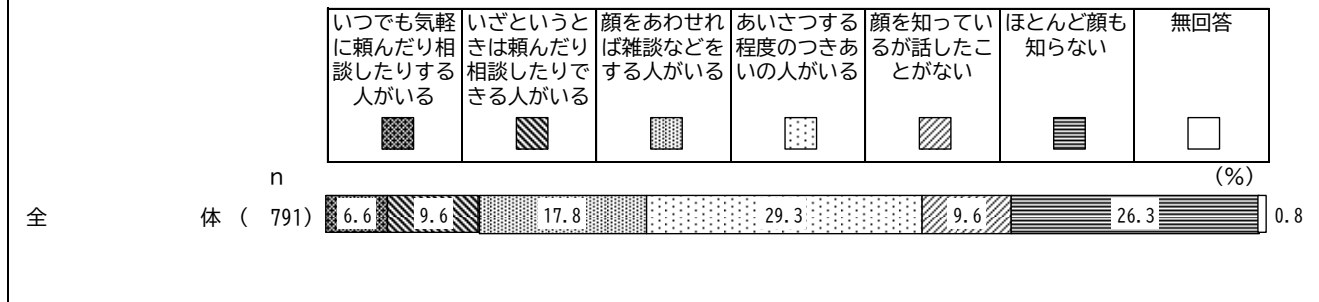
10. 次期健康増進計画の策定

(1) 地域の人との関わり

◇「あいさつをする程度のつきあいの人がある」が3割弱

問19 あなたは、お住まいの地域の人とどの程度かかわりを持っていますか。(○は1つ)

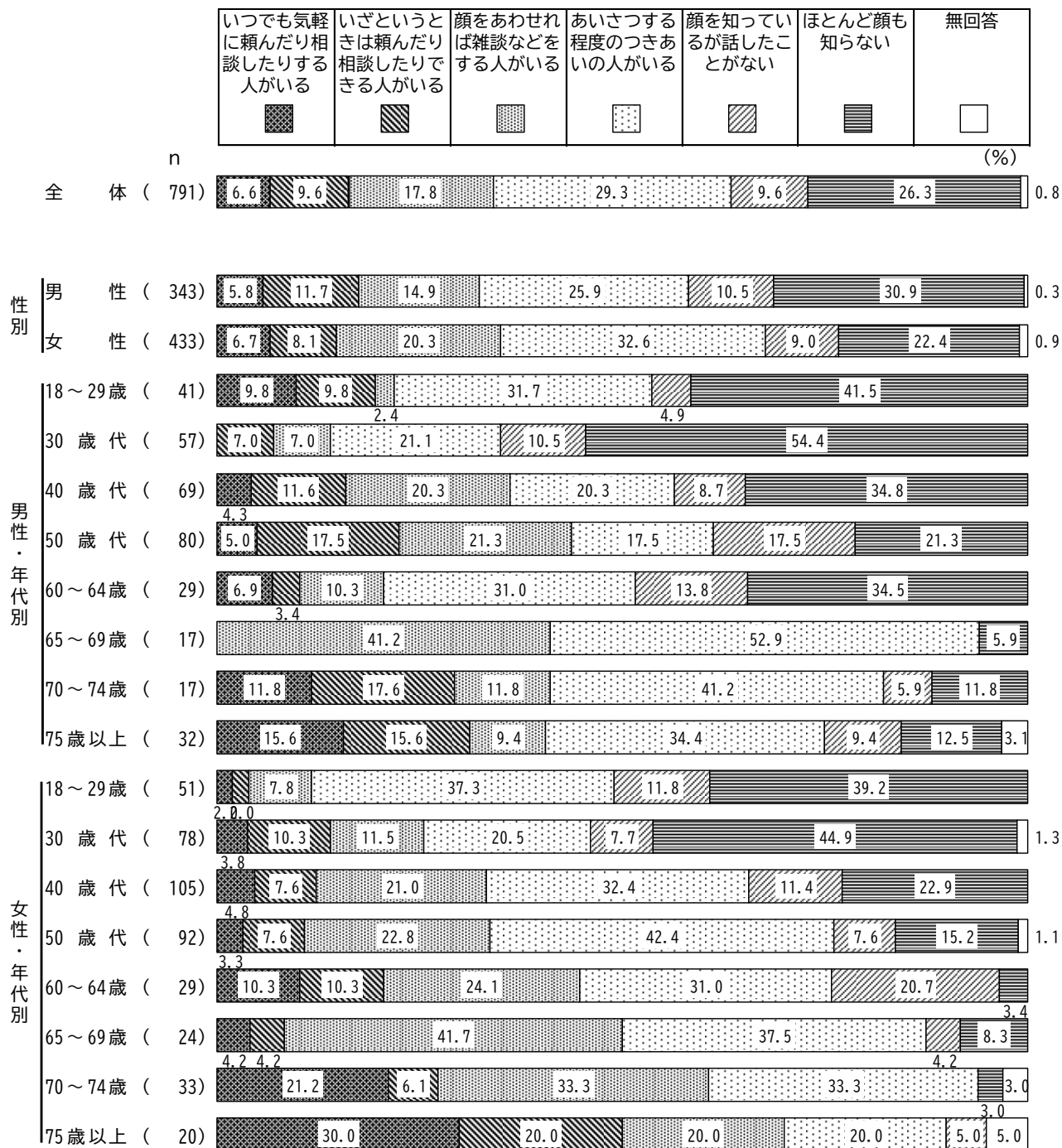
図 10-1-1 地域の人との関わり



地域の人とどの程度かかわりを持っているか聞いたところ、「あいさつをする程度のつきあいの人がある」(29.3%)が3割弱、次いで「ほとんど顔も知らない」(26.3%)、「顔をあわせれば雑談などをする人がある」(17.8%)となっている。(図 10-1-1)

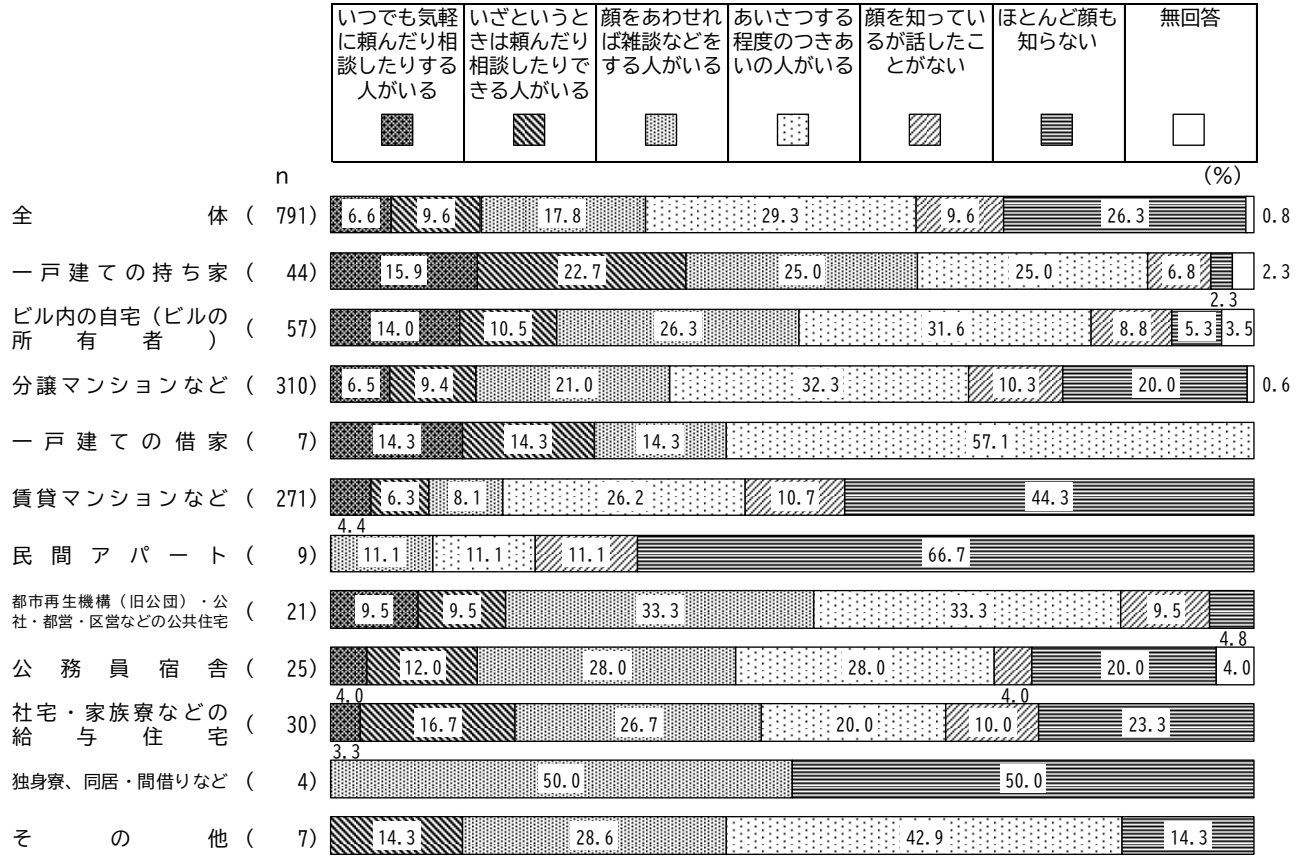
性・年代別にみると、「あいさつをする程度のつきあいの人がいる」は男性 65～69 歳（52.9%）で 5 割強と高くなっている。一方、「ほとんど顔も知らない」は男性 30 歳代（54.4%）で 5 割台半ば近くと高くなっている。（図 10-1-2）

図 10-1-2 地域の人との関わり（性・年代別）



住居形態別にみると、「顔をあわせれば雑談などをする人がいる」は都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅（33.3%）で3割台半ば近くと高くなっている。一方、「ほとんど顔も知らない」は賃貸マンションなど（44.3%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図10-1-3）

図10-1-3 地域の人との関わり（住居形態別）



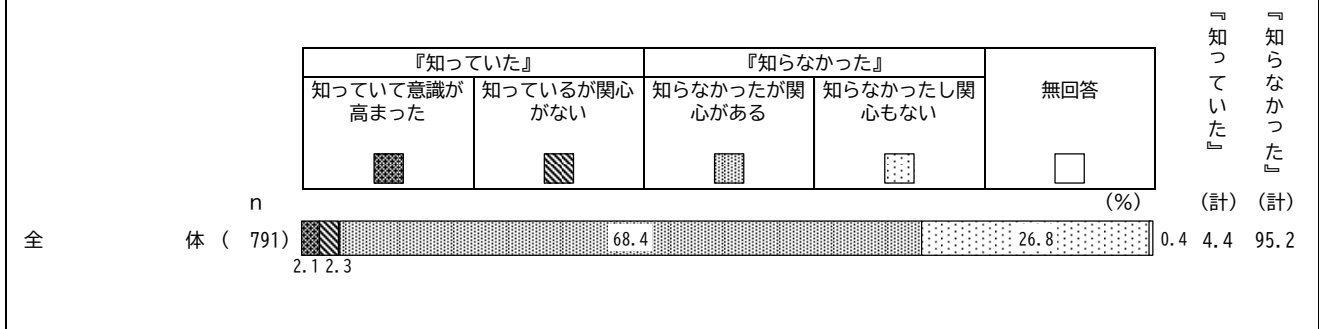
11. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

◇「知らなかったが関心がある」が7割近く

問20 区では、誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指すため、平成31年3月に千代田区自殺対策計画を策定しましたが、ご存じですか。(○は1つ)

図 11-1-1 千代田区自殺対策計画の認知度

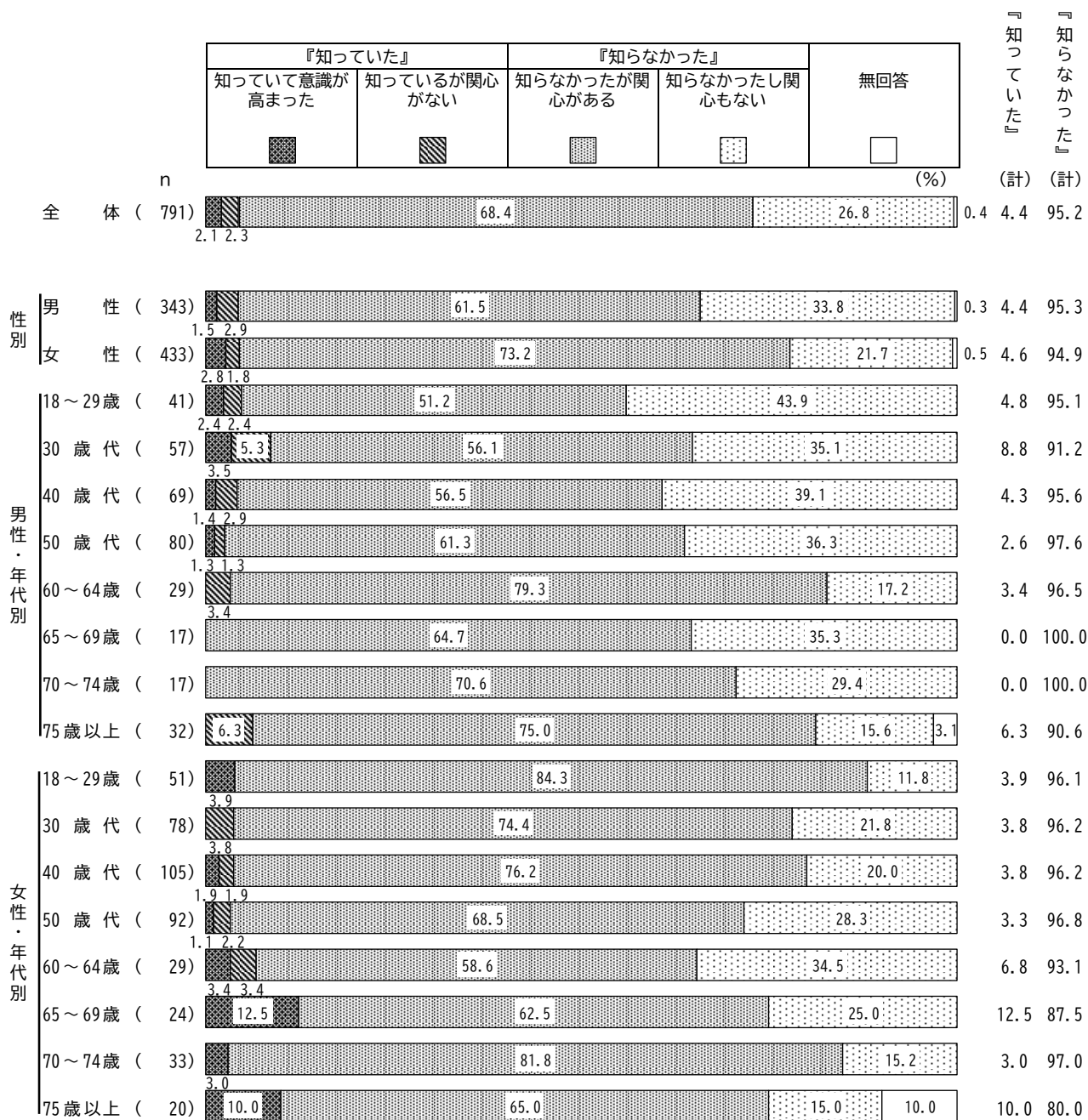


千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らなかったが関心がある」(68.4%)が7割近くで最も高く、これに「知らなかったし関心もない」(26.8%)を合わせた『知らなかった』(95.2%)は9割半ばとなっている。一方、「知っていて意識が高まった」(2.1%)と「知っているが関心がない」(2.3%)を合わせた『知っていた』(4.4%)は1割未満となっている。(図 11-1-1)

性・年代別にみると、『知っていた』は女性 65～69 歳（12.5%）で 1 割強と高くなっている。

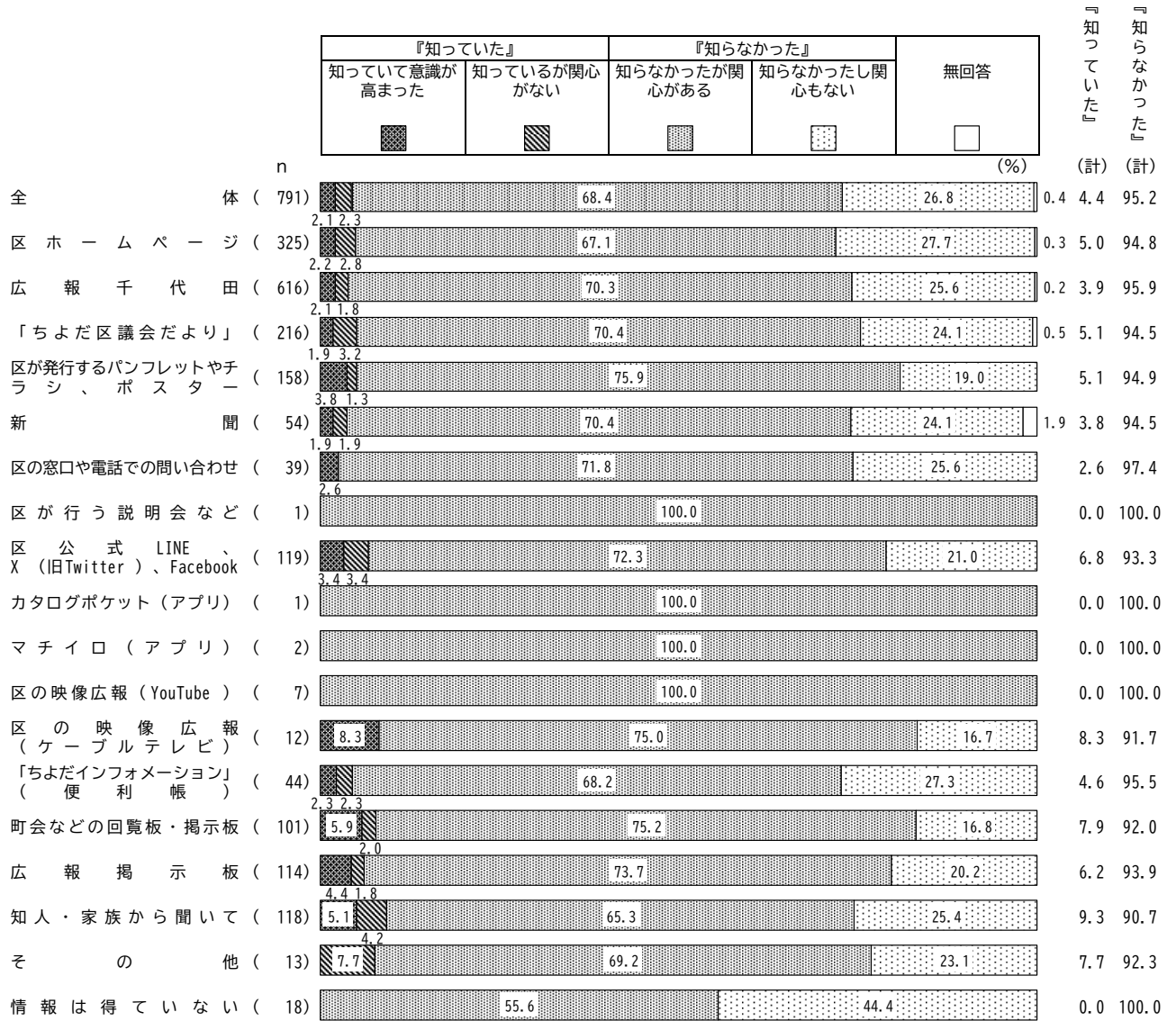
（図 11-1-2）

図 11-1-2 千代田区自殺対策計画の認知度（性・年代別）



区政情報の取得媒体別にみると、千代田区自殺対策計画について「知らなかったし関心もない」と答えた方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（44.4%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図 11-1-3）

図 11-1-3 千代田区自殺対策計画の認知度（区政情報の取得媒体別）

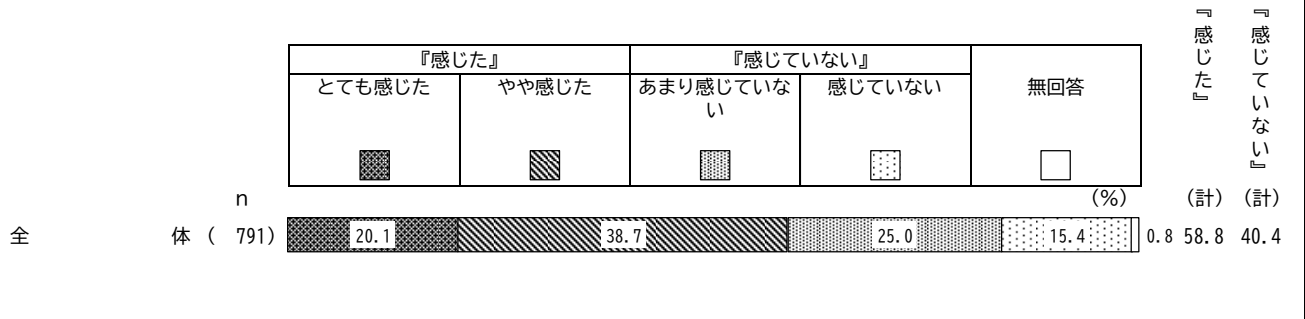


(2) ストレス等の有無

◇ストレスを『感じた』が6割近く

問21 あなたは最近1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じましたか。(○は1つ)

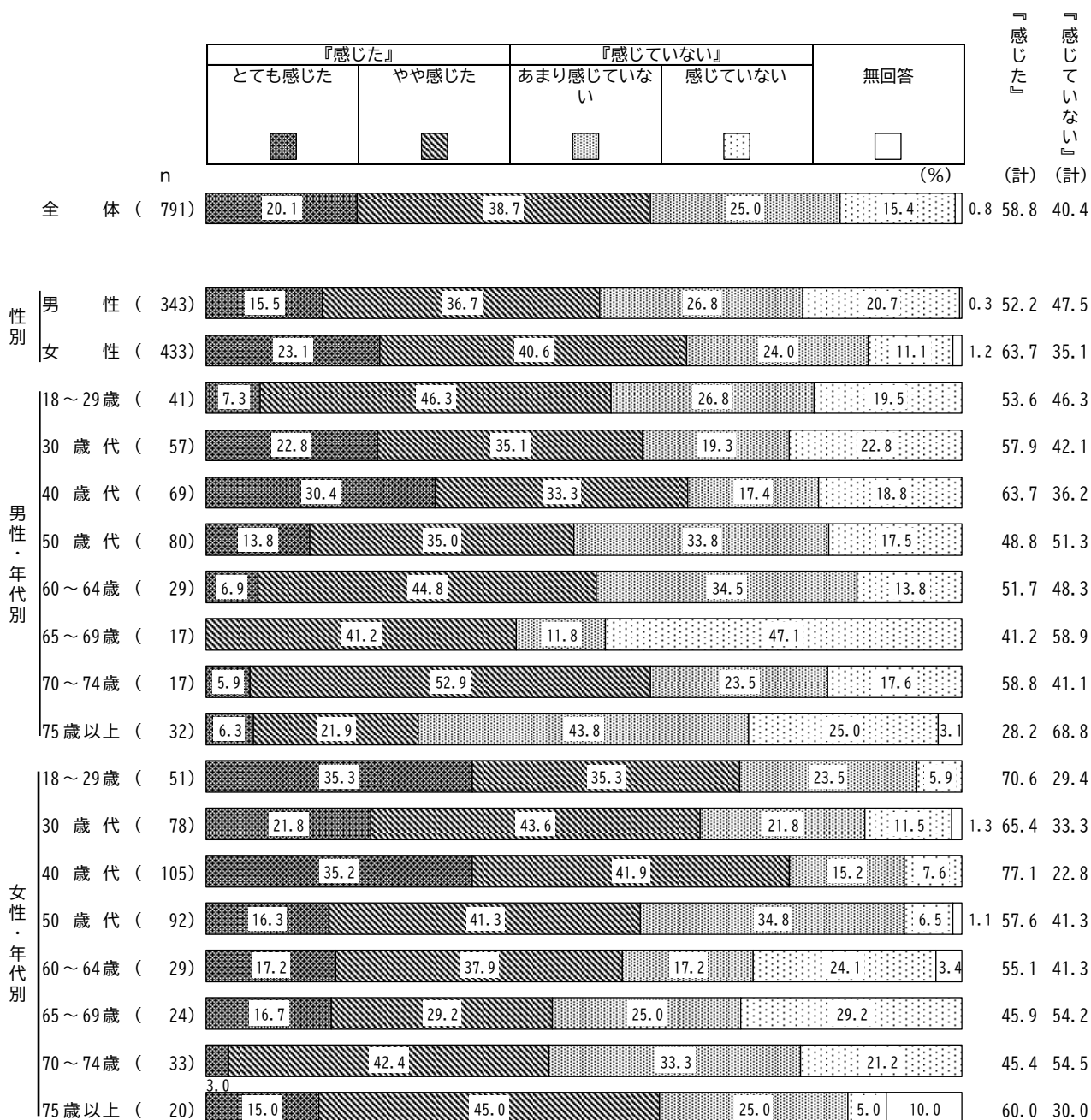
図 11-2-1 ストレス等の有無



ストレス等の有無について聞いたところ、「やや感じた」(38.7%)が4割近くで最も高く、これに「とても感じた」(20.1%)を合わせた『感じた』(58.8%)は6割近くとなっている。一方、「感じていない」(15.4%)と「あまり感じていない」(25.0%)を合わせた『感じていない』(40.4%)は約4割となっている。(図 11-2-1)

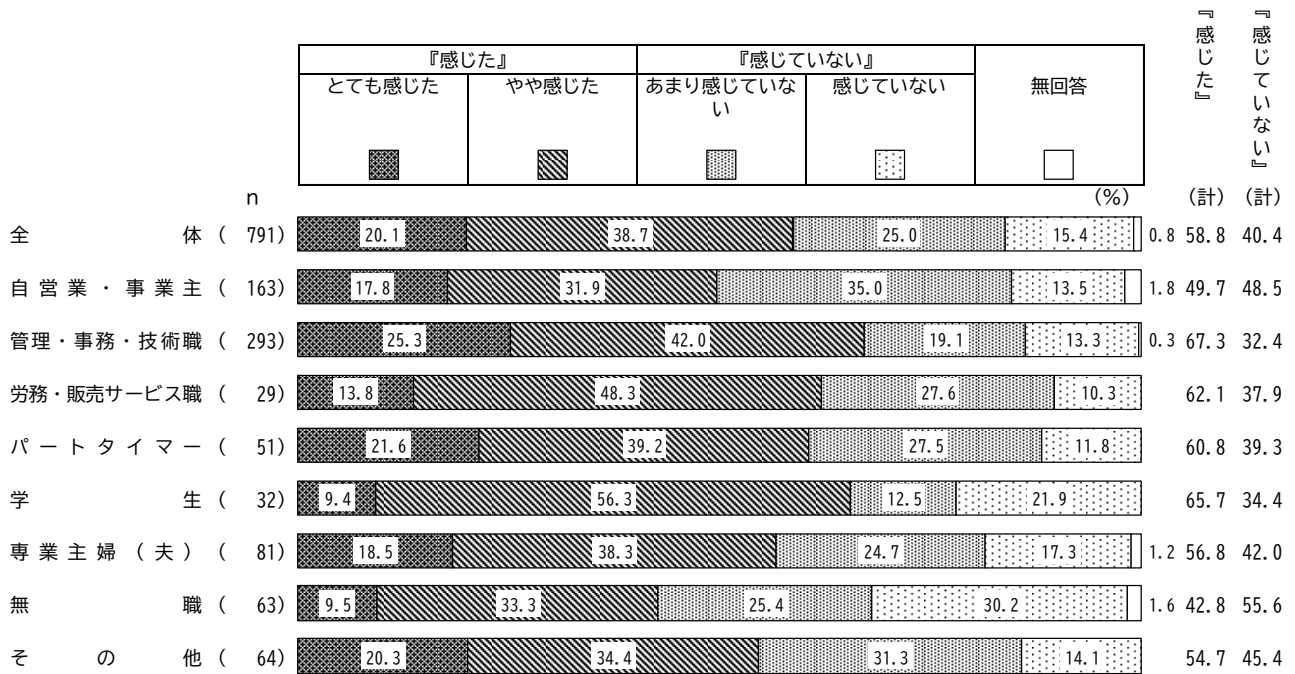
性・年代別にみると、ストレスを『感じた』は女性 40 歳代 (77.1%) で7割台半ばを超えと高くなっている。一方、ストレスを『感じていない』は男性 75 歳以上 (68.8%) で7割近くと高くなっている。(図 11-2-2)

図 11-2-2 ストレス等の有無 (性・年代別)



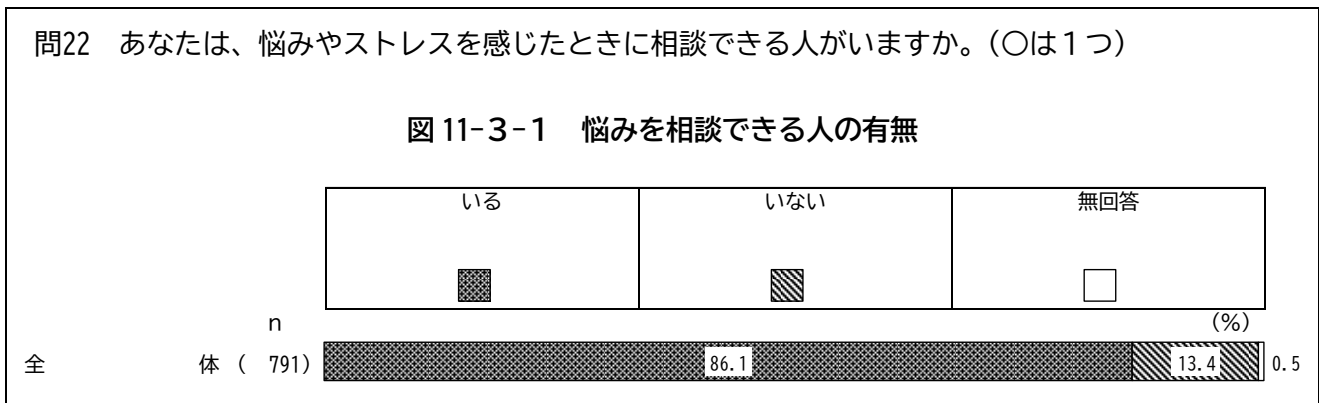
職業別にみると、ストレスを『感じた』は管理・事務・技術職（67.3%）で6割台半ばを超えと高くなっている。一方、ストレスを『感じていない』は無職（55.6%）で5割台半ばと高く、次いで自営業・事業主（48.5%）で5割近くと高くなっている。（図 11-2-3）

図 11-2-3 ストレス等の有無（職業別）



(3) 悩みを相談できる人の有無

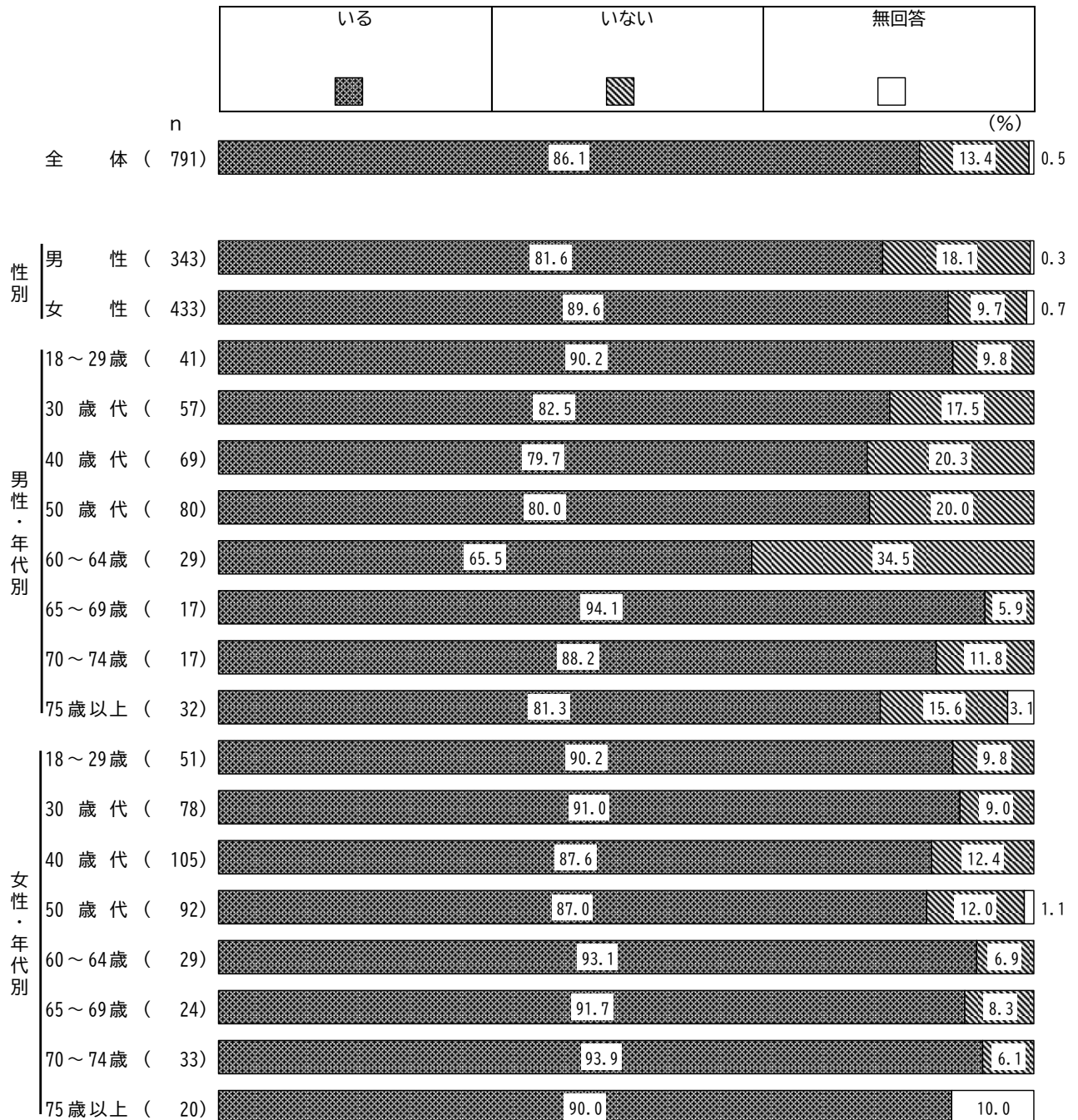
◇悩みを相談できる人が「いる」が8割台半ば超え



悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(86.1%)が8割台半ばを超え、「いない」(13.4%)が1割台半ば近くとなっている。(図 11-3-1)

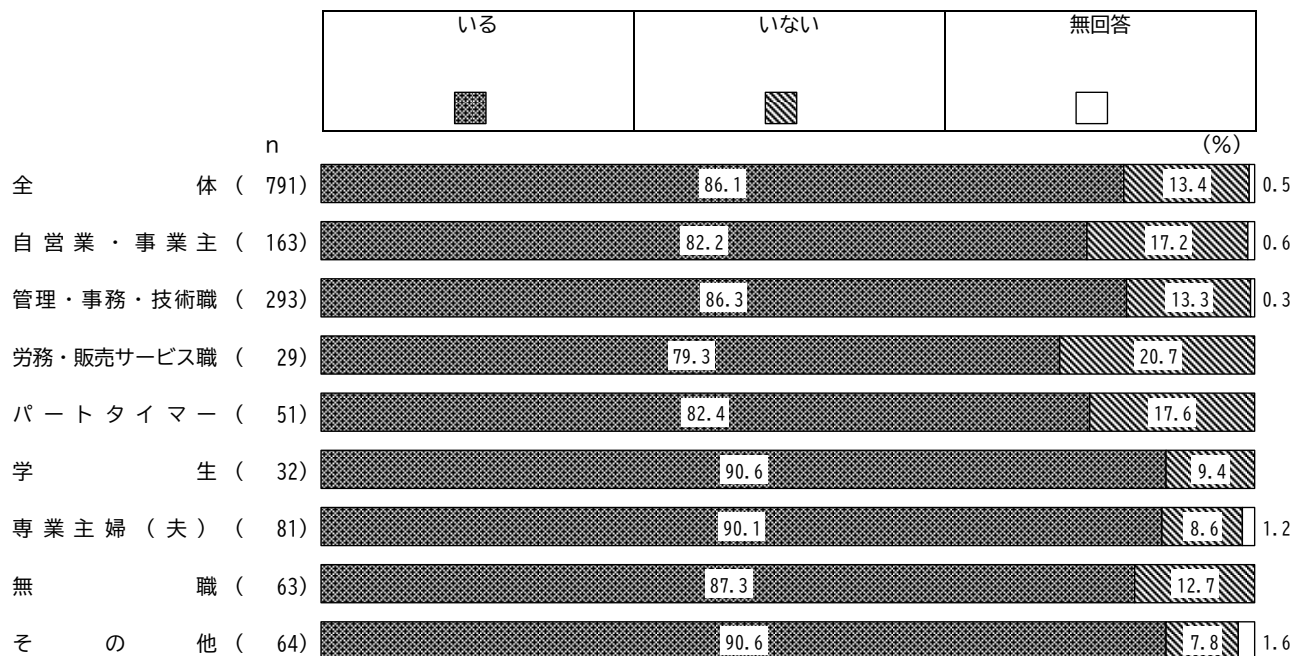
性・年代別にみると、悩みを相談できる人が「いる」は男性 65～69 歳（94.1%）、女性 70～74 歳（93.9%）、女性 60～64 歳（93.1%）で 9 割台半ば近くと高くなっている。一方、悩みを相談できる人が「いない」は男性 60～64 歳（34.5%）で 3 割台半ば近くと高くなっている。（図 11-3-2）

図 11-3-2 悩みを相談できる人の有無（性・年代別）



職業別にみると、悩みを相談できる人が「いる」は学生（90.6%）、専業主婦（夫）（90.1%）で約9割と高くなっている。一方、悩みを相談できる人が「いない」は労務・販売サービス職（20.7%）で約2割と高くなっている。（図11-3-3）

図11-3-3 悩みを相談できる人の有無（職業別）



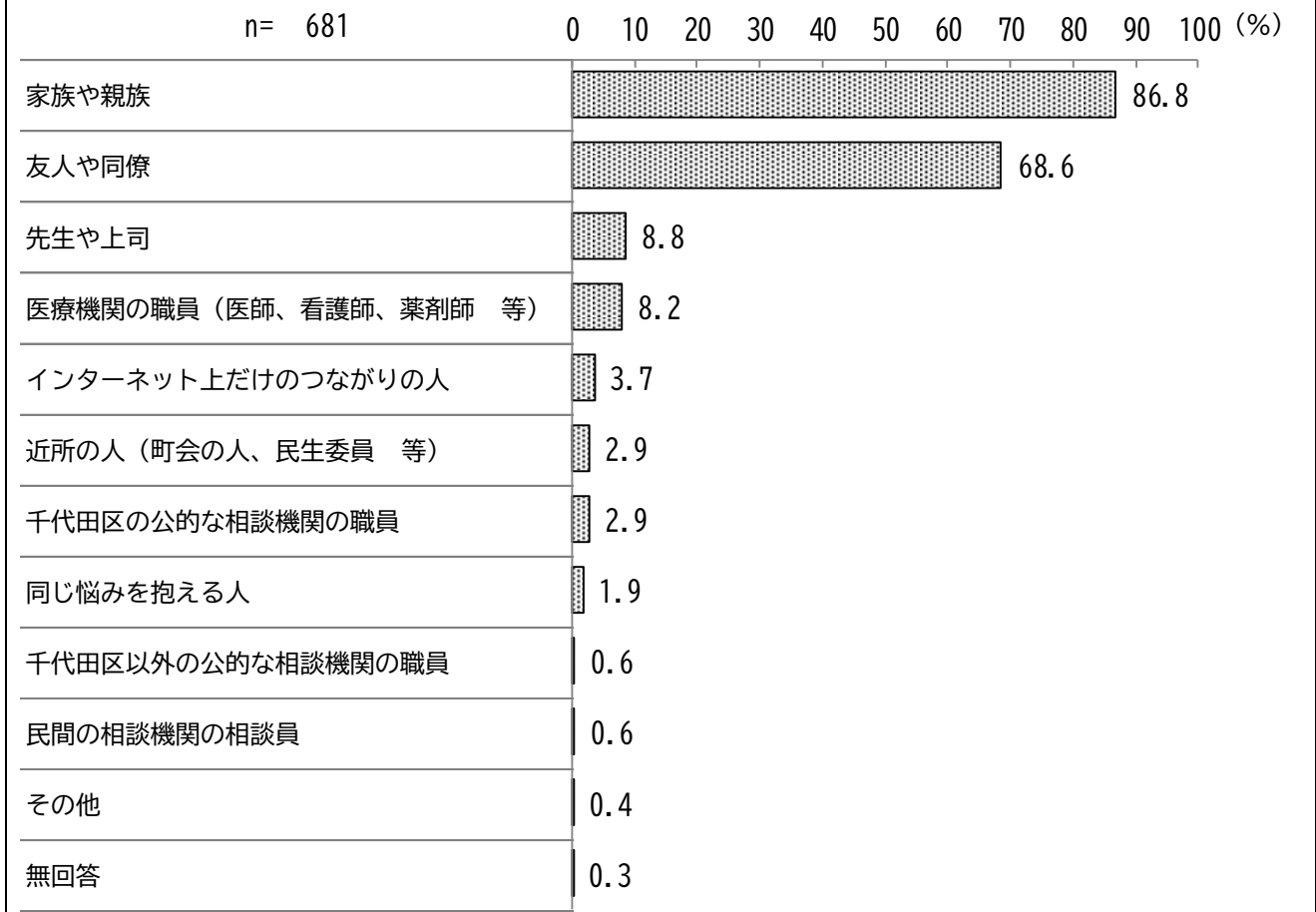
(3-1) 悩みを相談する相手

◇「家族や親族」が8割台半ば超え

(問22で「1. いる」とお答えの方に)

問22-1 悩みはどのような方に相談しますか。(○はいくつでも)

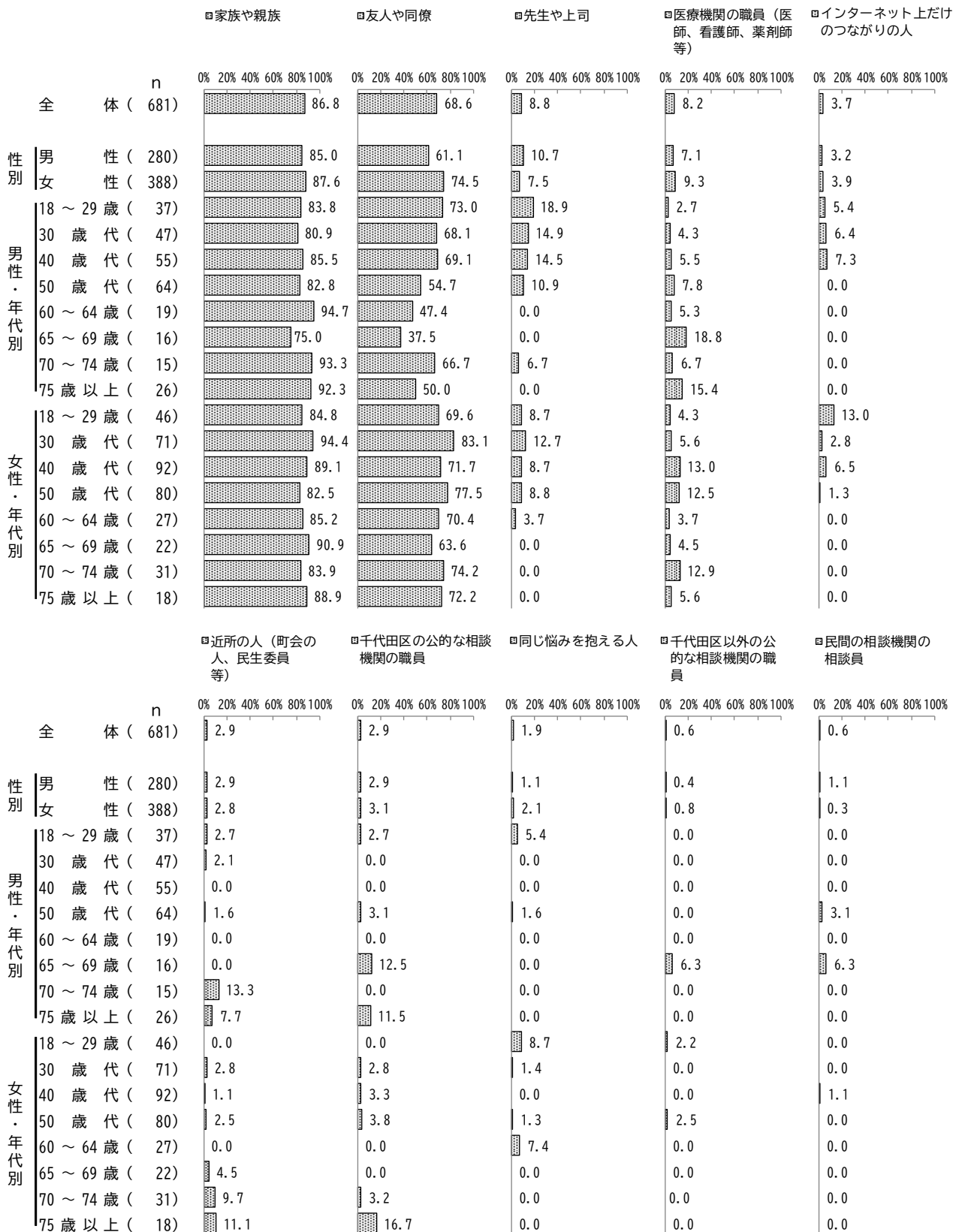
図 11-3-4 悩みを相談する相手



悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(86.8%)が8割台半ばを超え最も高く、次いで「友人や同僚」(68.6%)が7割近くで続いている。(図 11-3-4)

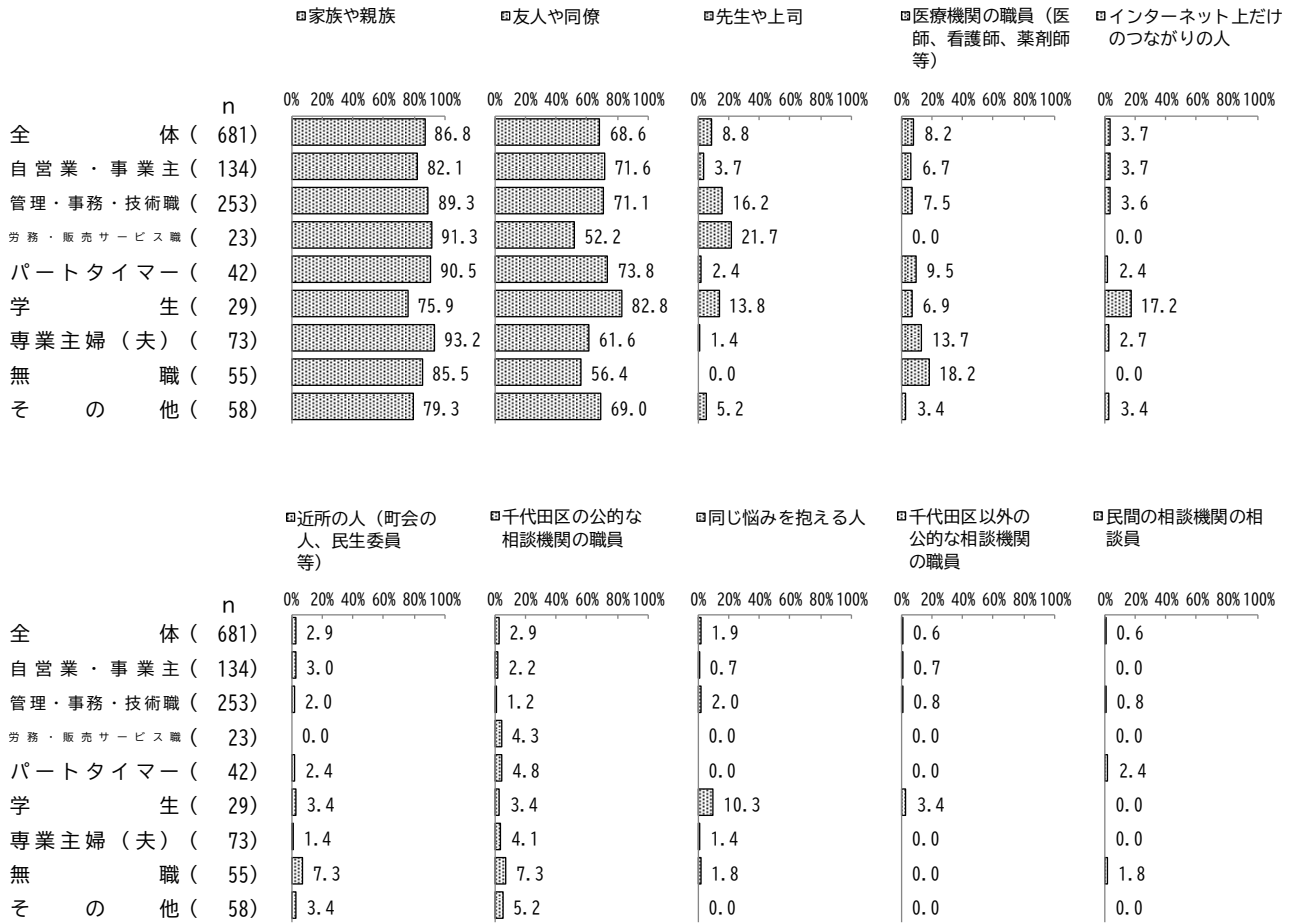
性・年代別にみると、「友人や同僚」は女性 30 歳代（83.1%）で 8 割台半ば近く、「医療機関の職員」は男性 65～69 歳（18.8%）が 2 割近くとそれぞれ高くなっている。（図 11-3-5）

図 11-3-5 悩みを相談する相手（性・年代別）



職業別にみると、「友人や同僚」は学生（82.8%）で8割強と高くなっている。（図11-3-6）

図11-3-6 悩みを相談する相手（職業別）



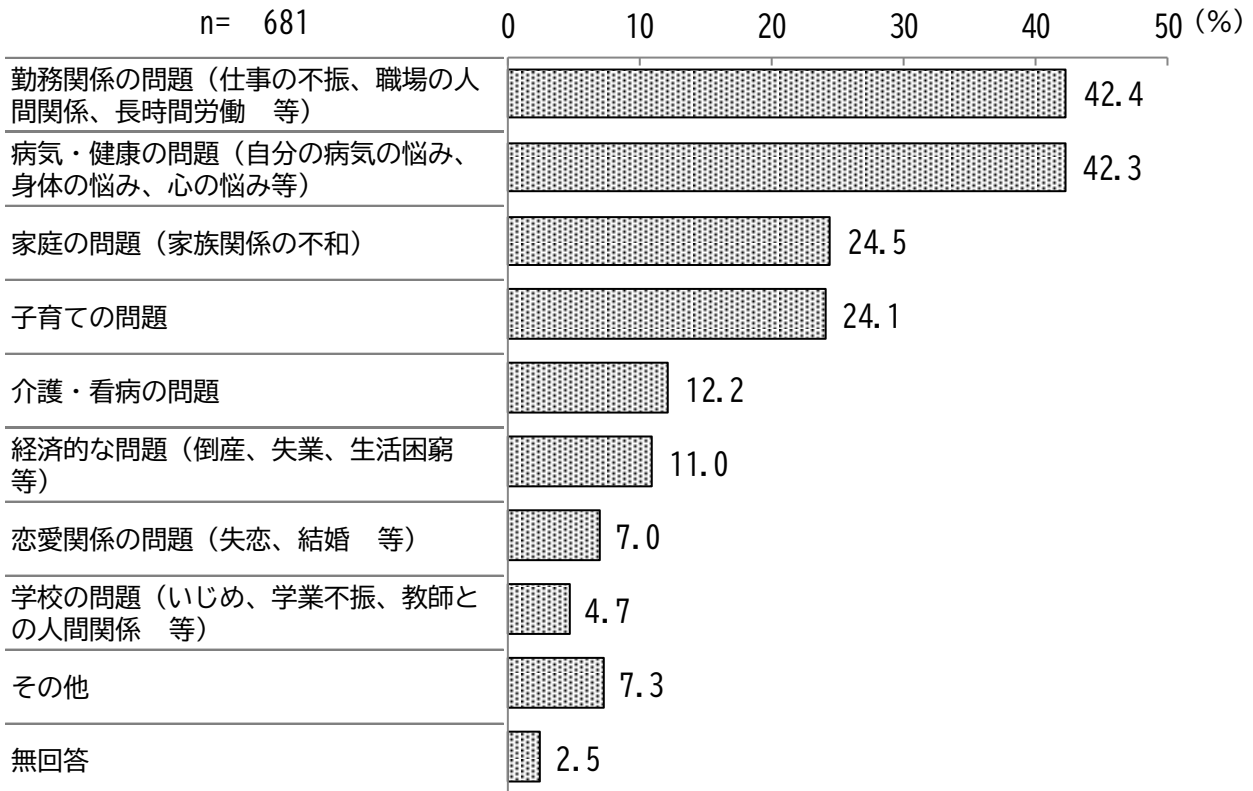
(3-2) 相談内容

◇「勤務関係の問題」、「病気・健康の問題」が4割強

(問22で「1. いる」とお答えの方に)

問22-2 相談内容はどのようなことですか。(○はいくつでも)

図 11-3-7 相談内容

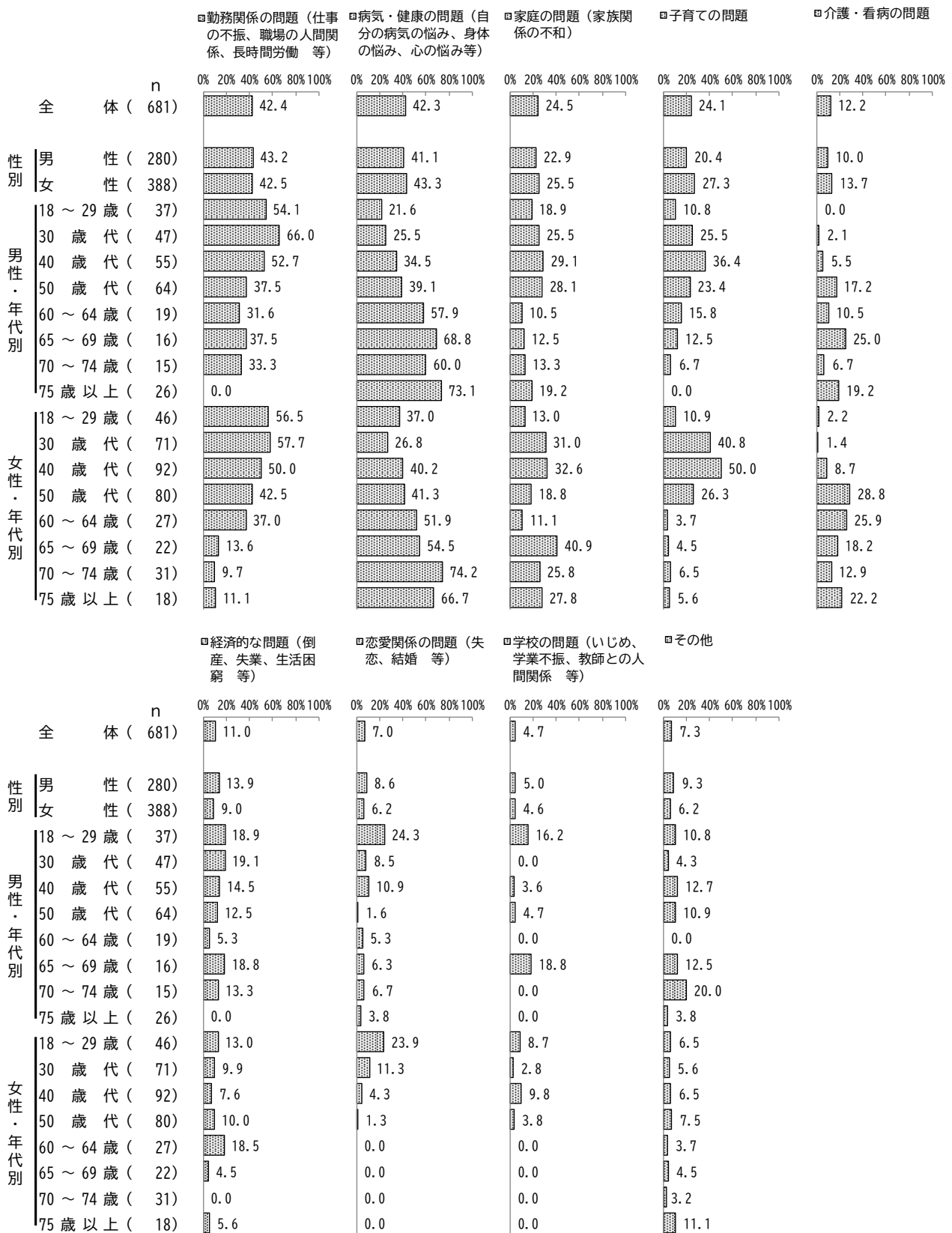


相談内容について聞いたところ、「勤務関係の問題」(42.4%)が4割強と最も高く、次いで「病気・健康の問題」(42.3%)が続いている。(図 11-3-7)

その他を回答した方は 50 人おり、主な意見として「障害について」、「友人関係」、「近隣の建築工事」などが挙げられている。

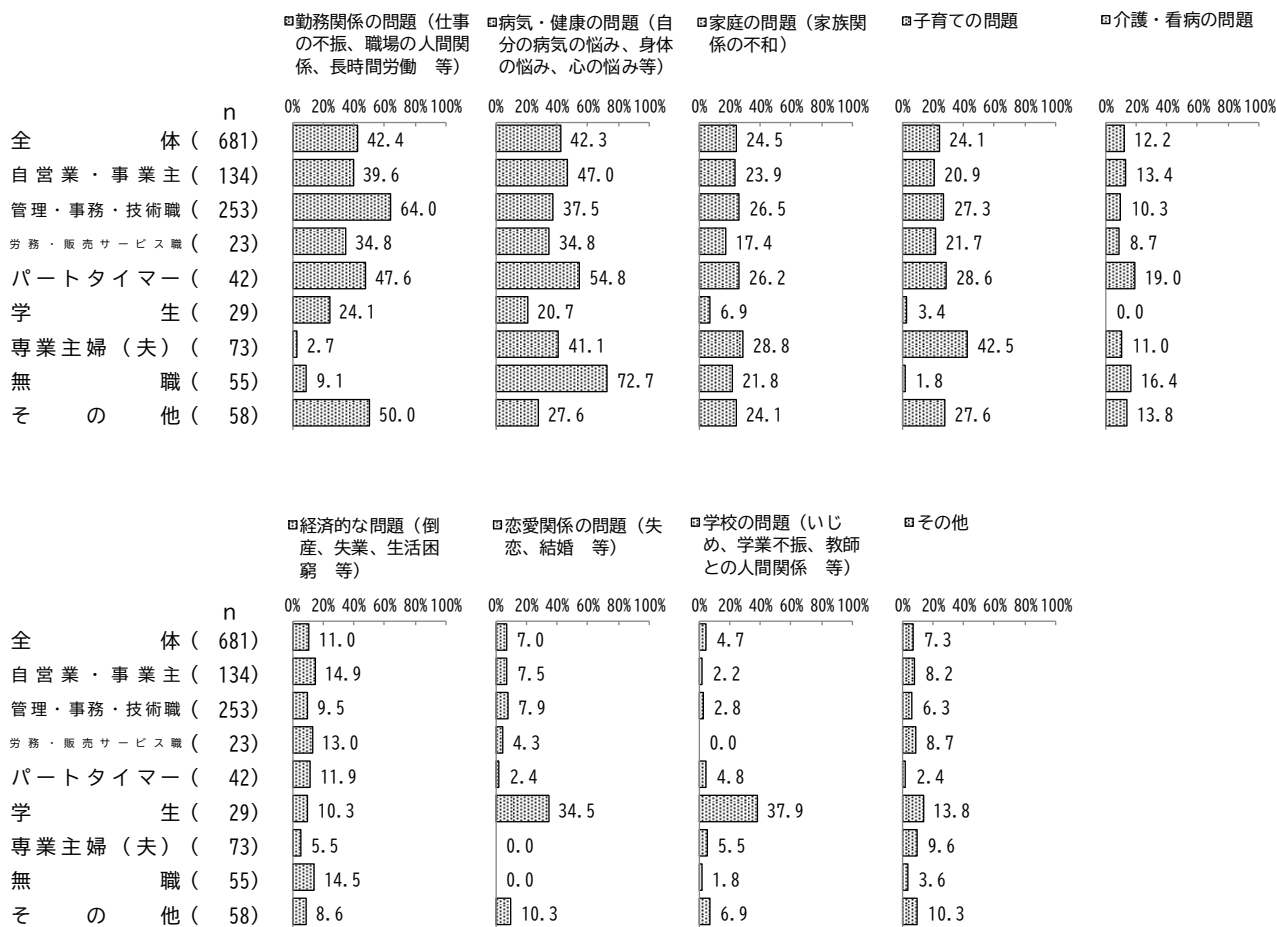
性・年代別にみると、「勤務関係の問題」は男女ともにおおむね年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。また、「病気・健康の問題」は男女ともにおおむね年齢層が高くなるほど割合が高くなっている（図 11-3-8）

図 11-3-8 相談内容（性・年代別）



職業別にみると、「勤務関係の問題」は管理・事務・技術職（64.0%）で6割台半ば近くと高くなっている。「病気・健康の問題」では無職（72.7%）が7割強と高くなっている。（図11-3-9）

図11-3-9 相談内容（職業別）

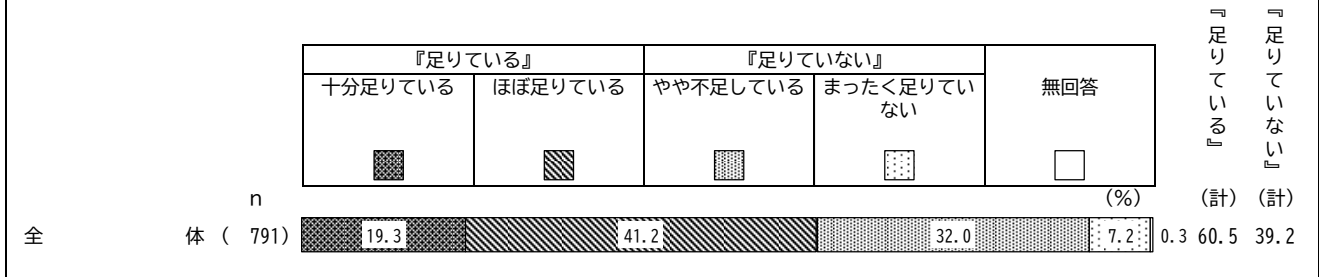


(4) 睡眠時間

◇睡眠時間が『足りている』が約6割

問23 あなたは普段の睡眠時間は足りていますか。(○は1つ)

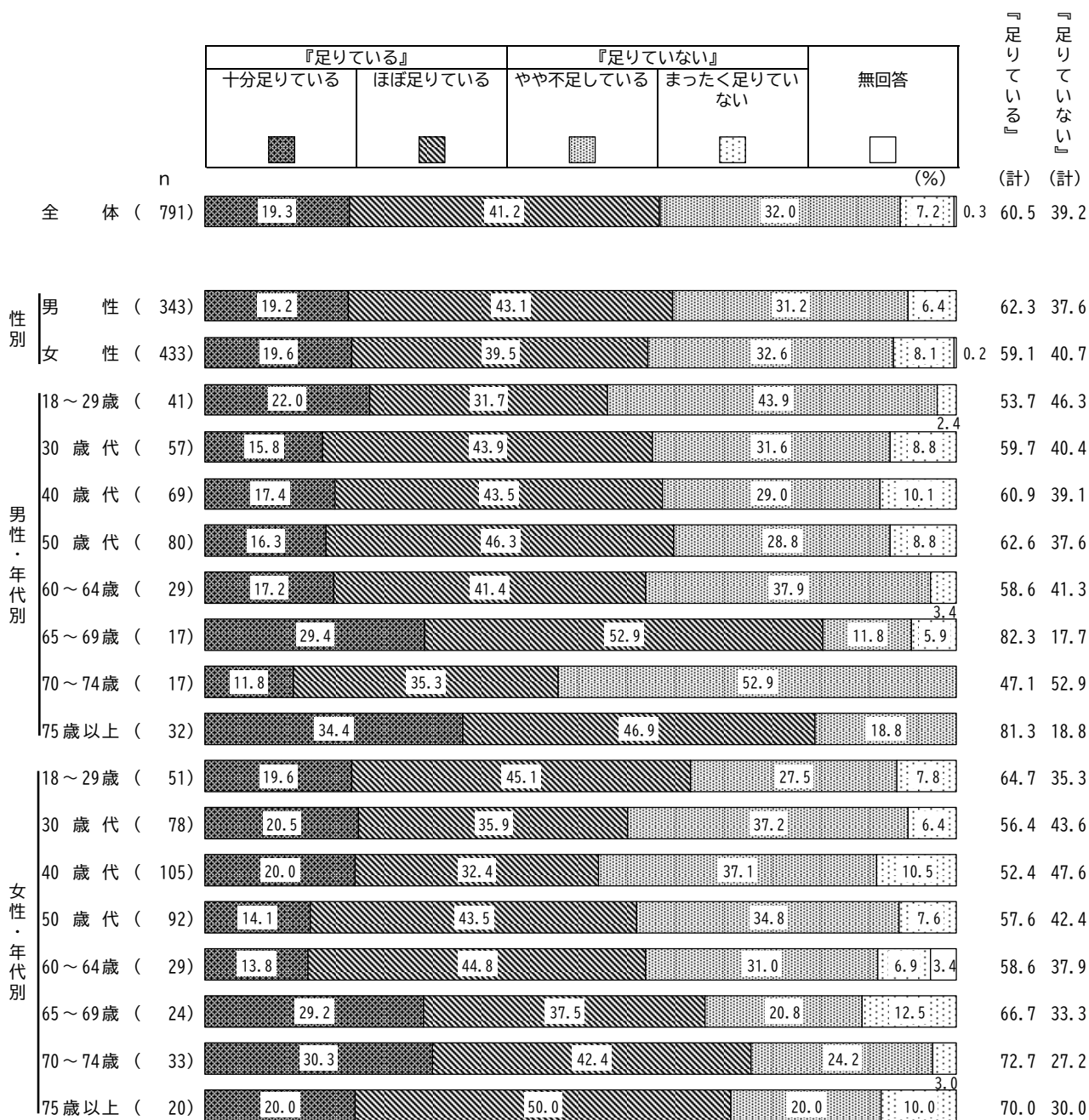
図 11-4-1 睡眠時間



睡眠時間について聞いたところ、「ほぼ足りている」(41.2%)が4割強で最も高く、これに「十分足りている」(19.3%)を合わせた『足りている』(60.5%)は約6割となっている。一方、「まったく足りていない」(7.2%)と「やや不足している」(32.0%)を合わせた『足りていない』(39.2%)は4割弱となっている。(図 11-4-1)

性・年代別にみると、睡眠時間が『足りている』は男性 65～69 歳 (82.3%)、男性 75 歳以上 (81.3%) で 8 割強と高くなっている。一方、睡眠時間が『足りていない』は男性の 50 歳代以下で年齢層が低くなるほど割合が高くなっている。(図 11-4-2)

図 11-4-2 睡眠時間 (性・年代別)

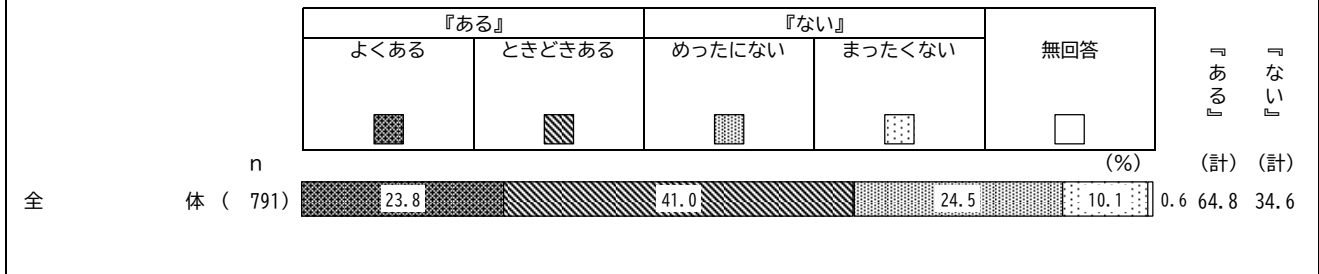


(5) 熟睡できないことの有無

◇熟睡できないことが『ある』が6割台半ば近く

問24 あなたはこの1ヶ月間に、寝床に入っても寝つきが悪い、途中で目が覚める、朝早く目が覚める、熟睡できないなど、眠れないことがありましたか。(○は1つ)

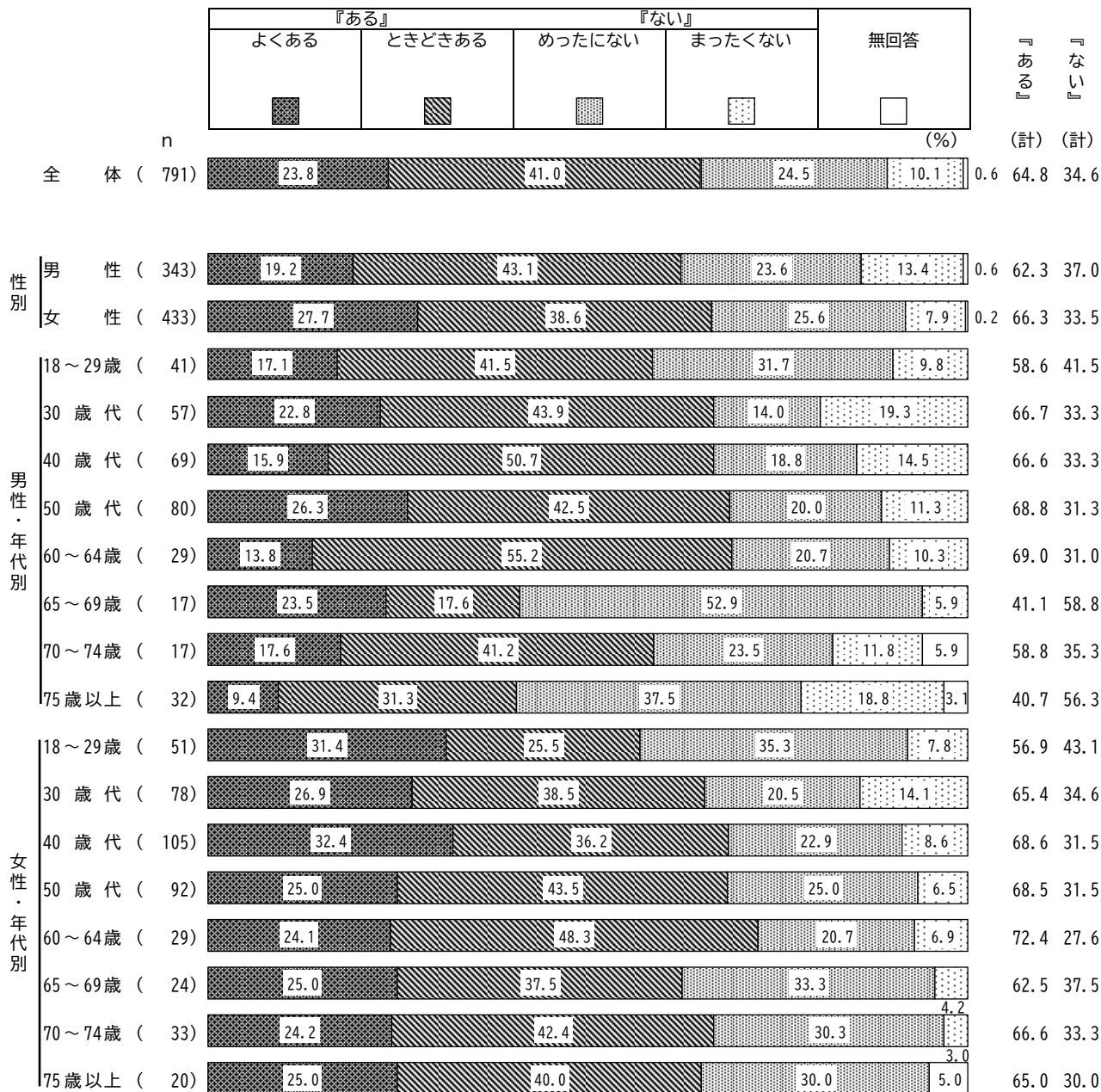
図 11-5-1 熟睡できないことの有無



熟睡できないことの有無について聞いたところ、「ときどきある」(41.0%)が4割強で最も高く、これに「よくある」(23.8%)を合わせた『ある』(64.8%)は6割台半ば近くとなっている。一方、「まったくない」(10.1%)と「めったにない」(24.5%)を合わせた『ない』(34.6%)は3割台半ば近くとなっている。(図 11-5-1)

性・年代別にみると、熟睡できないことが『ある』は女性 60～64 歳（72.4%）で7割強と高くなっている。一方、熟睡できないことが『ない』は男性 65～69 歳（58.8%）で6割近くと高くなっている。（図 11-5-2）

図 11-5-2 熟睡できないことの有無（性・年代別）



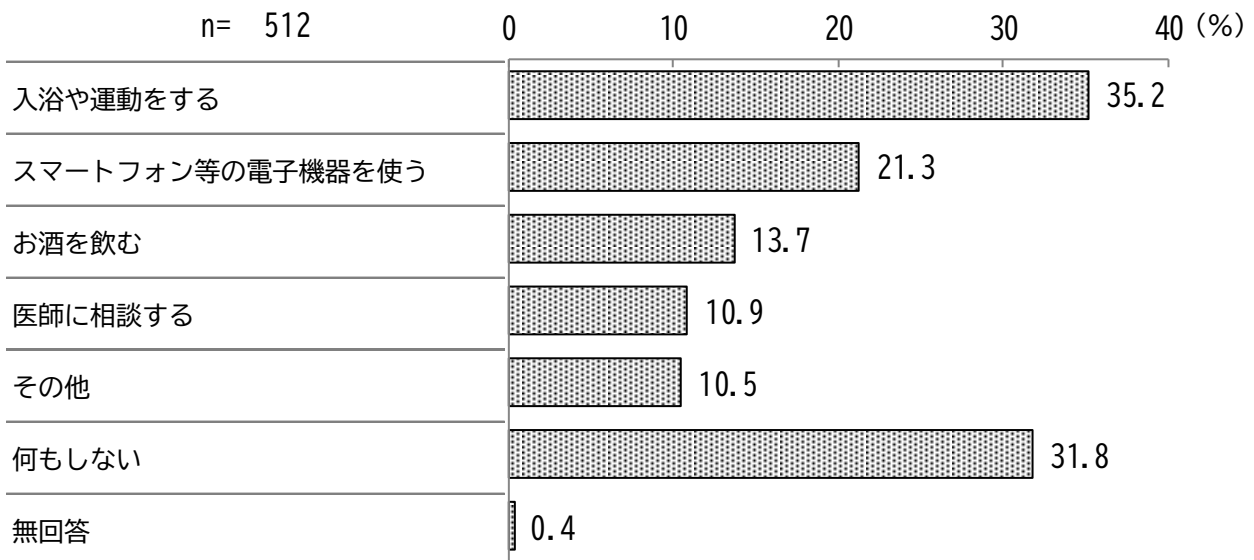
(5-1) 眠れない日が続いた時の対応

◇「入浴や運動をする」が3割台半ば

(問24で「1. よくある」か「2. ときどきある」とお答えの方に)

問24-1 眠れない日が続いた際はどのように対応していますか。(〇はいくつでも)

図 11-5-3 眠れない日が続いた時の対応

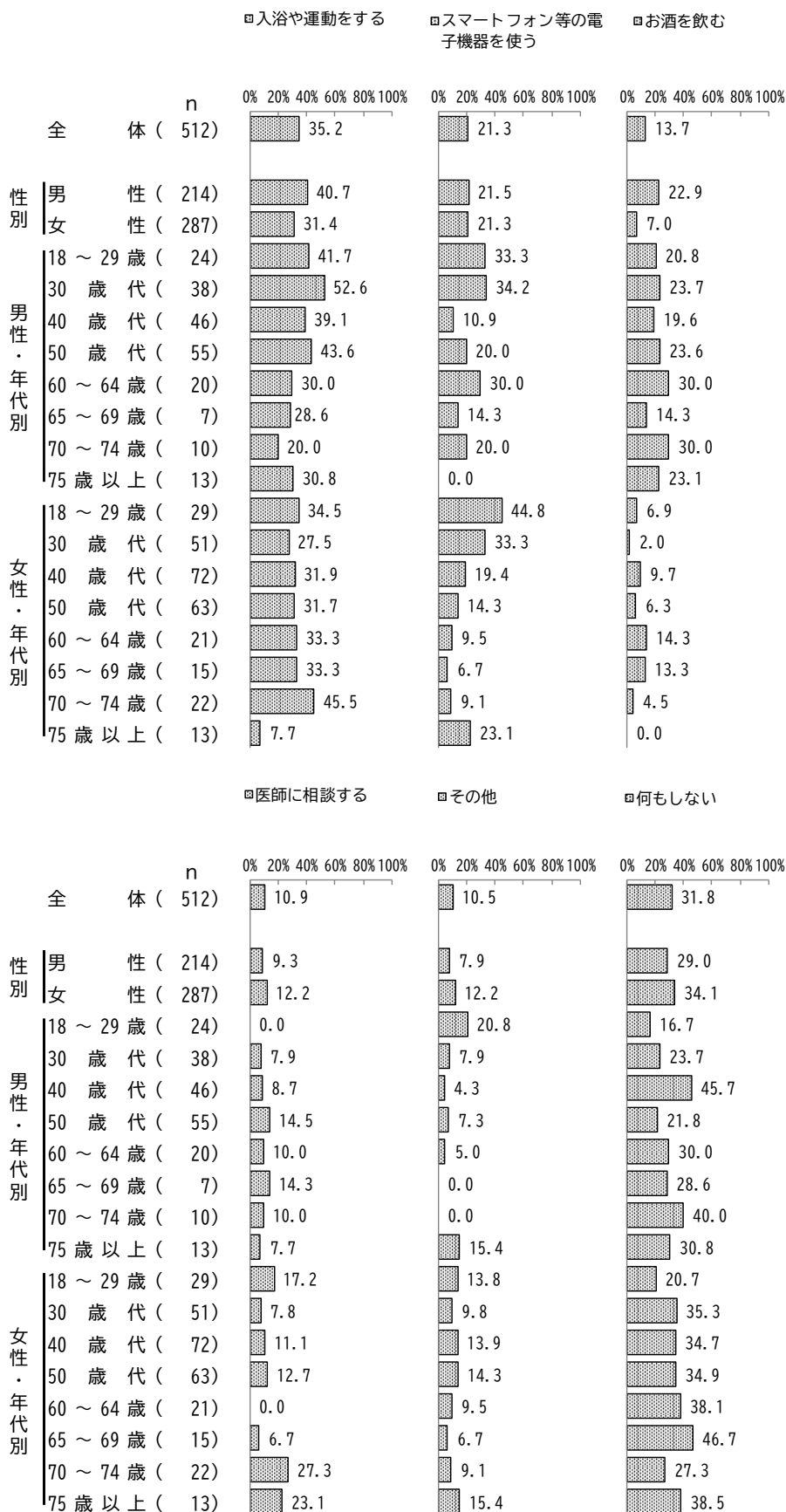


眠れない日が続いた時の対応について聞いたところ、「入浴や運動をする」(35.2%)が3割台半ばで最も高く、次いで「何もしない」(31.8%)、「スマートフォン等の電子機器を使う」(21.3%)となっている。(図 11-5-3)

その他を回答した方は 54 人おり、主な意見として「読書」、「瞑想」、「生活の見直し、休む時間を作る工夫をする」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「入浴や運動をする」は男性 30 歳代 (52.6%) が 5 割強で高くなっている。また、「スマートフォン等の電子機器を使う」は女性 18~29 歳 (44.8%) で 4 割台半ば近くと高くなっている。(図 11-5-4)

図 11-5-4 眠れない日が続いた時の対応 (性・年代別)

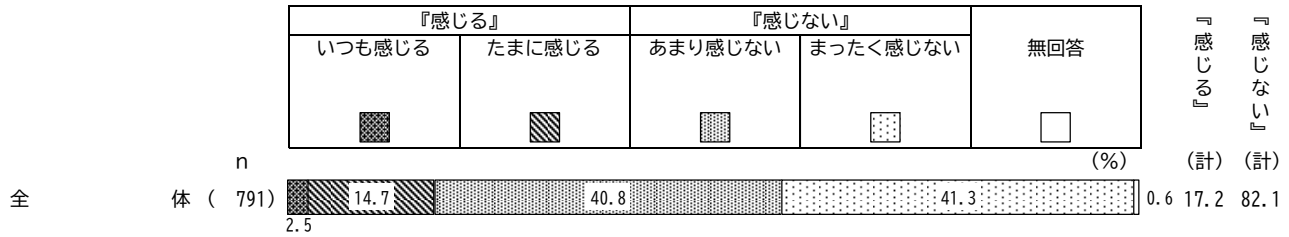


(6) 自分の居場所がないと感じることの有無

◇『感じない』が8割強

問25 あなたは普段の生活の中で「自分の居場所がない」と感じることはありますか。(○は1つ)

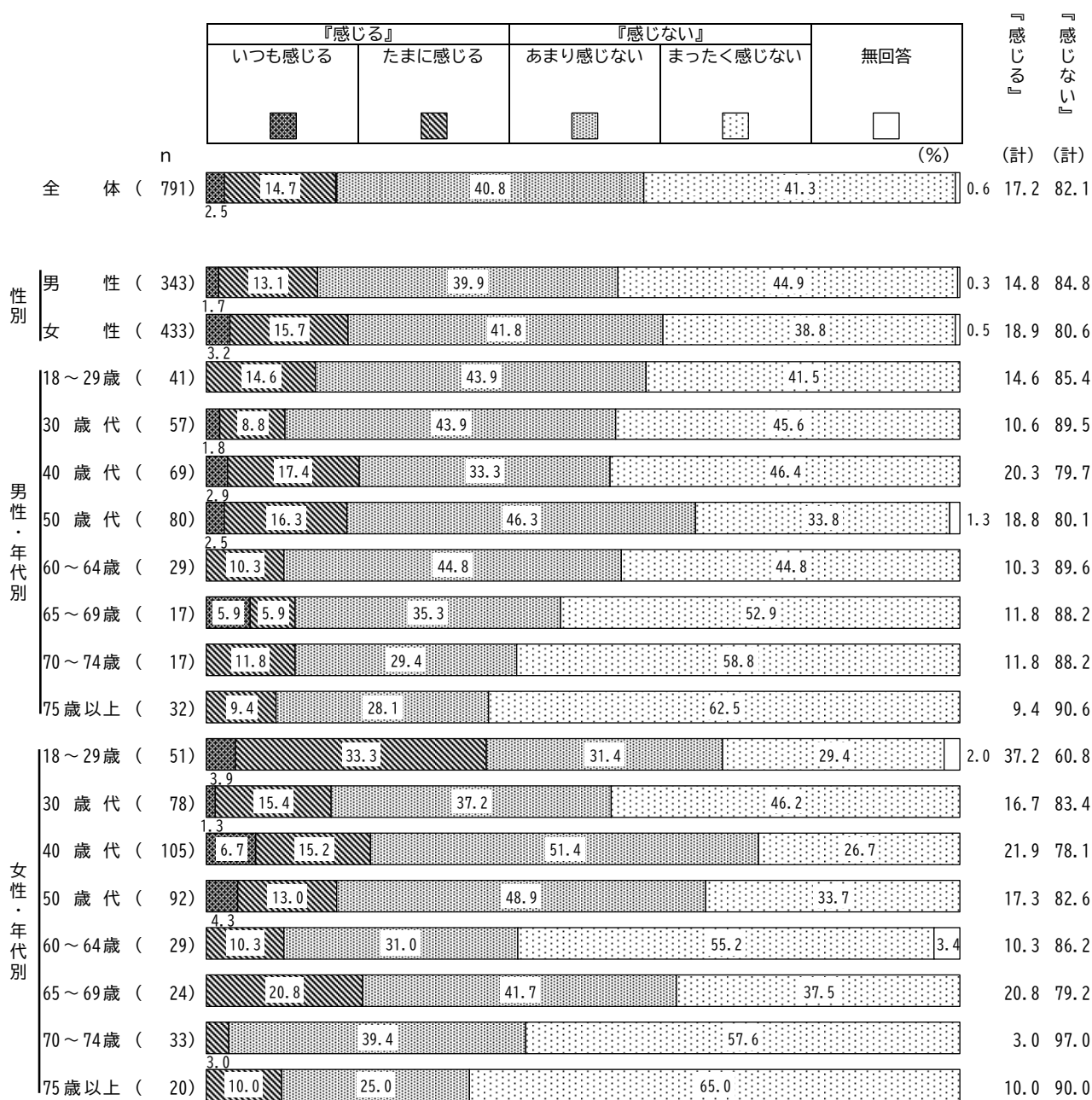
図 11-6-1 自分の居場所がないと感じることの有無



自分の居場所がないと感じることの有無について聞いたところ、「まったく感じない」(41.3%)が4割強で最も高く、これに「あまり感じない」(40.8%)を合わせた『感じない』(82.1%)は8割強となっている。一方、「たまに感じる」(14.7%)と「いつも感じる」(2.5%)を合わせた『感じる』(17.2%)は1割台半ばを超えている。(図 11-6-1)

性・年代別にみると、『感じる』は女性 18～29 歳（37.2%）で3割台半ばを超えと高くなっている。一方、『感じない』は女性 70～74 歳（97.0%）で9割台半ばを超えと高くなっている。（図 11-6-2）

図 11-6-2 自分の居場所がないと感じることの有無（性・年代別）

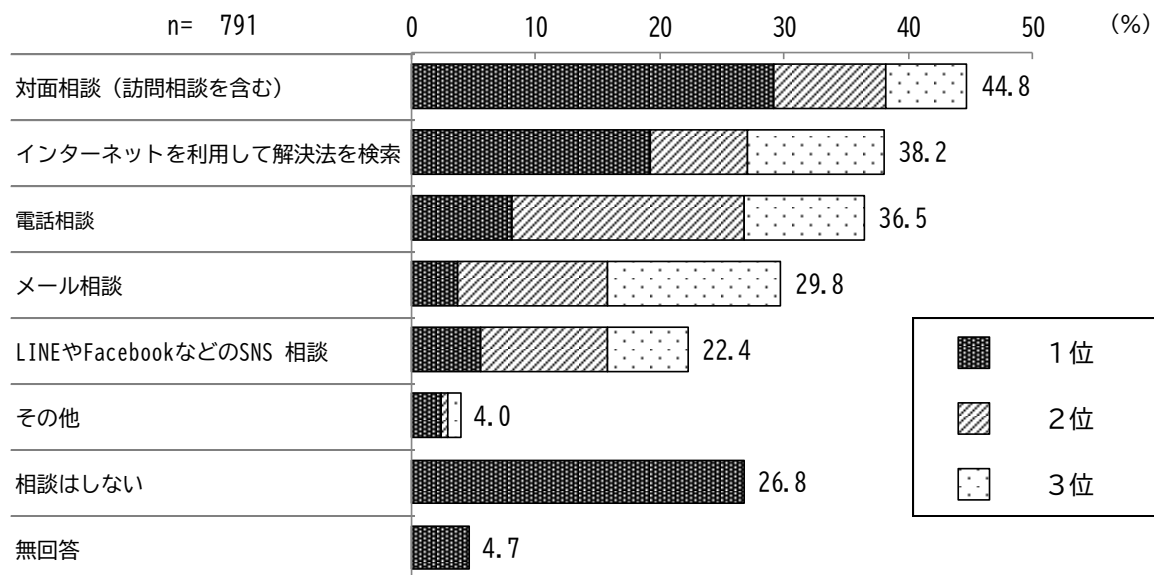


(7) 悩みを相談する手段

◇「対面相談（訪問相談を含む）」が4割台半ば近く

問26 あなたは悩みやストレスを感じた時に、どのような方法を利用して相談したいと思いますか。
(優先順位の高い順に3つ番号を記入してください。)

図 11-7-1 悩みを相談する手段

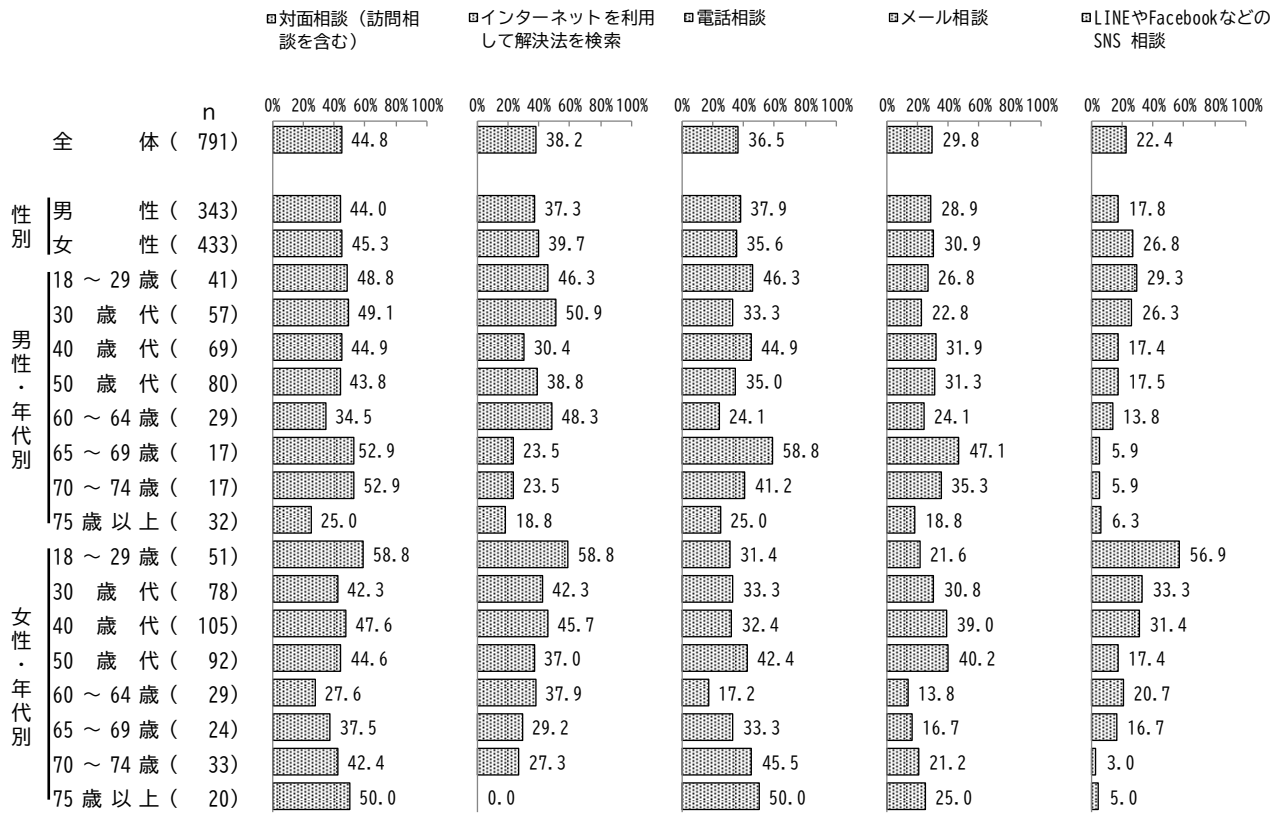


悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談（訪問相談を含む）」（44.8%）が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「インターネットを利用して解決法を検索」（38.2%）、「電話相談」（36.5%）となっている。（図 11-7-1）

その他を回答した方は32人おり、主な意見として「家族・友人」、「専門家」などが挙げられている。

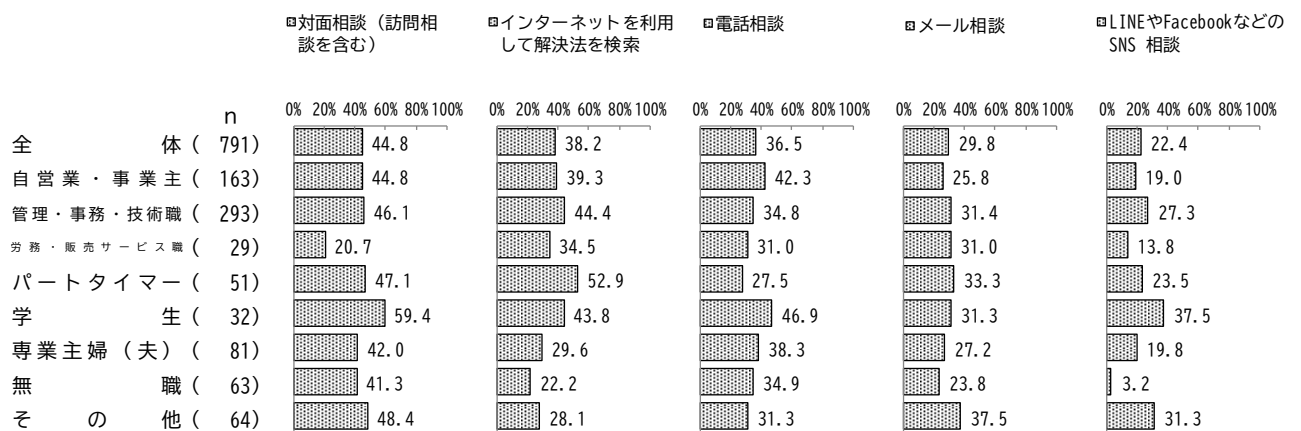
性・年代別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」、「インターネットを利用して解決法を検索」は女性18～29歳（58.8%）で6割近くと高くなっている。（図11-7-2）

図11-7-2 悩みを相談する手段（性・年代別）



職業別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」は学生（59.4%）で6割弱と高くなっている。また、「インターネットを利用して解決法を検索」はパートタイマー（52.9%）で5割強と高くなっている。（図11-7-3）

図11-7-3 悩みを相談する手段（職業別）



(8) 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

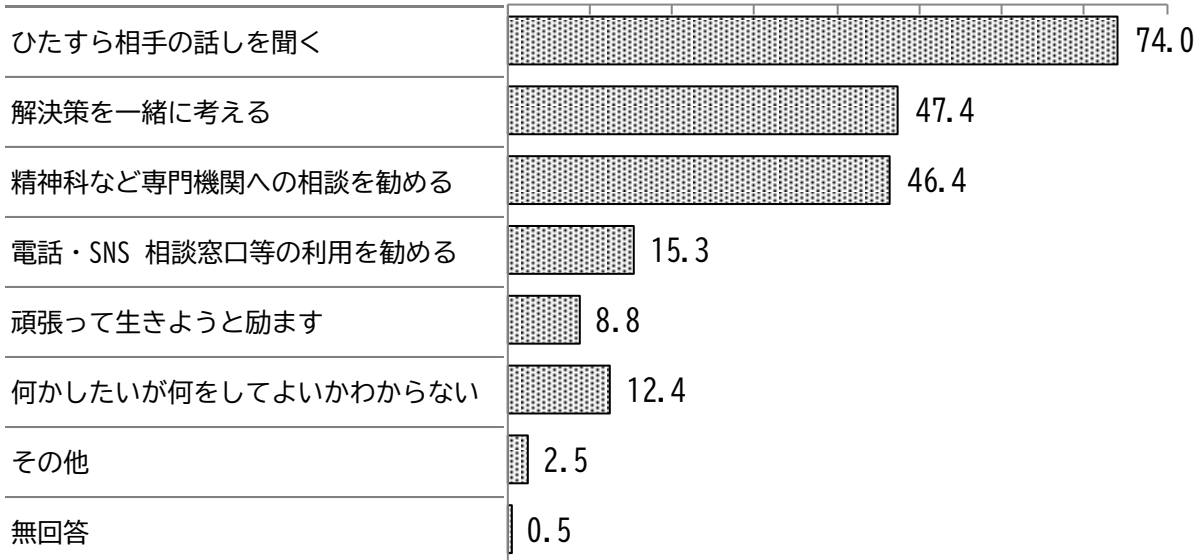
◇「ひたすら相手の話を聞く」が7割台半ば近く

問27 あなたはもし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どのように対応しますか。
(〇はいくつでも)

図 11-8-1 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

n= 791

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

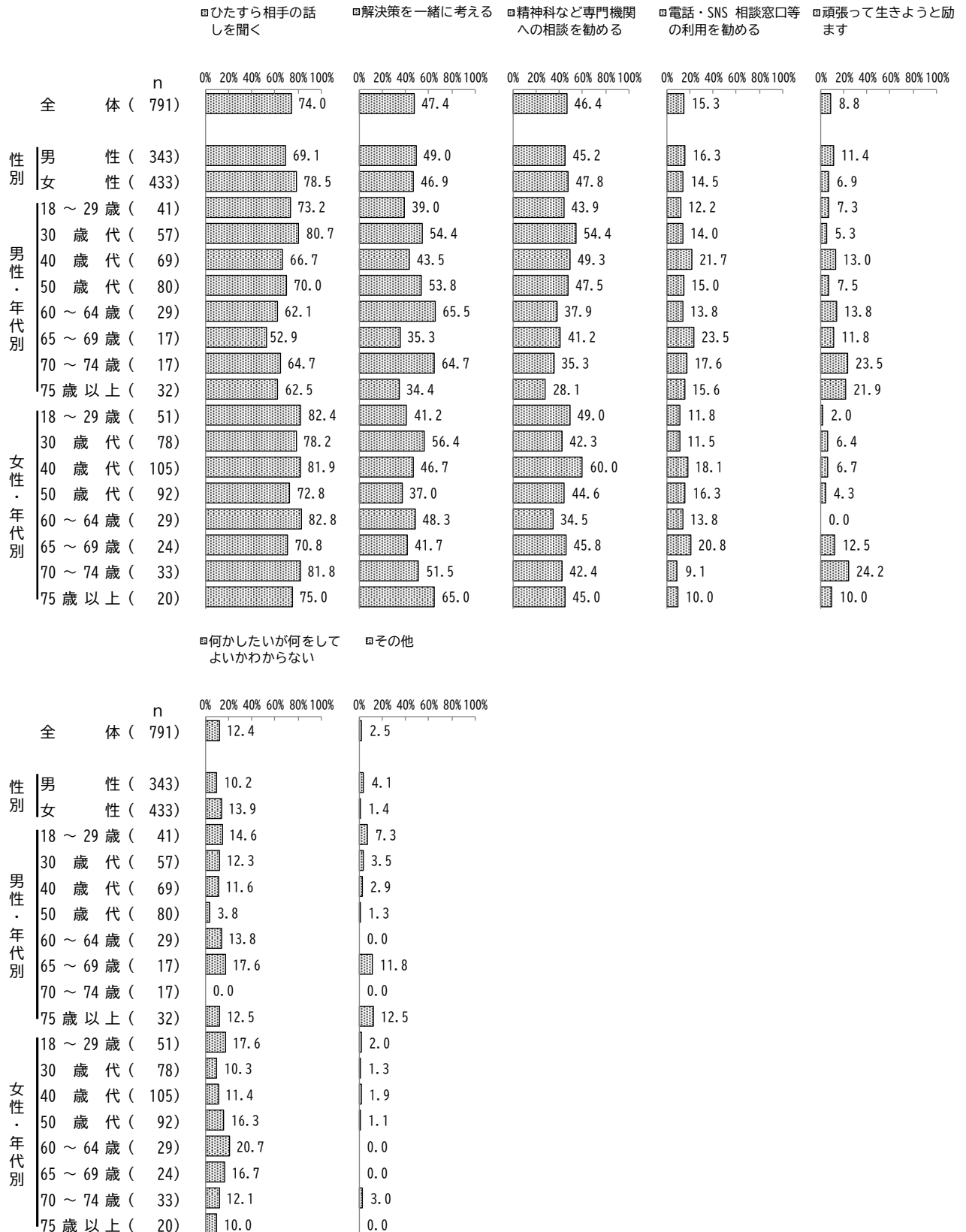


「死にたい」と打ち明けられた時の対応について聞いたところ、「ひたすら相手の話を聞く」(74.0%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「解決策を一緒に考える」(47.4%)、「精神科など専門機関への相談を勧める」(46.4%)となっている。一方、「何かしたいが何をしてもよくわからない」(12.4%)は1割強となっている。(図 11-8-1)

その他を回答した方は 20 人おり、主な意見として「個人の自由なので、そっと見守る」、「相手を尊重」などが挙げられている。

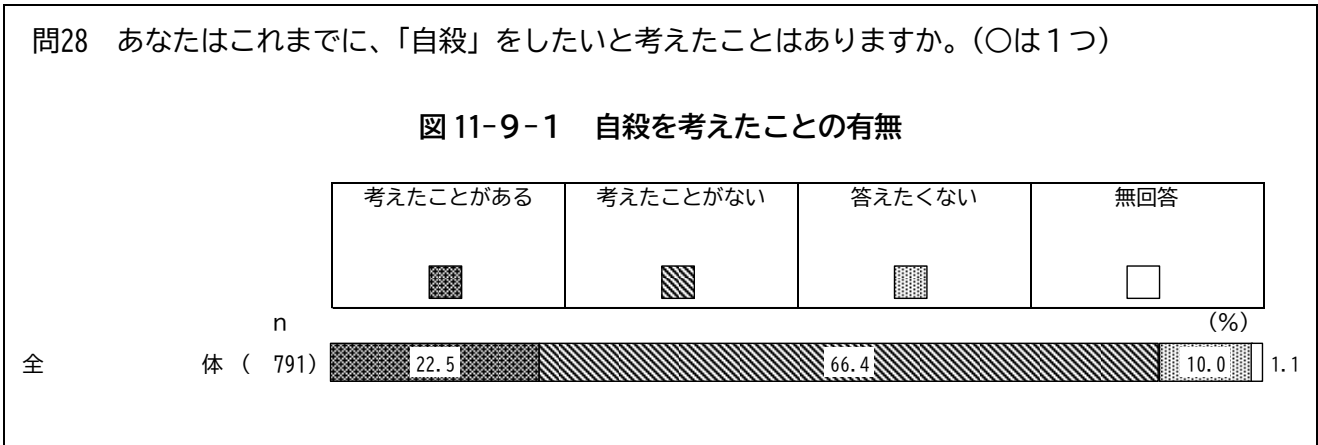
性・年代別にみると、「解決策を一緒に考える」は男性 60～64 歳 (65.5%)、女性 75 歳以上 (65.0%) で 6 割台半ばと高くなっている。また、「精神科など専門機関への相談を勧める」は女性 40 歳代 (60.0%) で 6 割、「頑張って生きようと励ます」は女性 70～74 歳 (24.2%)、男性 70～74 歳 (23.5%) で 2 割台半ば近くと高くなっている。(図 11-8-2)

図 11-8-2 「死にたい」と打ち明けられた時の対応 (性・年代別)



(9) 自殺を考えたことの有無

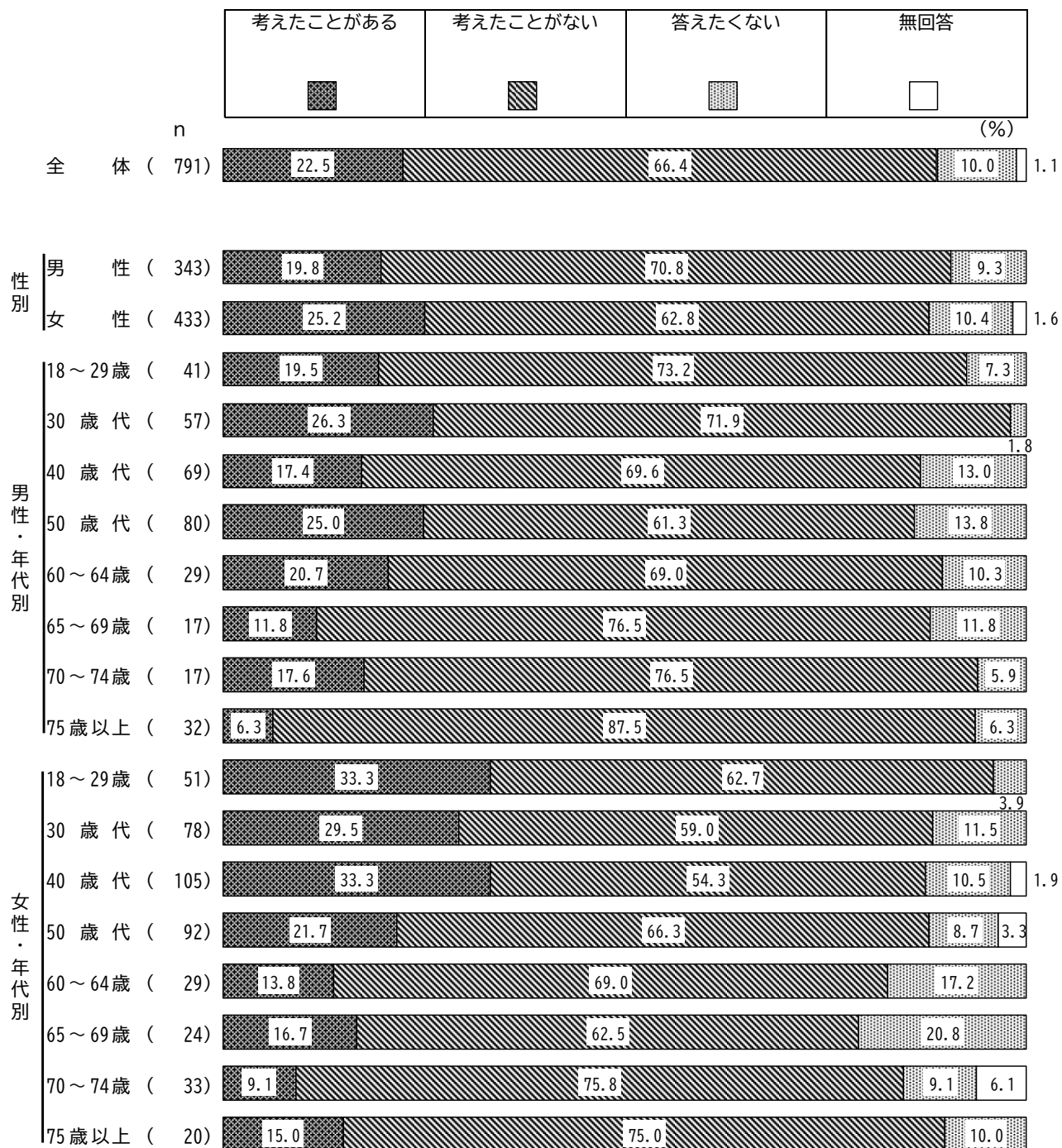
◇「考えたことがない」が6割台半ば超え



自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(66.4%)が6割台半ばを超え最も高く、「考えたことがある」(22.5%)が2割強、「答えたくない」(10.0%)が1割となっている。(図 11-9-1)

性・年代別にみると、「考えたことがない」は男性75歳以上（87.5%）で8割台半ばを超えと高くなっている。一方、「考えたことがある」は女性18～29歳、女性40歳代（33.3%）で3割台半ば近くと高くなっている。（図11-9-2）

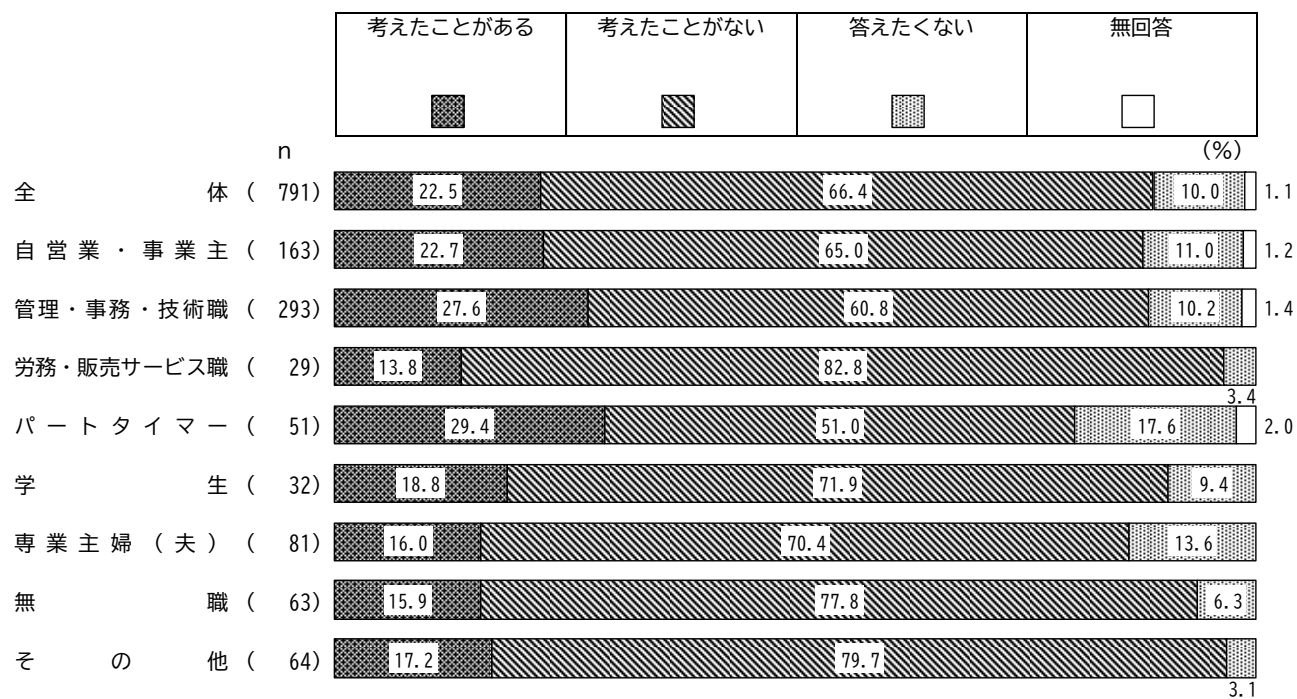
図11-9-2 自殺を考えたことの有無（性・年代別）



職業別にみると、「考えたことがない」は労務・販売サービス職（82.8%）で8割強と高くなっている。一方、「考えたことがある」はパートタイマー（29.4%）で3割弱と高くなっている。

（図 11-9-3）

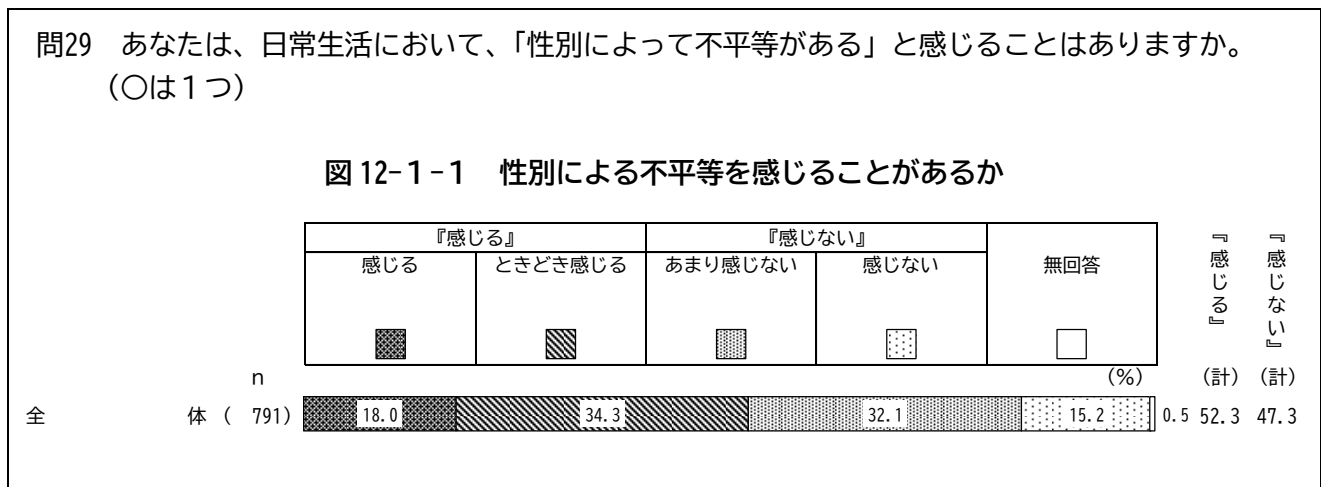
図 11-9-3 自殺を考えたことの有無（職業別）



12. 男女平等、人権

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

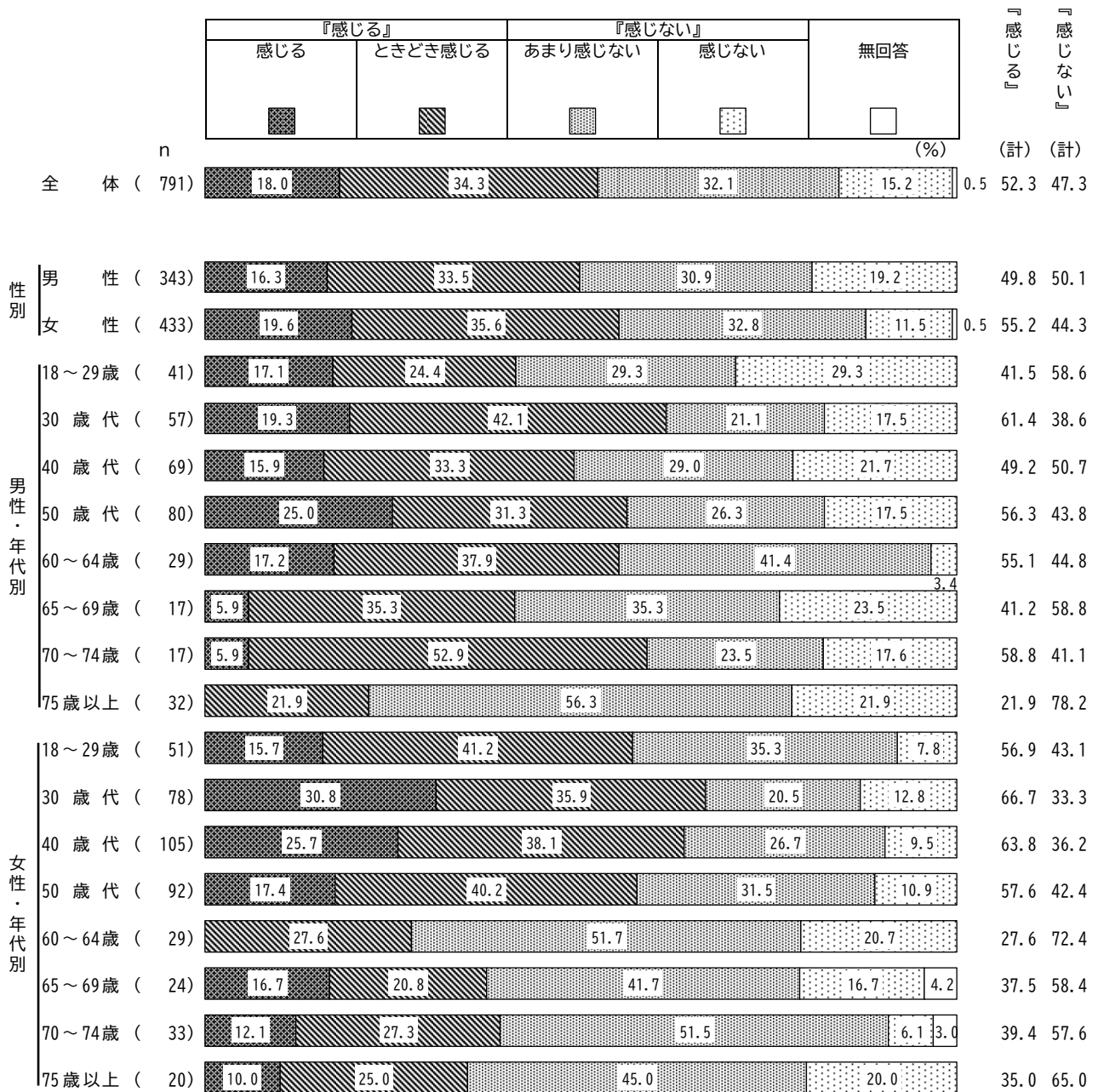
◇性別による不平等を『感じる』が5割強



日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはあるかを聞いたところ、「ときどき感じる」(34.3%)が3割台半ば近くと最も高く、これに「感じる」(18.0%)を合わせた『感じる』(52.3%)は5割強となっている。一方、「感じない」(15.2%)と「あまり感じない」(32.1%)を合わせた『感じない』(47.3%)は4割台半ばを超えている。(図 12-1-1)

性・年代別にみると、性別による不平等を『感じない』は男性 75 歳以上 (78.2%) で 8 割近くと高くなっている。一方、性別による不平等を『感じる』は女性 30 歳代 (66.7%) で 6 割台半ばを超えと高くなっている。(図 12-1-2)

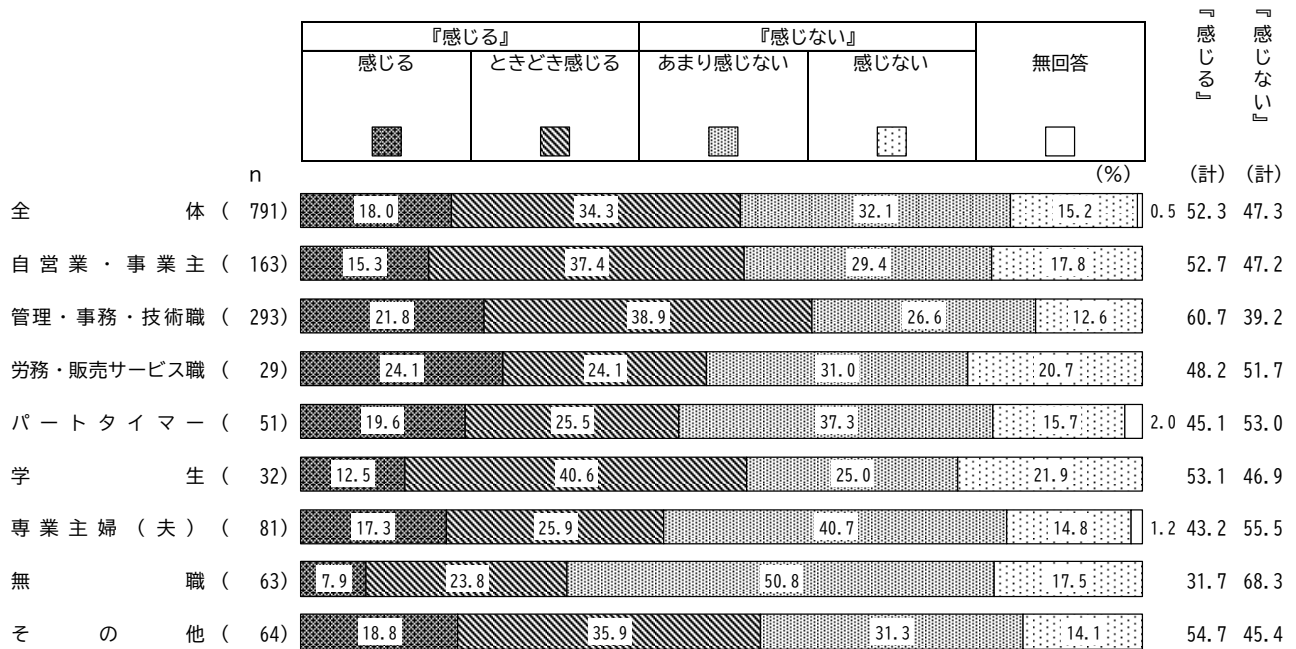
図 12-1-2 性別による不平等を感じることもあるか (性・年代別)



職業別にみると、性別による不平等を『感じない』は無職（68.3%）で7割近くと高くなっている。一方、性別による不平等を『感じる』は管理・事務・技術職（60.7%）で約6割と高くなっている。

（図 12-1-3）

図 12-1-3 性別による不平等を感じることもあるか（職業別）

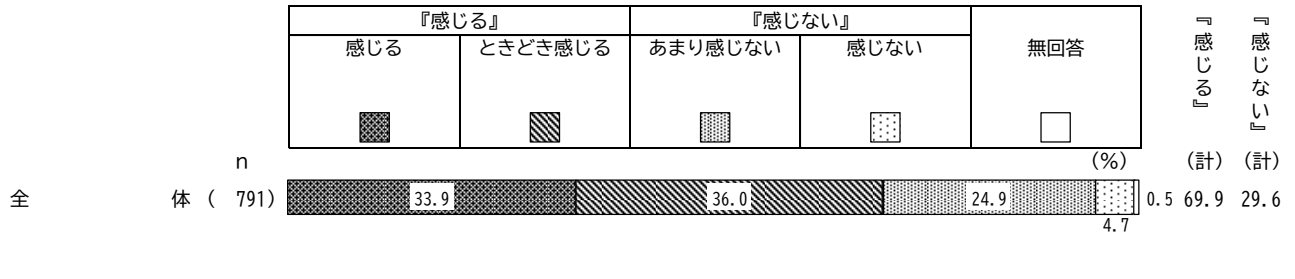


(2) 人権が尊重されている社会だと感じるか

◇人権が尊重されている社会であると『感じる』が7割弱

問30 あなたのまわりでは、人権が尊重されている社会であると思いますか。(○は1つ)

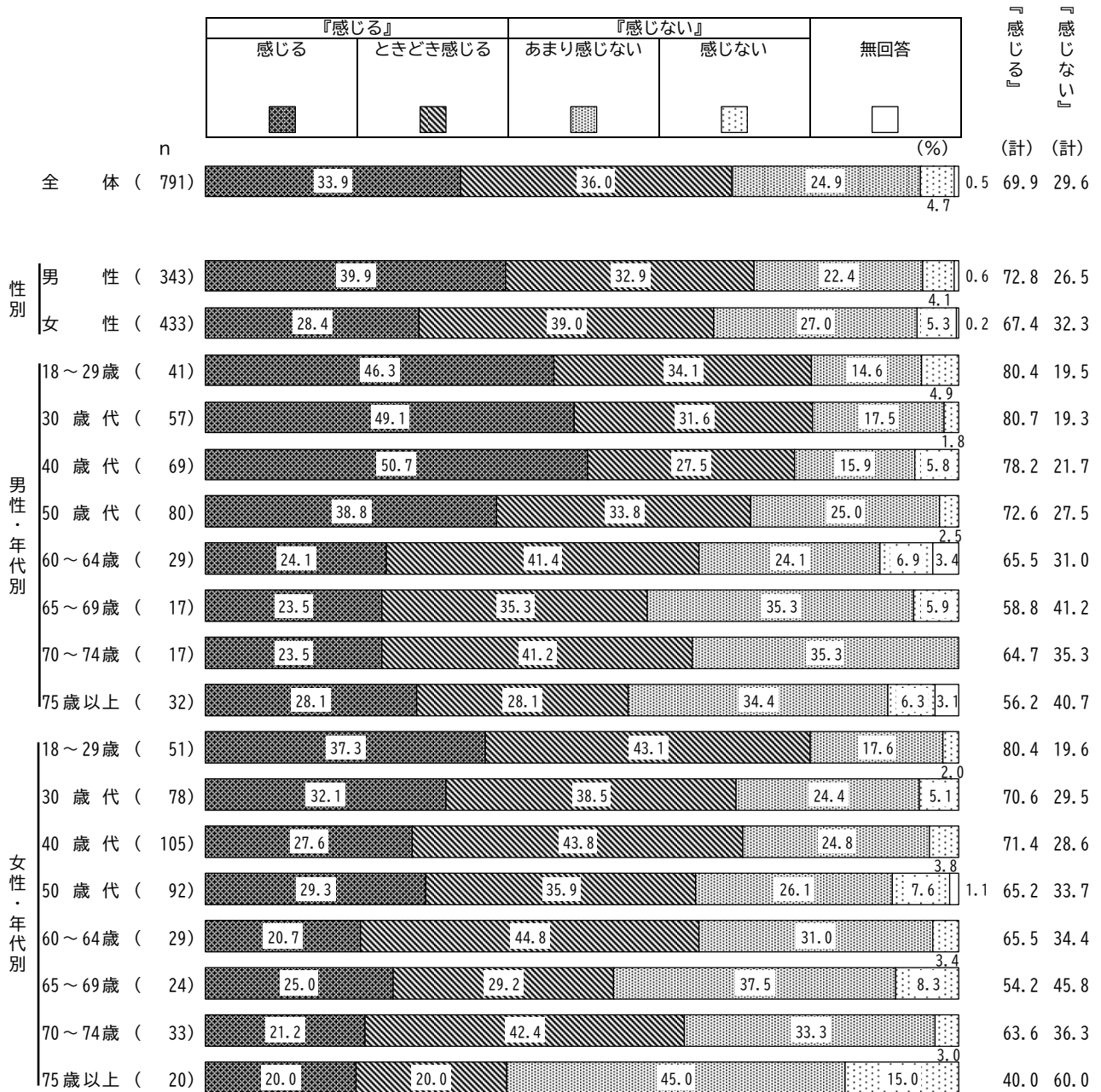
図 12-2-1 人権が尊重されている社会だと思うか



人権が尊重されている社会だと感じるか聞いたところ、「ときどき感じる」(36.0%)が3割台半ば越えと最も高く、これに「感じる」(33.9%)を合わせた『感じる』(69.9%)は7割弱となっている。一方、「あまり感じない」(24.9%)と「感じない」(4.7%)を合わせた『感じない』(29.6%)は3割弱となっている。(図 12-2-1)

性・年代別にみると、人権が尊重されている社会であると『感じる』は男性30歳代（80.7%）、男女とも18～29歳（80.4%）で約8割と高くなっている。一方、人権が尊重されている社会であると『感じない』は女性75歳以上（60.0%）で6割と高くなっている。（図12-2-2）

図12-2-2 人権が尊重されている社会だと思うか（性・年代別）

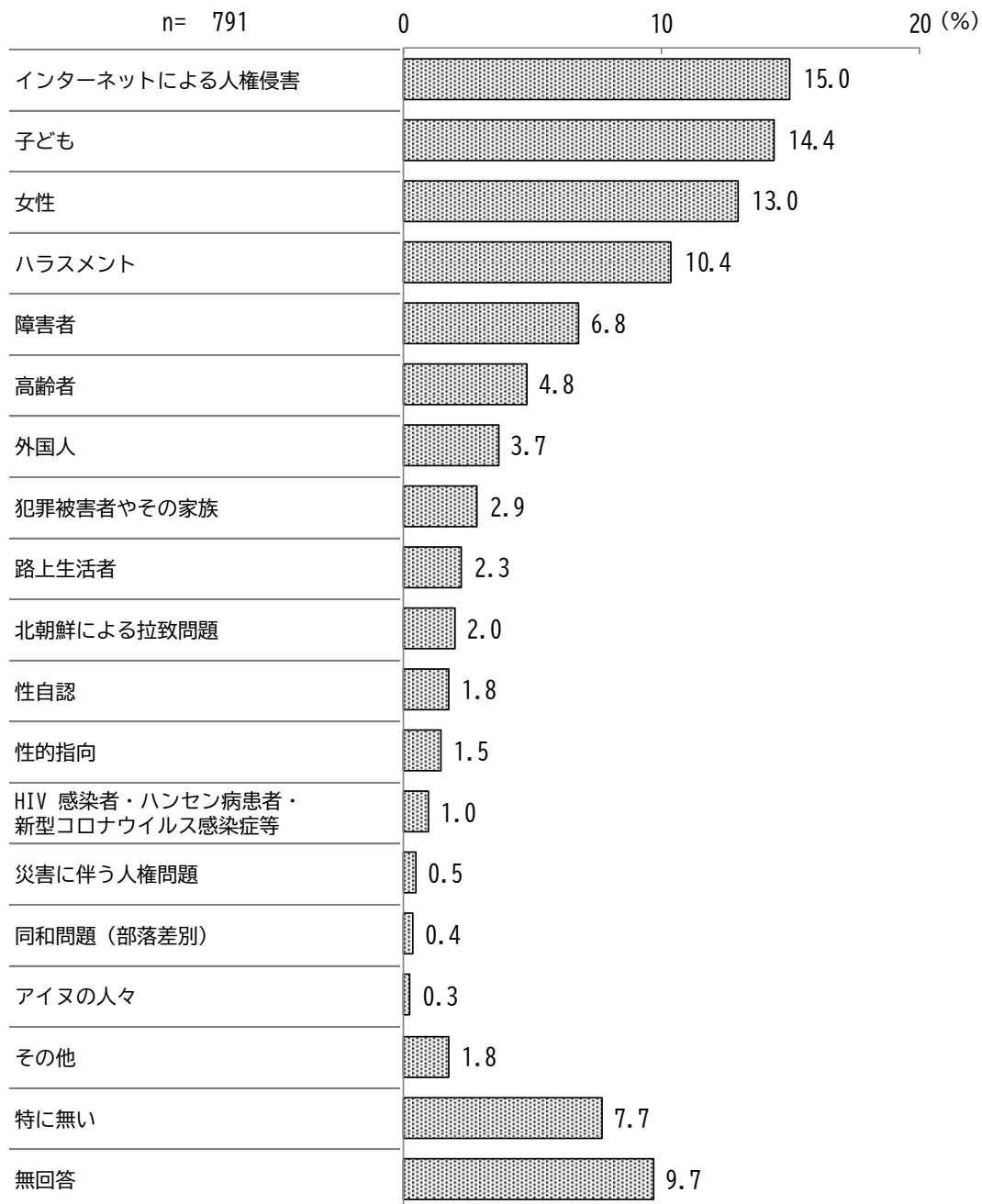


(3) 最も関心のある人権問題

◇「インターネットによる人権侵害」が1割台半ば

問31 人権問題で最も関心のあるものは次のうちのどれですか。(〇は1つ)

図 12-3-1 最も関心のある人権問題

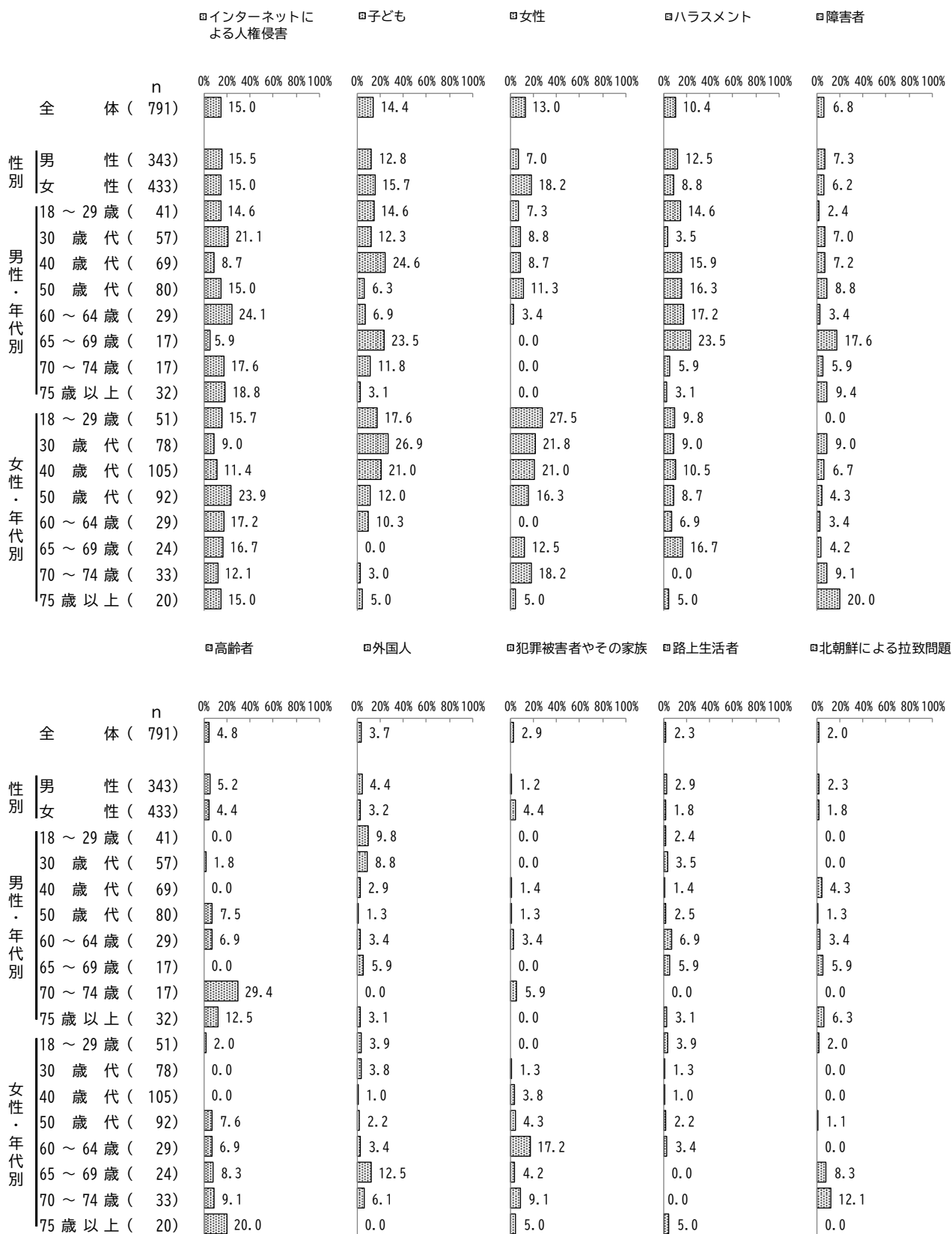


人権問題で最も関心のあるものを聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」(15.0%)が1割台半ばと最も高く、次いで「子ども」(14.4%)、「女性」(13.0%)と続いている。(図 12-3-1)

その他を回答した方は 14 人おり、主な意見として「雇用」、「所得」、「犯罪加害者・出所者」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「高齢者」は男性70～74歳（29.4%）で3割弱と高くなっている。また、「子ども」は女性30歳代（26.9%）で2割台半ば超え、「女性」は女性18～29歳（27.5%）で2割台半ば超えと高くなっている。（図12-3-2）

図12-3-2 最も関心のある人権問題（性・年代別）

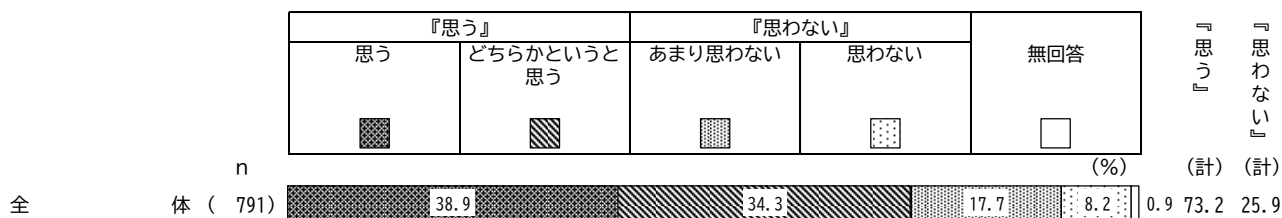


(4) LGBTQについて正しく理解したいと思うか

◇LGBTQについて正しく理解したいと『思う』は7割台半ば近く

問32 誰もが自分らしく生きるために、あなたはLGBTQ（エルジービーティーキュー）について正しく理解したいと思いますか。（○は1つ）

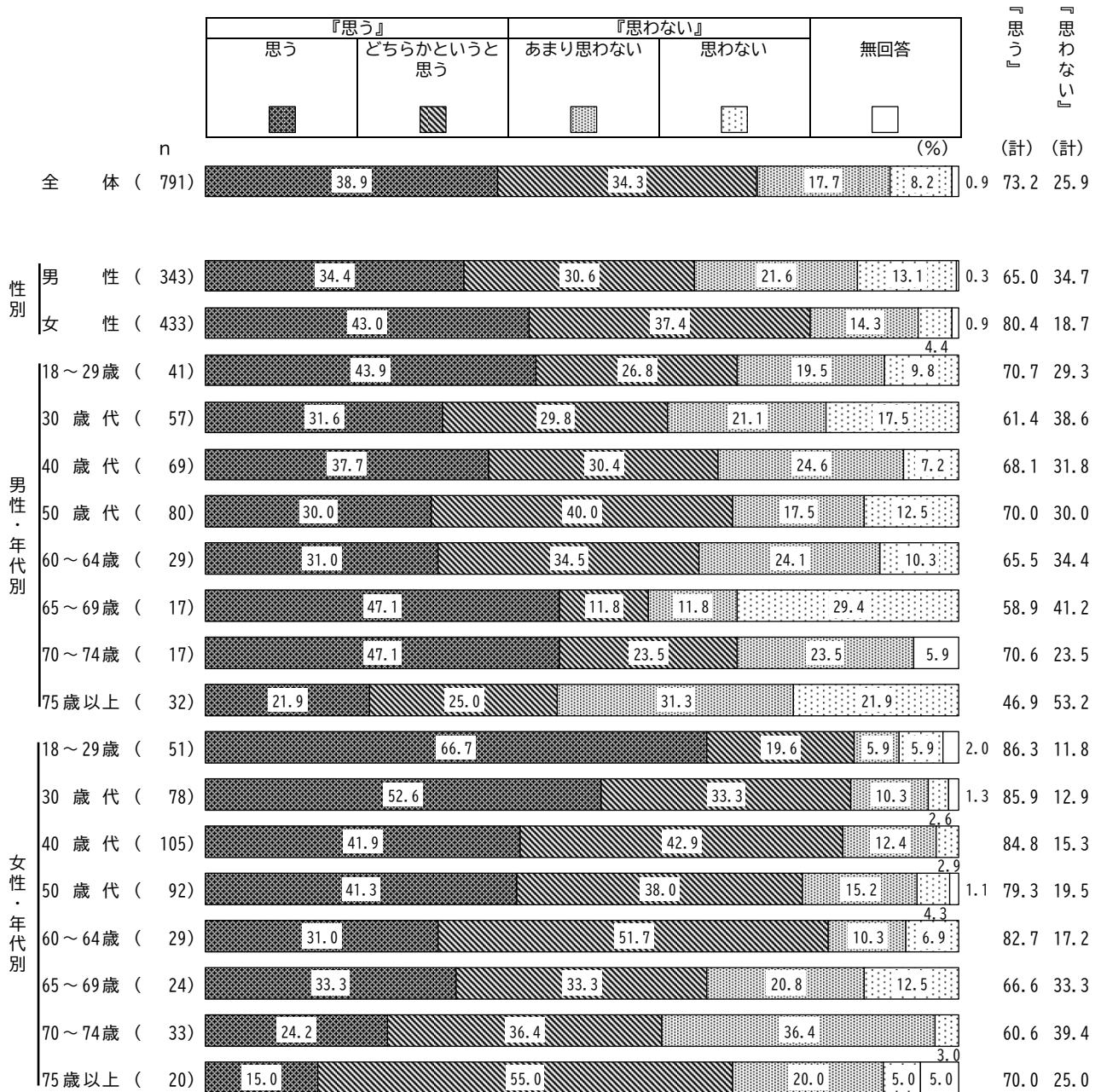
図 12-4-1 LGBTQについて正しく理解したいと思うか



LGBTQについて正しく理解したいと思うかを聞いたところ、「思う」(38.9%)が4割近くと最も高く、これに「どちらかというと思う」(34.3%)を合わせた『思う』(73.2%)は7割台半ば近くとなっている。一方、「あまり思わない」(17.7%)と「思わない」(8.2%)を合わせた『思わない』(25.9%)は2割台半ばとなっている。(図 12-4-1)

性・年代別にみると、LGBTQについて正しく理解したいと『思う』は女性18～29歳（86.3%）で8割台半ばを超えと高くなっている。一方、LGBTQについて正しく理解したいと『思わない』は男性75歳以上（53.2%）で5割強と高くなっている。（図12-4-2）

図12-4-2 LGBTQについて正しく理解したいと思うか（性・年代別）



(5) 同性のパートナーの権利について

◇同性のパートナーの権利が認められるべきだと『思う』は7割台半ば超え

問33 同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思いますか。
(○は1つ)

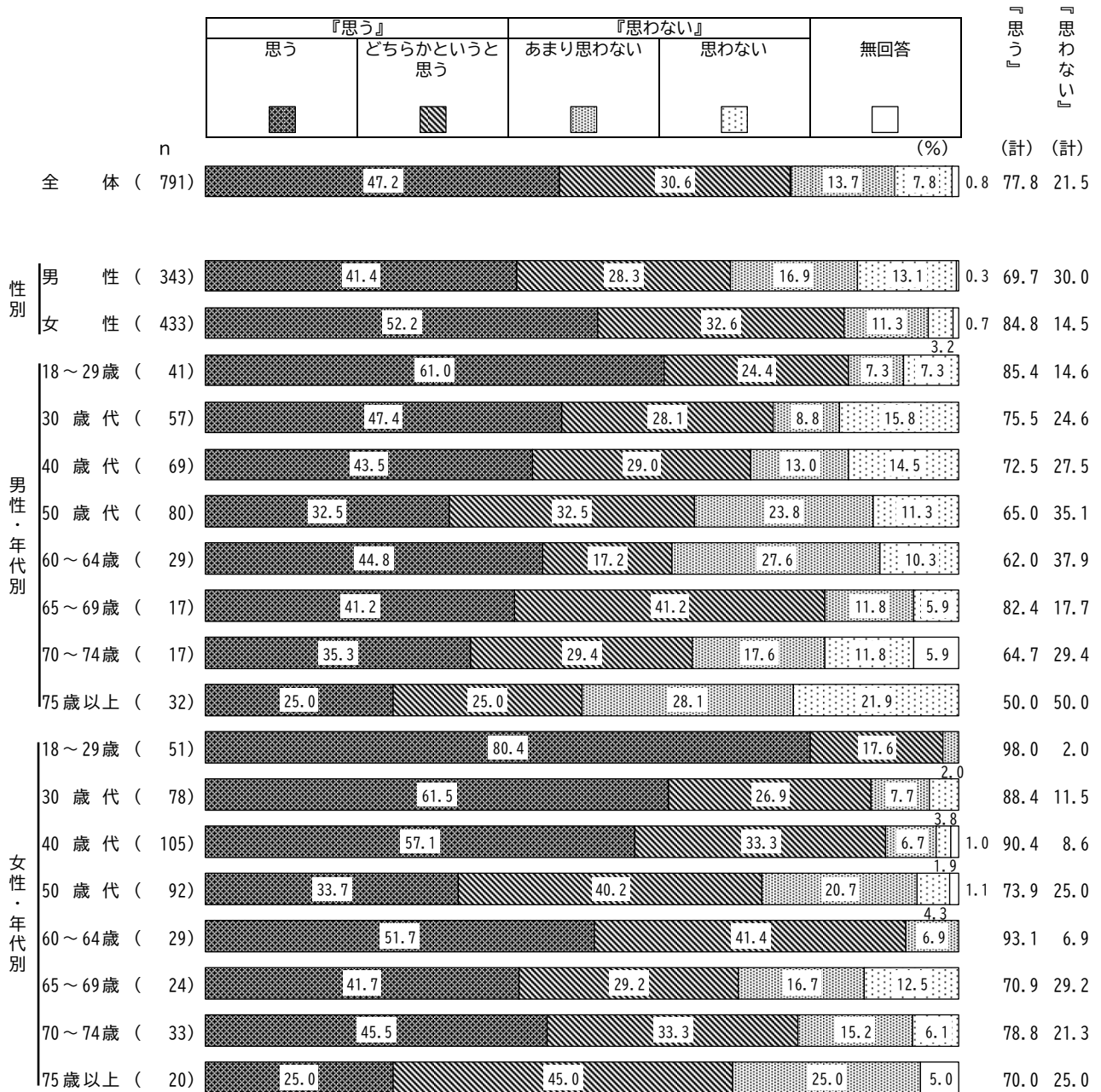
図 12-5-1 同性のパートナーの権利について



同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うかを聞いたところ、「思う」(47.2%)が4割台半ば超えと最も高く、これに「どちらかというと思う」(30.6%)を合わせた『思う』(77.8%)は7割台半ば超えとなっている。一方、「あまり思わない」(13.7%)と「思わない」(7.8%)を合わせた『思わない』(21.5%)は2割強となっている。(図 12-5-1)

性・年代別にみると、同性のパートナーの権利が認められるべきだと『思う』は女性18～29歳(98.0%)で10割近くと高くなっている。一方、同性のパートナーの権利が認められるべきだと『思わない』は男性75歳以上(50.0%)で5割と高くなっている。(図12-5-2)

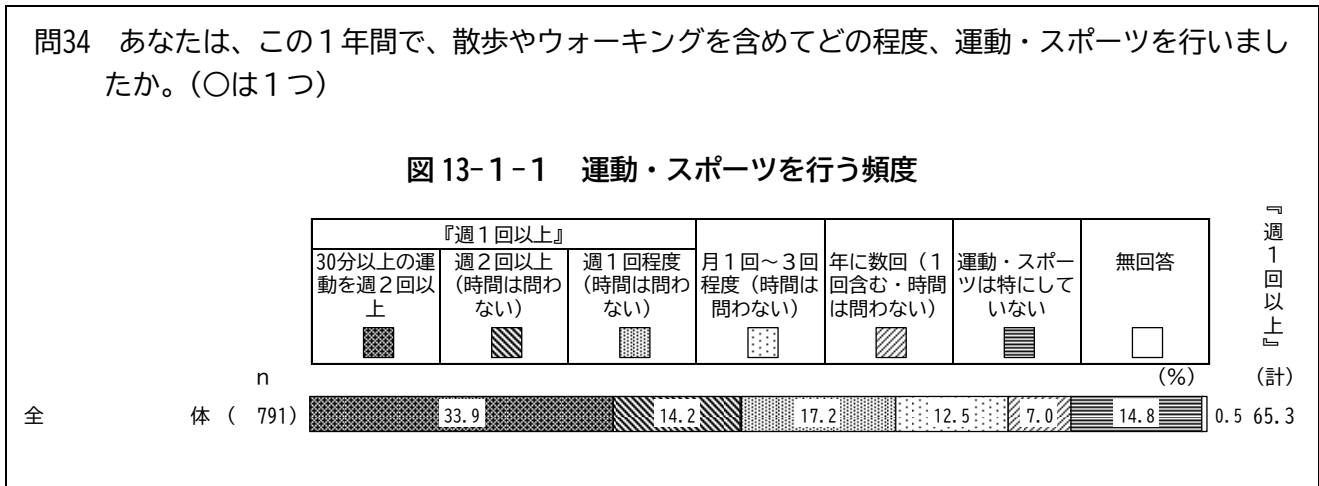
図12-5-2 同性のパートナーの権利について(性・年代別)



13. スポーツ実施率

(1) 運動・スポーツを行う頻度

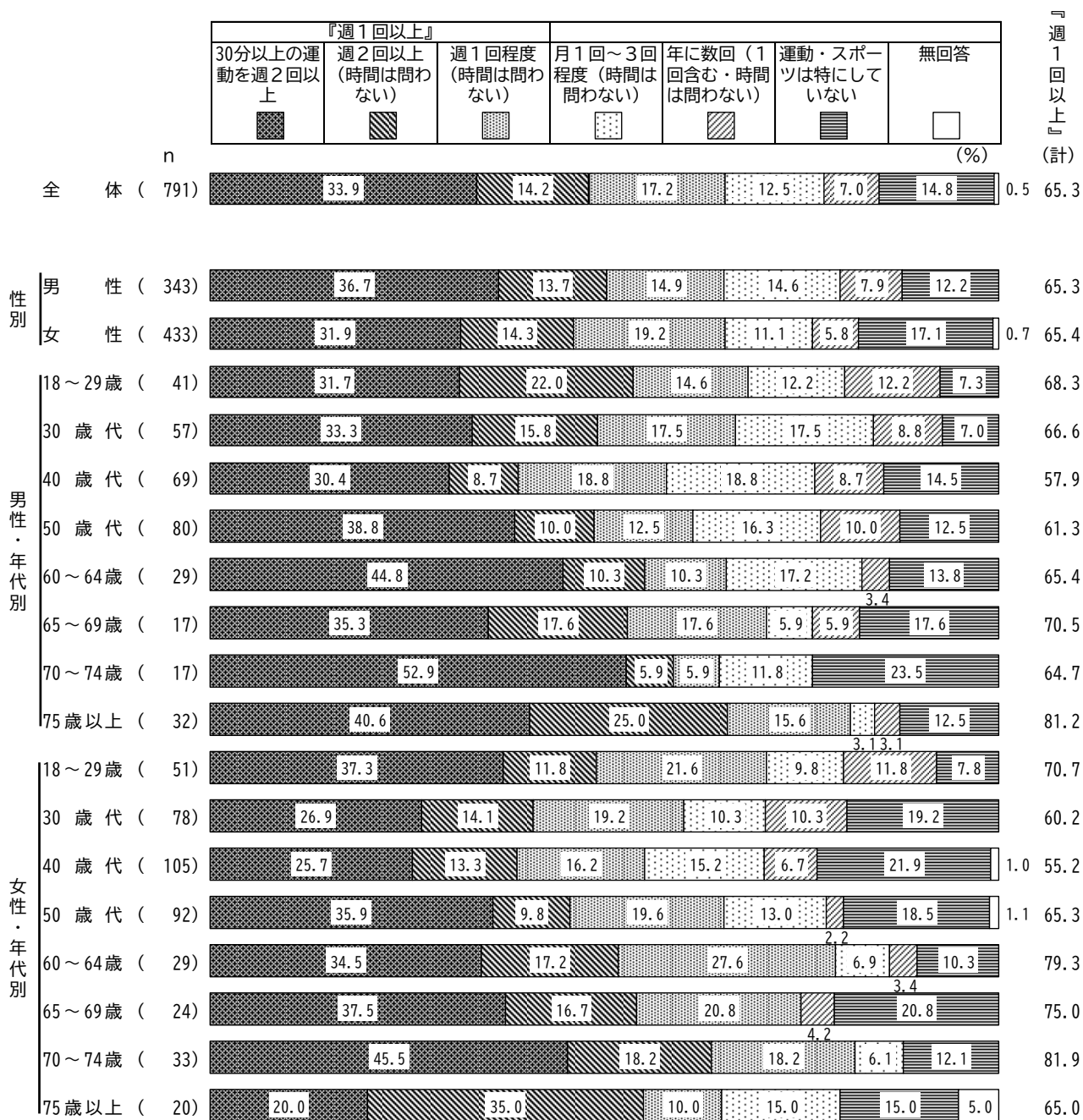
◇『週1回以上』が6割台半ば



この1年間で、散歩やウォーキングを含めてどの程度、運動・スポーツを行ったかを聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(33.9%)が3割台半ば近くと最も高く、これに「週2回以上(時間は問わない)」(14.2%)と「週1回程度(時間は問わない)」(17.2%)を合わせた『週1回以上』(65.3%)は6割台半ばとなっている。(図13-1-1)

性・年代別にみると、『週1回以上』は女性70～74歳（81.9%）、男性75歳以上（81.2%）で8割強と高くなっている。（図13-1-2）

図13-1-2 運動・スポーツを行う頻度（性・年代別）



(1-1) この1年間に行った運動・スポーツ

◇「ウォーキング」が6割台半ば

(問34で「1. 30分以上の運動を週2回以上」「2. 週2回以上(時間は問わない)」「3. 週1回程度(時間は問わない)」「4. 月1回~3回程度(時間は問わない)」とお答えの方に)
 問34-1 あなたが、この1年間に行った主な運動・スポーツは何ですか。(○は3つまで)

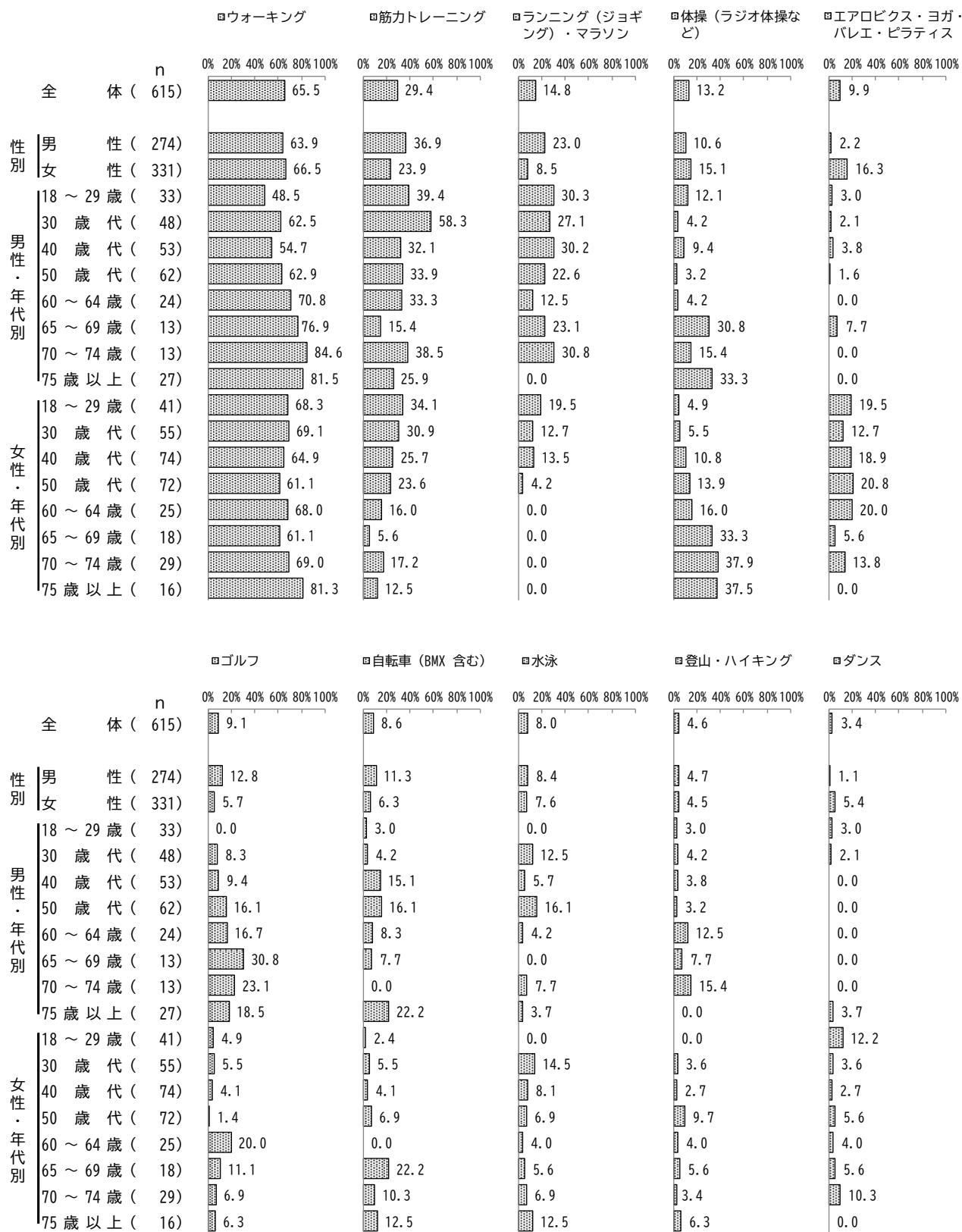
図 13-1-3 この1年間に行った運動・スポーツ



この1年間に行った運動・スポーツを聞いたところ、「ウォーキング」(65.5%)が6割台半ばと最も高く、次いで「筋力トレーニング」(29.4%)、「ランニング(ジョギング)・マラソン」(14.8%)と続いている。(図 13-1-3)

性・年代別にみると、「筋力トレーニング」は男性30歳代(58.3%)で6割近くと高くなっている。また、「自転車(BMX含む)」は男性75歳以上(22.2%)、女性65~69歳(22.2%)で2割強と高くなっている。(図13-1-4)

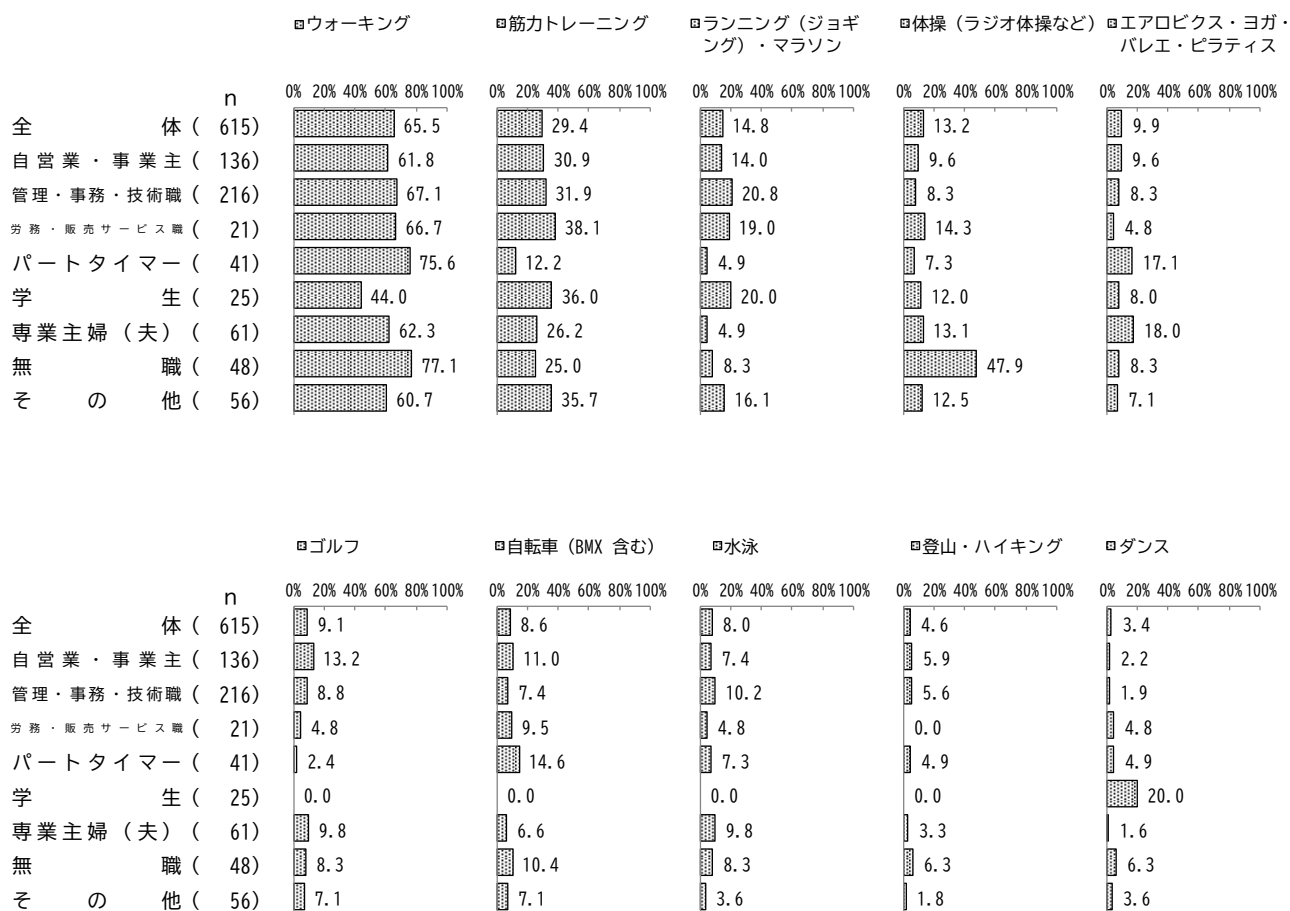
図13-1-4 この1年間に行った運動・スポーツ(性・年代別)



職業別にみると、「体操（ラジオ体操）」は無職（47.9%）で4割台半ばを超えと高くなっている。

（図13-1-5）

図13-1-5 この1年間に行った運動・スポーツ（職業別）

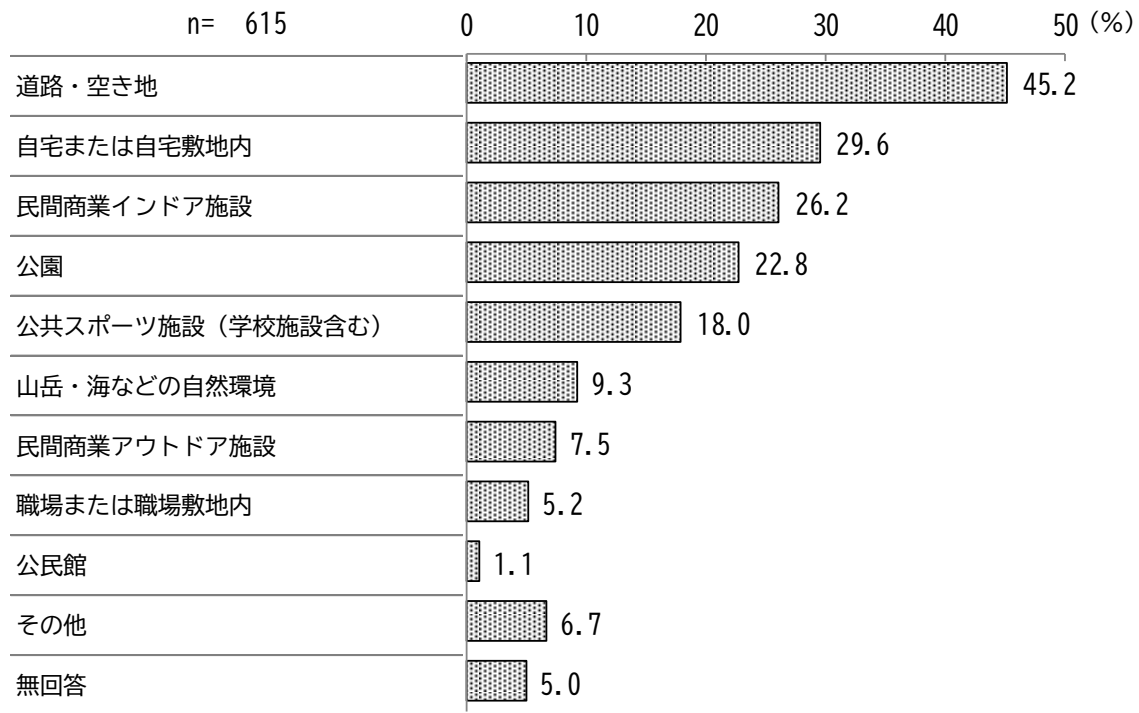


(1-2) この1年間に運動・スポーツを行った場所

◇「道路・空き地」が4割台半ば

(問34で「1. 30分以上の運動を週2回以上」「2. 週2回以上(時間は問わない)」「3. 週1回程度(時間は問わない)」「4. 月1回~3回程度(時間は問わない)」とお答えの方に)
問34-2 あなたが、この1年間に運動・スポーツを実施した場所はどこですか。(○は3つまで)

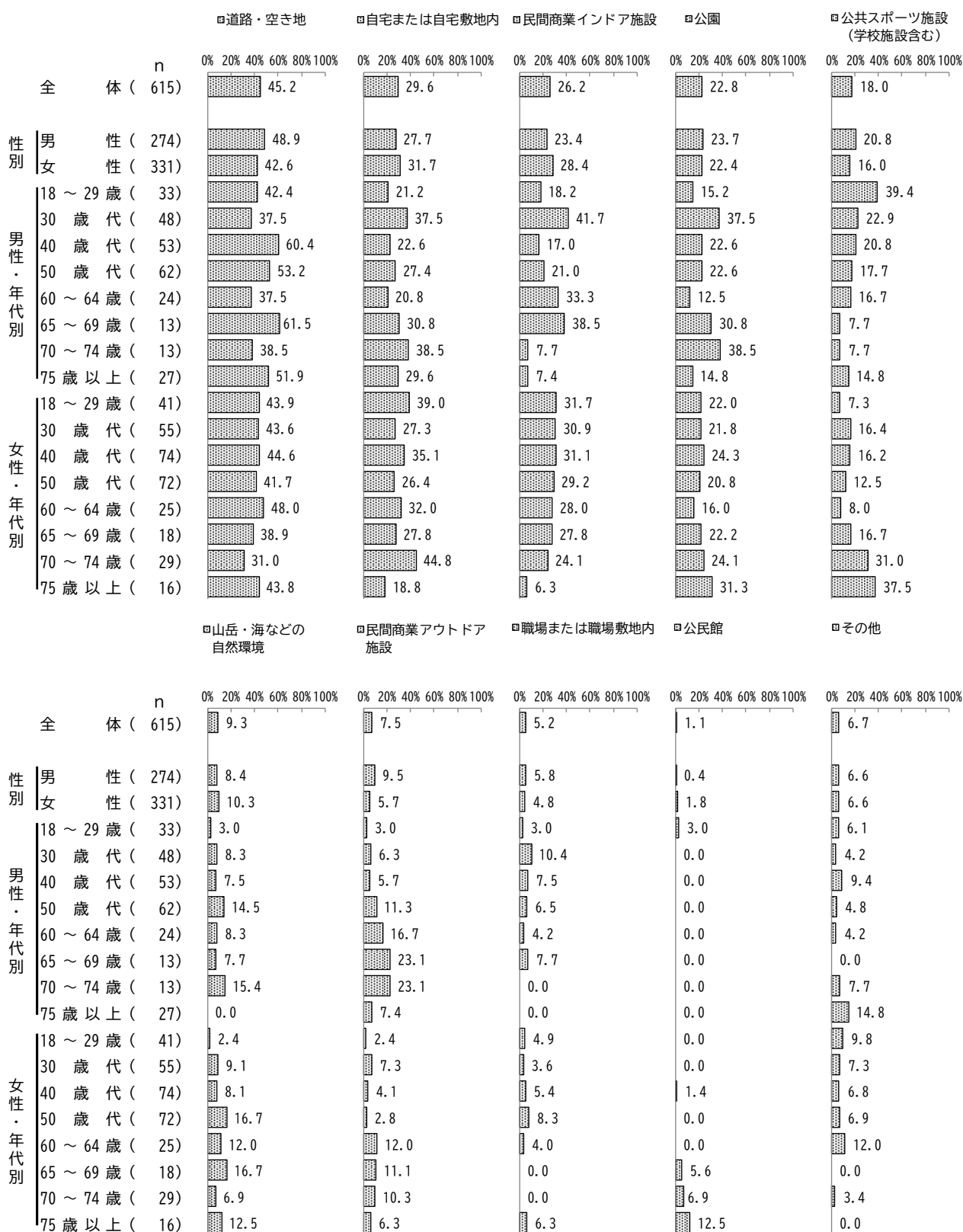
図 13-1-6 この1年間に運動・スポーツを行った場所



この1年間に運動・スポーツを行った場所を聞いたところ、「道路・空き地」(45.2%)が4割台半ばと最も高く、次いで「自宅または自宅敷地内」(29.6%)、「民間商業インドア施設」(26.2%)と続いている。(図 13-1-6)

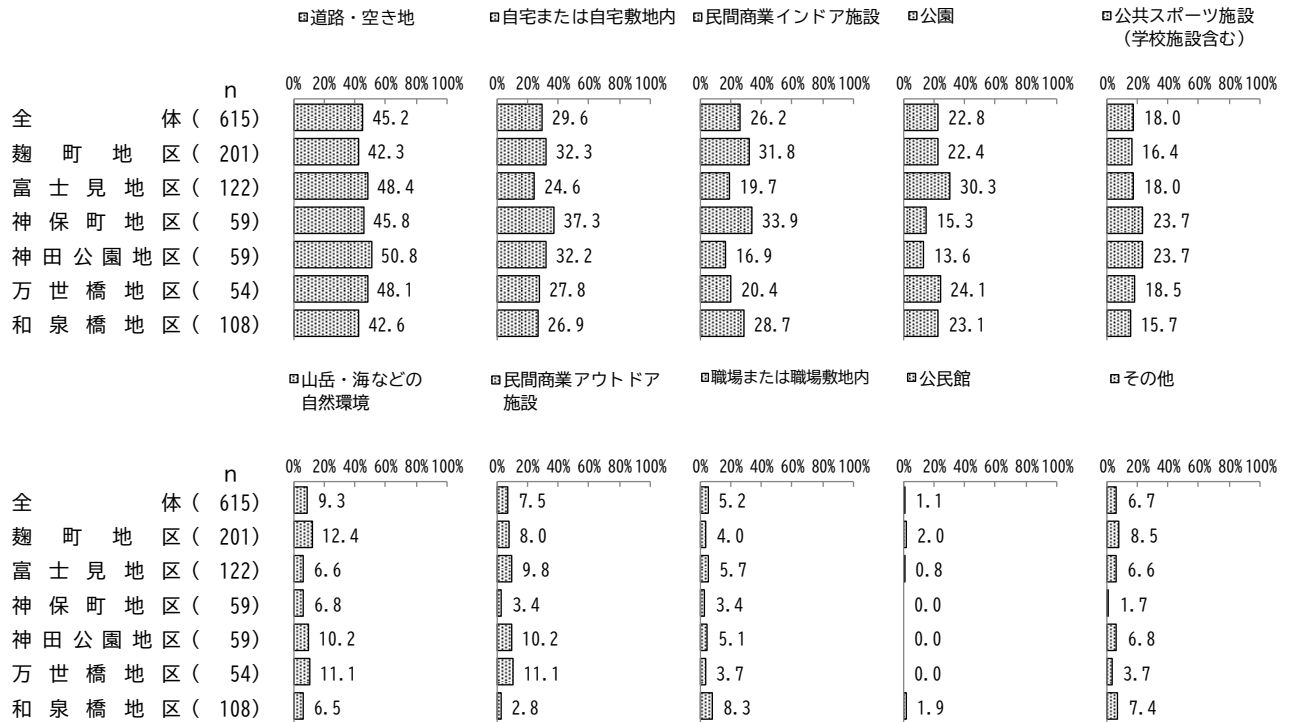
性・年代別にみると、「道路・空き地」は男性 65～69 歳（61.5%）で 6 割強と高くなっている。
 (図 13-1-7)

図 13-1-7 この1年間に運動・スポーツを行った場所（性・年代別）



地区別にみると、「民間商業インドア施設」は神保町地区（33.9%）で3割台半ば近くと高くなっている。（図13-1-8）

図13-1-8 この1年間に運動・スポーツを行った場所（地区別）



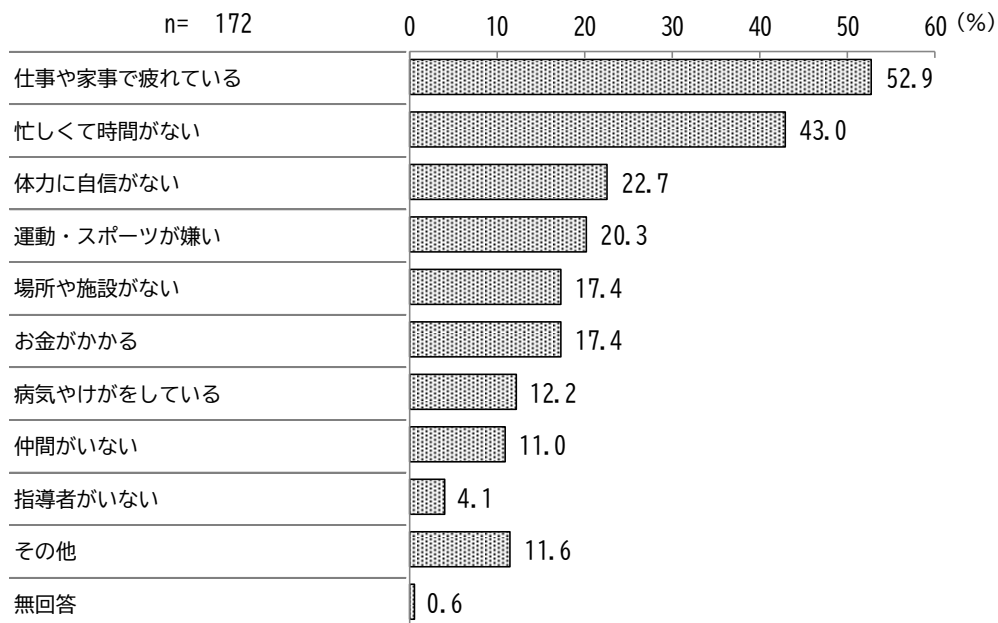
(1-3) この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由

◇「仕事や家事で疲れている」が5割強

(問34で「5.年に数回(1回含む・時間は問わない)」「6.運動・スポーツは特にしていない」とお答えの方に)

問34-3 あなたが、この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由は何ですか。
(○はいくつでも)

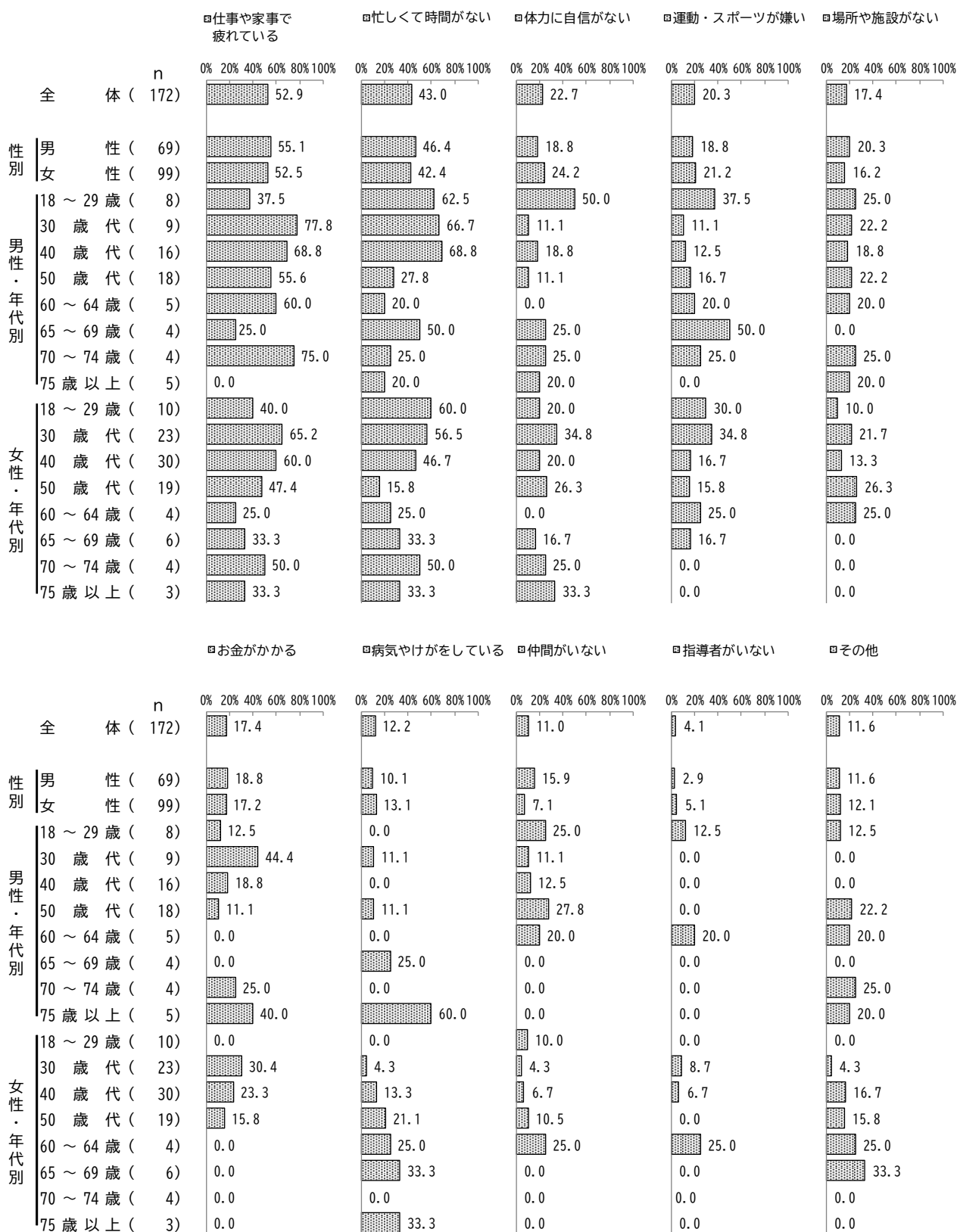
図 13-1-9 この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由



この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由を聞いたところ、「仕事や家事で疲れている」(52.9%)が5割強と最も高く、次いで「忙しくて時間がない」(43.0%)、「体力に自信がない」(22.7%)と続いている。(図 13-1-9)

性・年代別にみると、「忙しくて時間がない」は男性40歳代（68.8%）で7割近くと高くなっている。（図13-1-10）

図13-1-10 この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由（性・年代別）

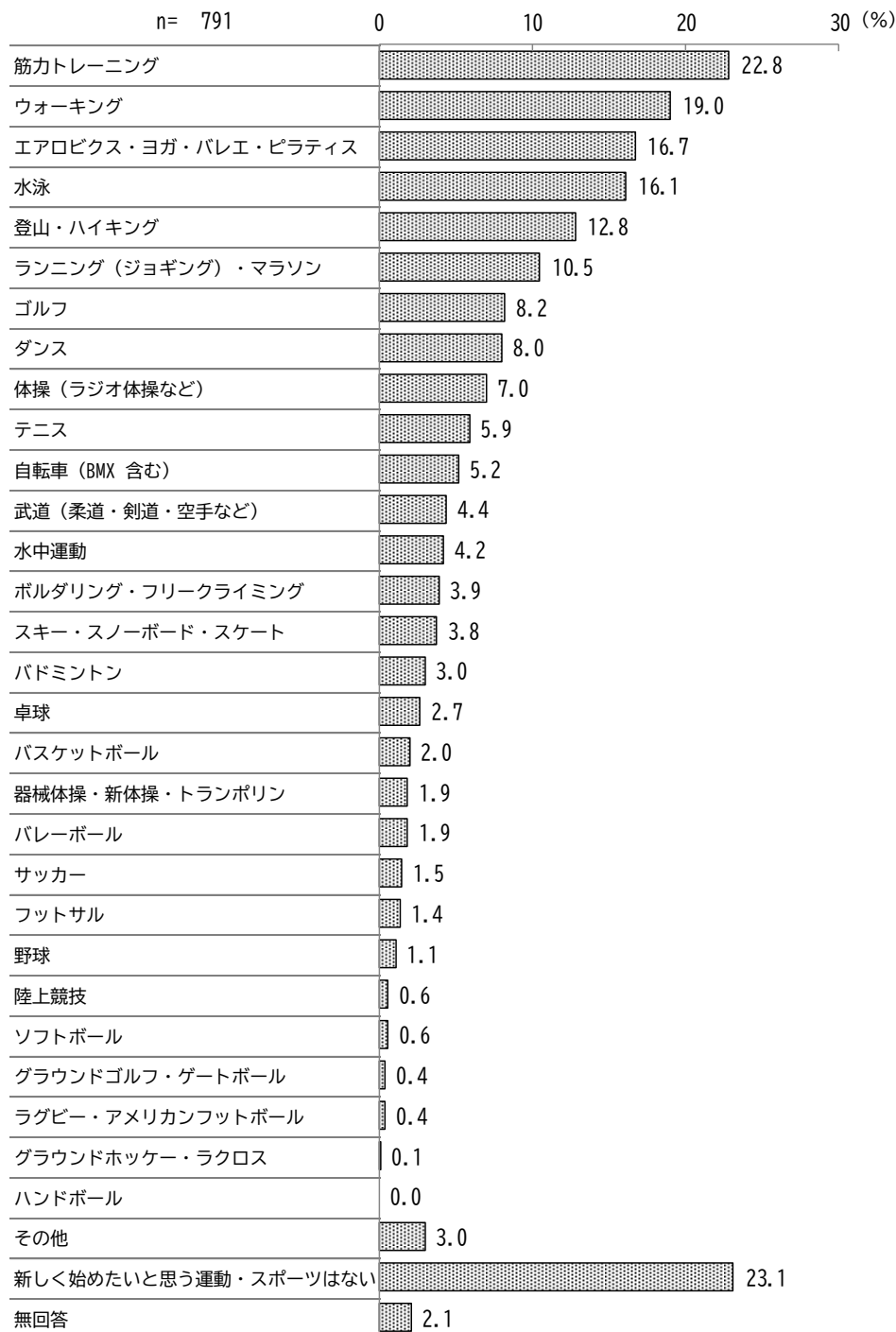


(2) 今後新しく始めたいと思う運動・スポーツ

◇「筋力トレーニング」が2割強

問35 あなたが、今後新しく始めたいと思う運動・スポーツは何ですか。(○はいくつでも)

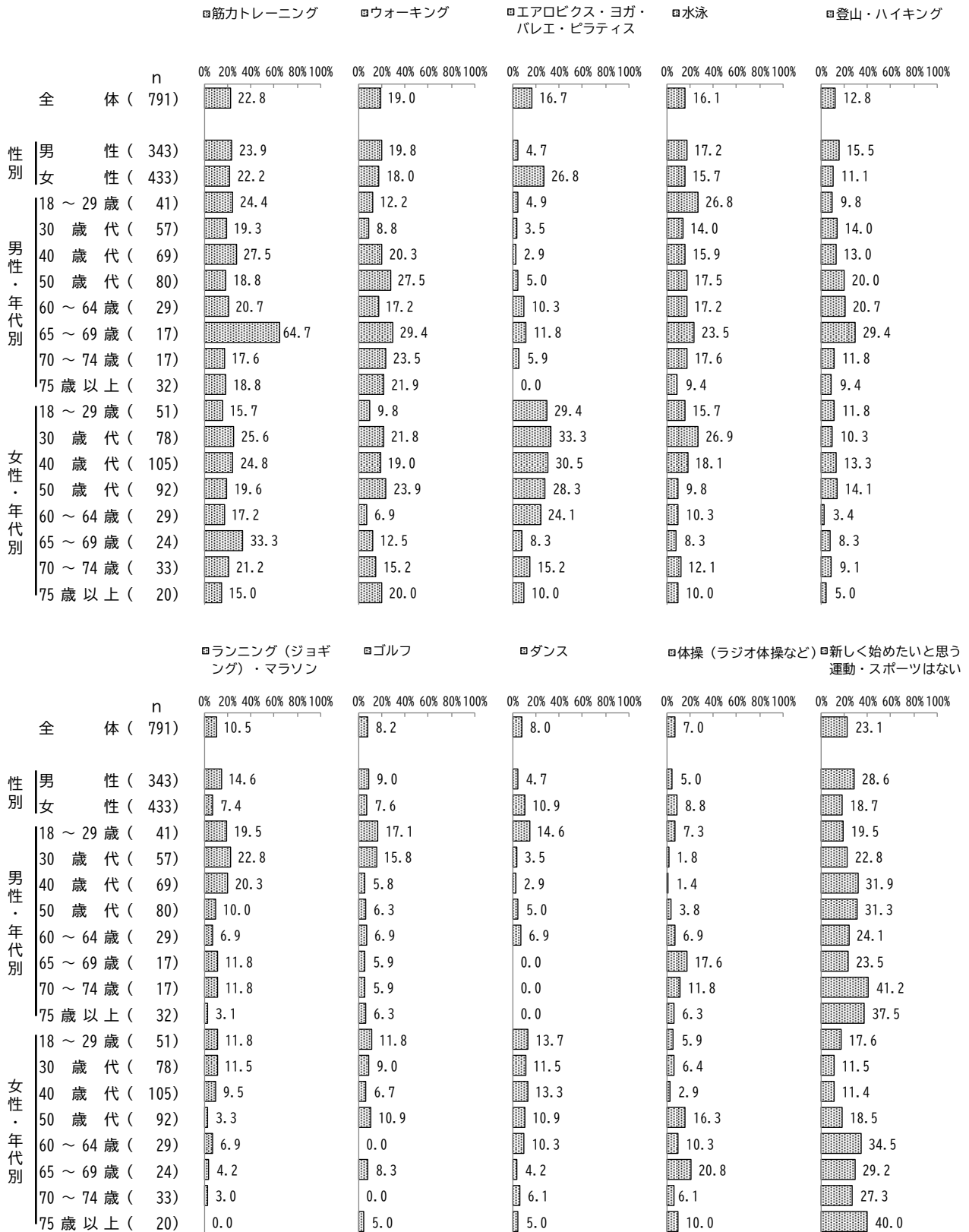
図 13-2-1 今後新しく始めたいと思う運動・スポーツ



今後新しく始めたいと思う運動・スポーツを聞いたところ、「筋力トレーニング」(22.8%)が2割強と最も高く、次いで「ウォーキング」(19.0%)、「エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス」(16.7%)と続いている。一方、「新しく始めたいと思う運動・スポーツはない」(23.1%)は2割台半ば近くとなっている。(図 13-2-1)

性・年代別にみると、「筋力トレーニング」は男性 65～69 歳（64.7%）で 6 割台半ば近くと高くなっている。一方、「新しく始めたいと思う運動・スポーツはない」は男性 70～74 歳（41.2%）で 4 割強と高くなっている。（図 13-2-2）

図 13-2-2 今後新しく始めたいと思う運動・スポーツ（性・年代別）

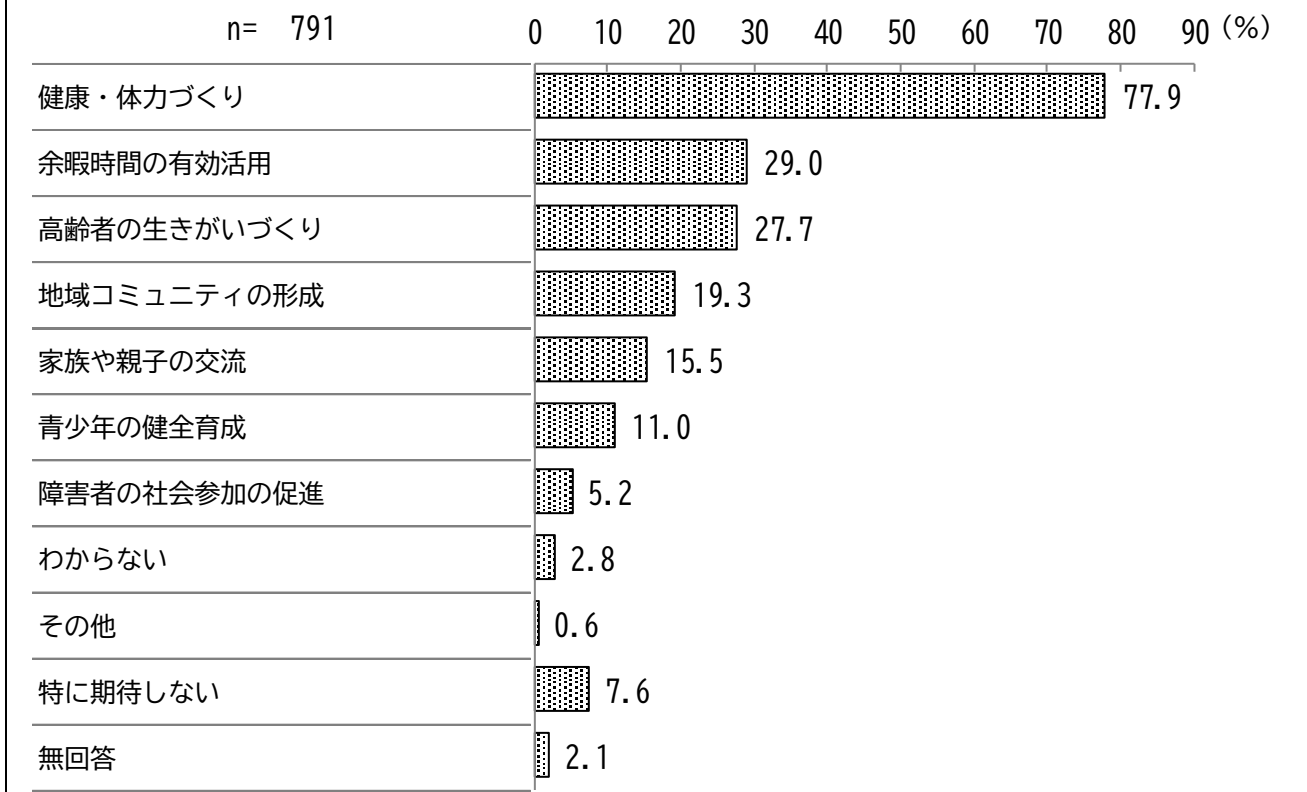


(3) 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

◇「健康・体力づくり」が7割台半ば超え

問36 あなたは、地域での運動やスポーツ活動に対し、どのような効果を期待しますか。
(○は3つまで)

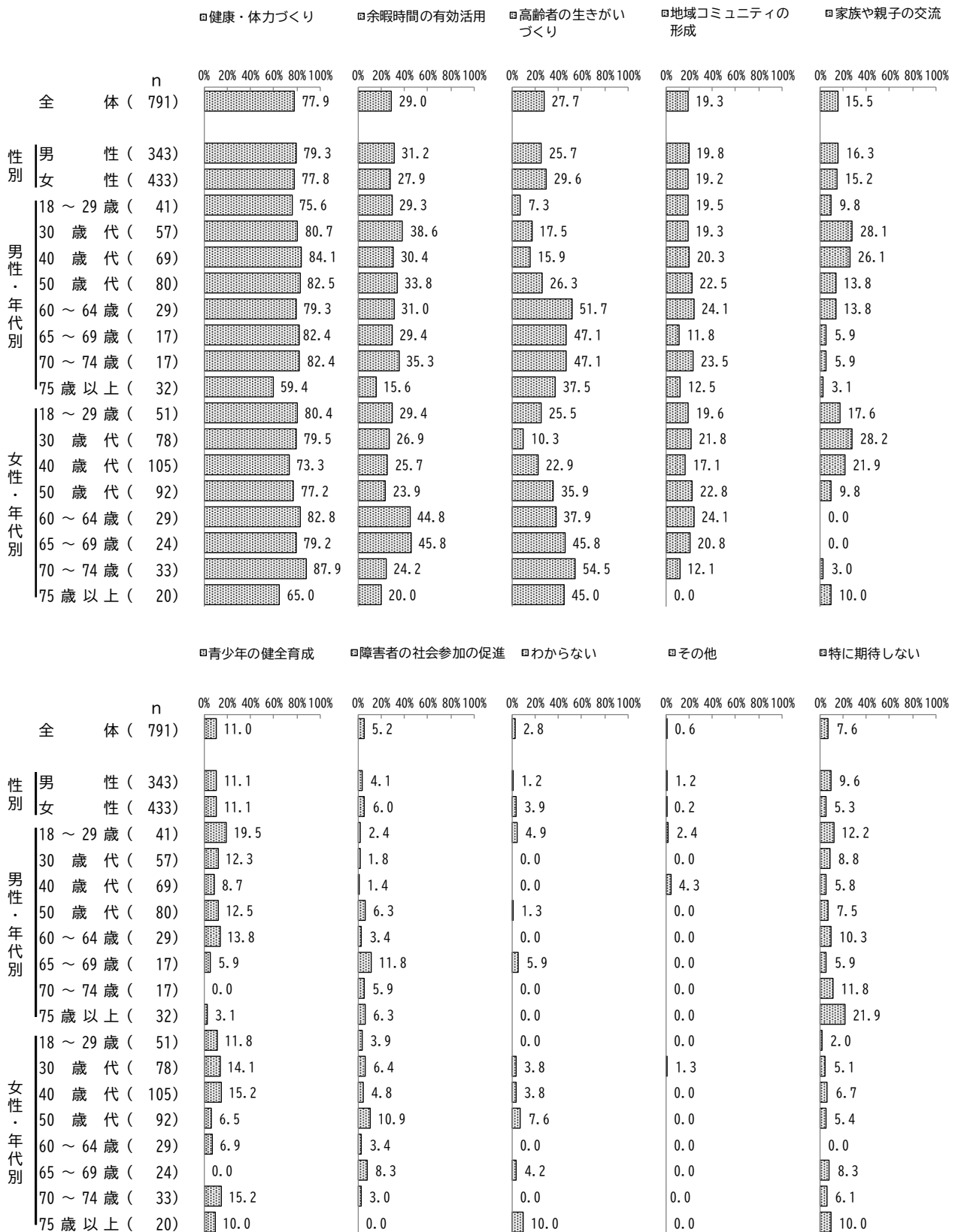
図 13-3-1 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果



地域での運動やスポーツ活動に期待する効果を聞いたところ、「健康・体力づくり」(77.9%)が7割台半ば超えと最も高く、次いで「余暇時間の有効活用」(29.0%)、「高齢者の生きがいづくり」(27.7%)と続いている。(図 13-3-1)

性・年代別にみると、「余暇時間の有効活用」は女性 65～69 歳（45.8%）で 4 割台半ばと高くなっている。（図 13-3-2）

図 13-3-2 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果（性・年代別）

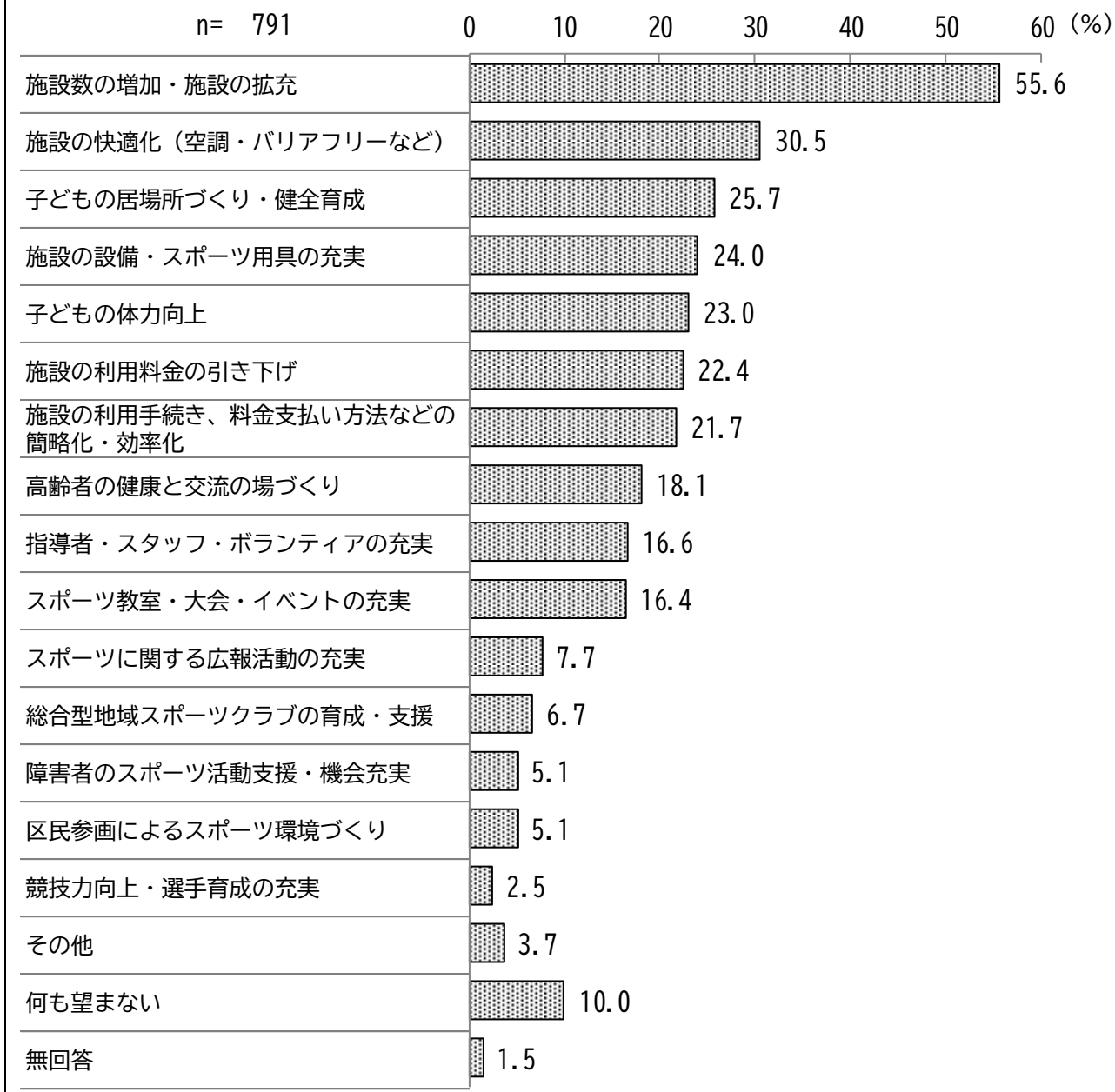


(4) 公共スポーツ施設の運営や生涯スポーツ振興策について望むこと

◇「施設数の増加・施設の拡充」が5割台半ば

問37 あなたは、公共スポーツ施設の運営や、生涯スポーツ振興策について、千代田区に何を望みますか。(〇はいくつでも)

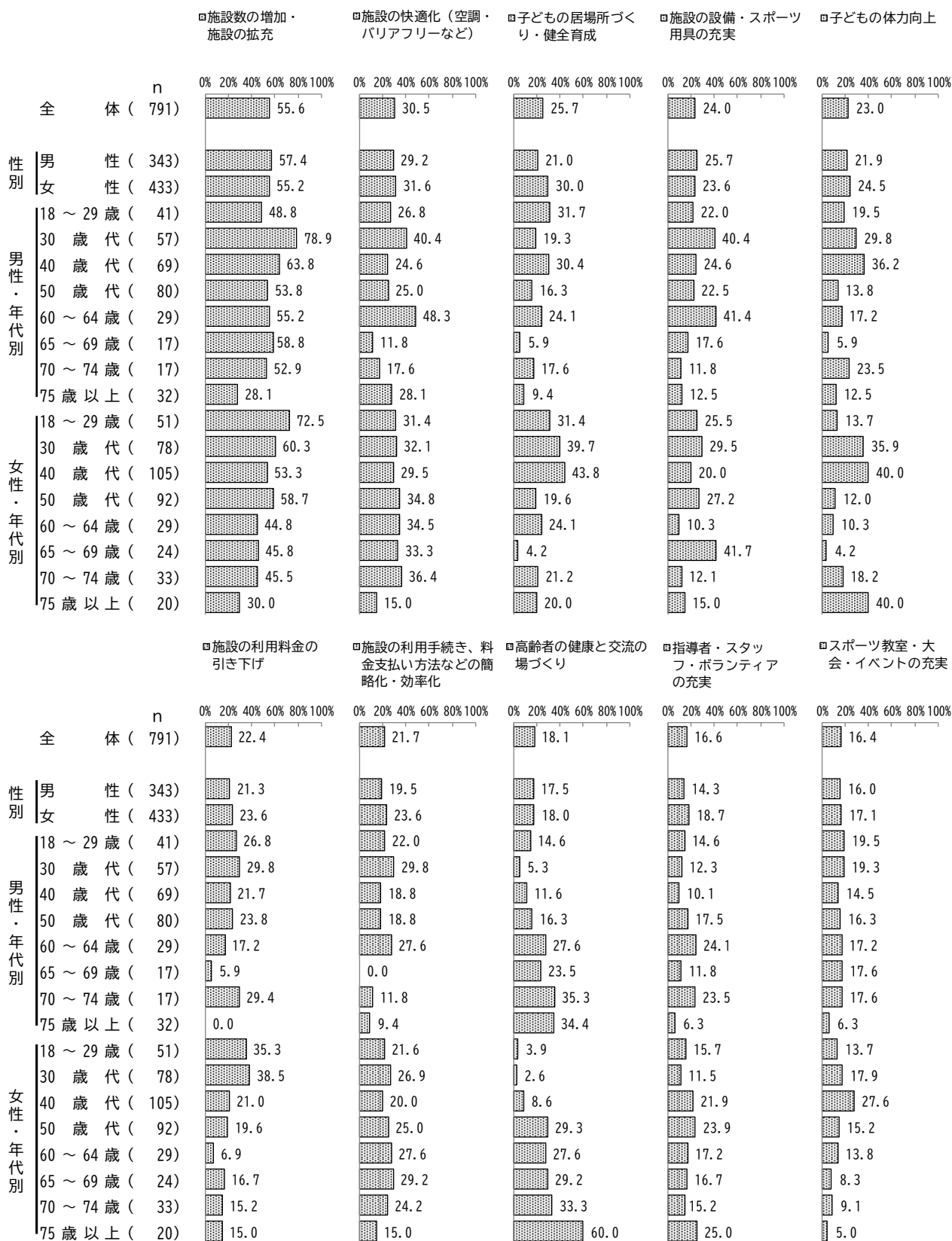
図 13-4-1 公共スポーツ施設の運営や生涯スポーツ振興策について望むこと



公共スポーツ施設の運営や生涯スポーツ振興策について望むことを聞いたところ、「施設数の増加・施設の拡充」(55.6%)が5割台半ばと最も高く、次いで「施設の快適化(空調・バリアフリーなど)」(30.5%)、「子どもの居場所づくり・健全育成」(25.7%)と続いている。(図 13-4-1)

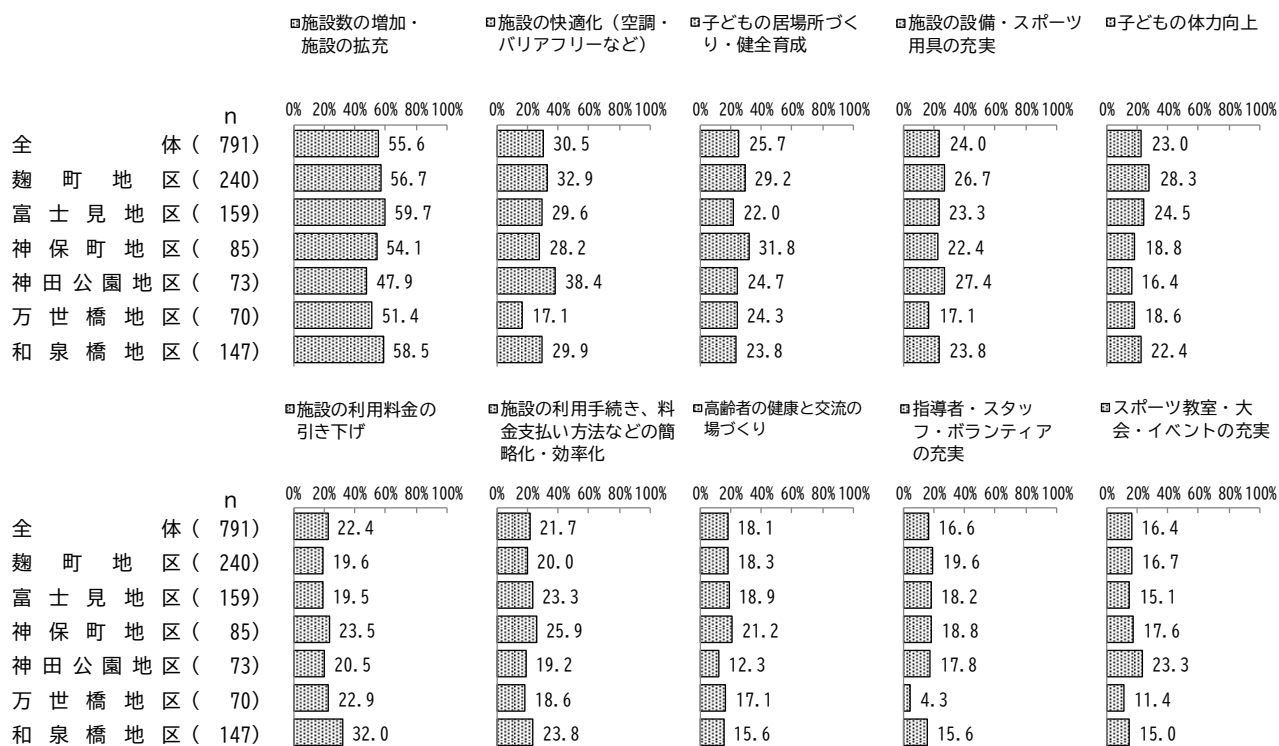
性・年代別にみると、「施設数の増加・施設の拡充」は男性30歳代（78.9%）で8割近くと高くなっている。（図13-4-2）

図13-4-2 公共スポーツ施設の運営や生涯スポーツ振興策について望むこと（性・年代別）



地区別にみると、「施設の利用料金の引き下げ」は和泉橋地区（32.0％）で3割強と高くなっている。（図13-4-3）

図13-4-3 公共スポーツ施設の運営や生涯スポーツ振興策について望むこと（地区別）



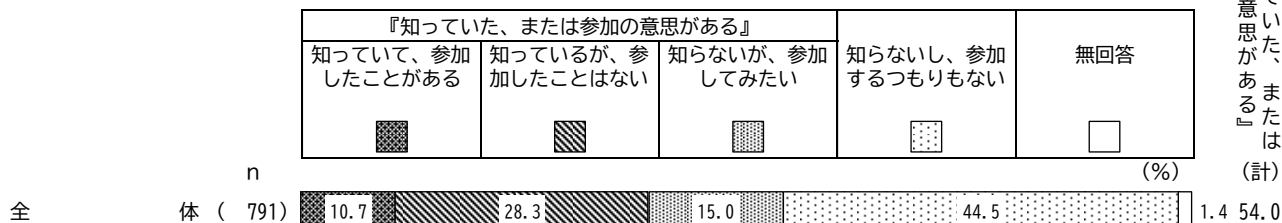
(5) 千代田区民体育大会の認知度

◇『知っていた、または参加の意思がある』が5割台半ば近く

問38 あなたは、千代田区民体育大会を知っていますか。(○は1つ)

図 13-5-1 千代田区民体育大会の認知度

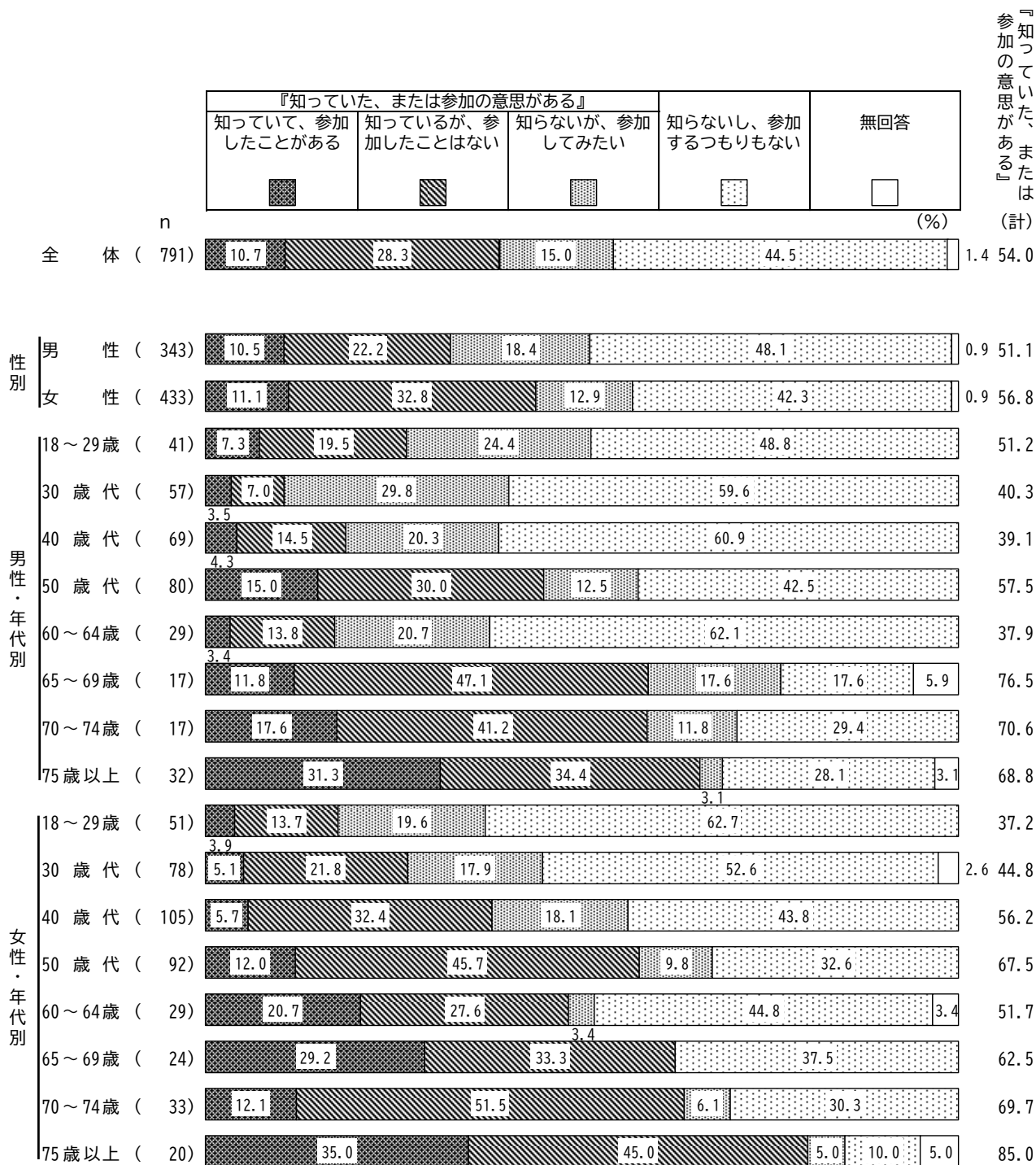
『知っていた、
参加の意思が
ある』または
(計)



千代田区民体育大会の認知度を聞いたところ、「知っていて、参加したことがある」(10.7%)と「知っているが、参加したことはない」(28.3%)、「知らないが、参加してみたい」(15.0%)を合わせた『知っていた、または参加の意思がある』(54.0%)は5割台半ばとなっている。一方、「知らないし、参加するつもりもない」(44.5%)は4割台半ばとなっている。(図 13-5-1)

性・年代別にみると、「知らないが、参加してみたい」は男性30歳代（29.8%）で3割弱と高くなっている。（図13-5-2）

図13-5-2 千代田区民体育大会の認知度（性・年代別）



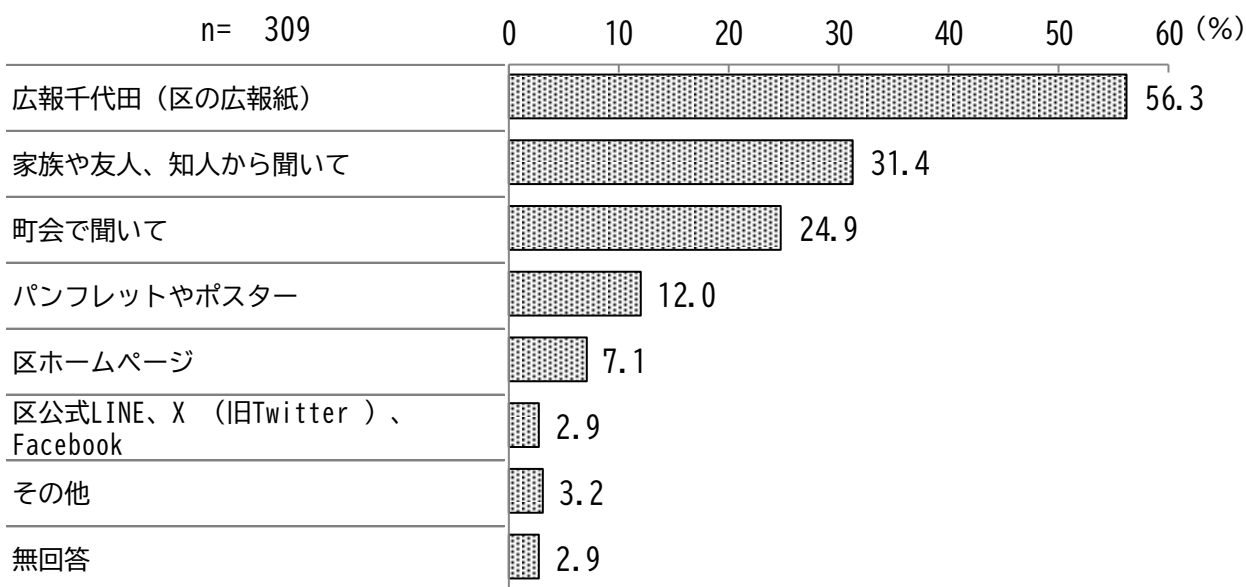
(5-1) 千代田区民体育大会を知ったきっかけ

◇「広報千代田（区の広報紙）」が5割台半ば超え

(問38で「1. 知っていて、参加したことがある」「2. 知っているが、参加したことはない」とお答えの方に)

問38-1 あなたは、千代田区民体育大会を何で知りましたか。(〇はいくつでも)

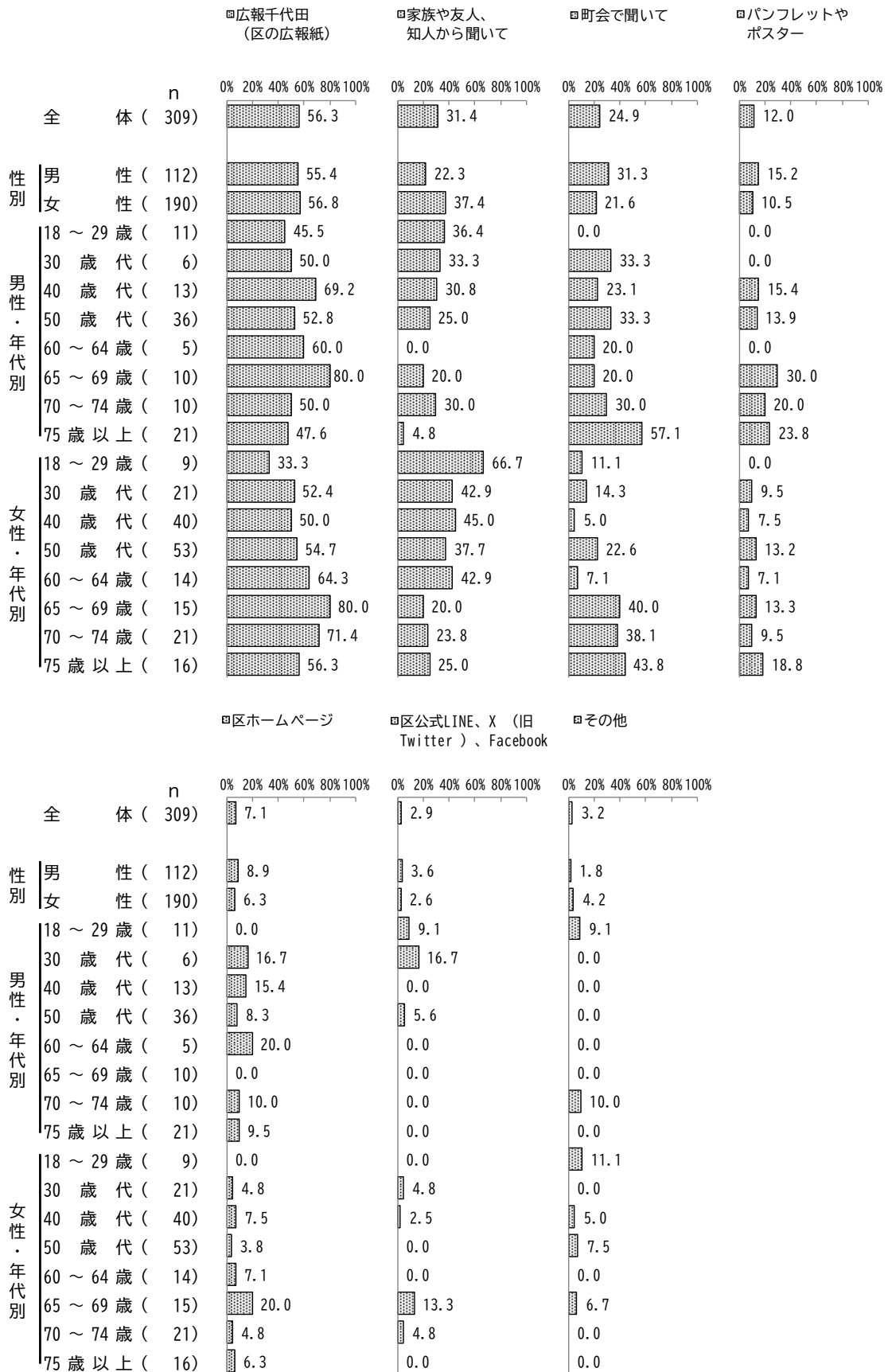
図 13-5-3 千代田区民体育大会を知ったきっかけ



千代田区民体育大会を知っていた人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（56.3%）が5割台半ば超えと最も高く、次いで「家族や友人から聞いて」（31.4%）、「町会で聞いて」（24.9%）と続いている。（図 13-5-3）

性・年代別にみると、「広報千代田(区の広報紙)」は男性 65～69 歳(80.0%)、女性 65～69 歳(80.0%)で8割と高くなっている。(図 13-5-4)

図 13-5-4 千代田区民体育を知ったきっかけ(性・年代別)



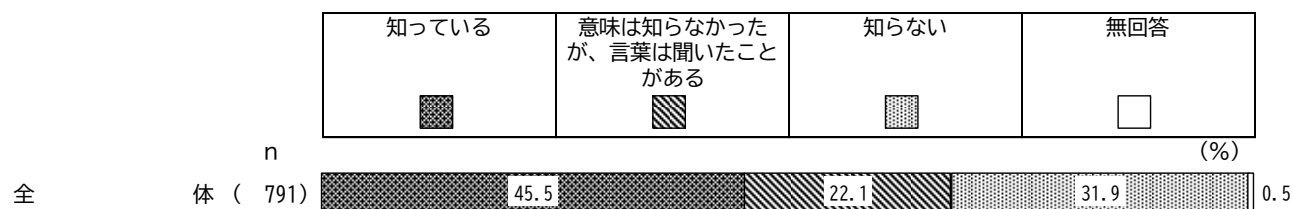
14. 生物多様性

(1) 生物多様性という言葉の認知度

◇「知っている」が4割台半ば

問39 あなたは、生物多様性という言葉の意味を知っていましたか。(○は1つ)

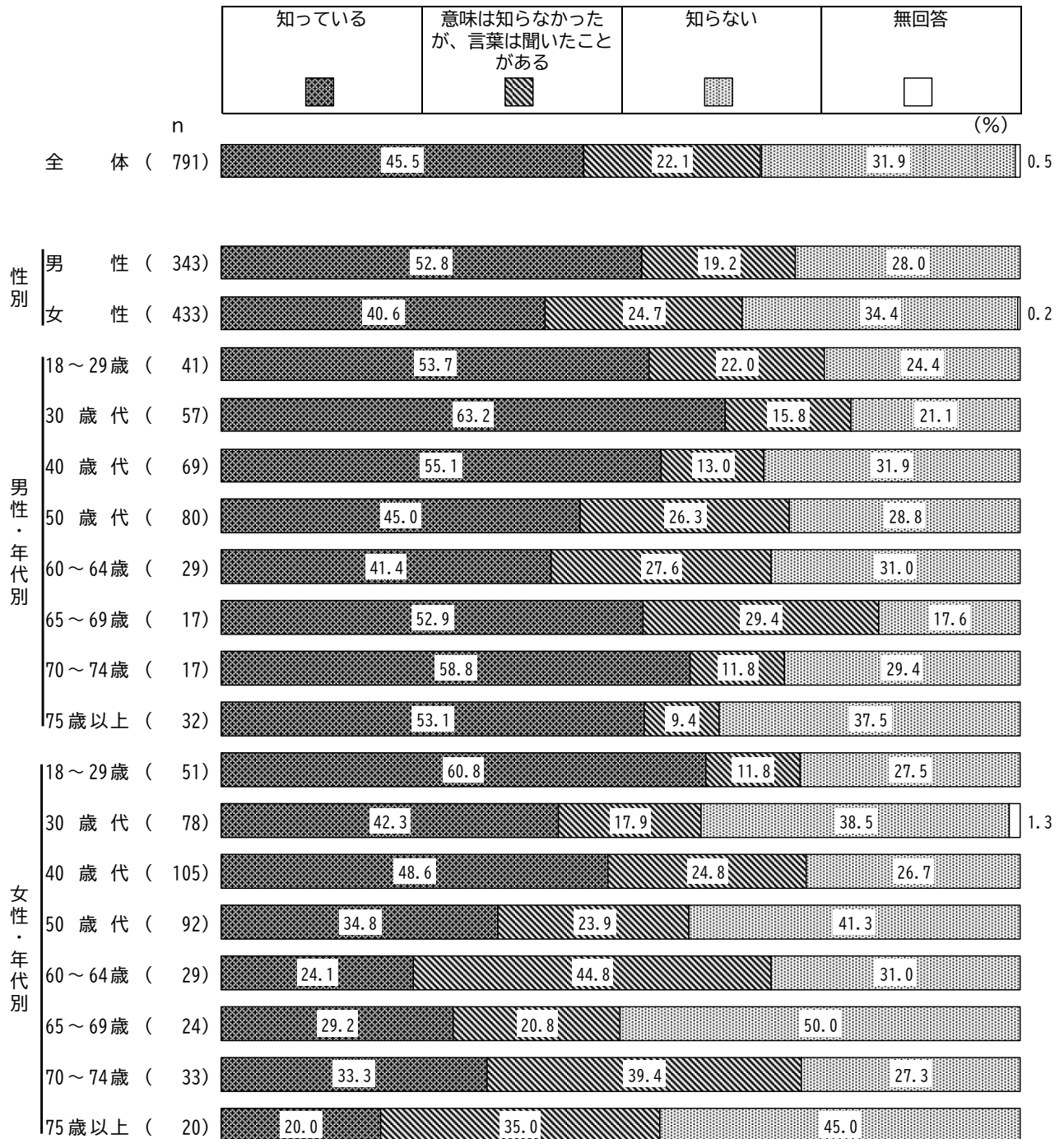
図 14-1-1 生物多様性という言葉の認知度



生物多様性という言葉の認知度について聞いたところ、「知っている」(45.5%)が4割台半ばで最も高く、次いで「知らない」(31.9%)が3割強、「意味は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(22.1%)が2割強となっている。(図 14-1-1)

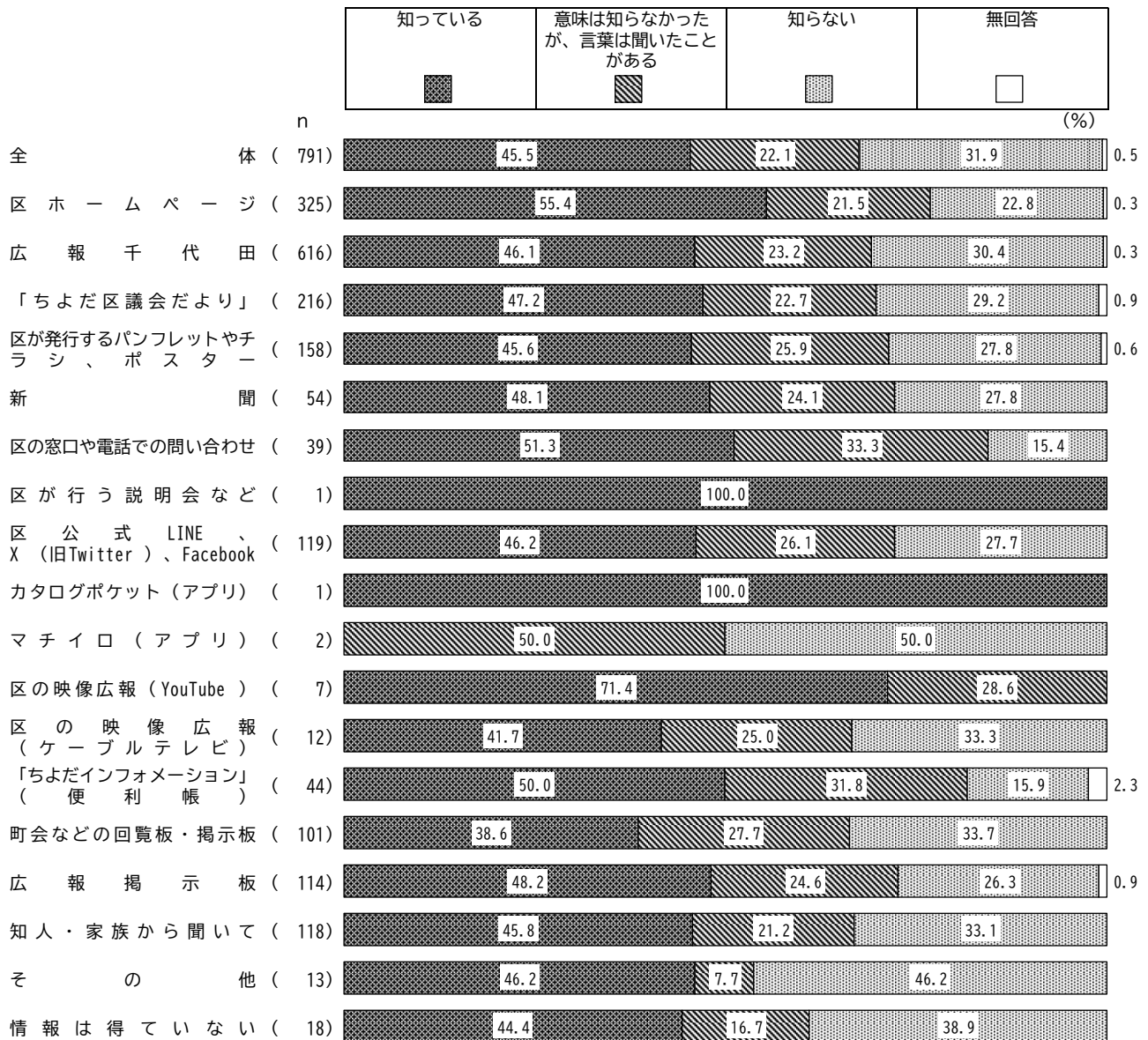
性・年代別にみると、生物多様性という言葉を知っている方の割合は男性30歳代（63.2%）で6割台半ば近くと高くなっている。一方、生物多様性という言葉を知らない方の割合は女性65～69歳（50.0%）で5割と高くなっている。（図14-1-2）

図14-1-2 生物多様性という言葉の認知度（性・年代別）



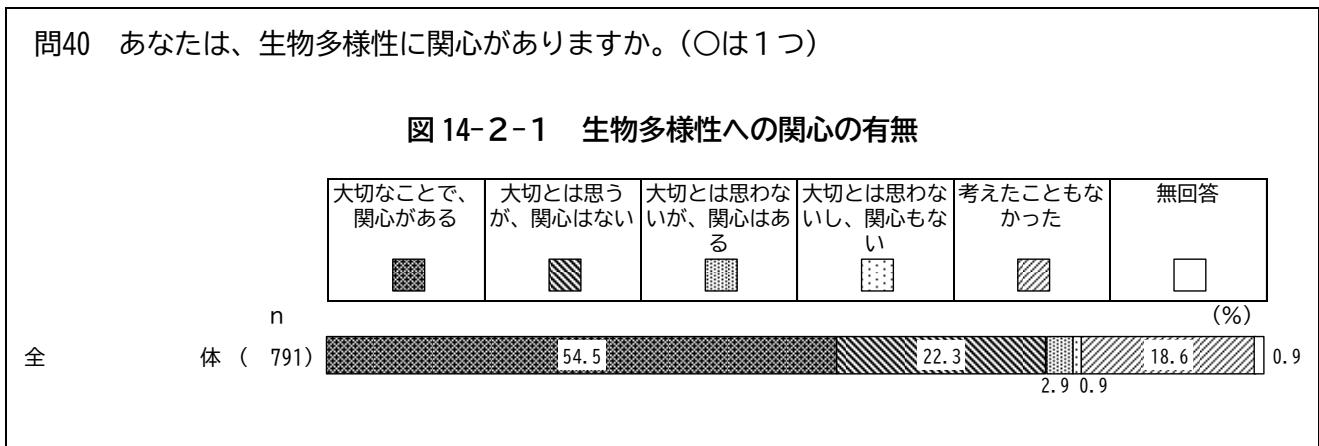
区政情報の取得媒体別にみると、生物多様性という言葉を知っている方の割合は区ホームページから区政情報を取得している方の中（55.4%）で5割台半ばと高くなっている。一方、生物多様性という言葉を知らない方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（38.9%）で4割近くと高くなっている。（図14-1-3）

図14-1-3 生物多様性という言葉の認知度（区政情報の取得媒体別）



(2) 生物多様性への関心の有無

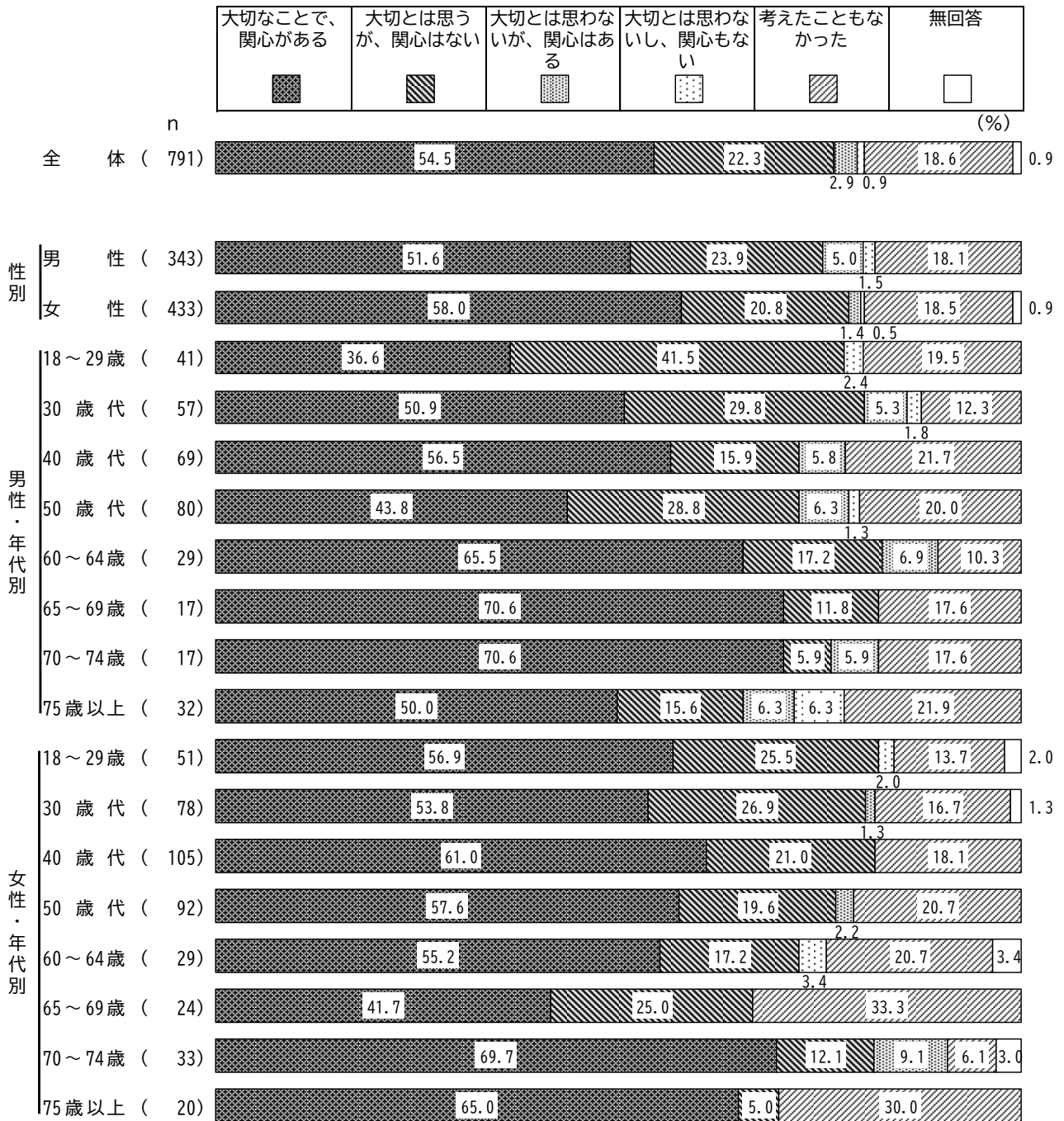
◇「大切なことで、関心がある」が5割台半ば近く



生物多様性への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(54.5%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(22.3%)が2割強、「考えたこともなかった」(18.6%)が2割近くと続いている。(図 14-2-1)

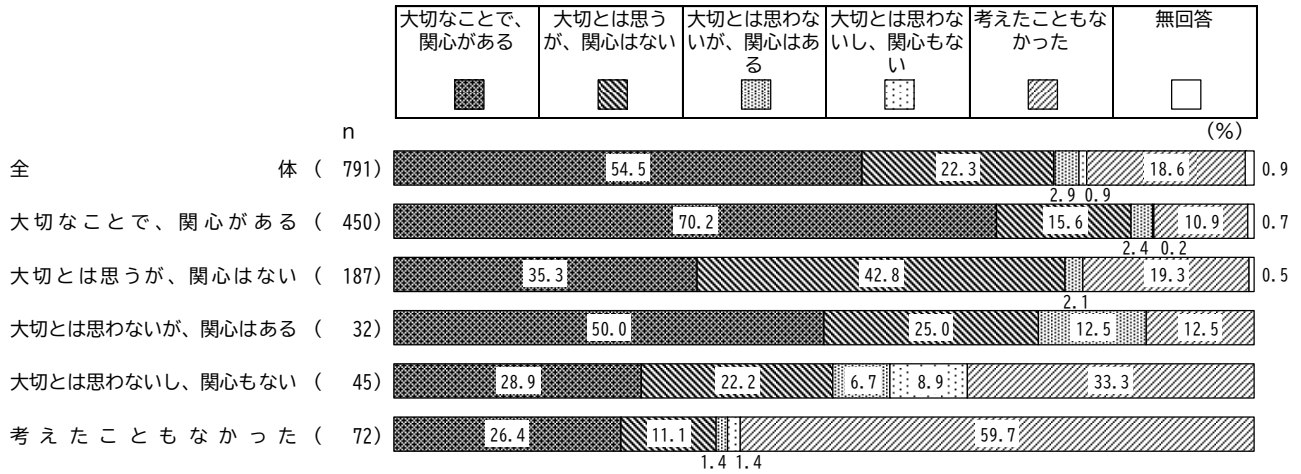
性・年代別にみると、「大切なことで、関心がある」は男性 65～69 歳(70.6%)、男性 70～74 歳(70.6%)で約7割と高くなっている。(図 14-2-2)

図 14-2-2 生物多様性への関心の有無(性・年代別)



脱炭素社会への関心の有無別にみると、生物多様性について「大切なことで、関心がある」と答えた方の割合は脱炭素社会を大切なことで、関心があると答えた方（70.2%）で約7割と高くなっている。（図 14-2-3）

図 14-2-3 生物多様性への関心の有無（脱炭素社会への関心の有無別）



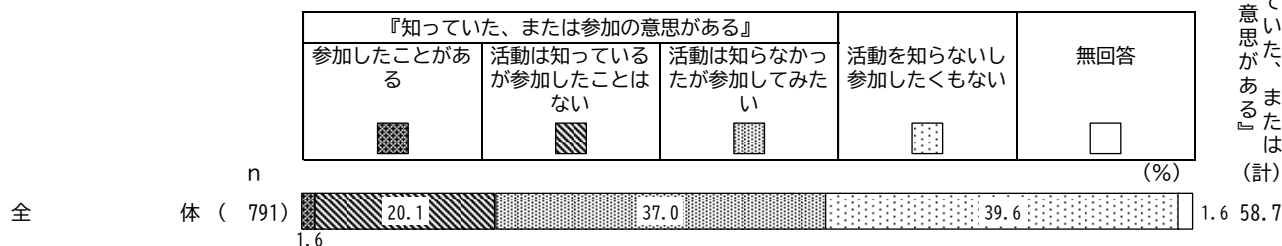
(3) 生物多様性の保全活動等への参加経験

◇『知っていた、または参加の意思がある』が6割近く

問41 あなたは、区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。参加したことがある方は、参加した活動名や場所等を具体的にご記入ください。(○は1つ)

図 14-3-1 生物多様性の保全活動等への参加経験

『知っていた、または参加の意思がある』(計)

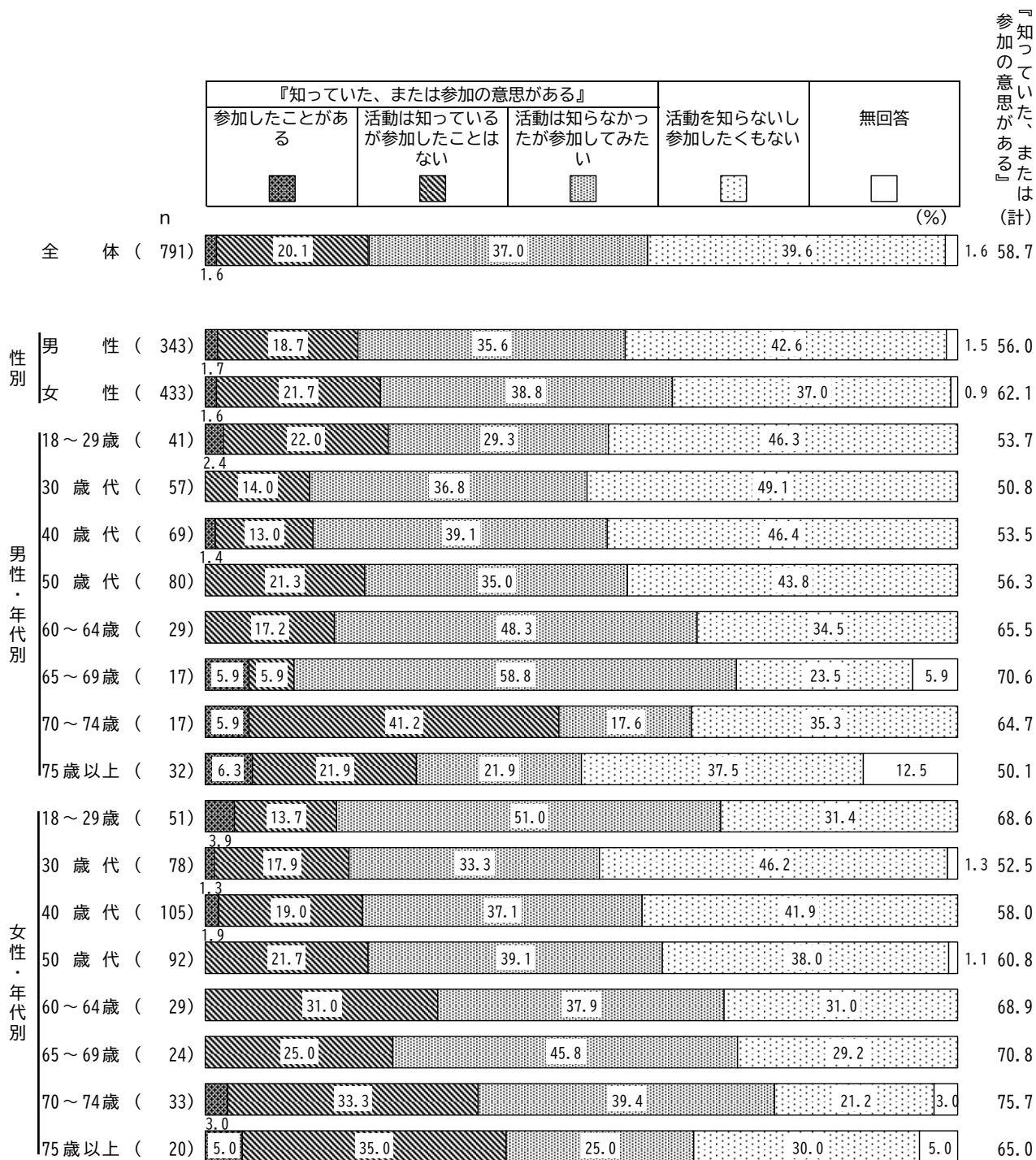


生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「参加したことがある」(1.6%)、「活動は知っているが参加したことはない」(20.1%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(37.0%)を合わせた『知っていた、または参加の意思がある』(58.7%)が6割近くとなっている。一方、「活動を知らないし参加したくない」(39.6%)は4割弱となっている。(図 14-3-1)

「参加したことがある」と回答した方のうち、具体的な活動名や場所などを回答した方は6人おり、主な活動として「桜見守隊、千鳥淵緑道、北の丸公園での自然観察会」、「セミの観察会、御茶ノ水の家庭菜園」などが挙げられている。

性・年代別にみると、『知っていた、または参加の意思がある』は女性70～74歳（75.7%）で7割台半ばと高くなっている。（図14-3-2）

図14-3-2 生物多様性の保全活動等への参加経験（性・年代別）



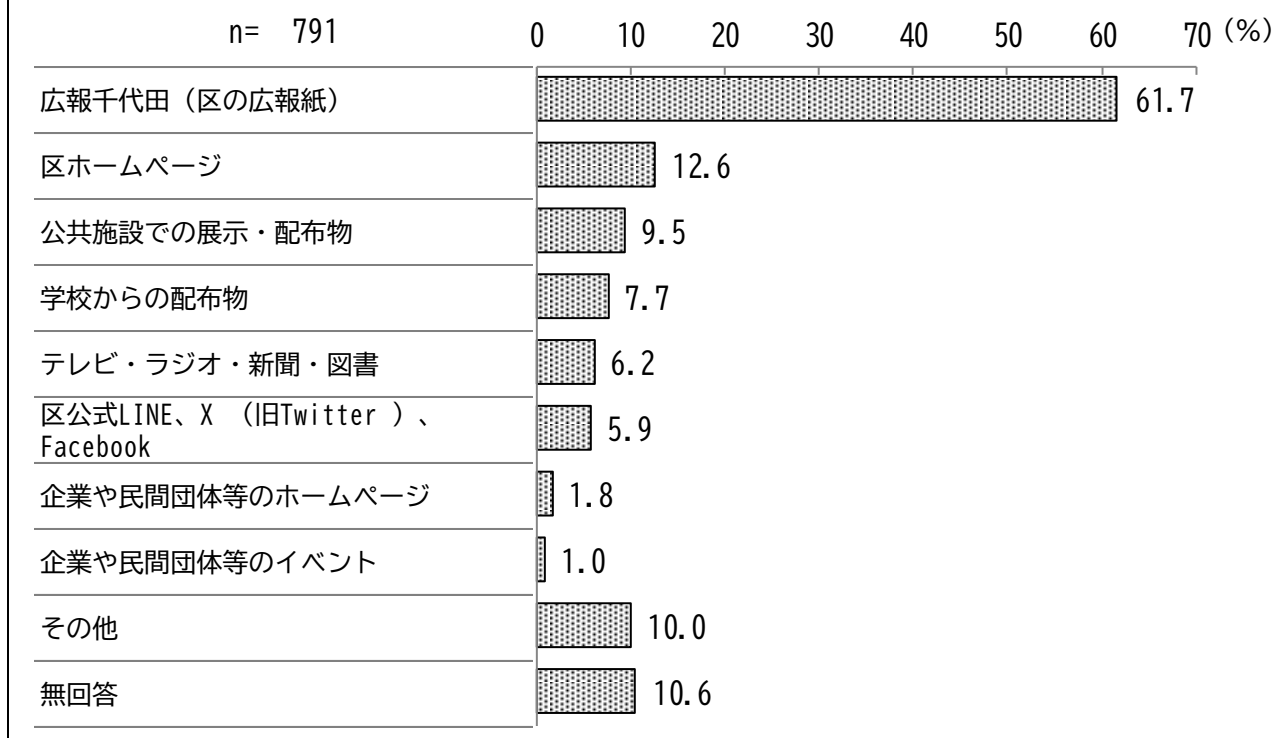
『知っていた、または参加の意思がある』(計)

(4) 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

◇「広報千代田（区の広報紙）」が6割強

問42 あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取り組み・活動など）は主に何で知りますか。（○はいくつでも）

図 14-4-1 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体



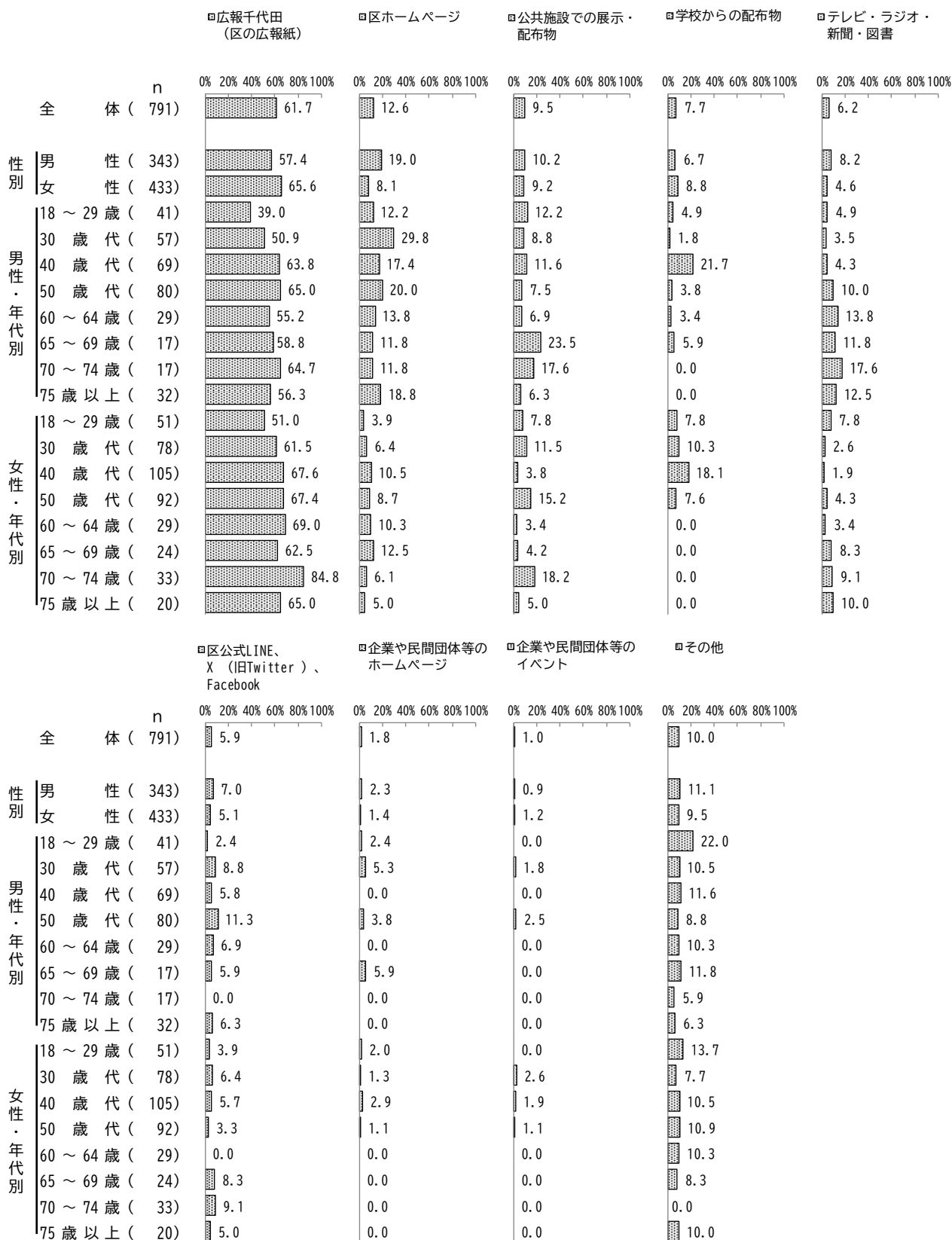
区内の生物多様性に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（61.7%）が6割強と最も高く、次いで「区のホームページ」（12.6%）が1割強、「公共施設での展示・配布物」（9.5%）が1割弱と続いている。（図 14-4-1）

その他を回答した方は 79 人おり、主な意見として「町内で見かける」、「家族」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は女性70～74歳（84.8%）、で8割台半ばと高くなっている。また、「区ホームページ」は男性30歳代（29.8%）で3割弱と高くなっている。

（図 14-4-2）

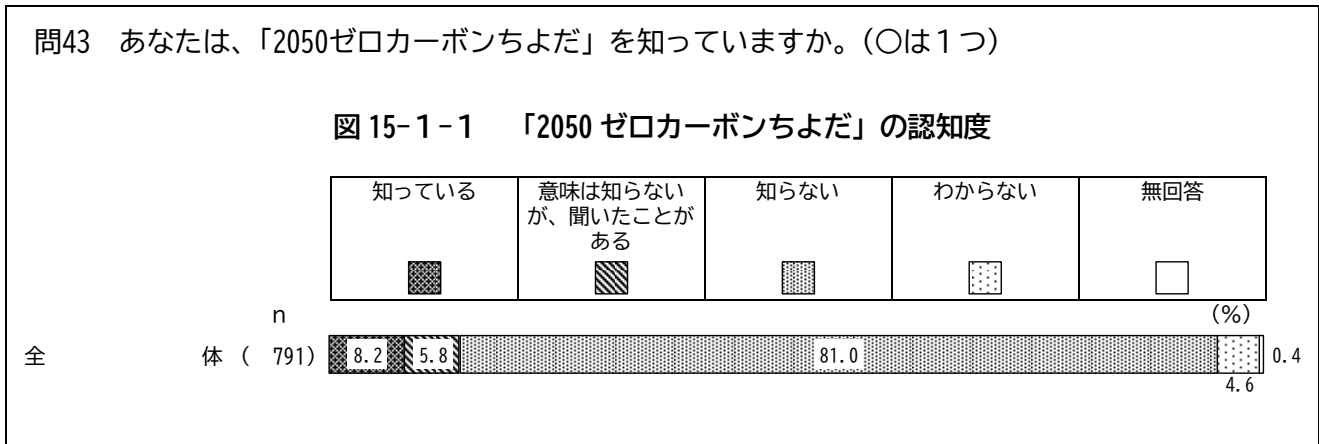
図 14-4-2 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体（性・年代別）



15. 2050ゼロカーボンちよだに向けた取り組み

(1) 「2050ゼロカーボンちよだ」の認知度

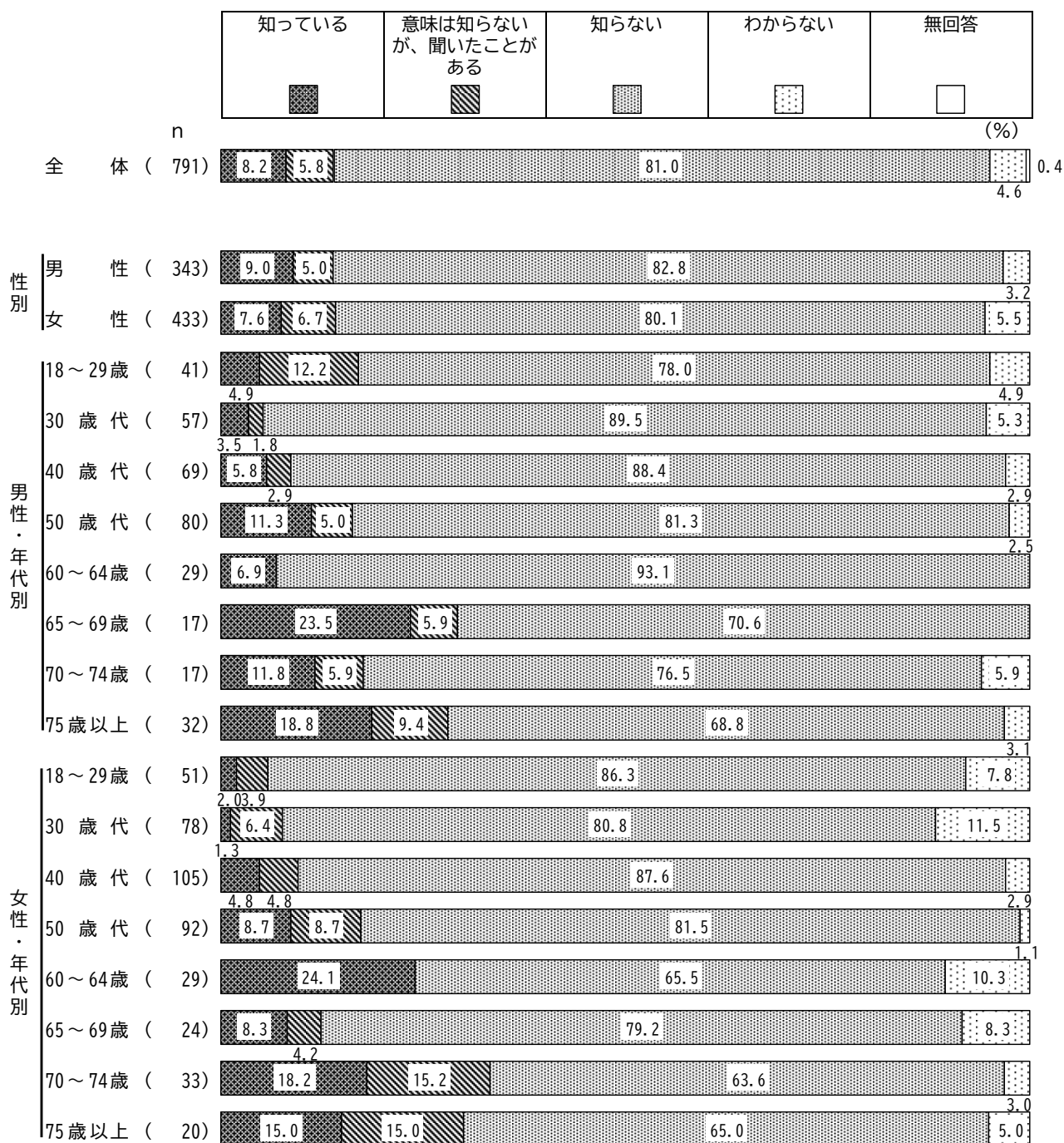
◇ 「2050ゼロカーボンちよだ」を「知らない」が8割強



「2050ゼロカーボンちよだ」の認知度について聞いたところ、「知らない」(81.0%)が8割強で最も高く、次いで「知っている」(8.2%)、「意味は知らないが、聞いたことがある」(5.8%)となっている。
(図 15-1-1)

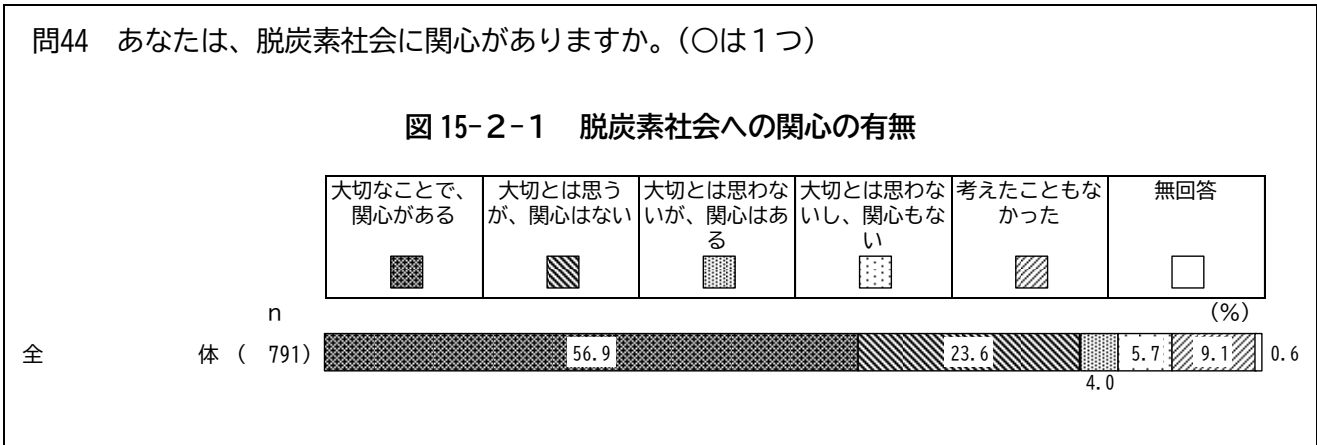
性・年代別にみると、「2050 ゼロカーボンちよだ」の内容を「知っている」は女性 60～64 歳 (24.1%)、男性 65～69 歳 (23.5%) で 2 割台半ば近くと高くなっている。また、「2050 ゼロカーボンちよだ」の「意味は知らないが、聞いたことがある」は女性 70～74 歳 (15.2%)、女性 75 歳以上 (15.0%) で 1 割台半ばと高くなっている。(図 15-1-2)

図 15-1-2 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度 (性・年代別)



(2) 脱炭素社会への関心の有無

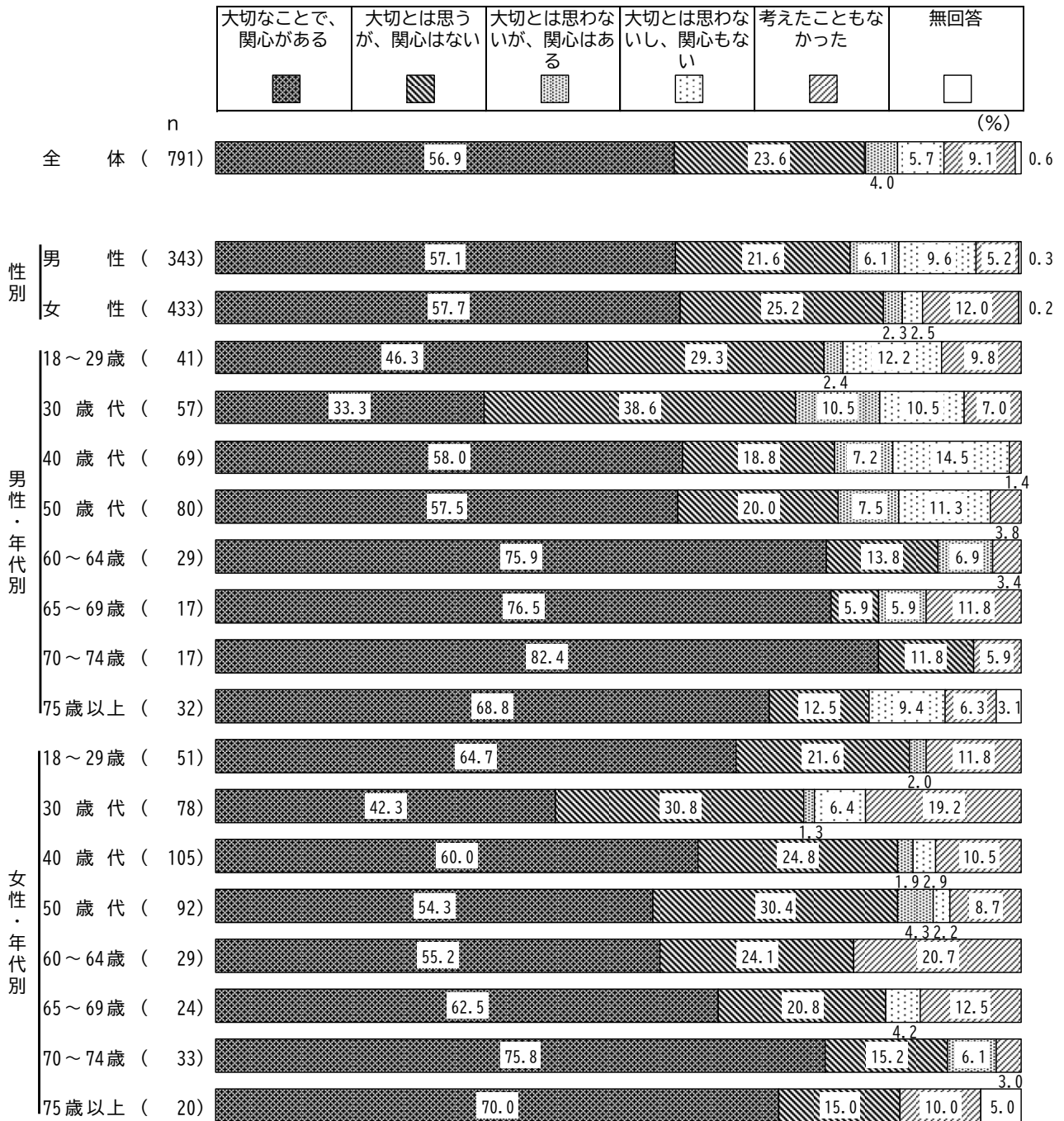
◇「大切なことで、関心がある」が5割台半ば超え



脱炭素社会への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(56.9%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(23.6%)が2割台半ば近く、「考えたこともなかった」(9.1%)が1割弱と続いている。(図 15-2-1)

性・年代別にみると、「大切なことで、関心がある」は男性70～74歳（82.4%）で8割強と高くなっている。（図15-2-2）

図15-2-2 脱炭素社会への関心の有無（性・年代別）

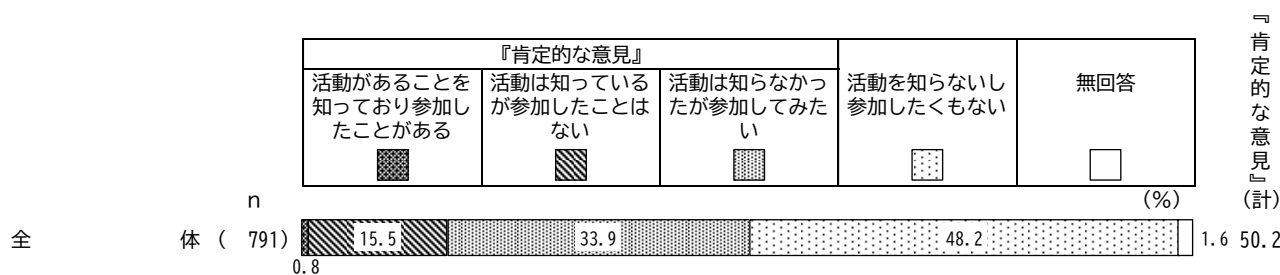


(3) 環境保全イベントや活動への参加経験

◇『肯定的な意見』が約5割

問45 区では脱炭素社会の実現を促進するための取り組みを推進しています。あなたは、環境保全イベントや活動に参加したことがありますか。参加したことがある方は、参加した活動名や場所等を具体的にご記入ください。(〇は1つ)

図 15-3-1 環境保全イベントや活動への参加経験

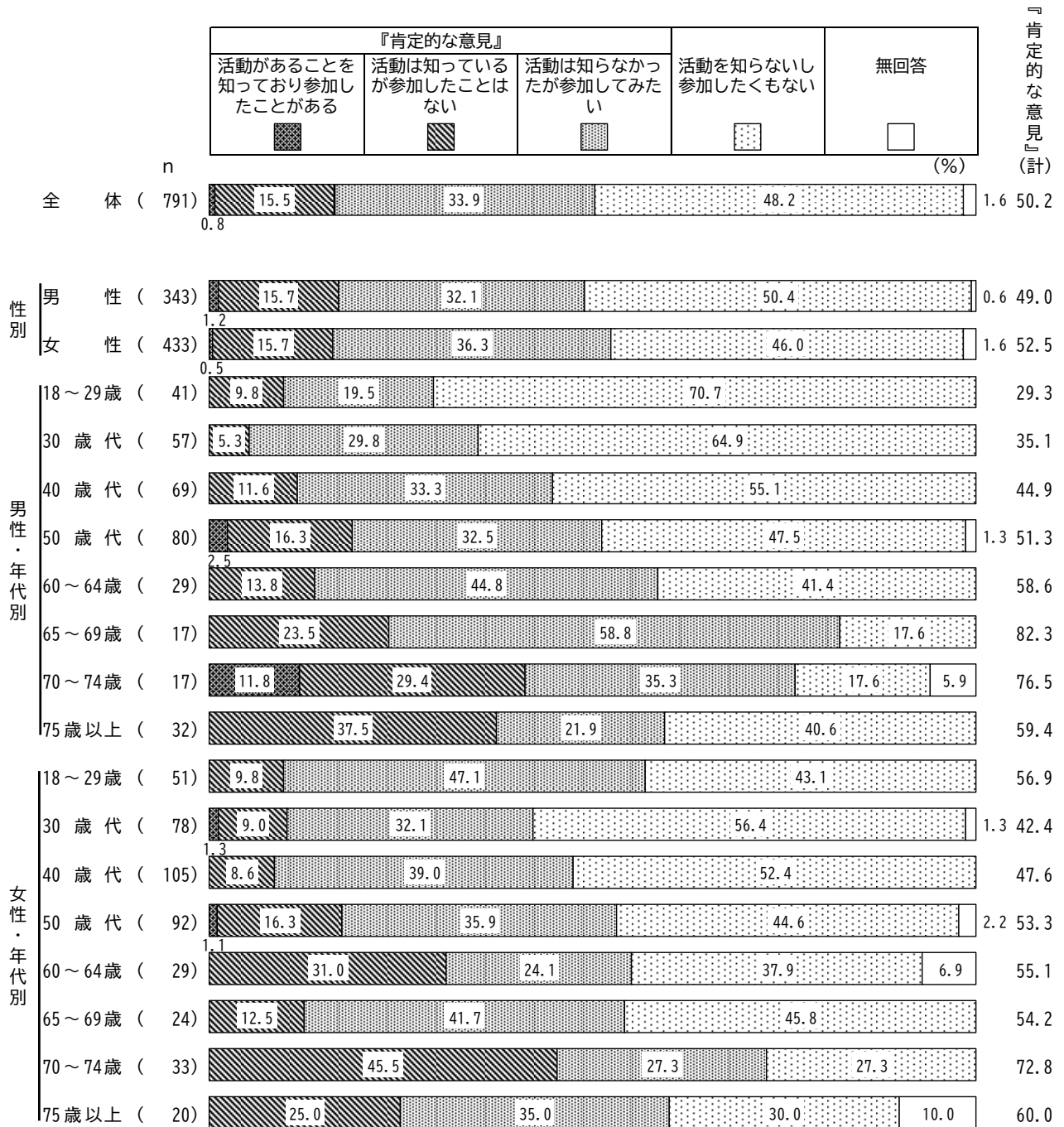


環境保全イベントや活動への参加経験について聞いたところ、「活動があることを知っており参加したことがある」(0.8%)、「活動は知っているが参加したことはない」(15.5%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(33.9%)を合わせた『肯定的な意見』(50.2%)が約5割となっている。一方、「活動を知らないし参加したくない」(48.2%)は5割近くとなっている。(図 15-3-1)

「参加したことがある」と回答した方は6人おり、主な意見として「他自治体の区役所でやっていたSDGsのイベントに参加したことがある」などが挙げられている。

性・年代別にみると、『肯定的な意見』は男性 65～69 歳（82.3%）で 8 割強と高くなっている。一方、「活動を知らないし参加したくもない」は男性 18～29 歳（70.7%）で約 7 割と高くなっている。
 (図 15-3-2)

図 15-3-2 環境保全イベントや活動への参加経験（性・年代別）

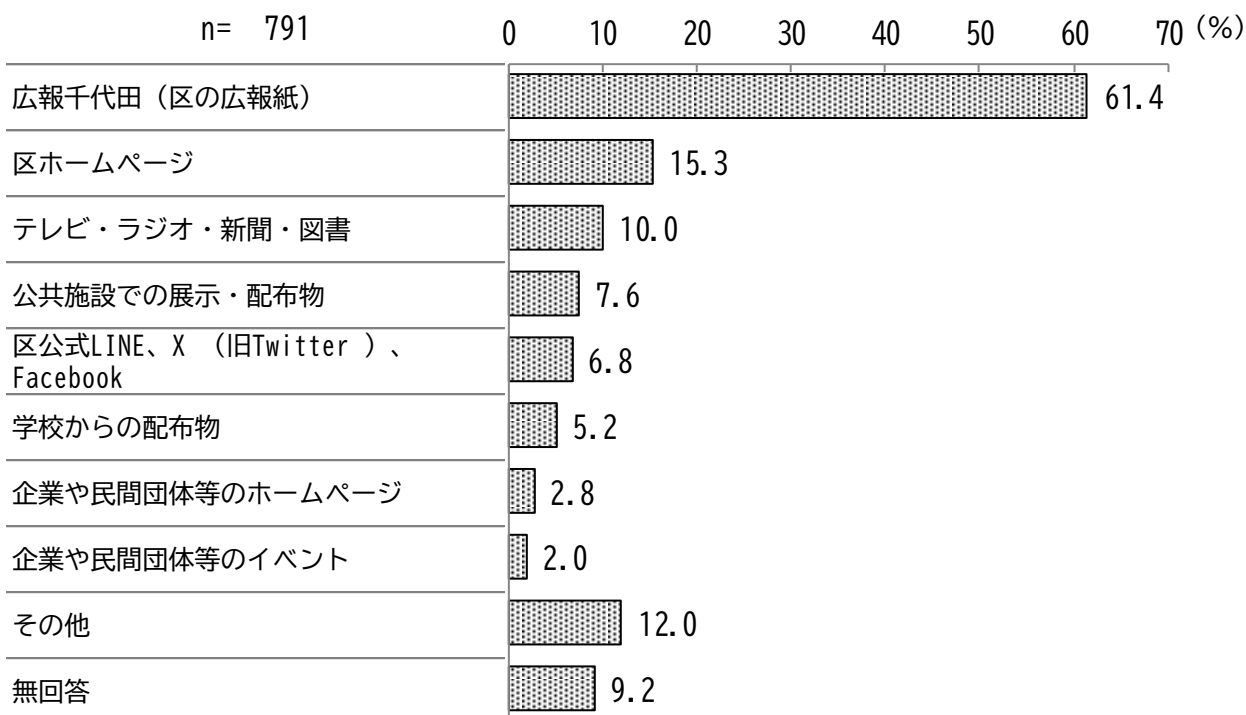


(4) 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

◇「広報千代田（区の広報紙）」は6割強

問46 あなたは、区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報を主に何で知りますか。（○はいくつでも）

図 15-4-1 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

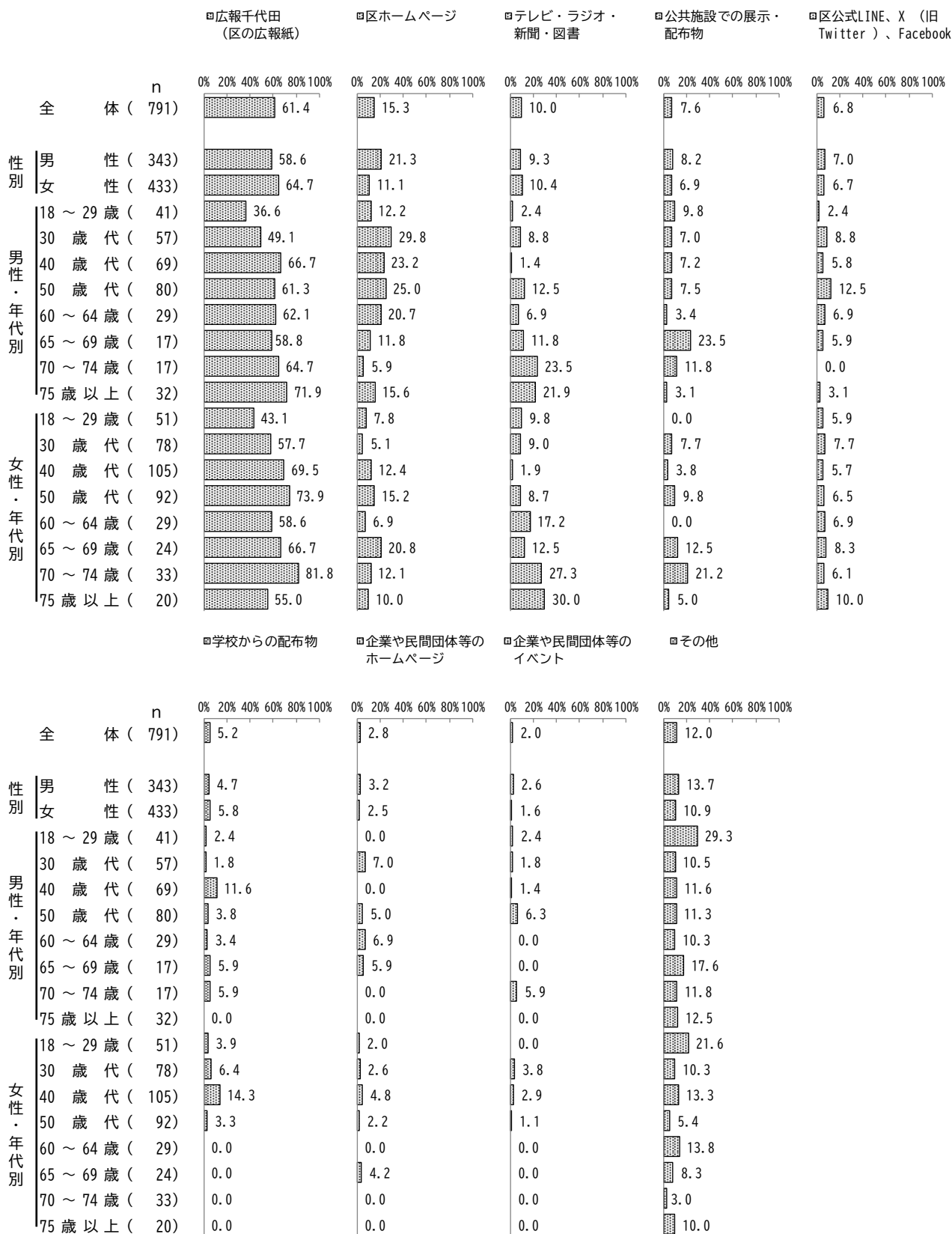


区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（61.4%）が6割強と最も高く、次いで「区のホームページ」（15.3%）が1割台半ば、「テレビ・ラジオ・新聞・図書」（10.0%）が1割と続いている。（図 15-6-1）

その他を回答した方は95人おり、主な意見として「Youtube」、「千代田区環境カレンダー」、「友人、知人を通じて」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「区の広報紙」は女性70～74歳（81.8%）で8割強と高くなっている。また、「区のホームページ」は男性30歳代（29.8%）で3割弱と高くなっている。（図15-5-2）

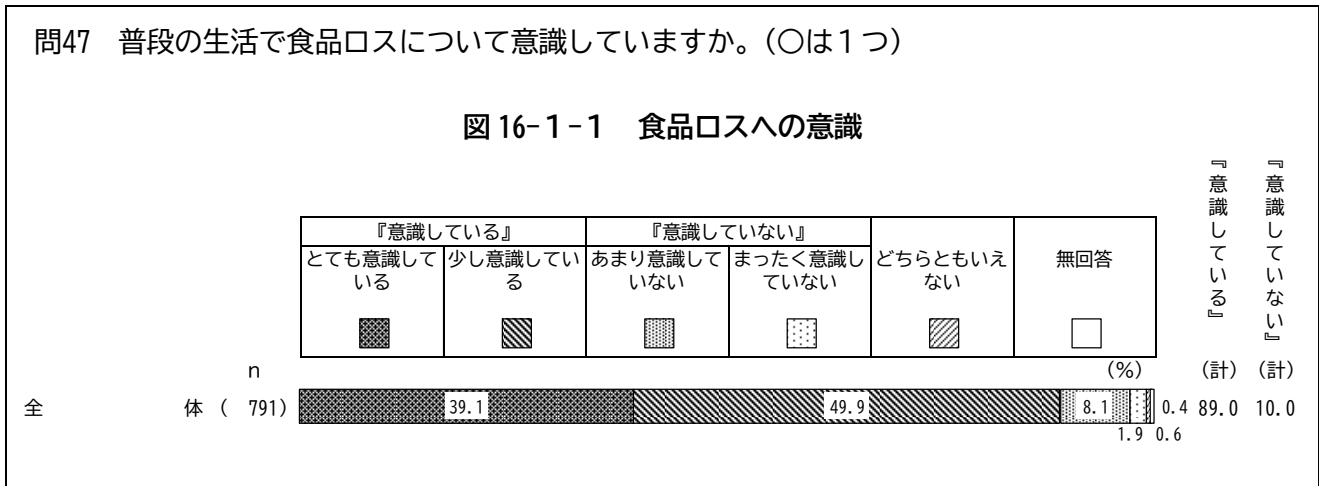
図15-4-2 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体（性・年代別）



16. 食品ロス削減

(1) 食品ロスへの意識

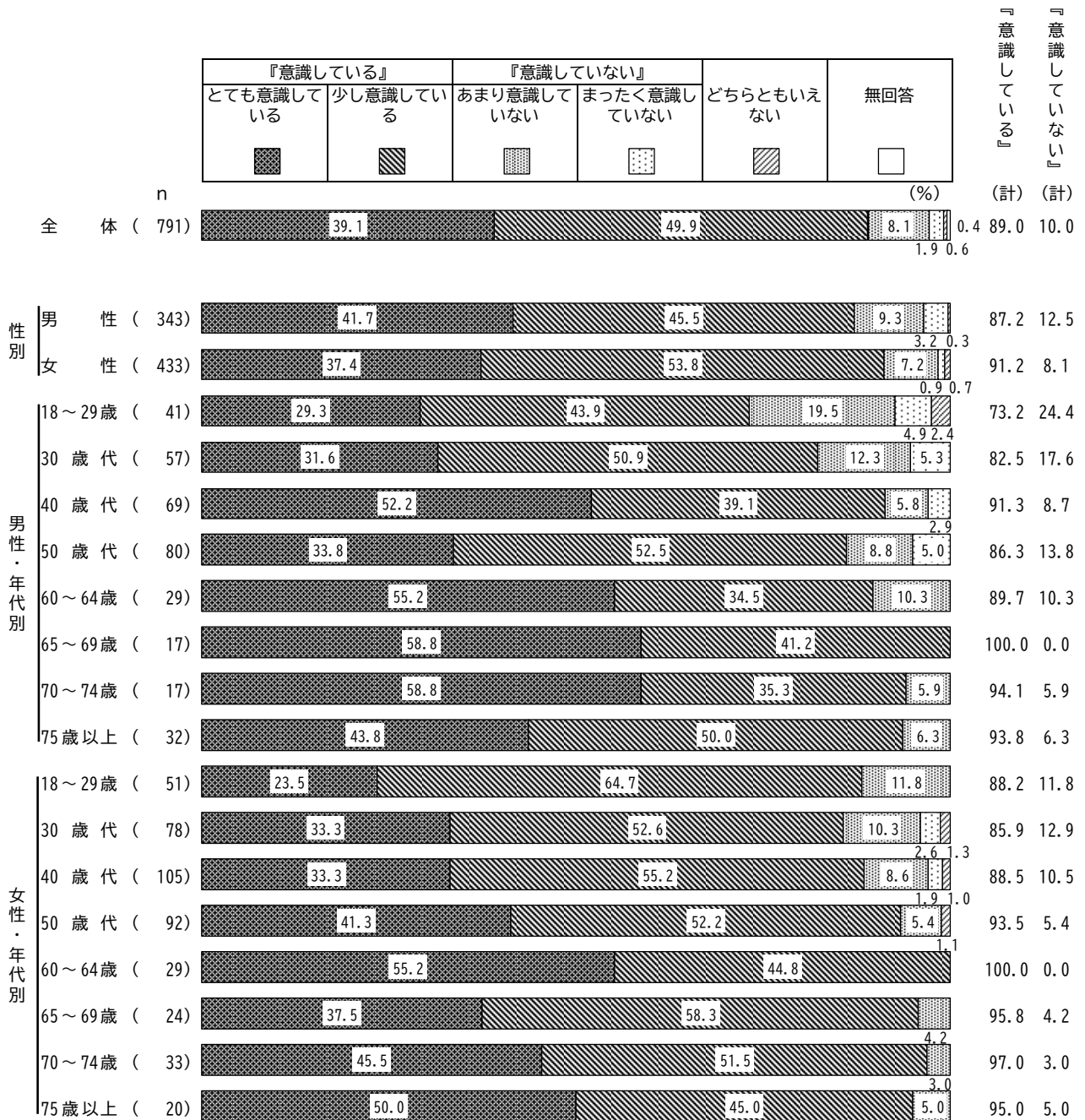
◇食品ロスを『意識している』が9割弱



普段の生活で食品ロスについて意識しているか聞いたところ、「少し意識している」(49.9%)が5割弱で最も高く、これに「とても意識している」(39.1%)を合わせた『意識している』(89.0%)は9割弱となっている。一方、「あまり意識していない」(8.1%)と「まったく意識していない」(1.9%)を合わせた『意識していない』(10.0%)は1割となっている。(図 16-1-1)

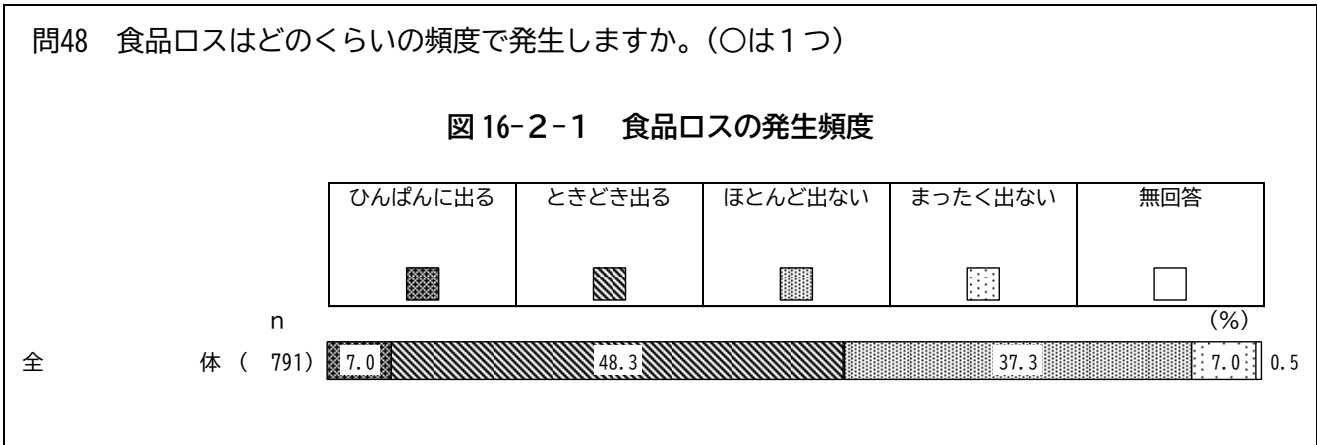
性・年代別にみると、食品ロスを『意識している』は男性 65～69 歳(100.0%)、女性 60～64 歳(100.0%)で 10 割と高くなっている。(図 16-1-2)

図 16-1-2 食品ロスへの意識 (性・年代別)



(2) 食品ロスの発生頻度

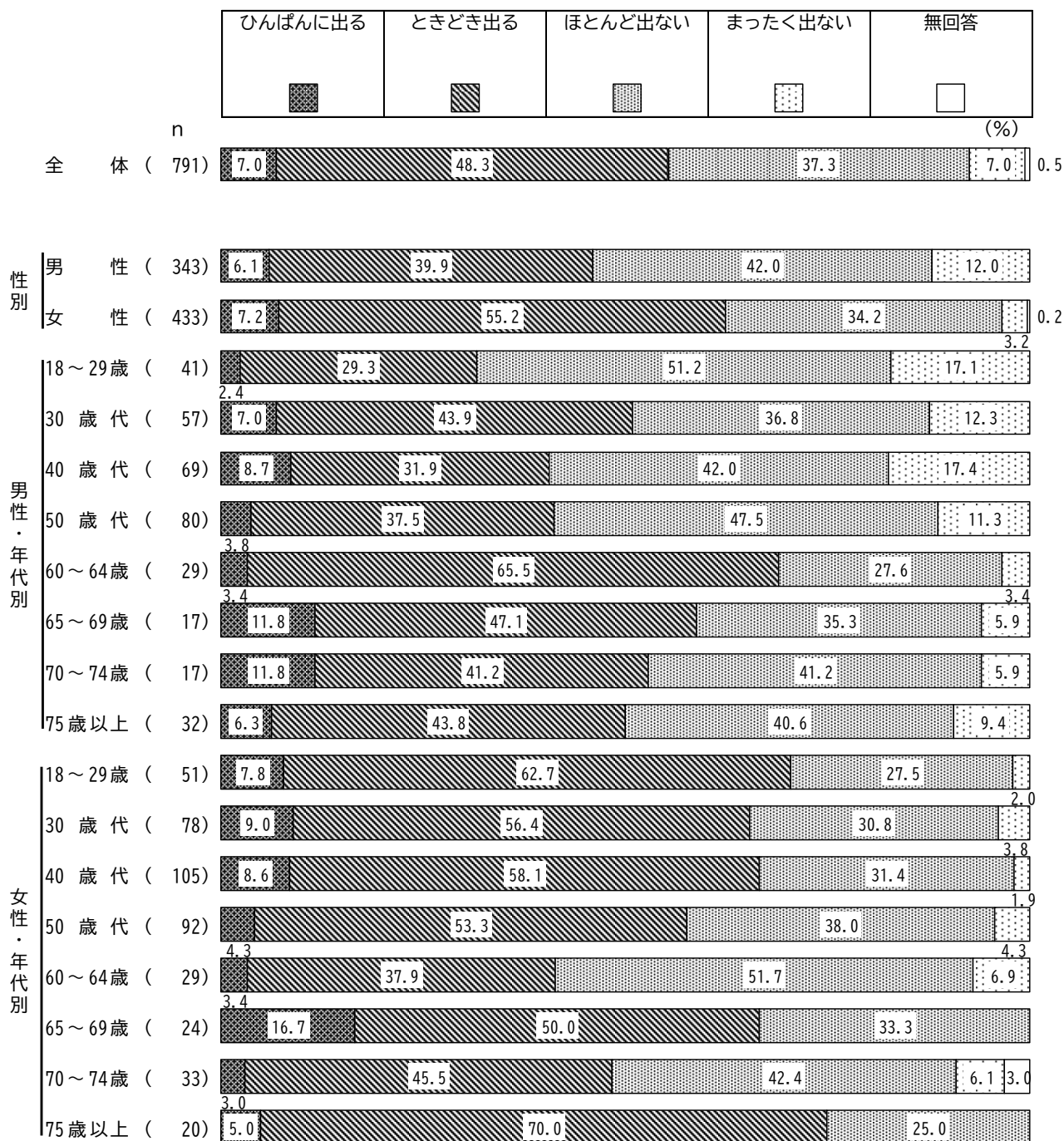
◇「ときどき出る」が5割近く



食品ロスの発生頻度について聞いたところ、「ときどき出る」(48.3%)が5割近くと最も高く、次いで「ほとんど出ない」(37.3%)、「ひんぱんに出る」と「まったく出ない」(7.0%)と続いている。(図 16-2-1)

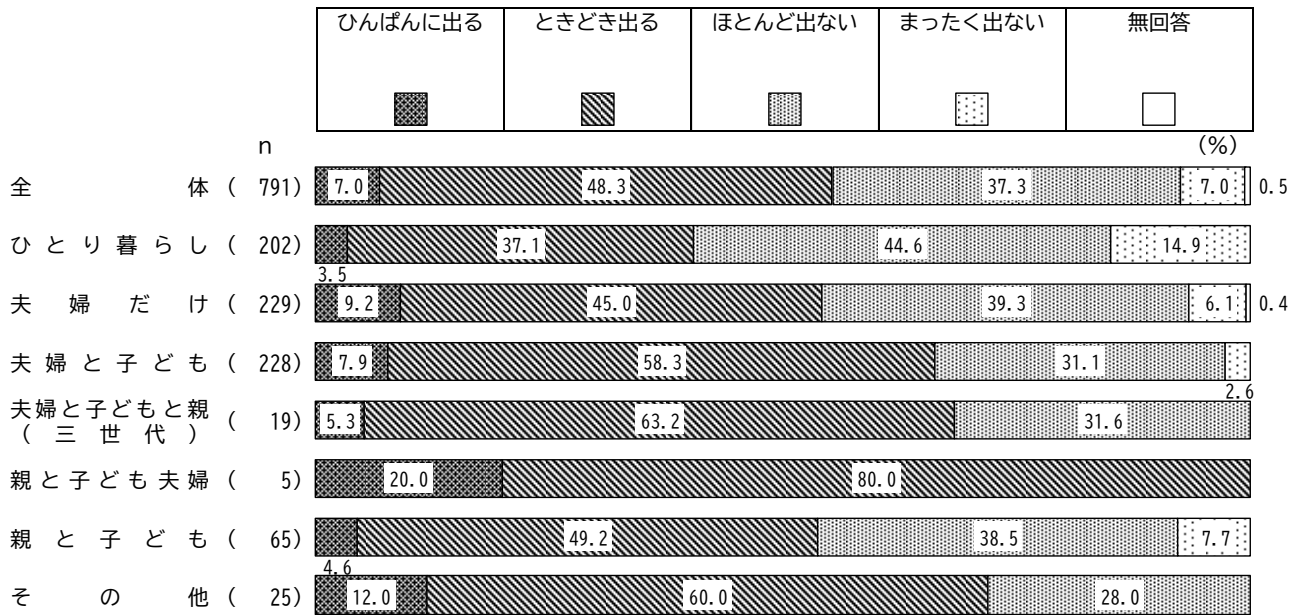
性・年代別にみると、「ときどき出る」は女性75歳以上（70.0%）で7割と高くなっている。また、「まったく出ない」は男性40歳代（17.4%）、男性18～29歳（17.1%）で1割台半ばを超えと高くなっている。（図16-2-2）

図16-2-2 食品ロスの発生頻度（性・年代別）



世帯構成別にみると、「まったく出ない」はひとり暮らし（14.9%）で1割台半ば近くと高くなっている。（図 16-2-3）

図 16-2-3 食品ロスの発生頻度（世帯構成別）

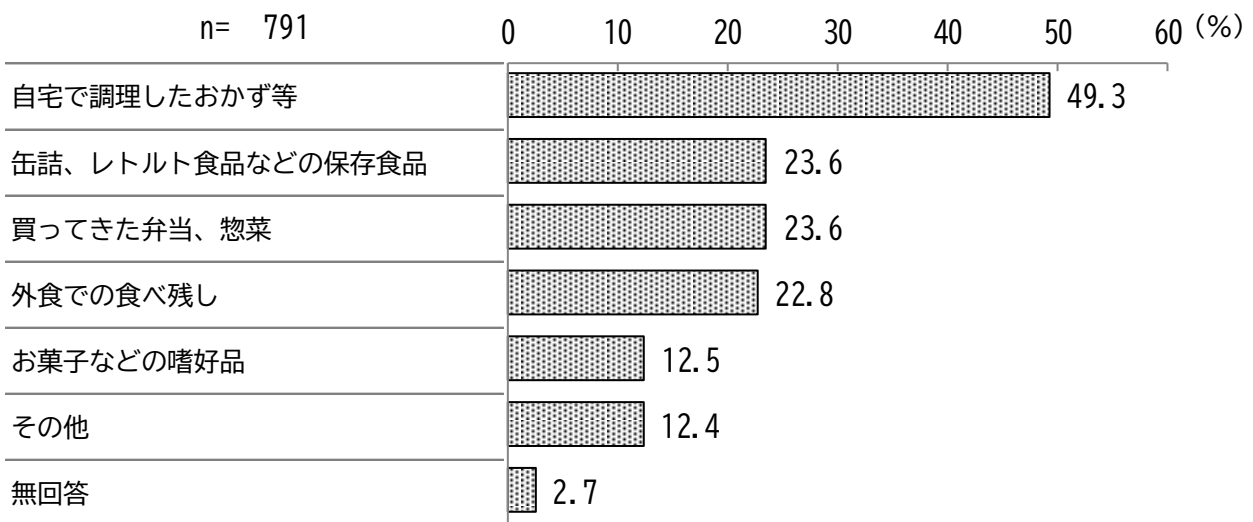


(3) 食品ロスの発生場所

◇「自宅で調理したおかず等」が5割弱

問49 食品ロスは食生活の中でどこから発生しますか。(〇はいくつでも)

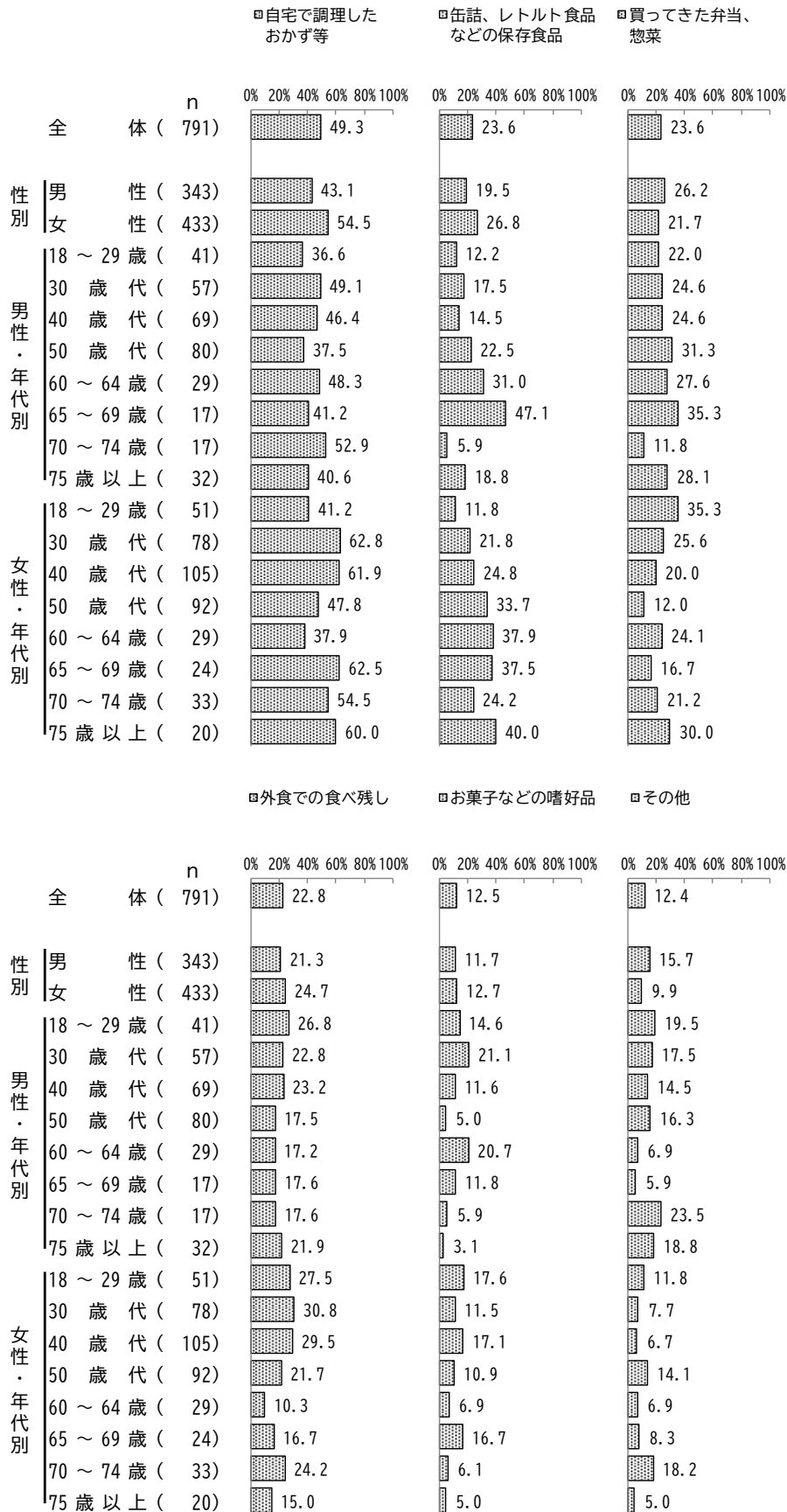
図 16-3-1 食品ロスの発生場所



食品ロスが食生活の中でどこから発生するか聞いたところ、「自宅で調理したおかず等」(49.3%)が5割弱と最も高く、次いで「缶詰、レトルト食品などの保存食品」(23.6%)と「買ってきた弁当、惣菜」(23.6%)が2割台半ば近くと続いている。(図 16-3-1)

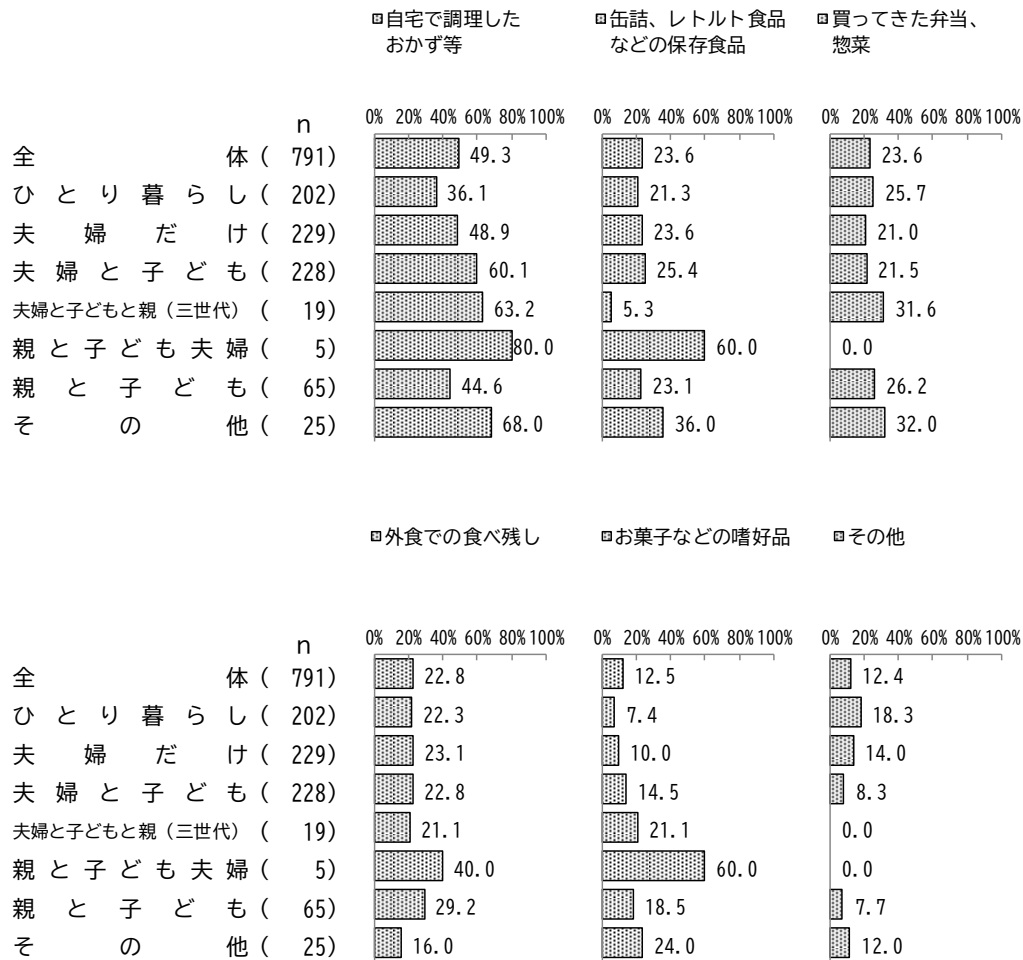
性・年代別にみると、「自宅で調理したおかず等」は女性 30 歳代(62.8%)、女性 65~69 歳(62.5%)、女性 40 歳代 (61.9%) で 6 割強と高くなっている。また、「缶詰、レトルト食品などの保存食品」は男性 65~69 歳 (47.1%) で 4 割台半ばを超えと高くなっている。(図 16-3-2)

図 16-3-2 食品ロスの発生場所 (性・年代別)



世帯構成別にみると、「自宅で調理したおかず等」は夫婦と子どもと親（三世帯）の世帯（63.2%）で6割台半ば近くと高くなっている。（図 16-3-3）

図 16-3-3 食品ロスの発生場所（世帯構成別）

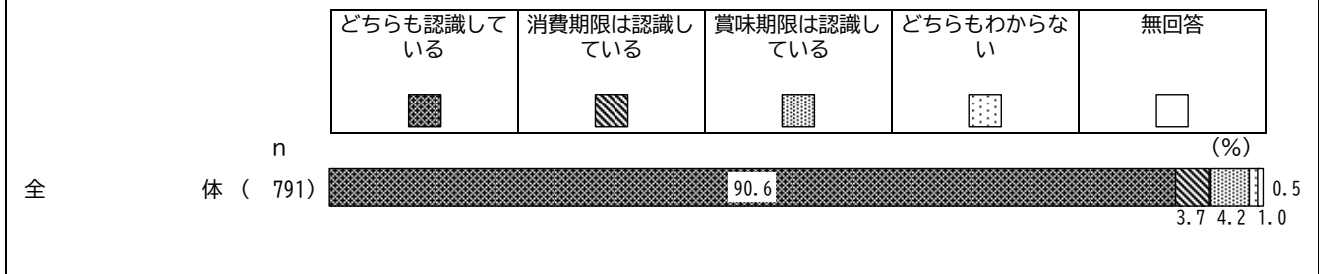


(4) 消費期限と賞味期限の違いの認識

◇「どちらも認識している」が約9割

問50 消費期限は安全に食べられる期限で、賞味期限はおいしさなどの品質が保たれる期限です。この違いを認識していましたか。(○は1つ)

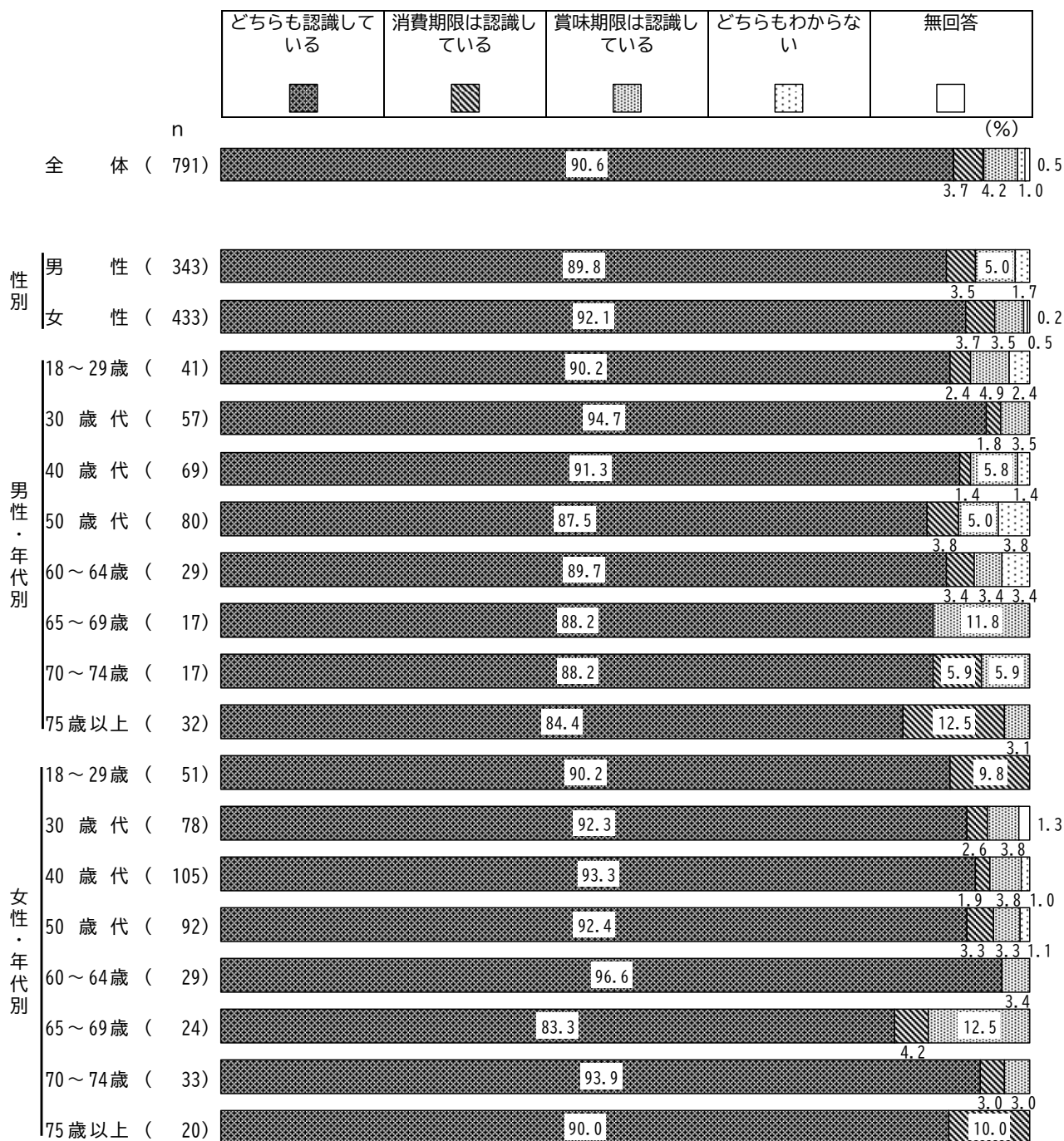
図 16-4-1 消費期限と賞味期限の違いの認識



消費期限と賞味期限の違いの認識について聞いたところ、「どちらも認識している」(90.6%)が約9割と最も高く、「消費期限は認識している」(3.7%)、「賞味期限は認識している」(4.2%)、「どちらもわからない」(1.0%)は1割未満となっている。(図 16-4-1)

性・年代別にみると、「どちらも認識している」は女性 60～64 歳（96.6%）で 9 割台半ばを超えと高くなっている。（図 16-4-2）

図 16-4-2 消費期限と賞味期限の違いの認識（性・年代別）

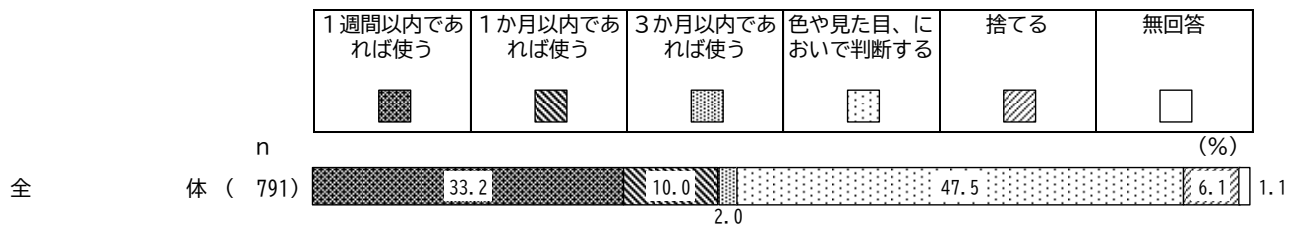


(5) 賞味期限の過ぎた食品の扱い

◇「色や見た目、においで判断する」が4割台半ば超え

問51 賞味期限の過ぎた食品はどのように扱いますか。(○は1つ)

図 16-5-1 賞味期限の過ぎた食品の扱い

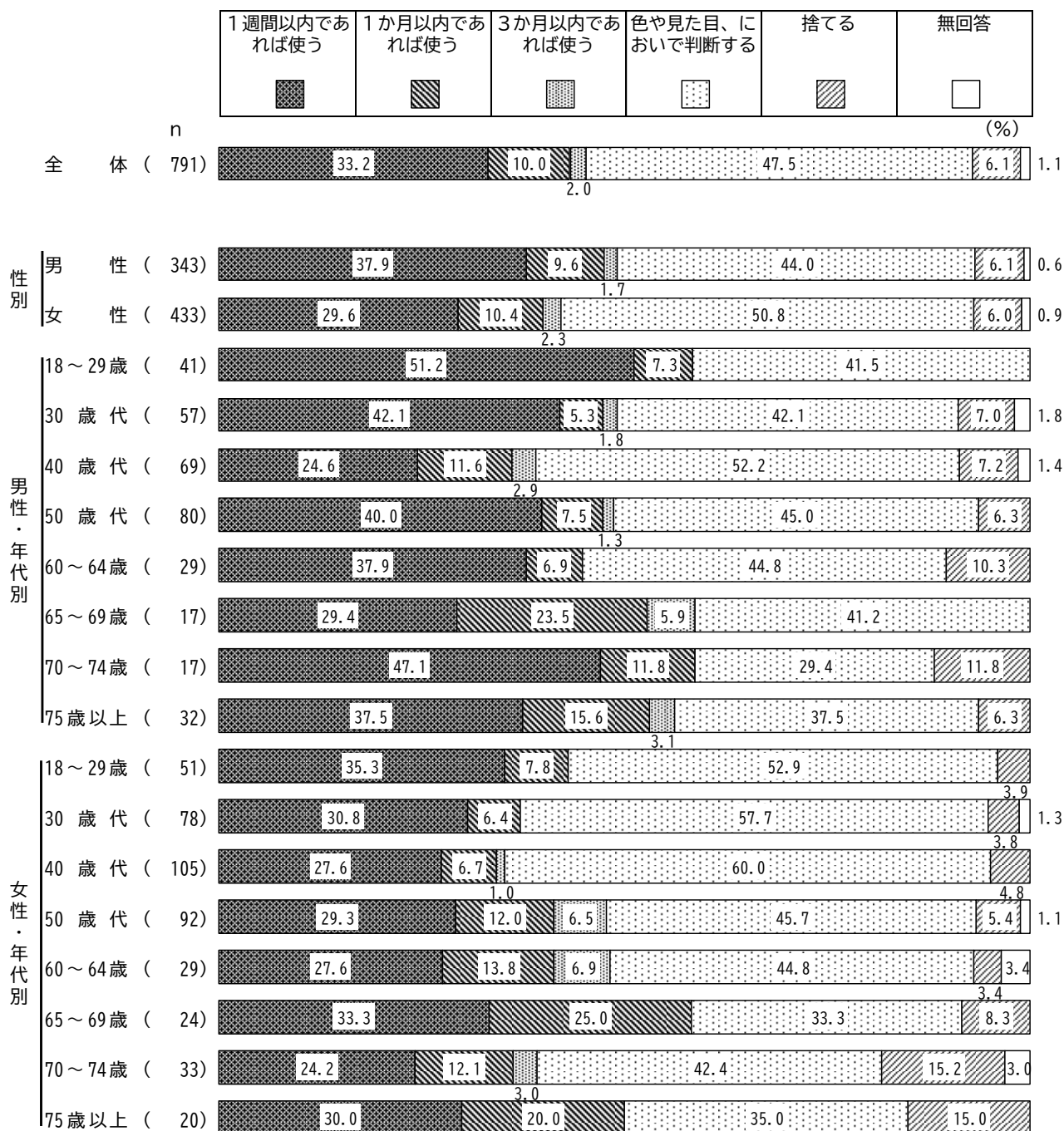


賞味期限の過ぎた食品の扱いについて聞いたところ、「色や見た目、においで判断する」(47.5%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「1週間以内であれば使う」(33.2%)、「1か月以内であれば使う」(10.0%)と続いている。(図 16-5-1)

性・年代別にみると、「色や見た目、において判断する」は女性40歳代（60.0%）で6割と高くなっている。また、「1週間以内であれば使う」は男性18～29歳（51.2%）で5割強と高くなっている。

(図 16-5-2)

図 16-5-2 賞味期限の過ぎた食品の扱い（性・年代別）



(6) 食品ロスを出さないために実践している取り組み

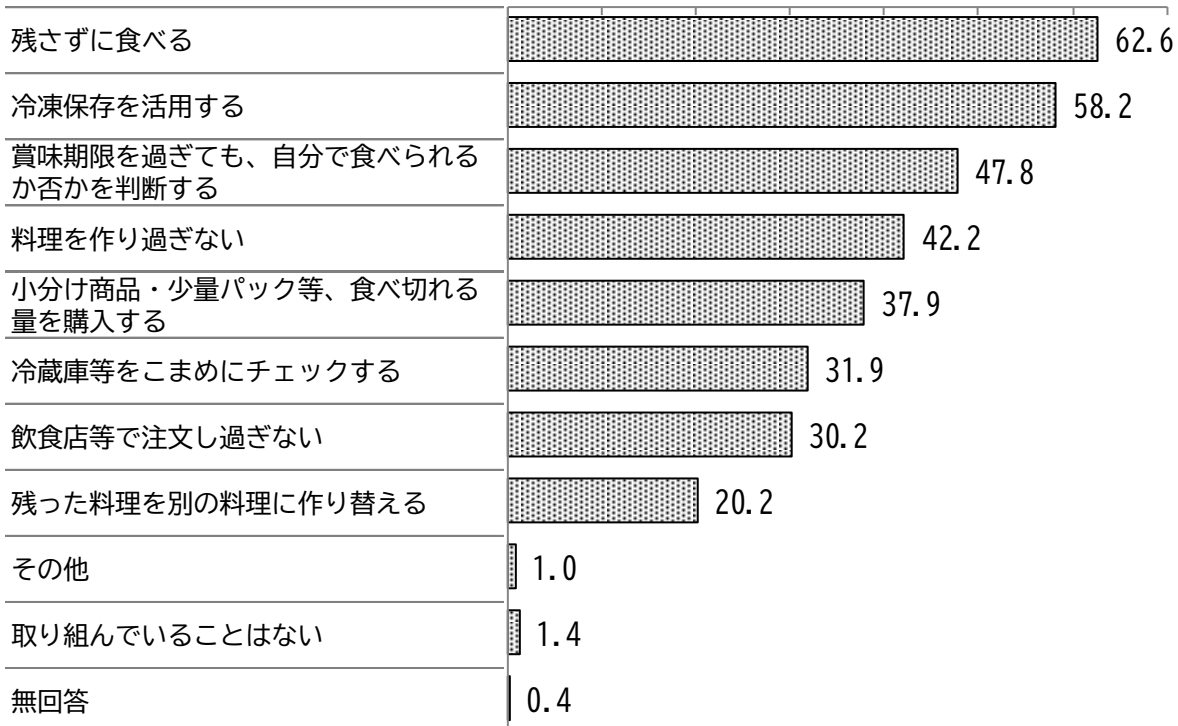
◇「残さずに食べる」が6割強

問52 普段の生活の中で、食品ロスを出さない取り組みを実践していますか。(○はいくつでも)

図 16-6-1 食品ロスを出さないために実践している取り組み

n= 791

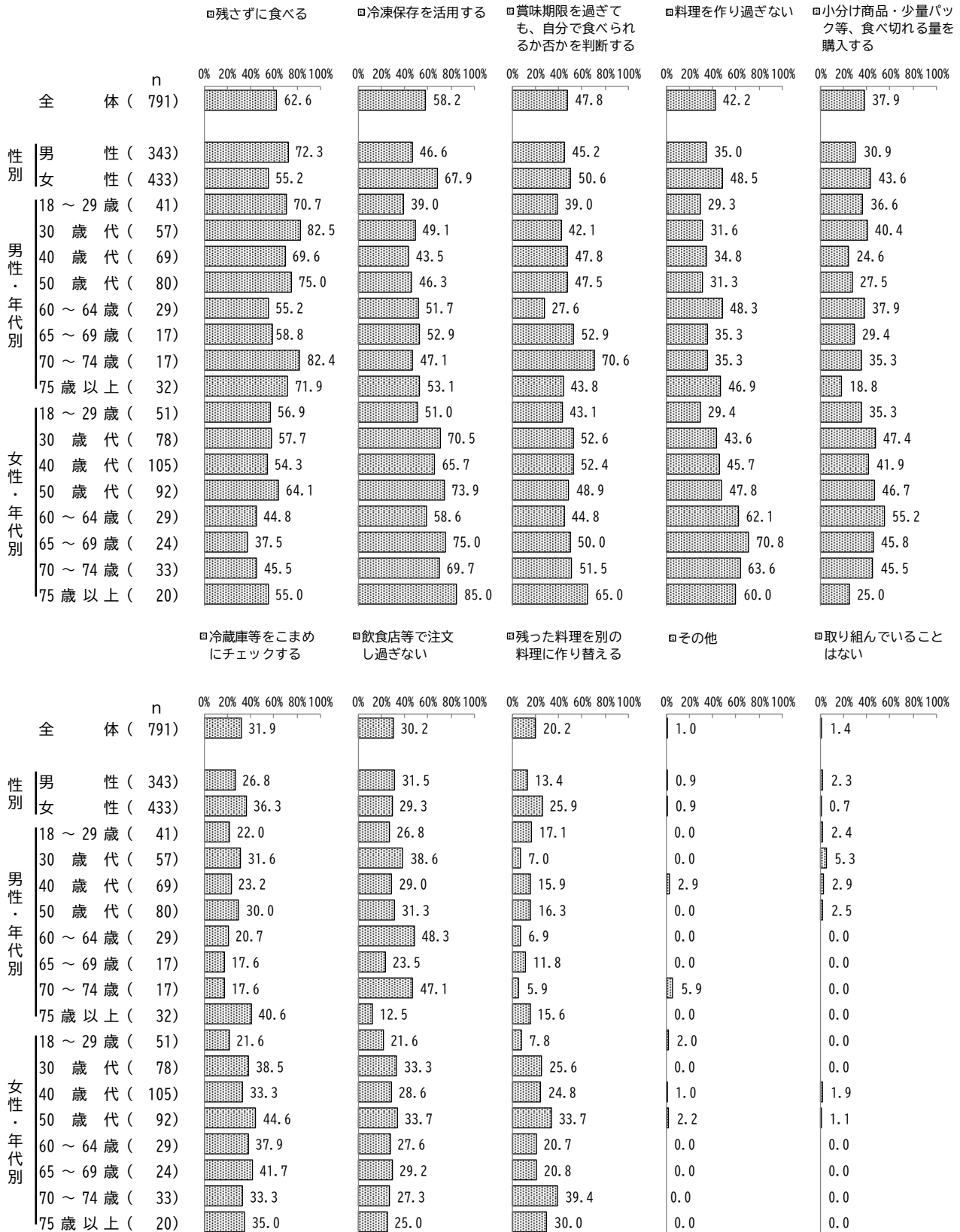
0 10 20 30 40 50 60 70 (%)



普段の生活の中で、食品ロスを出さないために実践している取り組みについて聞いたところ、「残さずに食べる」(62.6%)が6割強と最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」(58.2%)、「賞味期限を過ぎても、自分で食べられるか否かを判断する」(47.8%)と続いている。(図 16-6-1)

性・年代別にみると、「賞味期限を過ぎても、自分で食べられるか否かを判断する」は男性 70～74 歳（70.6%）で約 7 割と高くなっている。また、「冷凍保存を活用する」は女性 75 歳以上（85.0%）で 8 割台半ばと高くなっている。（図 16-6-2）

図 16-6-2 食品ロスを出さないために実践している取り組み（性・年代別）

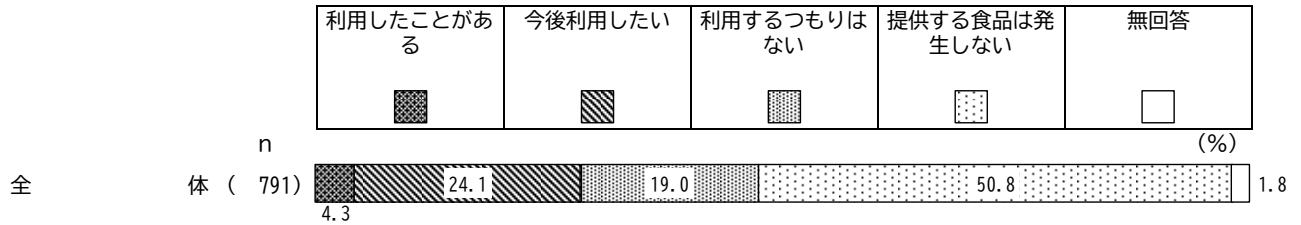


(7) フードドライブの利用状況

◇「提供する食品は発生しない」が約5割

問53 フードドライブとは、各家庭で使い切れない未使用食品を寄贈する活動をいいますが、この活動について利用したことはありますか。(○は1つ)

図 16-7-1 フードドライブの利用状況

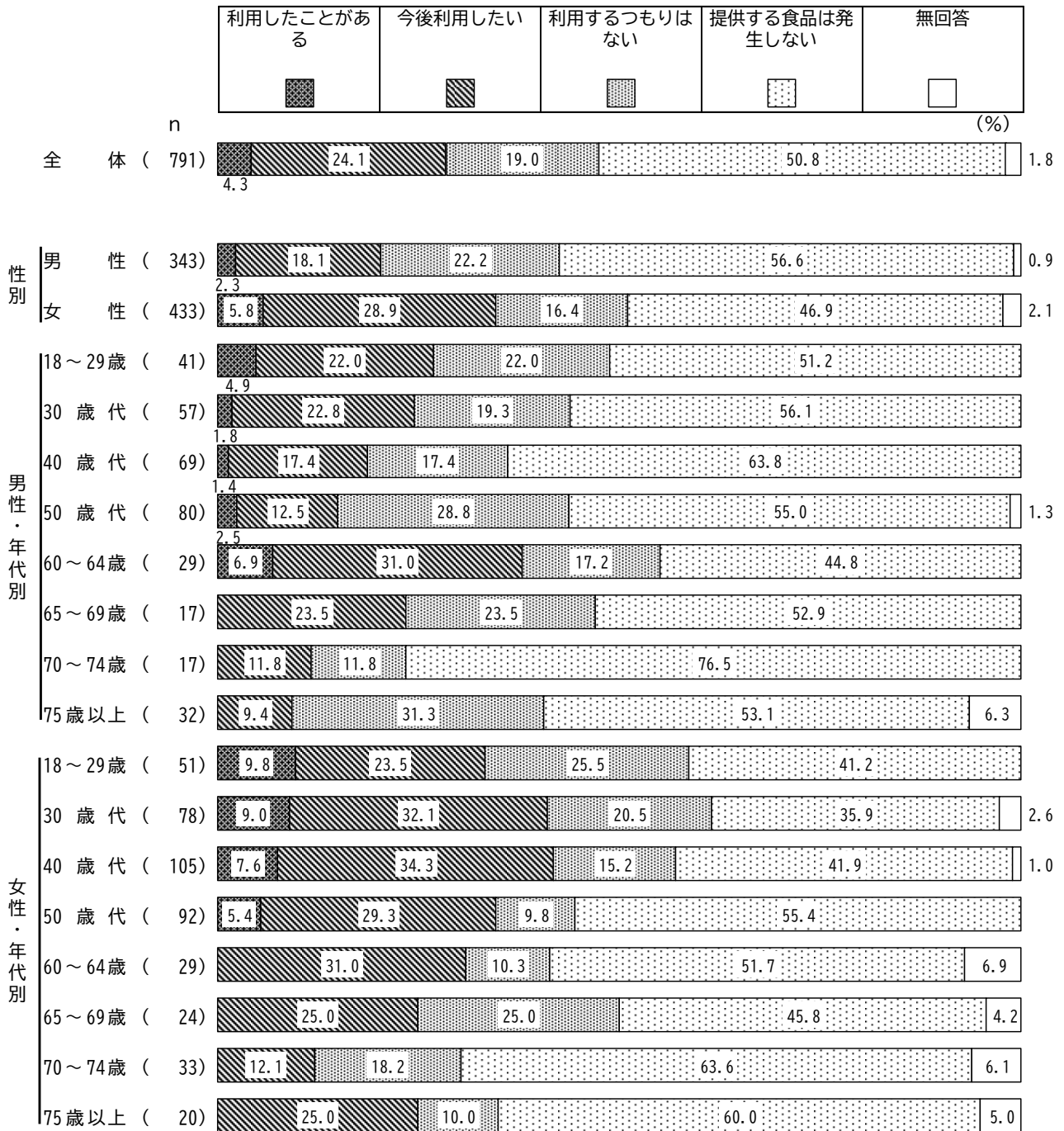


フードドライブの利用状況について聞いたところ、「提供する食品は発生しない」(50.8%)が約5割と最も高く、次いで「今後利用したい」(24.1%)、「利用するつもりはない」(19.0%)、「利用したことがある」(4.3%)と続いている。(図 16-7-1)

性・年代別にみると、「提供する食品は発生しない」は男性70～74歳（76.5%）で7割台半ばを超えと高くなっている。一方、「利用したことがある」はいずれの年代でも1割未満となっている。

(図 16-7-2)

図 16-7-2 フードドライブの利用状況（性・年代別）



(7-1) フードドライブを今後利用するために必要だと思う工夫

(問53で「2. 今後利用したい」とお答えの方に)

問53-1 今後利用するには、どのような工夫が必要だと思いますか。(ご自由にご記入ください)

フードドライブについて「今後利用したい」とお答えの方に、今後利用するために必要だと思う工夫を聞いたところ、157人(184件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

1. 情報の周知(66件)
 - ・利用のしかたをPRする
 - ・窓口がどこか分からないので積極的に周知してほしい
 - ・活動自体の認知率を向上させる
2. 利用場所・時間帯(53件)
 - ・近くのコンビニ(郵便局)に寄贈品の箱を設置してほしい
 - ・24時間受け入れを可能にするなど
 - ・利用できる場所、機会をふやす
3. 利用のしやすさ等(40件)
 - ・簡易な回収方法
 - ・手続きが簡単にできる事
 - ・時間を割かない方法
4. その他(25件)
 - ・地域とのコミュニケーション
 - ・食品の小分け販売
 - ・賞味期限切れのものを判断するためのガイドラインの策定

(7-2) フードドライブを利用するつもりがない理由

(問53で「3. 利用するつもりはない」とお答えの方に)
問53-2 利用するつもりはない理由をお聞かせ下さい。(ご自由にご記入ください)

フードドライブについて「利用するつもりはない」とお答えの方に、利用するつもりがない理由を聞いたところ、128人(135件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

1. 利用する必要がない (57件)
 - ・未使用食品がほぼ出ないため
 - ・提供できるものが生じない
 - ・自分で消費する
2. 面倒だから (30件)
 - ・手続きが大変そう
 - ・利用するために手間がかかるから
 - ・届けるのが面倒
3. 衛生面等 (21件)
 - ・1度人の手にわたった食品に抵抗がある
 - ・寄贈する食品の品質に責任を持ってない
 - ・食品は、口に入れるものであり、リスクが高い
4. 活動内容、利用方法が分からない (18件)
 - ・寄贈する方法を知らない
 - ・詳しく知らないから
 - ・利用する方法が分からない為
5. その他 (9件)
 - ・関心がない
 - ・興味がない
 - ・本当に必要な人の手に渡るのが不明なため

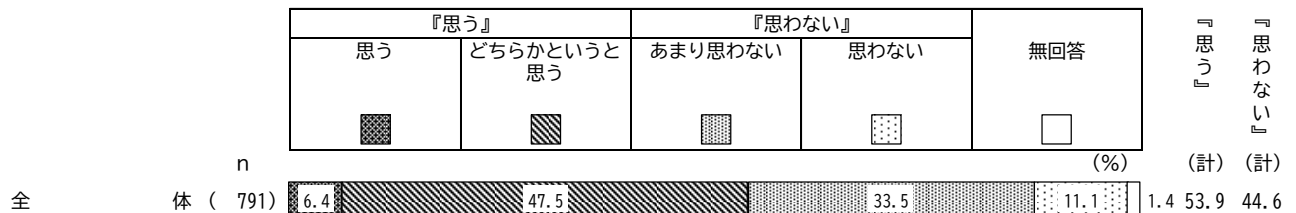
17. まちづくりに関する情報収集の方法について

(1) まちづくりに関する情報の取得状況

◇まちづくりに関する情報を十分に得られていると『思う』が5割強

問54 まちづくりに関する情報は十分に得られていると思いますか。(○は1つ)

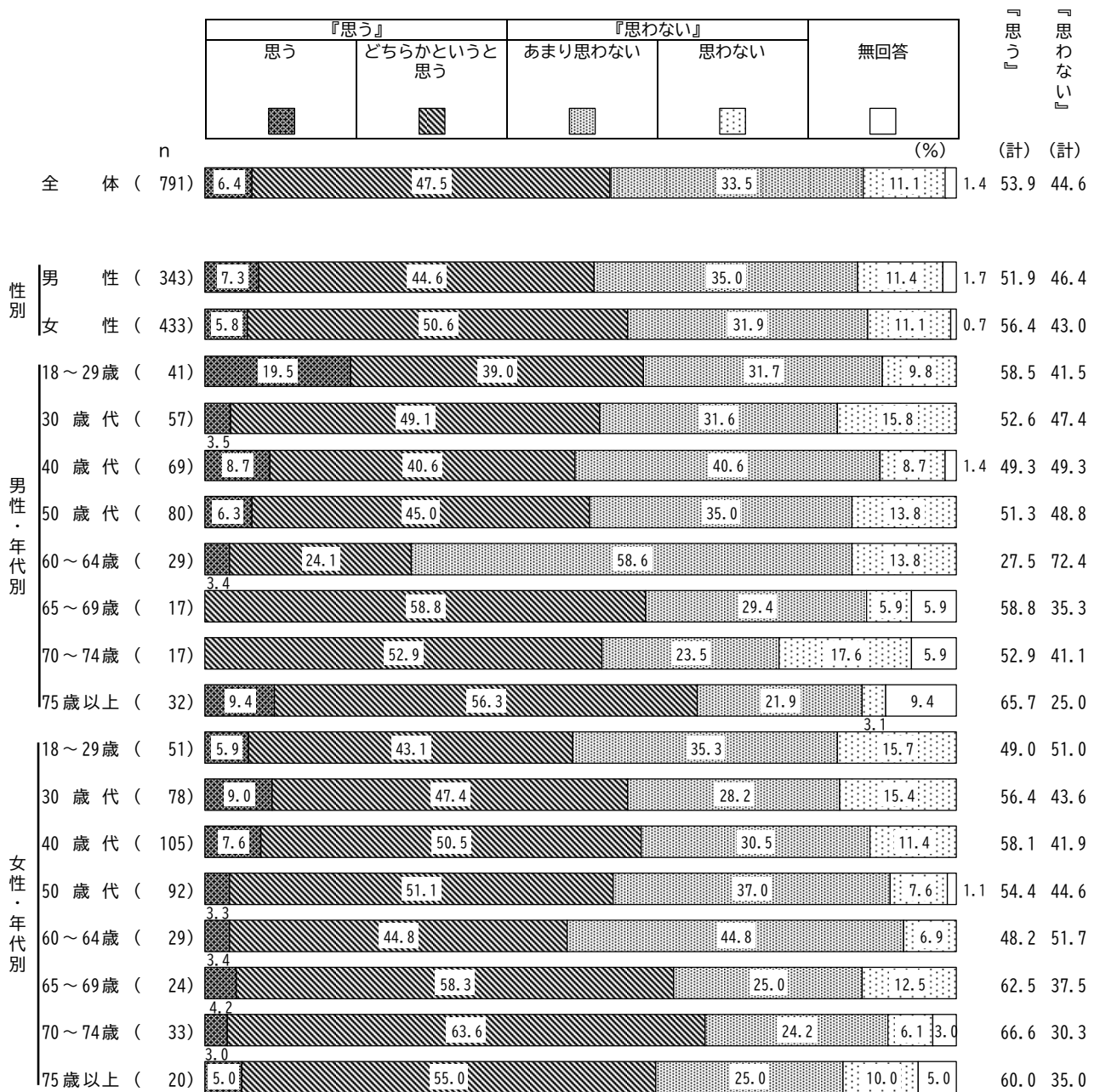
図 17-1-1 まちづくりに関する情報の取得状況



まちづくりに関する情報を十分に得られていると思うか聞いたところ、「どちらかというと思う」(47.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、これに「思う」(6.4%)を合わせた『思う』(53.9%)は5割強となっている。一方、「あまり思わない」(33.5%)と「思わない」(11.1%)を合わせた『思わない』(44.6%)は4割台半ば近くとなっている。(図 17-1-1)

性・年代別にみると、まちづくりに関する情報を十分に得られていると『思う』は女性70～74歳(66.6%)で6割台半ばを超えと高くなっている。(図17-1-2)

図17-1-2 まちづくりに関する情報の取得状況(性・年代別)

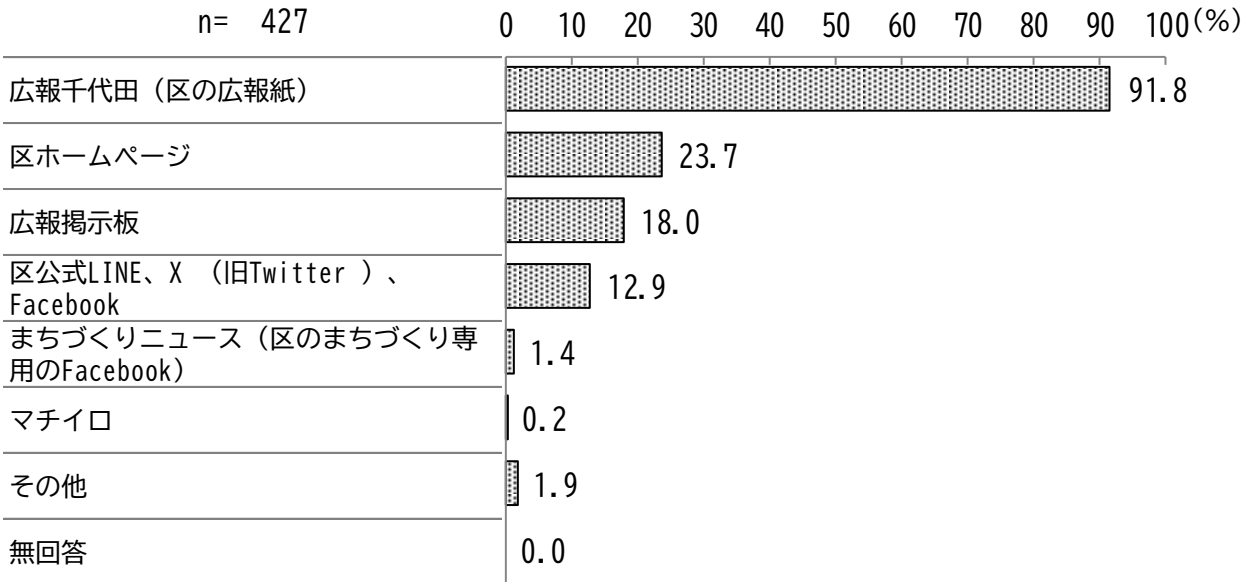


(1-2) まちづくりに関する情報の取得先

◇「広報千代田（区の広報紙）」が9割強

（問54で「1. 思う」「2. どちらかというと思う」とお答えの方に）
問54-1 まちづくりに関する情報はどこから得ていますか。（〇はいくつでも）

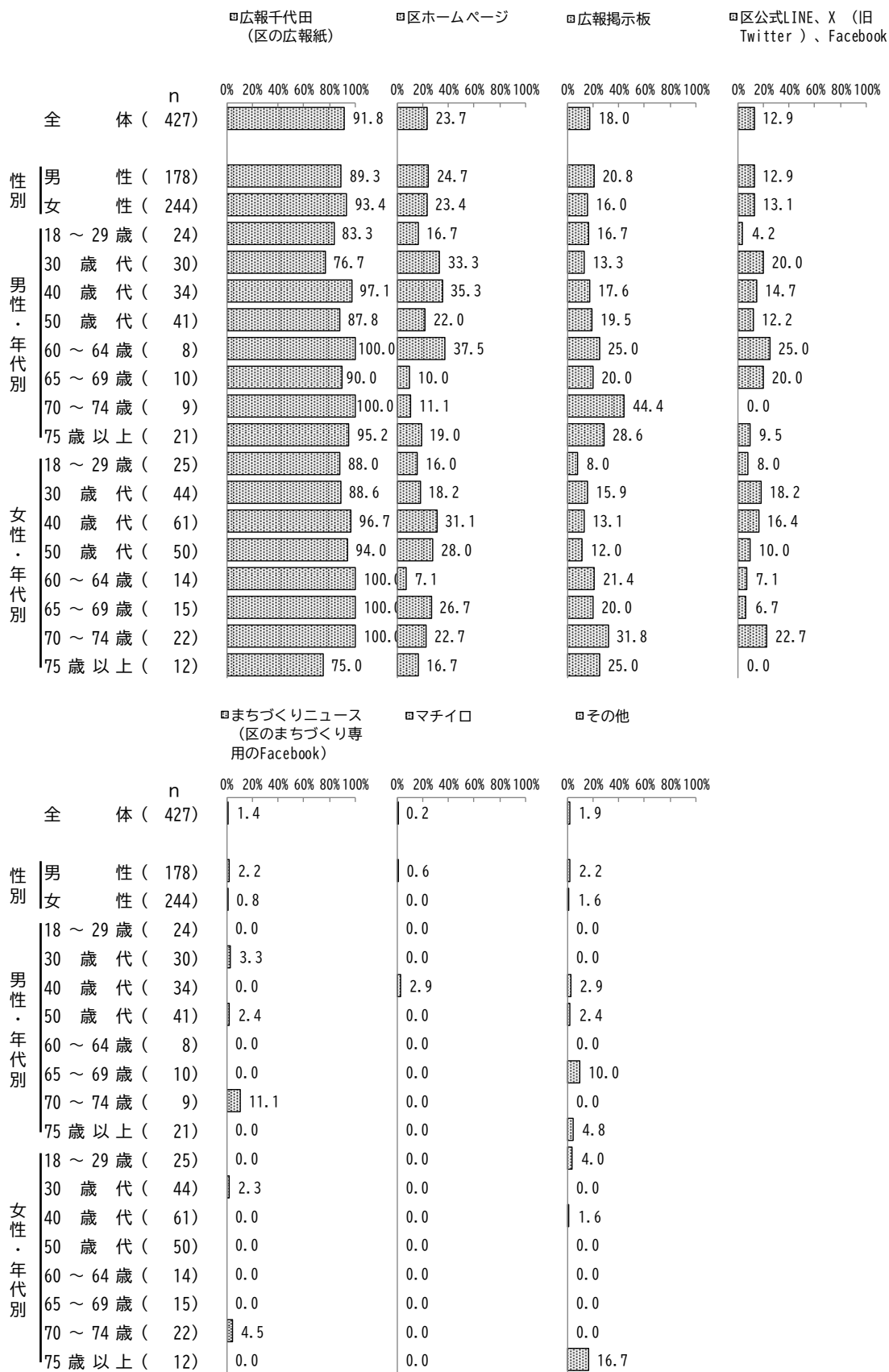
図 17-1-3 まちづくりに関する情報の取得先



まちづくりに関する情報の取得先について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（91.8%）が9割強と最も高く、次いで「区ホームページ」（23.7%）、「広報掲示板」（18.0%）と続いている。
（図 17-2-1）

性・年代別にみると、「広報掲示板」男性 70～74 歳（44.4%）で4割台半ば近くと高くなっている。
 (図 16-2-2)

図 16-1-4 まちづくりに関する情報の取得先（性・年代別）



(1-2) まちづくりに関する情報を十分得られていないと思う理由

(問54で「3. あまり思わない」「4. 思わない」とお答えの方に)

問54-2 十分に得られていないと思う理由をお聞かせください。(ご自由にご記入ください)

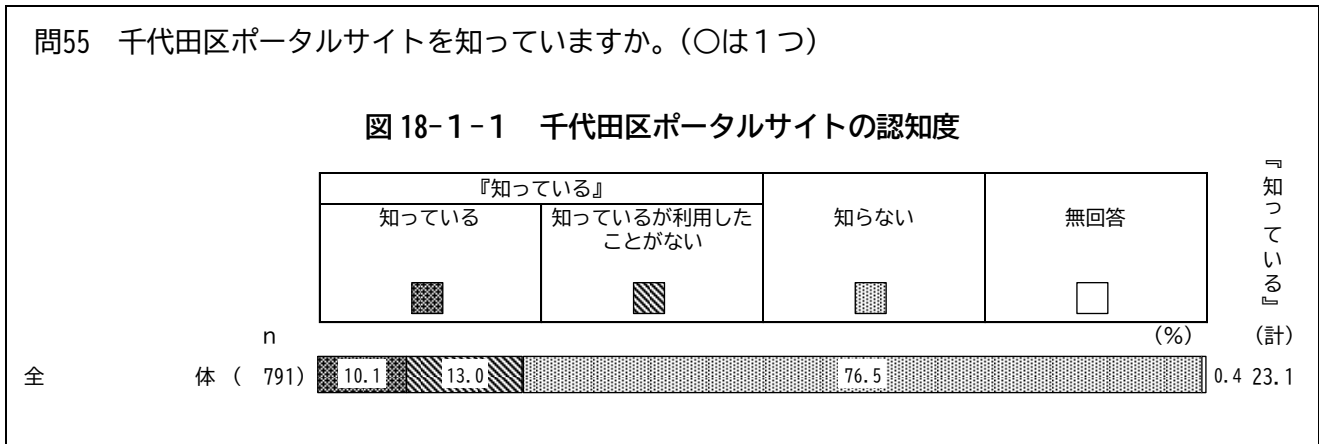
まちづくりに関する情報を十分得られていると「あまり思わない」、「思わない」とお答えの方に、その理由を聞いたところ、278人(278件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

1. 情報量、得る機会が足りない(96件)
 - ・情報発信自体を把握出来てない
 - ・情報が入ってくる場が少ない
 - ・広報千代田等では足りないのでは
2. 興味・関心がない(71件)
 - ・いまいち関心がわからない
 - ・あまり興味がない
 - ・気にしていないから、調べない
3. 自分が知らない、情報に触れていない(65件)
 - ・現時点で知らないため
 - ・目に止まらない
 - ・まちづくりに関する情報を聞いたことがないから
4. その他(46件)
 - ・転居して日が浅い為
 - ・一部の人だけの気がする

18. ポータルサイトの利用状況

(1) 千代田区ポータルサイトの認知度

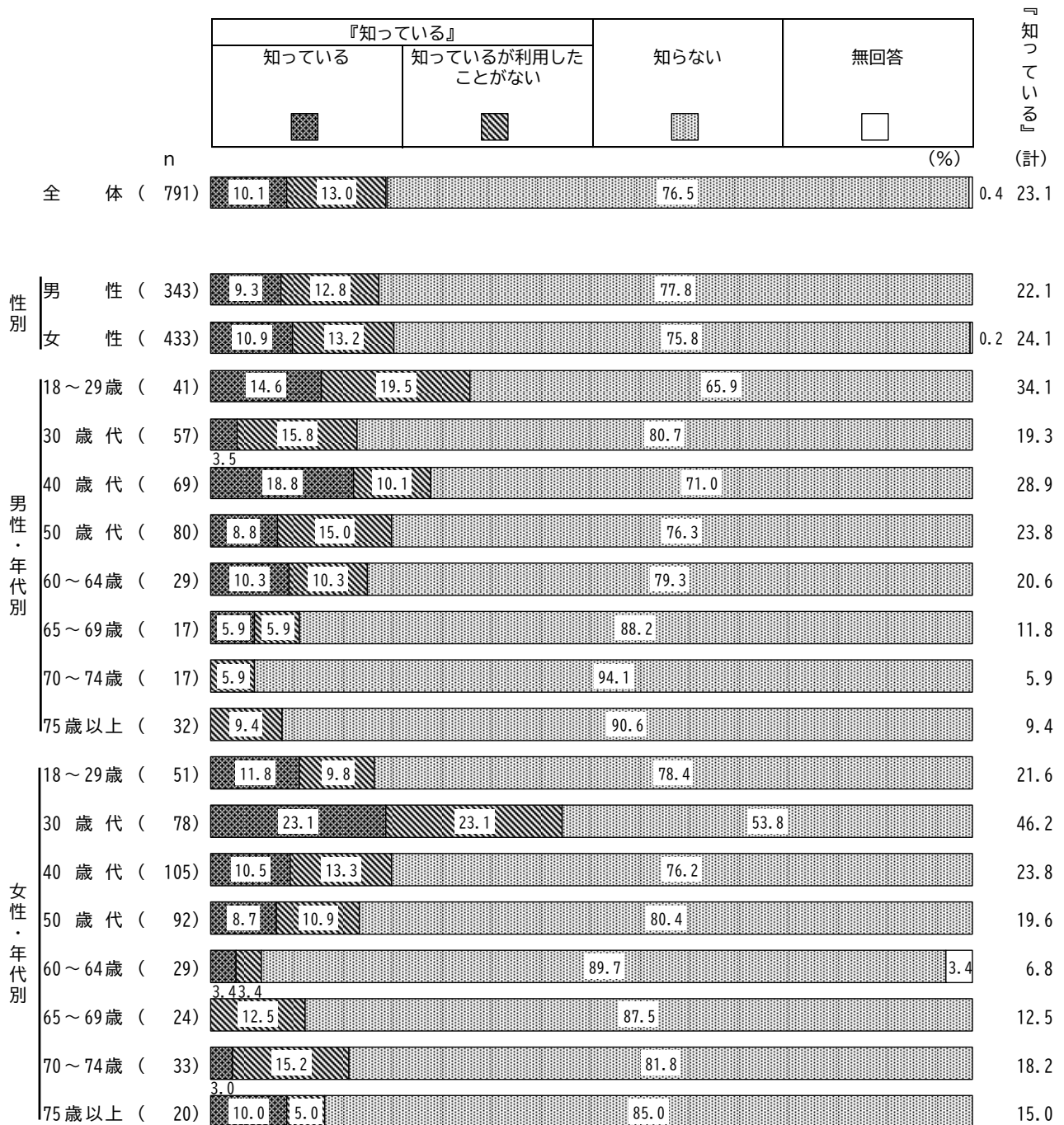
◇千代田区ポータルサイトを『知っている』が2割台半ば近く



千代田区ポータルサイトの認知度について聞いたところ、「知らない」(76.5%)が7割台半ばを超えて最も高くなっている。一方、「知っている」(10.1%)と「知っているが利用したことがない」(13.0%)を合わせた『知っている』(23.1%)は2割台半ば近くとなっている。(図 18-1-1)

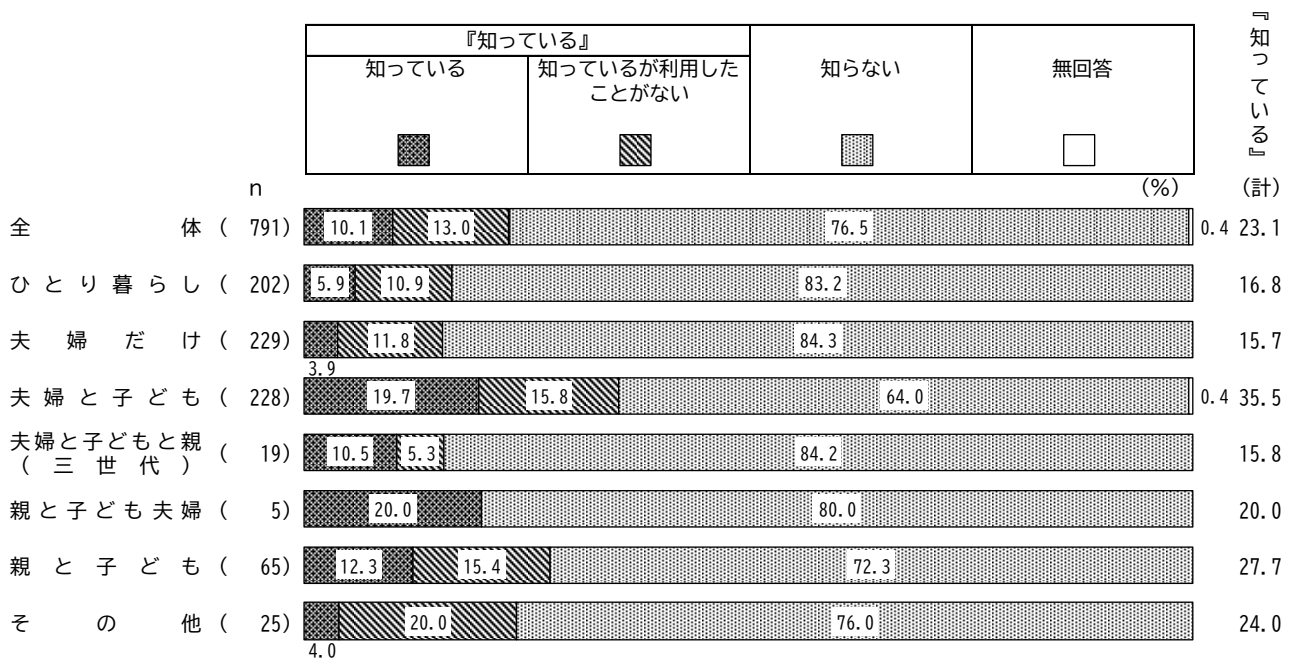
性・年代別にみると、千代田区ポータルサイトを『知っている』は女性 30 歳代（46.2%）で4割台半ば超えと高くなっている。（図 18-1-2）

図 18-1-2 千代田区ポータルサイトの認知度（性・年代別）



世帯構成別にみると、千代田区ポータルサイトを『知っている』は夫婦と子どもの世帯（35.5%）で3割台半ばと高くなっている。（図18-1-3）

図18-1-3 千代田区ポータルサイトの認知度（世帯構成別）

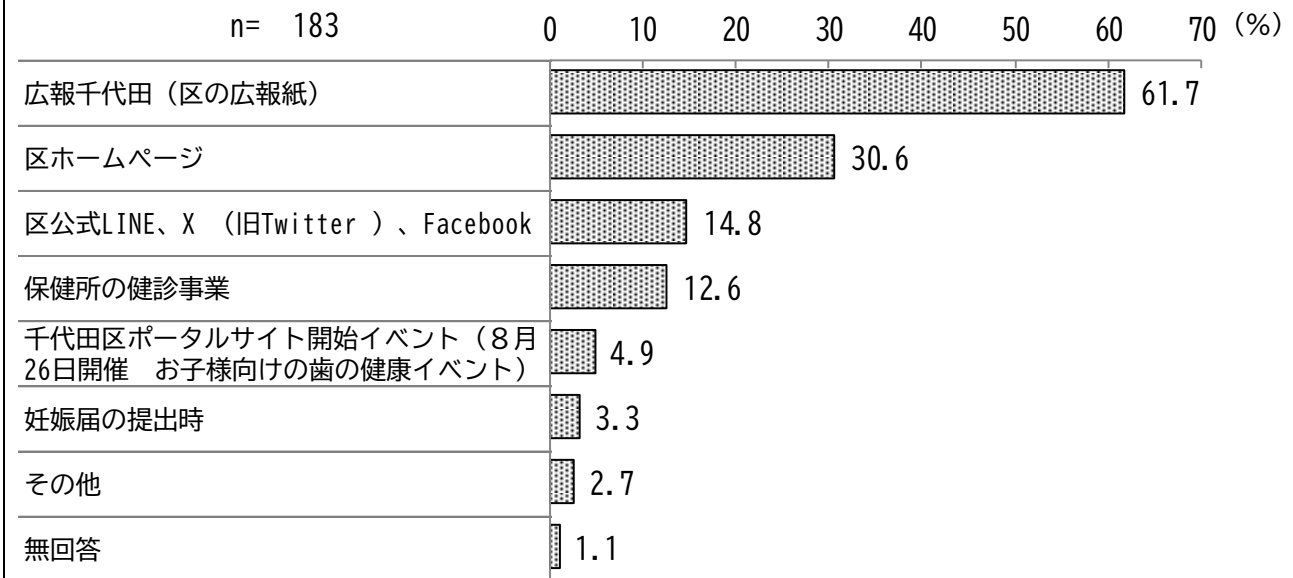


(1-1) 千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ

◇「広報千代田（区の広報紙）」が6割強

（問55で「1. 知っている」「2. 知っているが利用したことがない」とお答えの方に）
問55-1 どこで知りましたか。（〇はいくつでも）

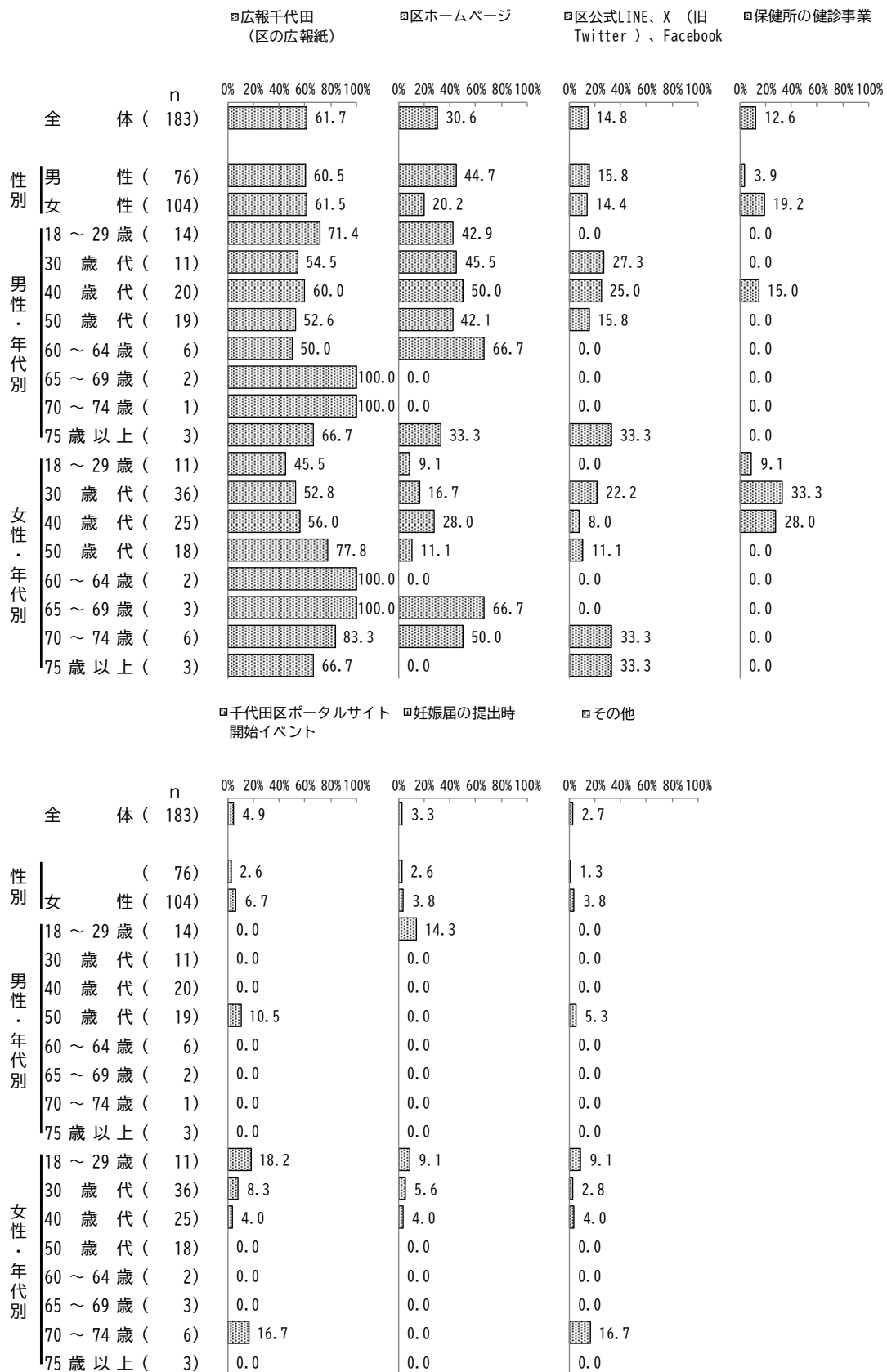
図 18-1-4 千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ



千代田区ポータルサイトを知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（61.7%）が6割強と最も高く、次いで「区ホームページ」（30.6%）と続いている。（図 18-4-1）

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は男性 18～29 歳（71.4%）で 7 割強と高くなっている。（図 18-1-5）

図 18-1-5 千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ（性・年代別）

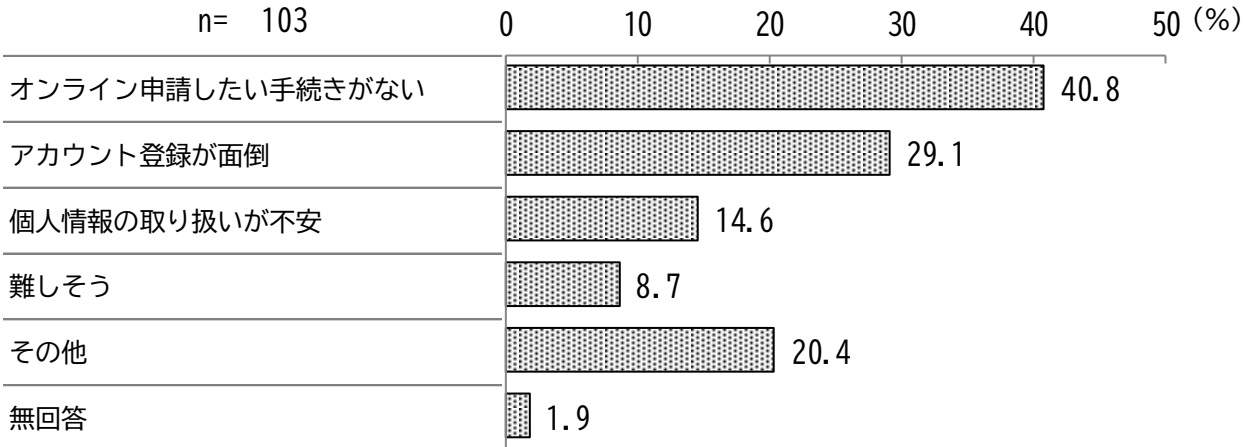


(1-2) 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由

◇「オンライン申請したい手続きがない」が約4割

(問55で「2. 知っているが利用したことがない」とお答えの方に)
問55-2 利用したことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

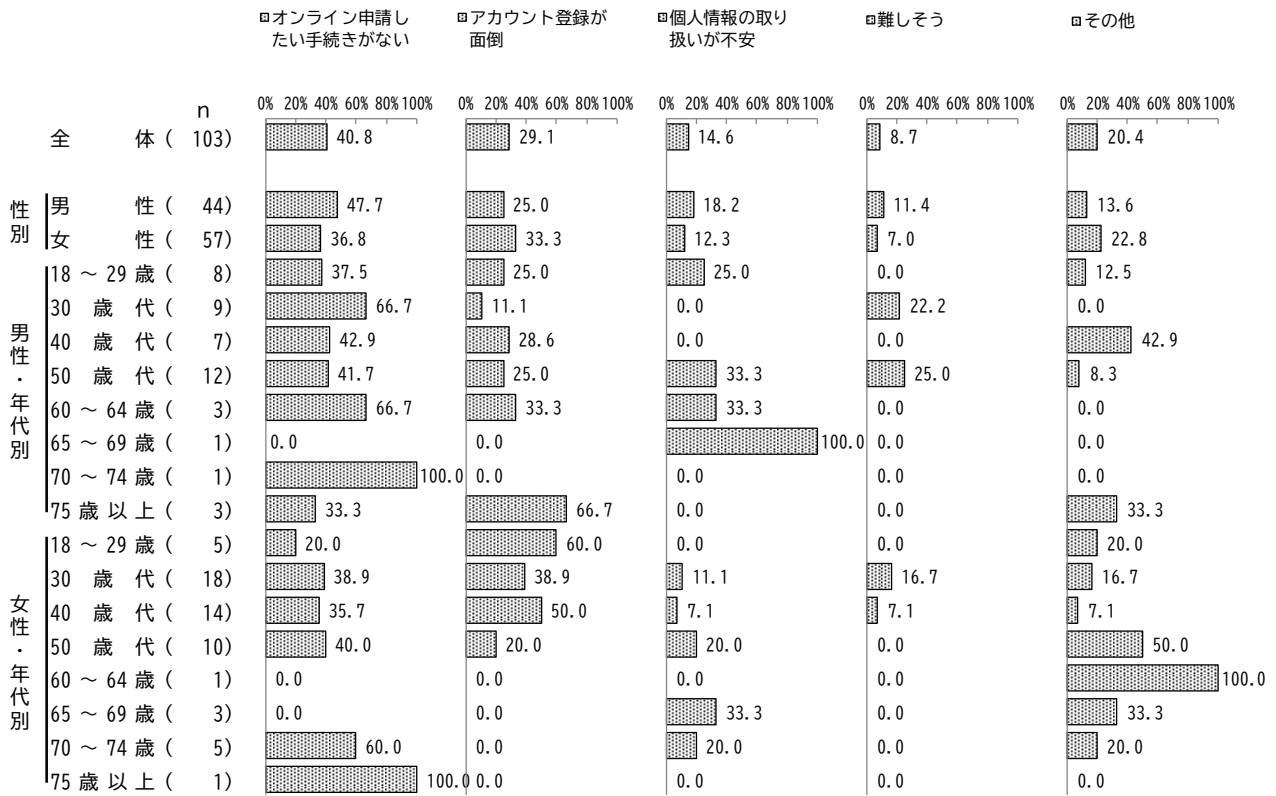
図 18-1-6 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由



千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由について聞いたところ、「オンライン申請したい手続きがない」(40.8%)が約4割と最も高く、次いで「アカウント登録が面倒」(29.1%)、「個人情報の取り扱いが不安」(14.6%)、「難しそう」(8.7%)と続いている。(図 18-1-6)

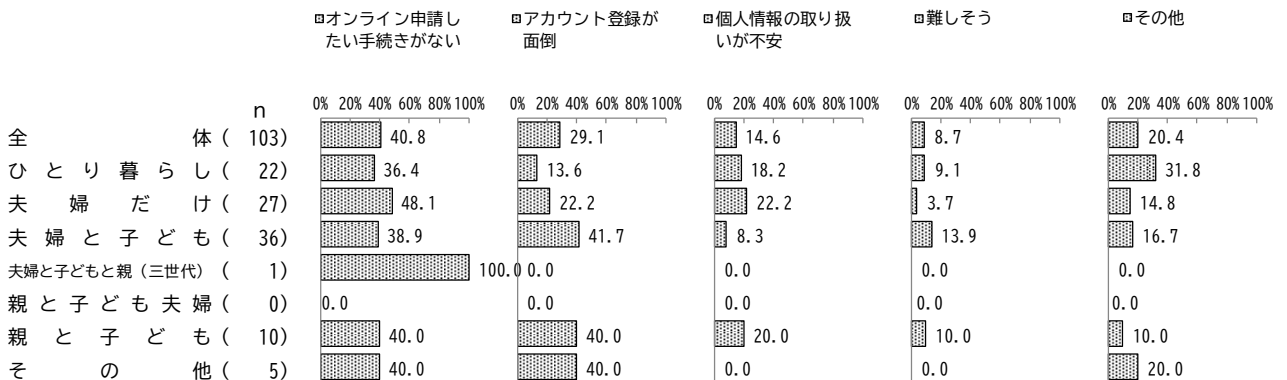
性別にみると、「オンライン申請したい手続きがない」は男性（47.7%）が女性（36.8%）を10.9ポイント上回っている。（図18-1-7）

図18-1-7 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由（性・年代別）



世帯構成別にみると、「アカウント登録が面倒」は夫婦と子どもの世帯（41.7%）で4割強と高くなっている。（図18-1-8）

図18-1-8 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由（世帯構成別）

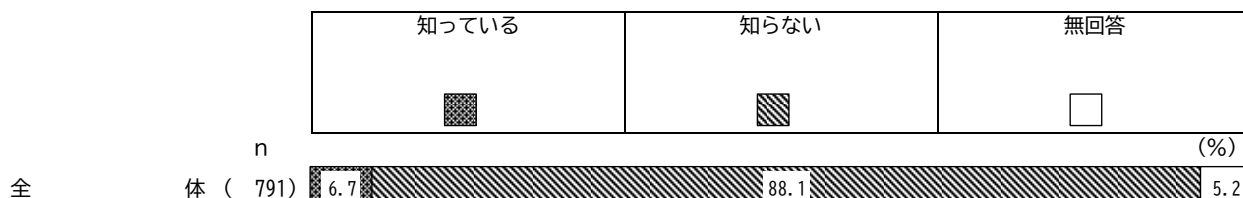


(2) 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度

◇登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことを「知らない」が9割弱

問56 千代田区ポータルサイトに登録すると、オンライン申請ができるだけでなく、登録したアカウント情報や興味のある分野に基づいて区から必要な情報がポータル上で届くことを知っていますか。(〇は1つ)

図 18-2-1 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度

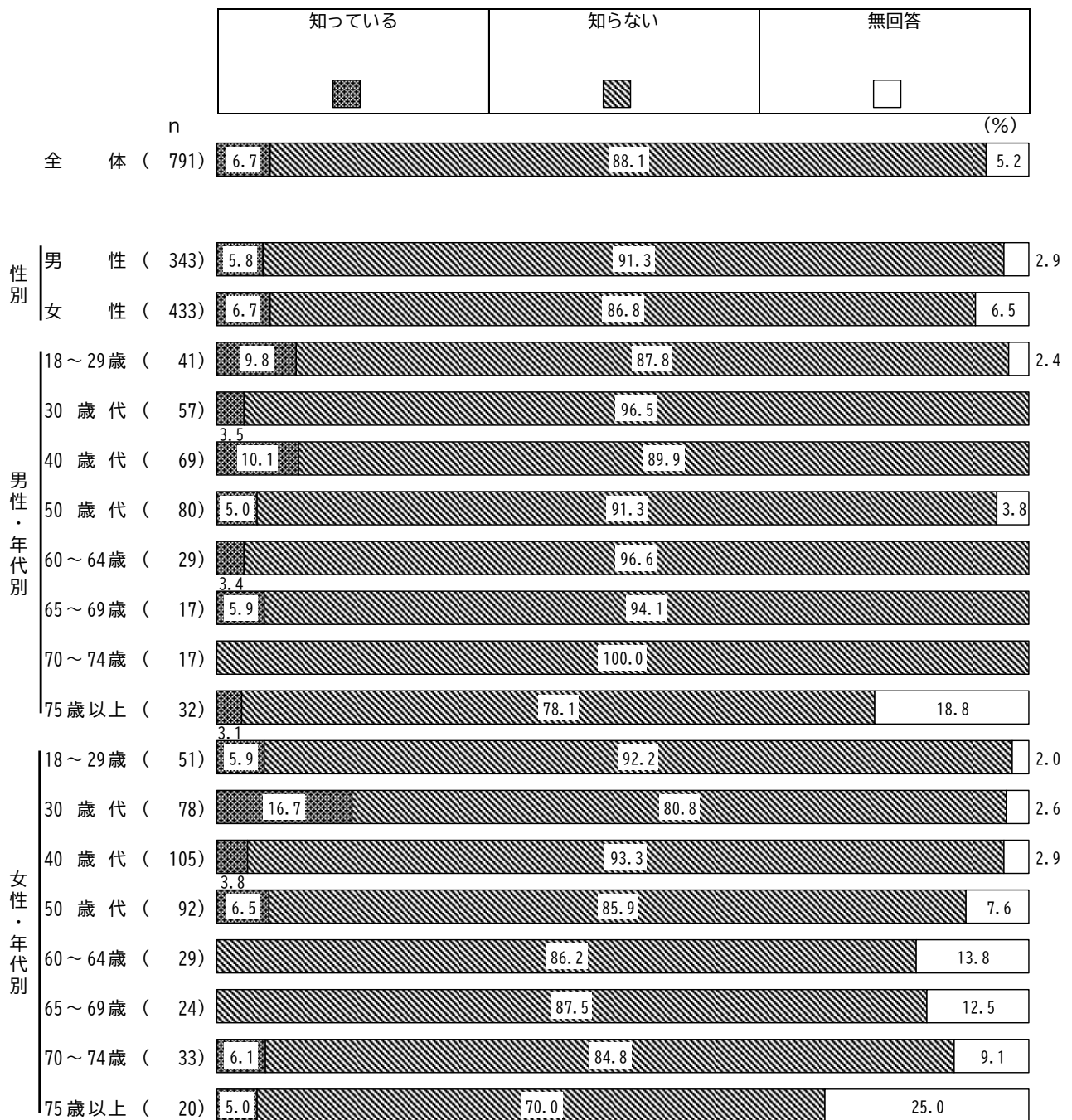


千代田区ポータルサイトに登録すると、オンライン申請ができるだけでなく、登録したアカウント情報や興味のある分野に基づいて区から必要な情報がポータル上で届くことを知っているか聞いたところ、「知らない」(88.1%)が9割弱で、「知っている」(6.7%)は1割未満となっている。

(図 18-2-1)

性・年代別にみると、千代田区ポータルサイトに登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことを「知っている」は女性30歳代（16.7%）で1割台半ばを超えと高くなっている。（図18-2-2）

図18-2-2 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度（性・年代別）

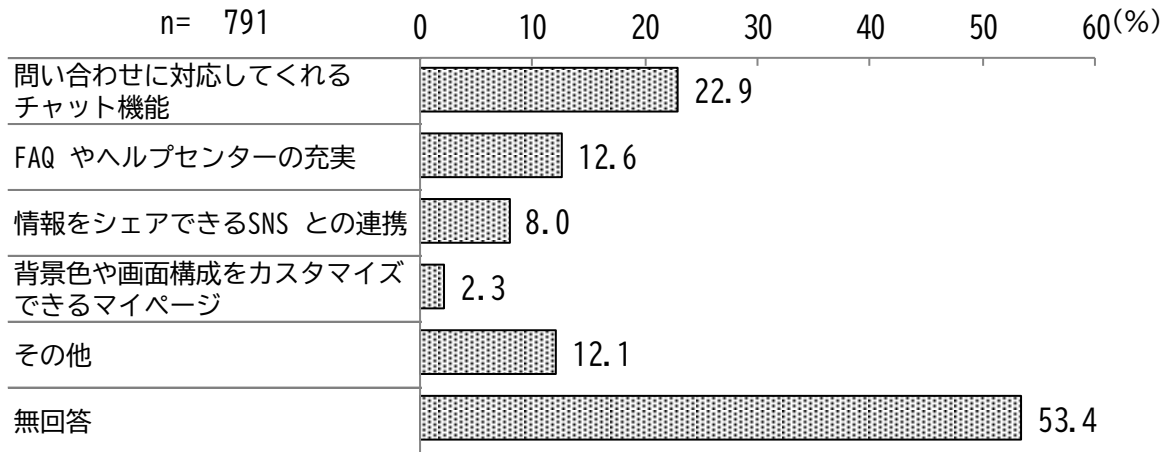


(3) 千代田区ポータルサイトに欲しい機能

◇「問い合わせに対応してくれるチャット機能」が2割強

問57 千代田区ポータルサイトにあったら良いと思う機能を教えてください。(〇はいくつでも)

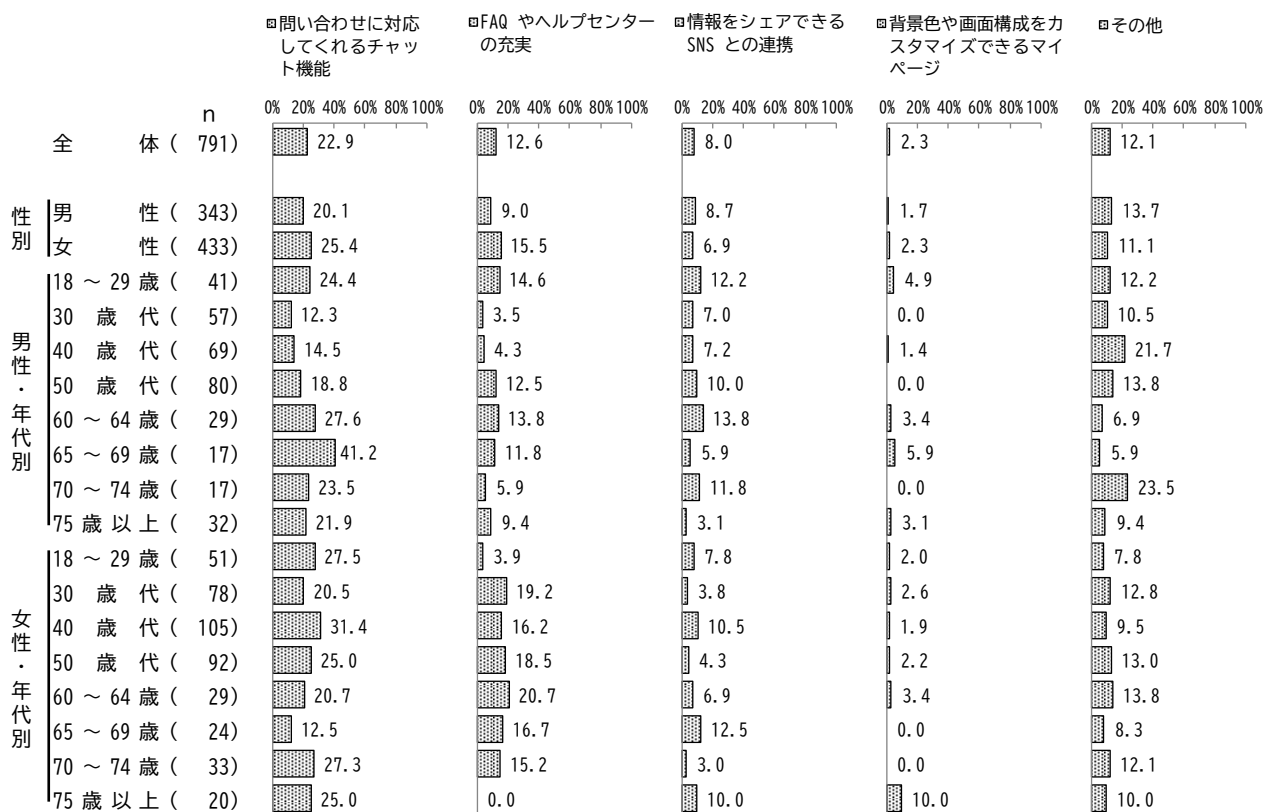
図 18-3-1 千代田区ポータルサイトに欲しい機能



千代田区ポータルサイトに欲しい機能について聞いたところ、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」(22.9%)が2割強で最も高く、次いで「FAQ やヘルプセンターの充実」(12.6%)、「情報をシェアできる SNS との連携」(8.0%)、「背景色や画面構成をカスタマイズできるマイページ」(2.3%)となっている。(図 18-3-1)

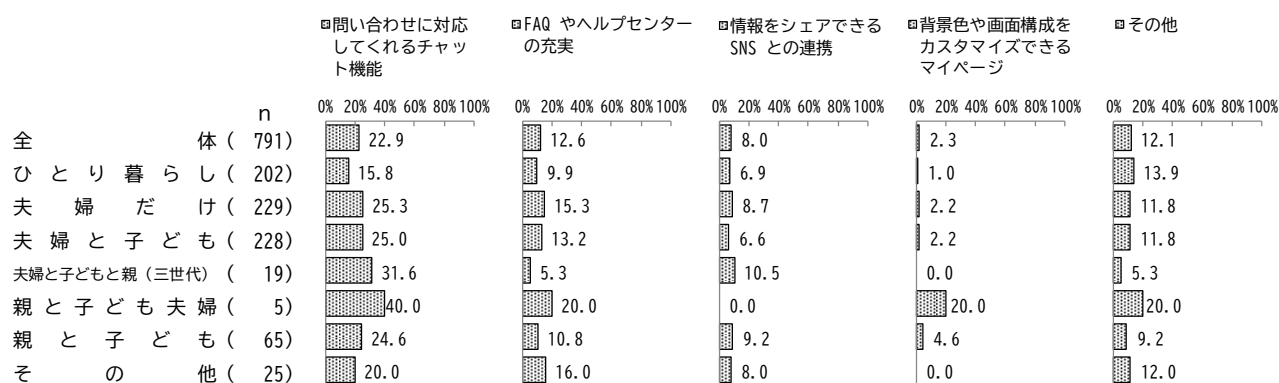
性・年代別にみると、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」は男性65～69歳（41.2%）で4割強と高くなっている。（図18-3-2）

図18-3-2 千代田区ポータルサイトに欲しい機能（性・年代別）



世帯構成別にみると、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」は夫婦と子どもと親（三世代）の世帯（31.6%）で3割強と高くなっている。（図18-3-2）

図18-3-3 千代田区ポータルサイトに欲しい機能（世帯構成別）



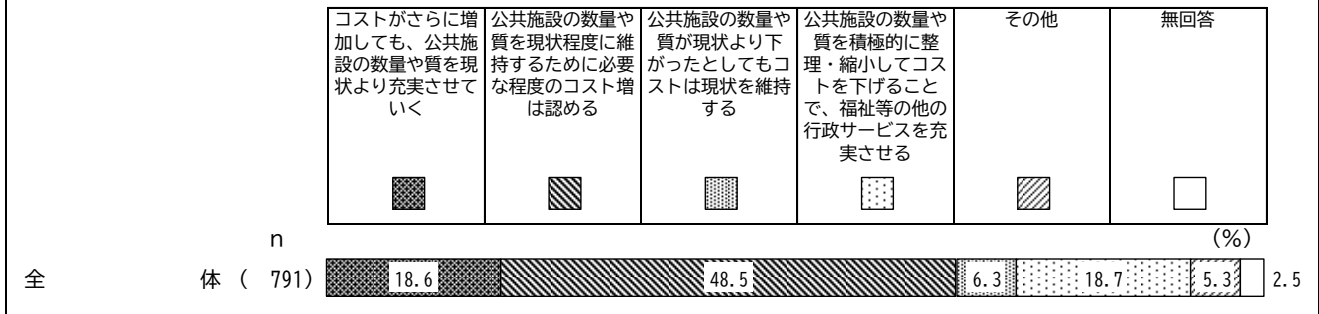
19. 公共施設の管理の課題

(1) 公共施設の数量や質と区が負担するコストとの関係

◇「公共施設の数量や質を現状程度に維持するために必要な程度のコスト増は認める」が5割近く

問58 公共施設の整備・管理に必要なコストは、今後、区内人口の増加や物価の高騰、施設の老朽化により増加していく可能性があります。公共施設の数量や質（設備の充実等）と区が負担するコストとの関係について、次の方策のうち最も近い考え方はどれですか。（○は1つ）

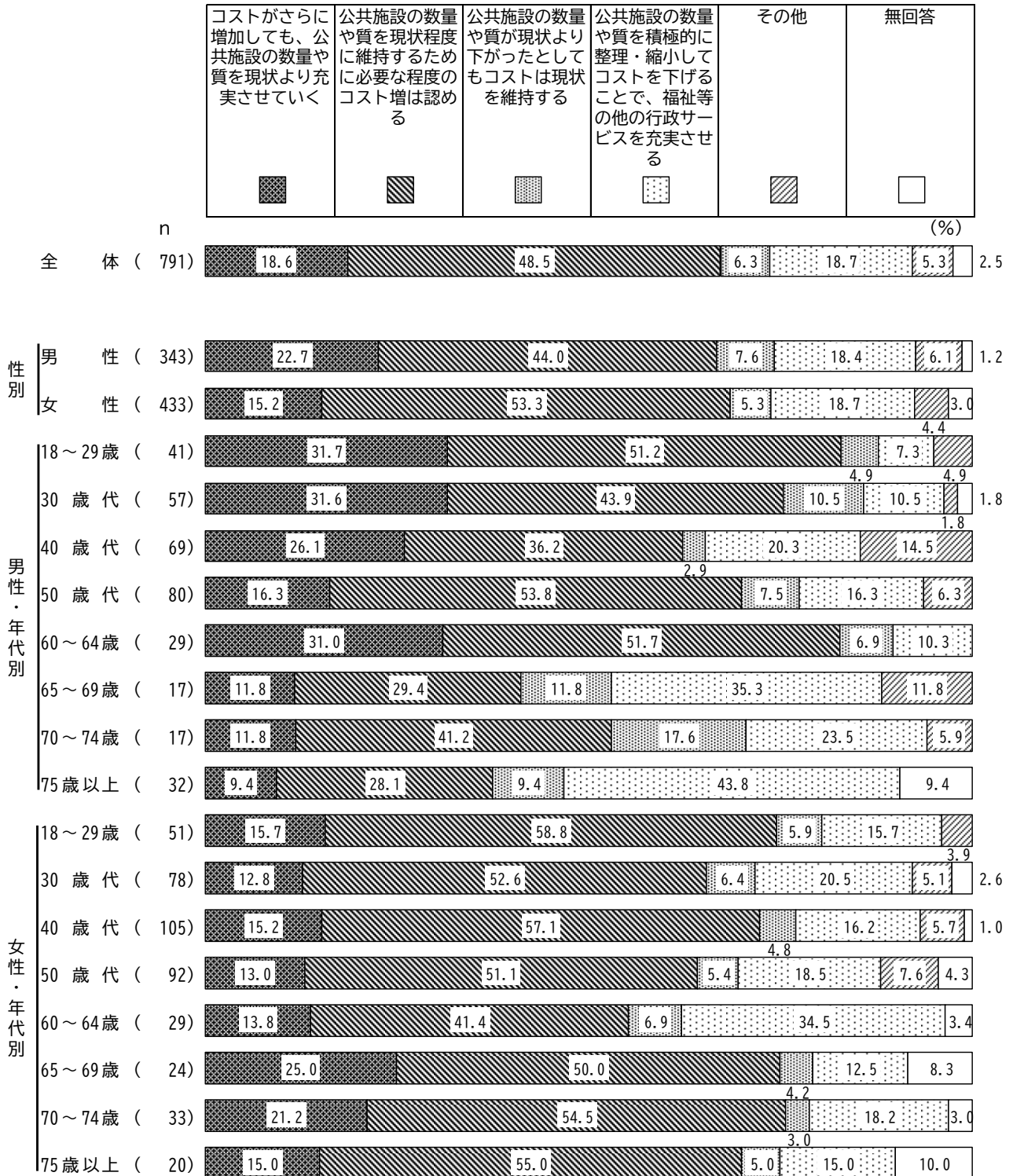
図 19-1-1 公共施設の数量や質と区が負担するコストとの関係



公共施設の数量や質（設備の充実等）と区が負担するコストとの関係についての考えを聞いたところ、「公共施設の数量や質を現状程度に維持するために必要な程度のコスト増は認める」（48.5%）が5割近くで最も高く、次いで「公共施設の数量や質を積極的に整理・縮小してコストを下げることで、福祉等の他の行政サービスを充実させる」（18.7%）、「コストがさらに増加しても、公共施設の数量や質を現状より充実させていく」（18.6%）、「公共施設の数量や質が現状より下がったとしてもコストは現状を維持する」（6.3%）と続いている。（図 19-1-1）

性・年代別にみると、「公共施設の数量や質を現状程度に維持するために必要な程度のコスト増は認める」は女性 18～29 歳（58.8%）で6割近くと高くなっている。（図 19-1-2）

図 19-1-2 公共施設の数量や質と区が負担するコストとの関係（性・年代別）

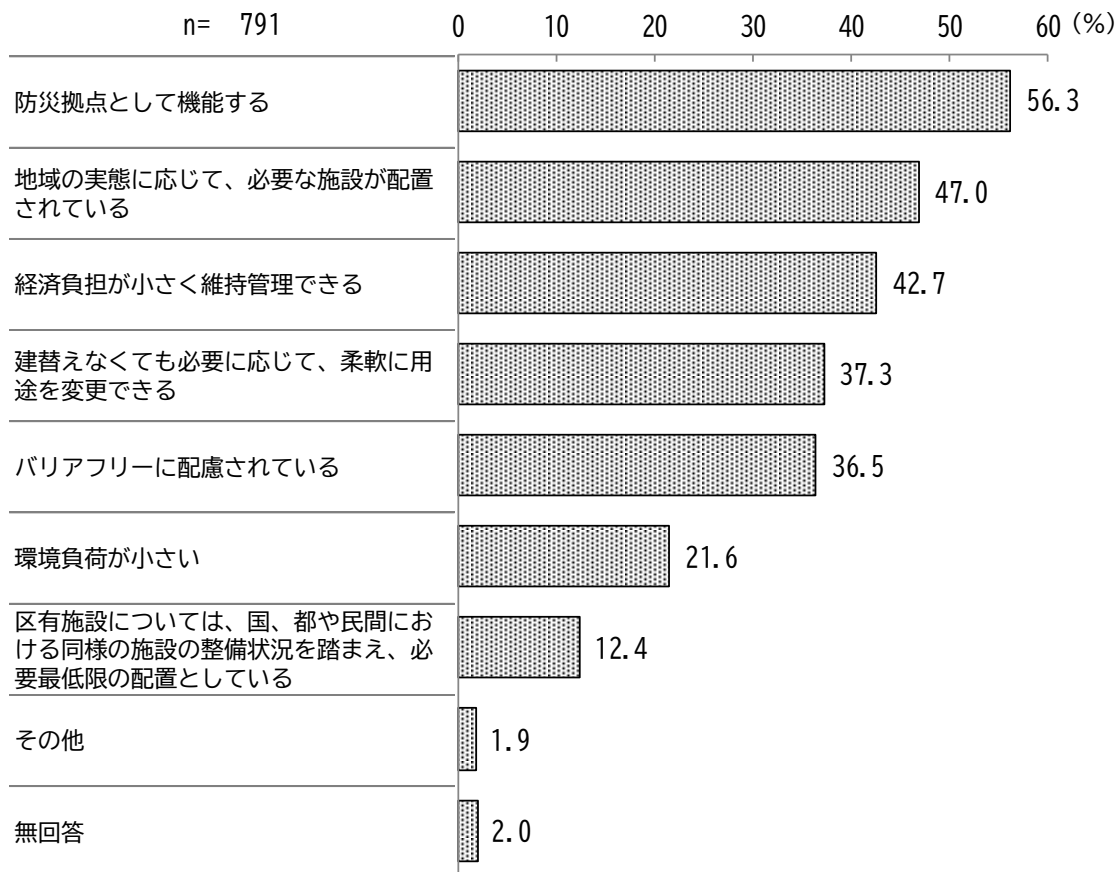


(2) 区有施設（建物）の管理で重視すべき点

◇「防災拠点として機能する」が5割台半ば超え

問59 区有施設（建物）の管理において重視すべき視点は、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

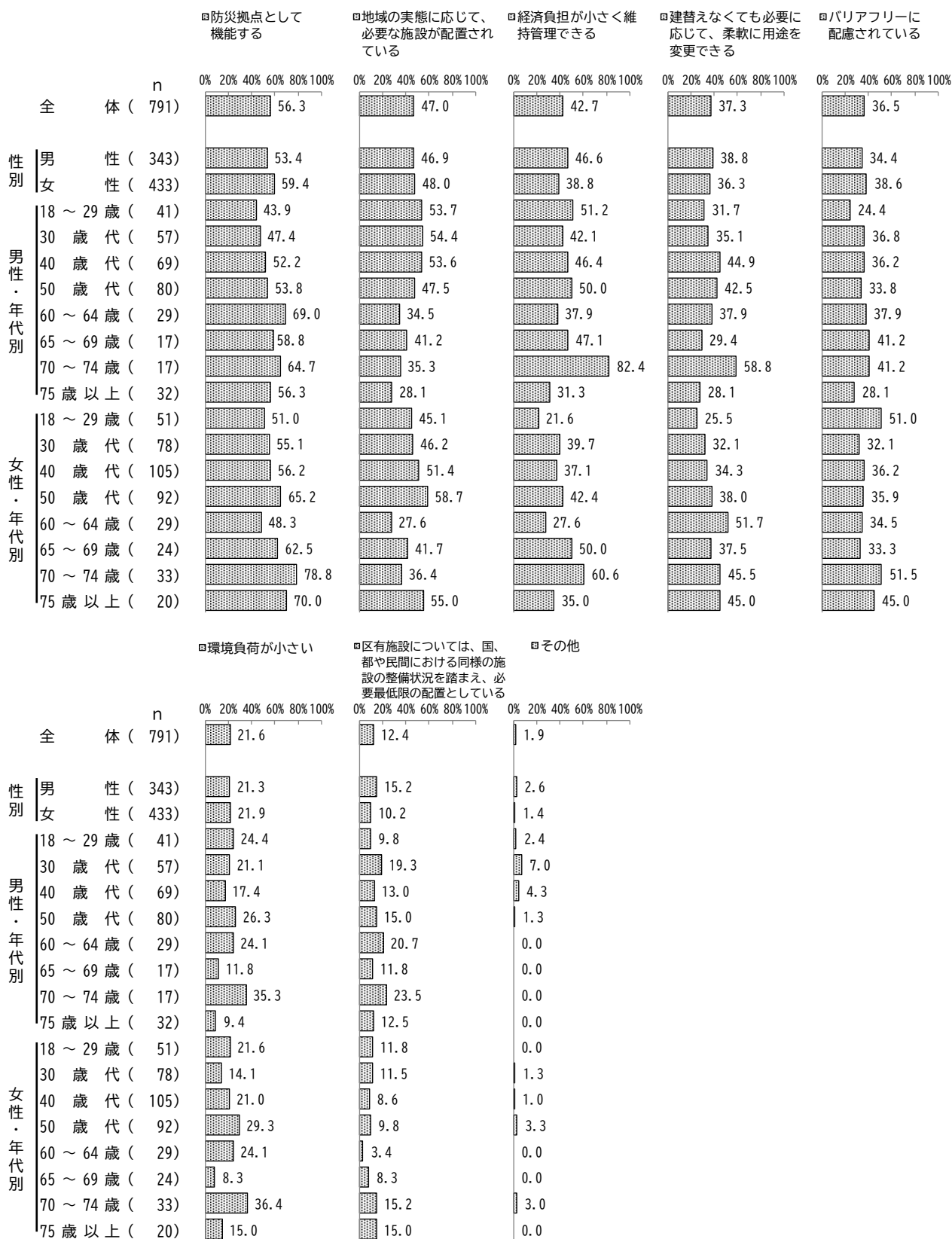
図 19-2-1 区有施設（建物）の管理で重視すべき点



区有施設（建物）の管理において重視すべき視点について聞いたところ、「防災拠点として機能する」（56.3%）が5割台半ば超えと最も高く、次いで「地域の実態に応じて、必要な施設が配置されている」（47.0%）、「経済負担が小さく維持管理できる」（42.7%）と続いている。（図 19-2-1）

性・年代別にみると、「防災拠点として機能する」は女性70～74歳（78.8%）で8割近くと高くなっている。（図19-2-2）

図19-2-2 区有施設（建物）の管理で重視すべき点（性・年代別）

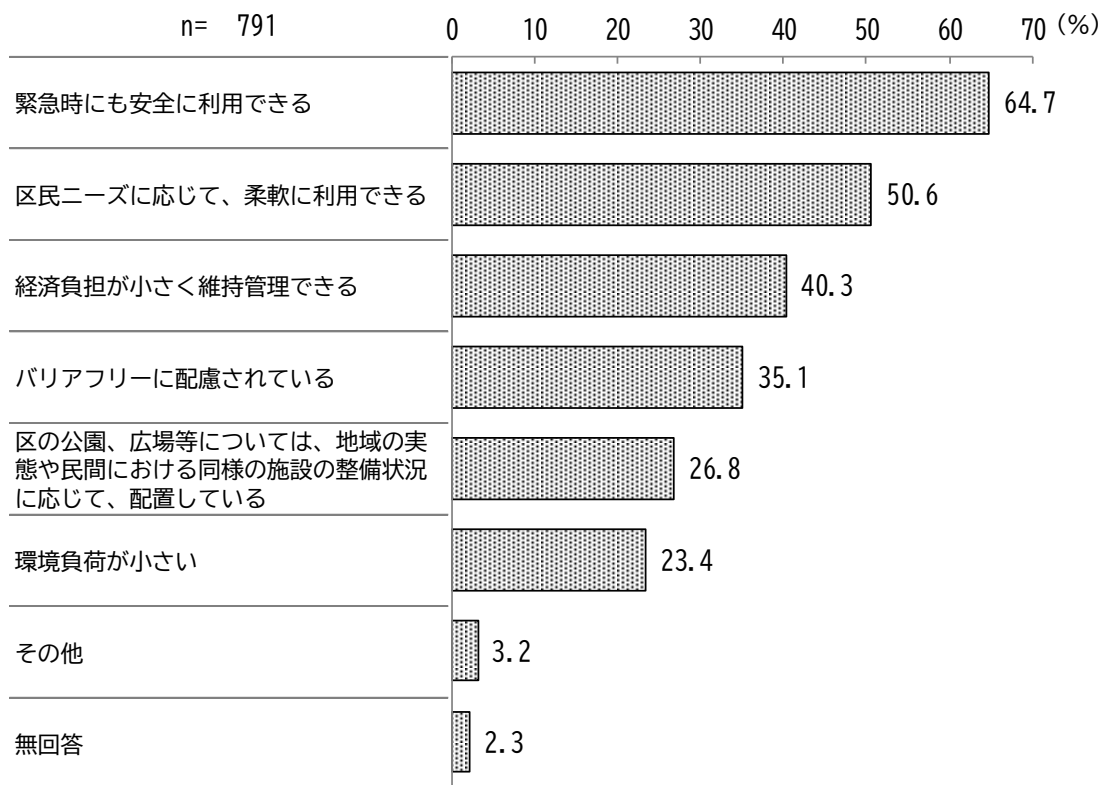


(3) インフラ施設（建物を除く）の管理で重視すべき点

◇「緊急時にも安全に利用できる」が6割半ば近く

問60 インフラ施設（建物を除く、道路（区道）、公園・児童遊園、公衆便所・公園便所、橋梁）の管理において重視すべき視点は、次のうちどれですか。（〇はいくつでも）

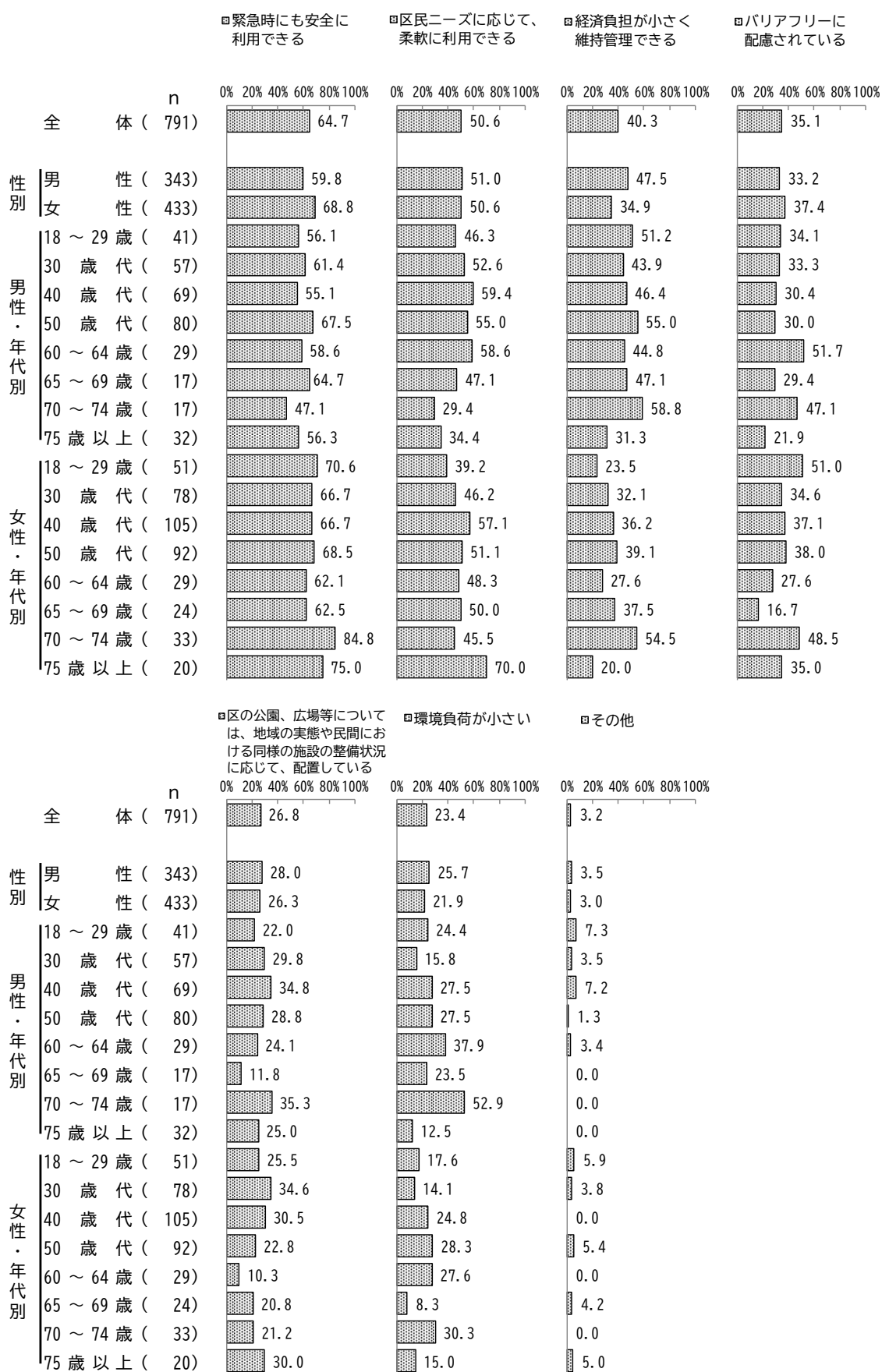
図 19-3-1 インフラ施設（建物を除く）の管理で重視すべき点



インフラ施設（建物を除く、道路（区道）、公園・児童遊園、公衆便所・公園便所、橋梁）の管理において重視すべき視点について聞いたところ、「緊急時にも安全に利用できる」（64.7%）が6割台半ば近くと最も高く、次いで「区民ニーズに応じて、柔軟に利用できる」（50.6%）、「経済負担が小さく維持管理できる」（40.3%）と続いている。（図 19-3-1）

性・年代別にみると、「緊急時にも安全に利用できる」は女性70～74歳（84.8%）で8割台半ば近くと高くなっている。（図19-3-2）

図19-3-2 インフラ施設（建物を除く）の管理で重視すべき点（性・年代別）

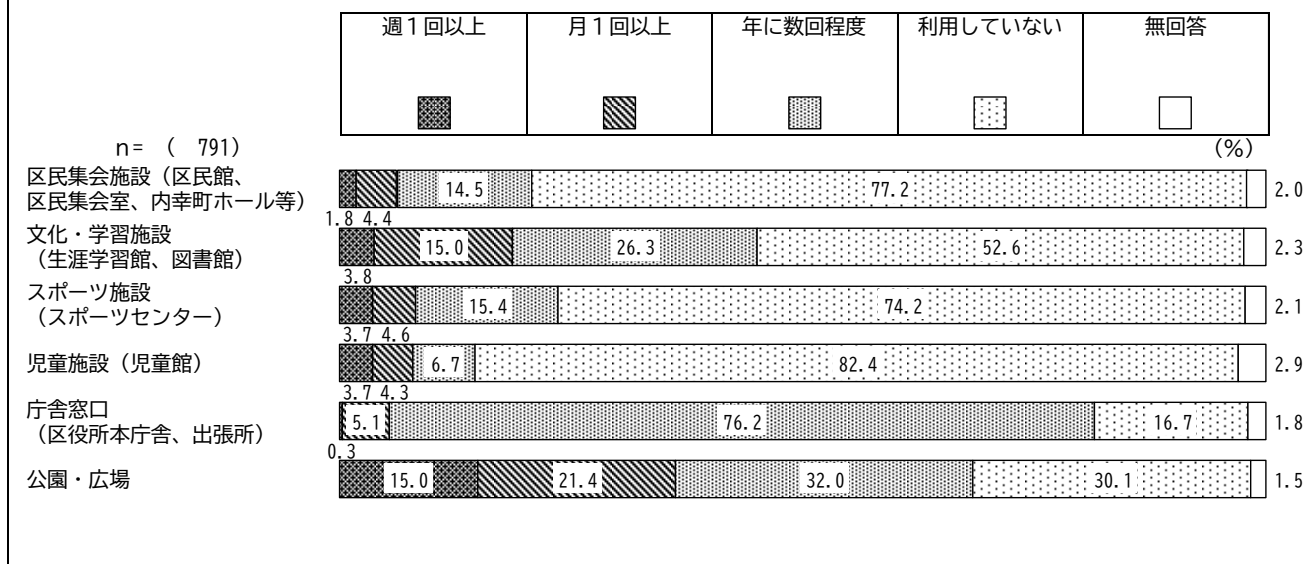


(4) 公共施設の利用状況

◇ “公園・広場”で「週1回以上」が1割台半ば

問61 用途上、利用対象者が特に広い施設について、お聞きします。過去1年間における下記1～6の公共施設それぞれの利用状況を教えてください。(○はそれぞれに1つ)

図 19-4-1 公共施設の利用状況



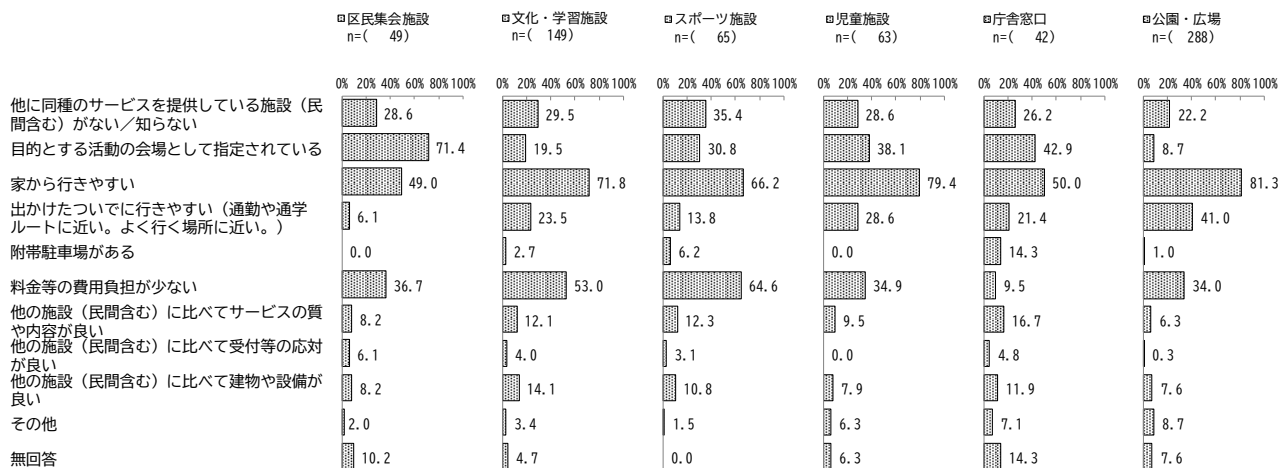
公共施設それぞれの利用状況について聞いたところ、「週1回以上」は“公園・広場”(15.0%)で1割台半ばと最も高くなっている。一方、「利用していない」は“児童施設(児童館)”(82.4%)で8割強と最も高くなっている。(図 19-4-1)

(4-1) 施設(用途)を利用している理由

◇ “公園・広場”で「家から行きやすい」が8割強

(問61で「週1回以上」「月1回以上」を選択した施設(用途)についてお答えください)
 問61-1 施設(用途)を利用している理由はなんですか。問61で選択した施設(用途)について、
 下記1~10の中からあてはまる理由を上位3つまで選んで番号を記入してください。

図 19-4-2 施設(用途)を利用している理由



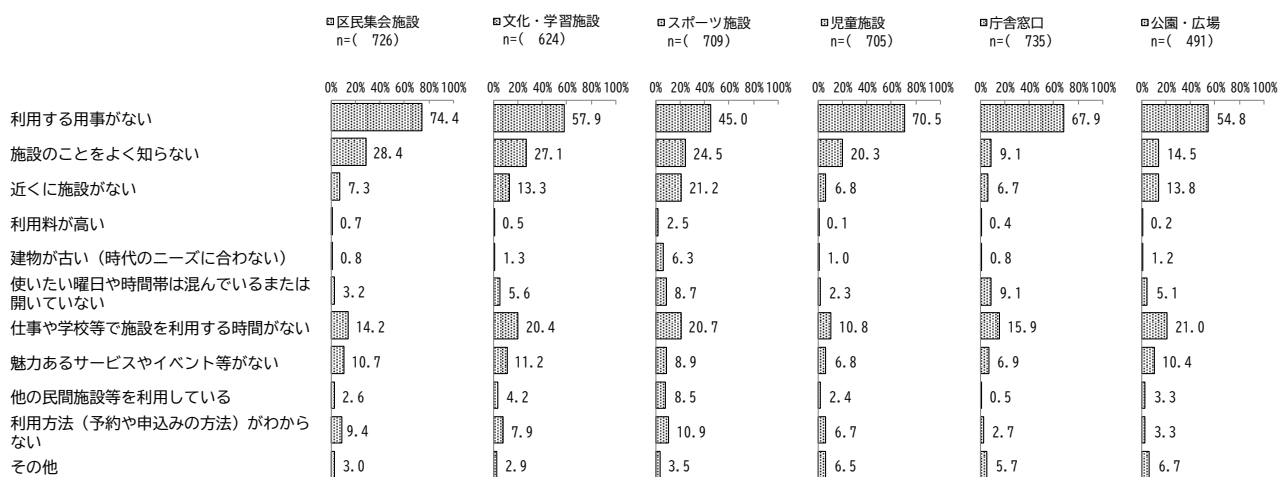
施設(用途)を利用している理由について聞いたところ、「家から行きやすい」は“公園・広場”(81.3%)で8割強と最も高くなっている。また、「料金等の費用負担が少ない」は“スポーツ施設”(64.6%)で6割台半ば近くと最も高くなっている。(図 19-4-2)

(4-2) 施設(用途)を利用していない理由

◇ “区民集会施設”で「利用する用事が無い」が7割台半ば近く

(問61で「年に数回程度」「利用していない」を選択した施設(用途)についてお答えください)
 問61-2 施設(用途)をあまり利用していない、または利用していない理由はなんですか。問61で
 選択した施設(用途)について、下記1~11の中からあてはまる理由を上位3つまで選んで
 番号を記入してください。

図 19-4-3 施設(用途)を利用していない理由



施設(用途)をあまり利用していない、または利用していない理由について聞いたところ、「利用する用事が無い」は“区民集会施設”(74.4%)で7割台半ば近くと最も高くなっている。また、「仕事や学校等で施設を利用する時間がない」は“公園・広場”(21.0%)で2割強と最も高くなっている。(図 19-4-3)

(5-1) 複合施設の連続利用状況

◇複合施設を『連続して利用したことがある』は“千代田区役所”で5割弱

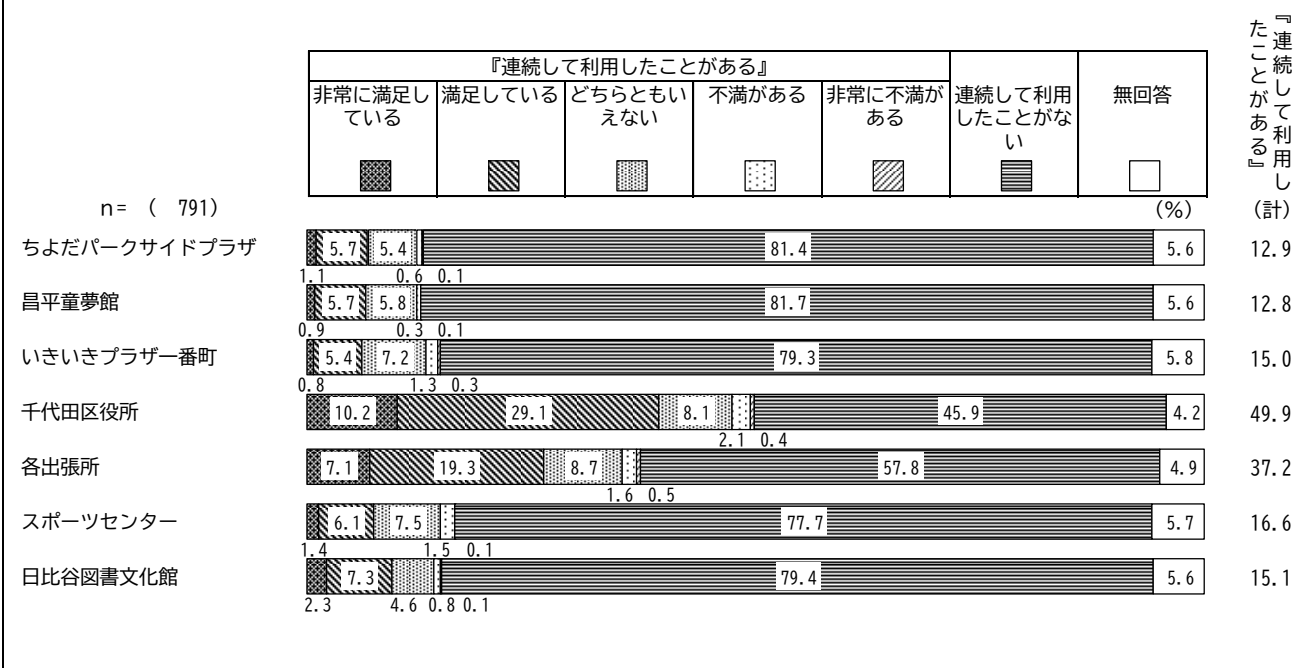
問62 千代田区では、1つの建物に複数の用途を持つ複合施設が多くあります。

そのうち、問61の対象とした用途を含む下記の複合施設について、1つの建物にある※複数の用途（住宅、高齢者施設、学校、幼稚園及び保育園を除く）を連続して利用をしたことはありますか。

※複数の用途を連続して利用したとは、例えば“千代田区役所で手続きをした後に図書館利用した”というように、同じ日に同じ施設を別の用途で利用したということを指します。

また、その際の満足度をお答えください。(○はそれぞれに1つ)

図 19-5-1 複合施設の連続利用状況と満足度



複合施設の連続利用状況について聞いたところ、『連続して利用したことがある』は“千代田区役所” (49.9%) が5割弱と最も高く、次いで“各出張所” (37.2%) が3割台半ばを超えと続いている。一方、「連続して利用したことがない」は“昌平童夢館” (81.7%)、“ちよだパークサイドプラザ” (81.4%) で8割強と高くなっている。(図 19-5-1)

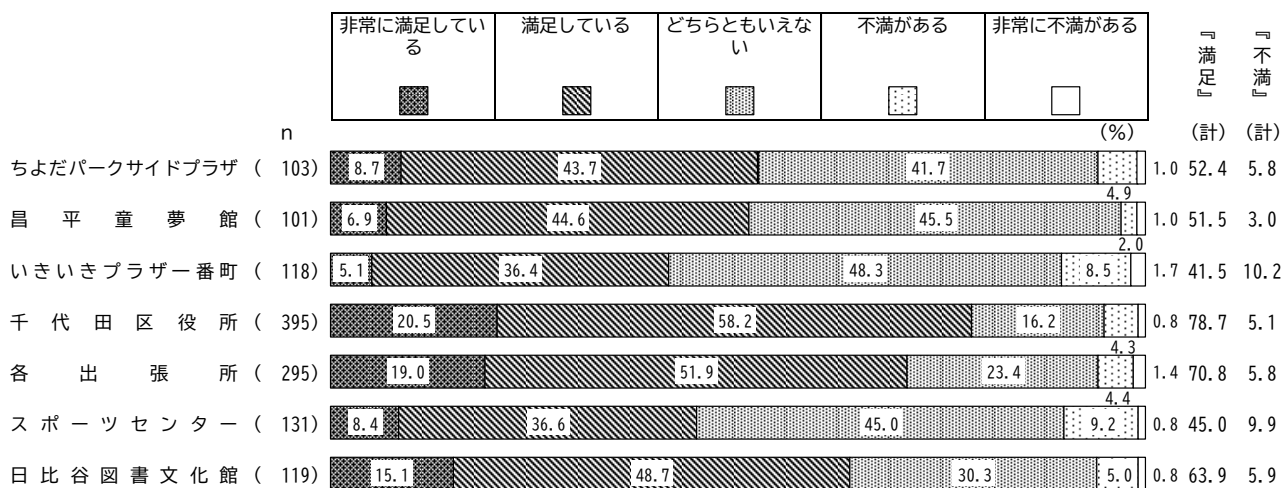
(5-2) 複合施設を連続利用した際の満足度

◇『満足』は“千代田区役所”で8割近く

問62 千代田区では、1つの建物に複数の用途を持つ複合施設が多くあります。

そのうち、問61の対象とした用途を含む下記の複合施設について、1つの建物にある※複数の用途（住宅、高齢者施設、学校、幼稚園及び保育園を除く）を連続して利用をした際の満足度をお答えください。（○はそれぞれに1つ）

図 19-5-2 複合施設を連続利用した際の満足度



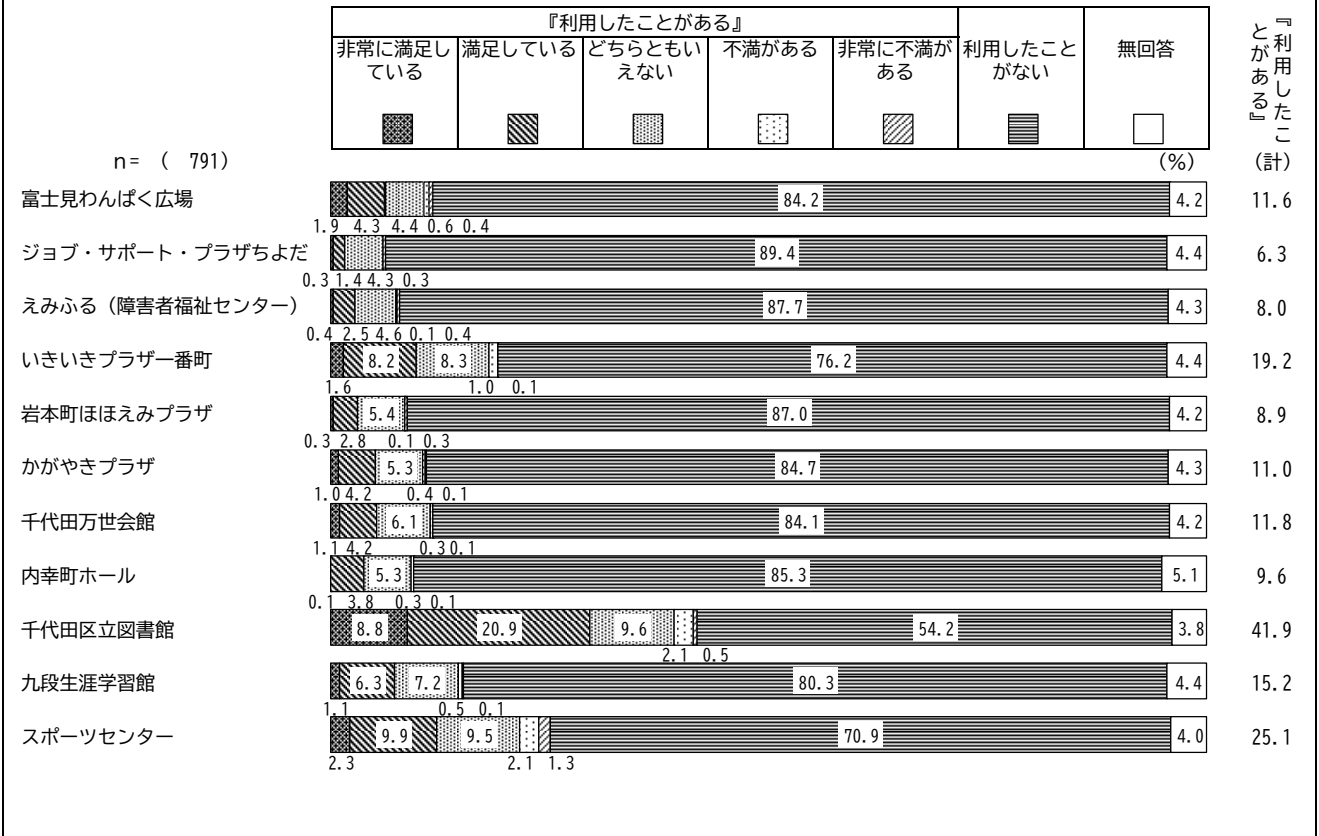
複合施設を連続利用した際の満足度について聞いたところ、『満足』は“千代田区役所”（78.7%）で8割近くと最も高く、次いで“各出張所”（70.8%）、“日比谷図書文化館”（63.9%）と続いている。一方、『不満』は“いきいきプラザ一番町”（10.2%）で約1割と最も高く、次いで“スポーツセンター”（9.9%）と続いている。（図 19-5-2）

(6-1) 指定管理者制度を活用した施設の利用状況

◇指定管理者制度を活用した施設を『利用したことがある』は“千代田区立図書館”で4割強

問63 千代田区では、施設の管理・運営を民間等他団体が代行する指定管理者制度を活用しています。図書館、スポーツセンター等の指定管理者制度を活用した施設を利用したことはありますか。(〇はそれぞれに1つ)

図 19-6-1 指定管理者制度を活用した施設の利用状況



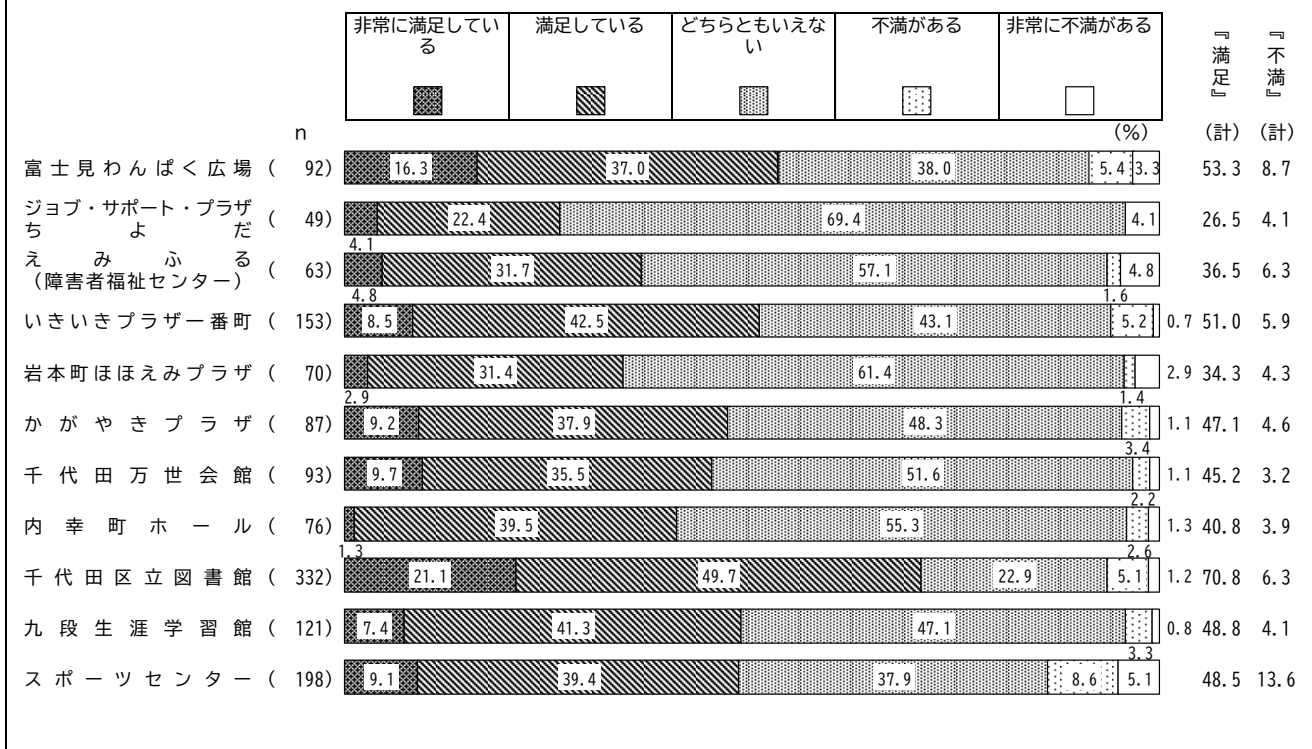
指定管理者制度を活用した施設の利用状況について聞いたところ、『利用したことがある』は“千代田区立図書館”(41.9%)が4割強と最も高く、次いで“スポーツセンター”(25.1%)が2割台半ばと続いている。一方、「利用したことがない」は“ジョブ・サポート・プラザちよだ”(89.4%)で9割弱と最も高く、次いで“えみふる(障害者福祉センター)”(87.7%)、“岩本町ほほえみプラザ”(87.0%)で高くなっている。(図 19-6-1)

(6-2) 指定管理者制度を活用した施設を利用した際の満足度

◇『満足』は“千代田区立図書館”で約7割

問63 千代田区では、施設の管理・運営を民間等他団体が代行する指定管理者制度を活用しています。図書館、スポーツセンター等の指定管理者制度を活用した施設際のサービスに対する満足度をお答えください。(〇はそれぞれに1つ)

図 19-6-2 指定管理者制度を活用した施設を利用した際の満足度

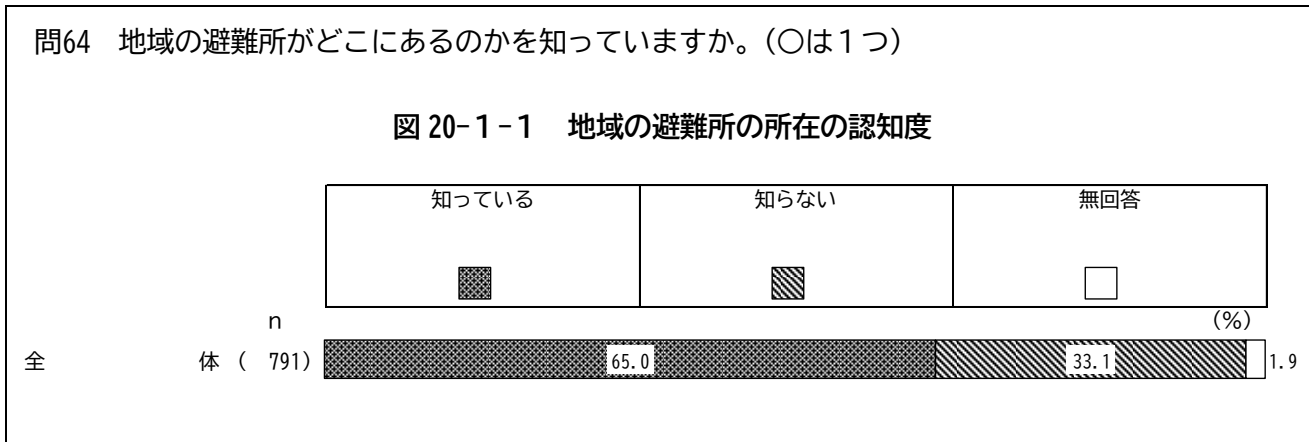


指定管理者制度を活用した施設を利用した際の満足度について聞いたところ、『満足』は“千代田区立図書館”(70.8%)で約7割と最も高く、次いで“富士見わんぱく広場”(53.3%)、“いきいきプラザ一番町”(51.0%)と続いている。一方、『不満』は“スポーツセンター”(13.6%)で1割台半ば近くと最も高く、次いで“富士見わんぱく広場”(8.7%)と続いている。(図 19-6-2)

20. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知度

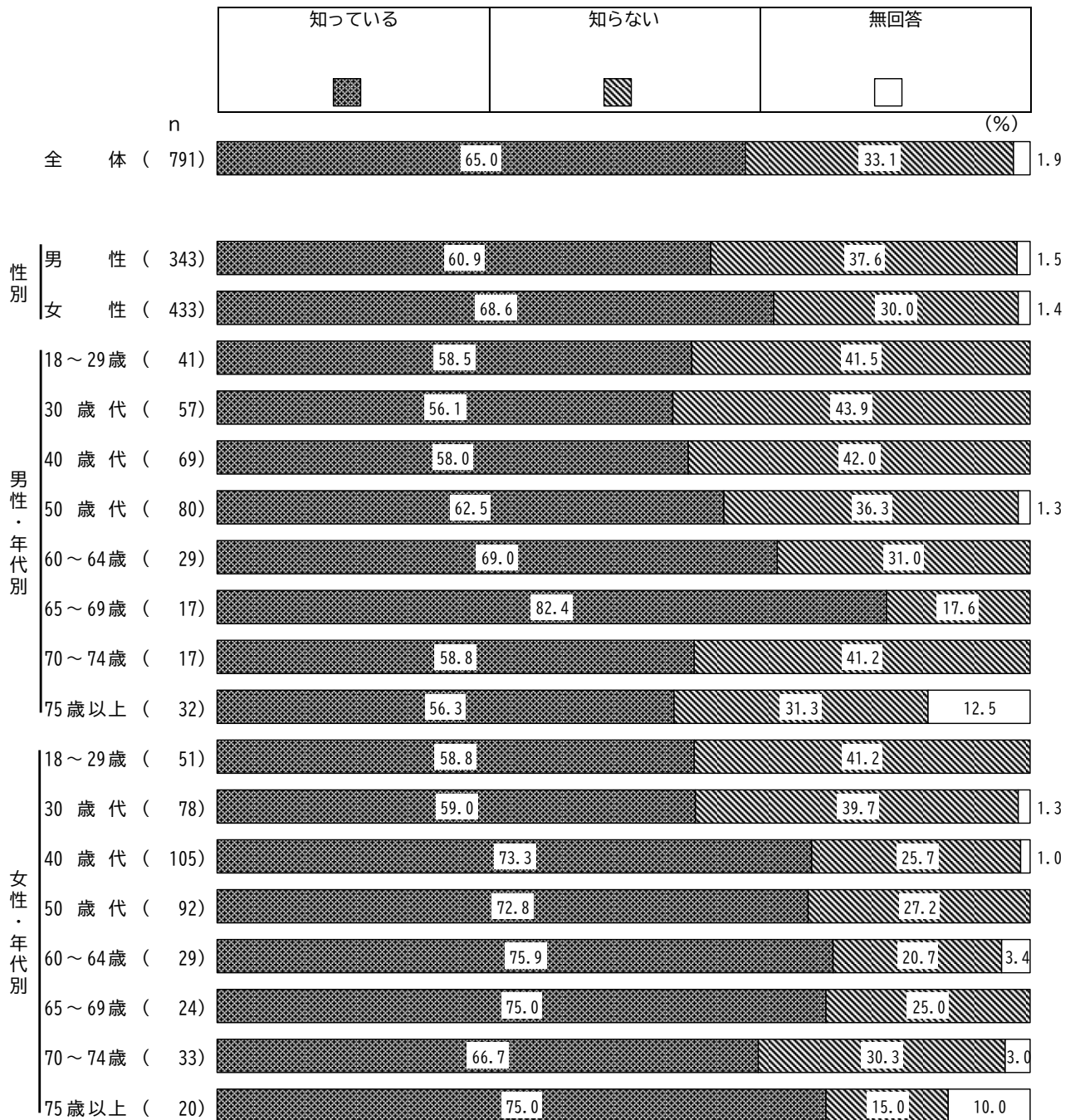
◇地域の避難所がどこにあるのか「知っている」が6割台半ば



地域の避難所がどこにあるのかわかるのか聞いたところ、「知っている」(65.0%)が6割台半ば、「知らない」(33.1%)が3割台半ば近くとなっている。(図 20-1-1)

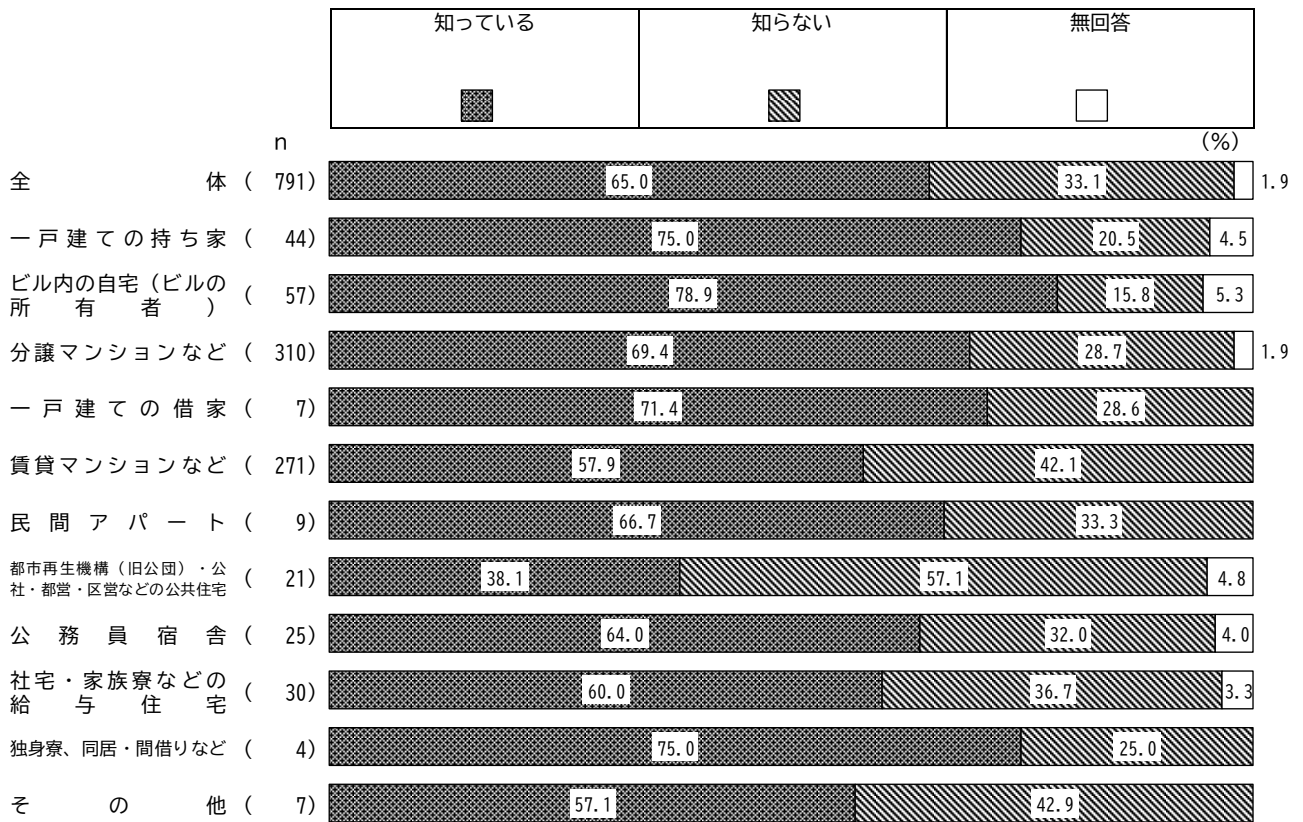
性・年代別にみると、地域の避難所がどこにあるのか「知っている」は男性 65～69 歳（82.4%）で 8 割強と高くなっている。（図 20-1-2）

図 20-1-2 地域の避難所の所在の認知度（性・年代別）



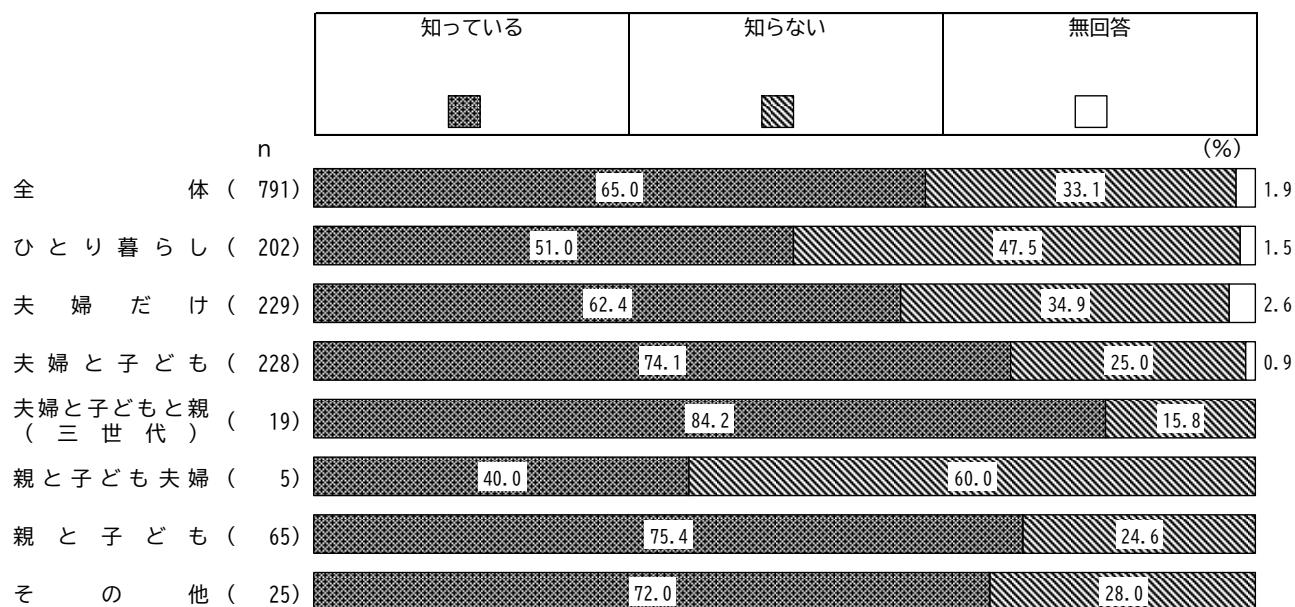
住居形態別にみると、地域の避難所がどこにあるのか「知っている」はビル内の自宅（ビルの所有者）（78.9%）で8割近くと高くなっている。（図 20-1-3）

図 20-1-3 地域の避難所の所在の認知度（住居形態別）



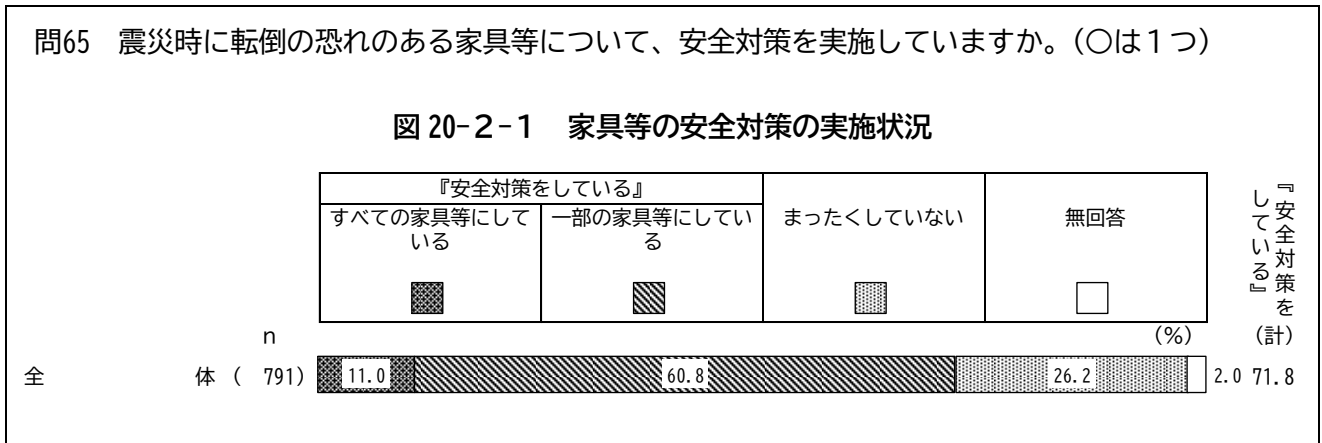
世帯構成別にみると、地域の避難所がどこにあるのか「知っている」は夫婦と子どもと親（三世代）の世帯（84.2%）で8割台半ば近くと高くなっている。（図 20-1-4）

図 20-1-4 地域の避難所の所在の認知度（世帯構成別）



(2) 家具等の安全対策の実施状況

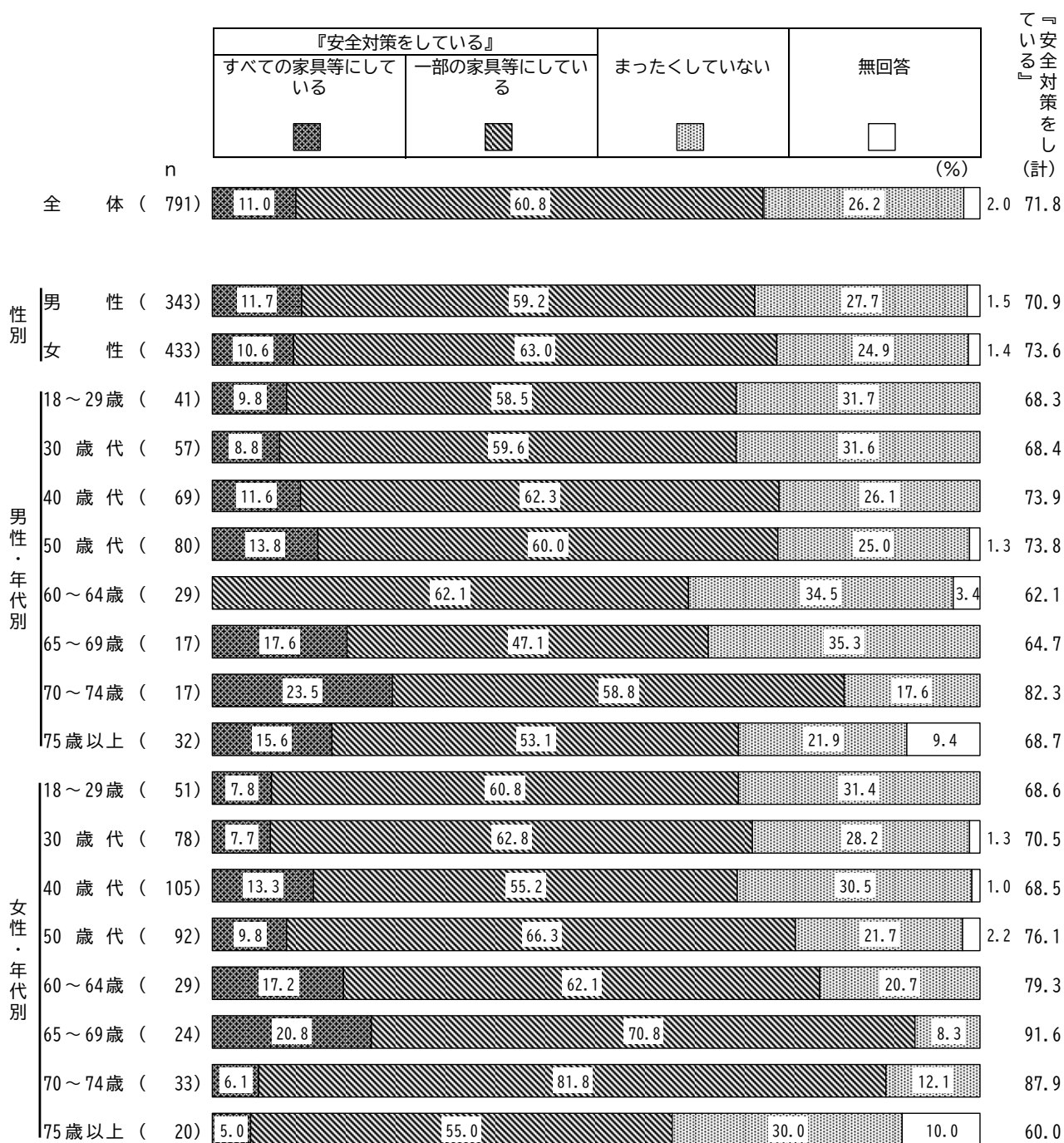
◇『安全対策をしている』が7割強



家具等の安全対策の実施状況について聞いたところ、「一部の家具等にしている」(60.8%) が約6割と最も高く、これに「すべての家具等にしている」(11.0%) を合わせた『安全対策をしている』(71.8%) は7割強となっている。一方、「まったくしていない」(26.2%) は2割台半ばを超えている。(図 20-2-1)

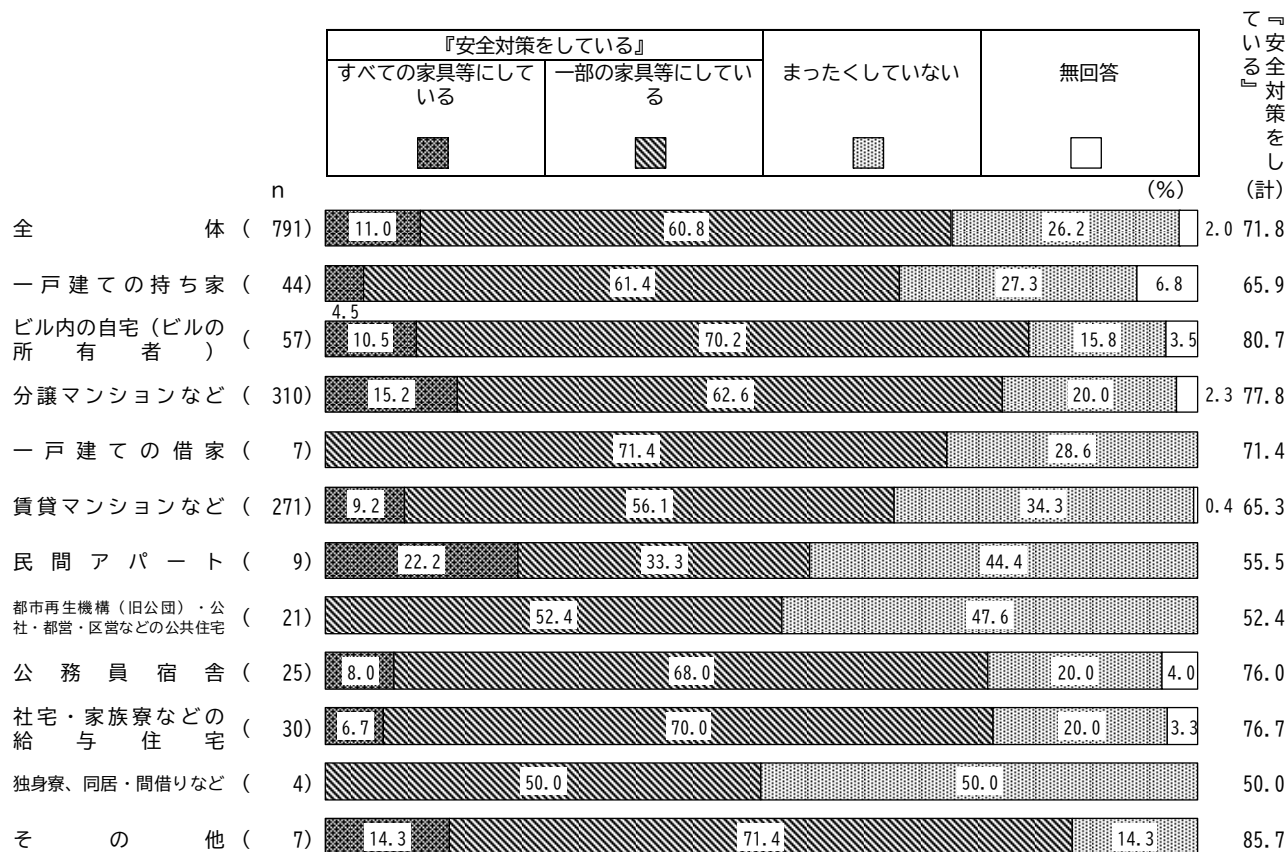
性・年代別にみると、『安全対策をしている』は女性 65～69 歳（91.6%）で 9 割強と高くなっている。（図 20-2-2）

図 20-2-2 家具等の安全対策の実施状況（性・年代別）



住居形態別にみると、『安全対策をしている』はビル内の自宅（ビルの所有者）（80.7%）で約8割と高くなっている。一方、「まったくしていない」は都市再生機構（旧公団）・公社・都営・区営などの公共住宅（47.6%）で4割台半ばを超えと高くなっている。（図 20-2-3）

図 20-2-3 家具等の安全対策の実施状況（住居形態別）



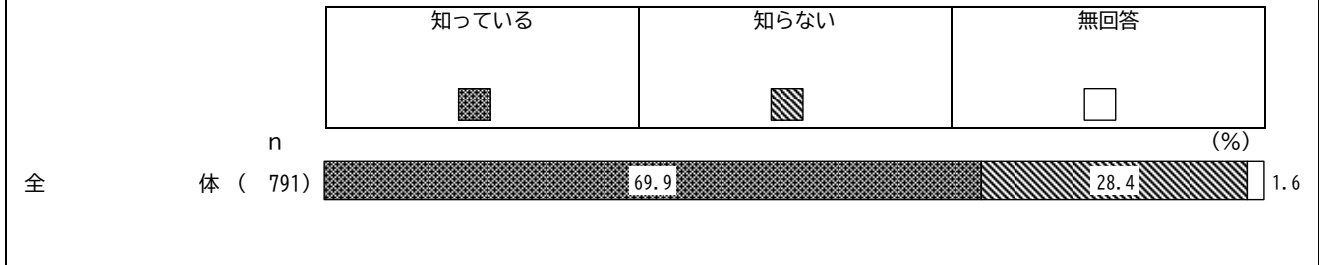
て『安全対策をし』(計)

(3) 自宅周辺の災害リスクの認知度

◇自宅周辺の災害リスクを「知っている」が7割弱

問66 あなたのお宅の周辺の、洪水などの災害リスクについて知っていますか。(○は1つ)

図 20-3-1 自宅周辺の災害リスクの認知度

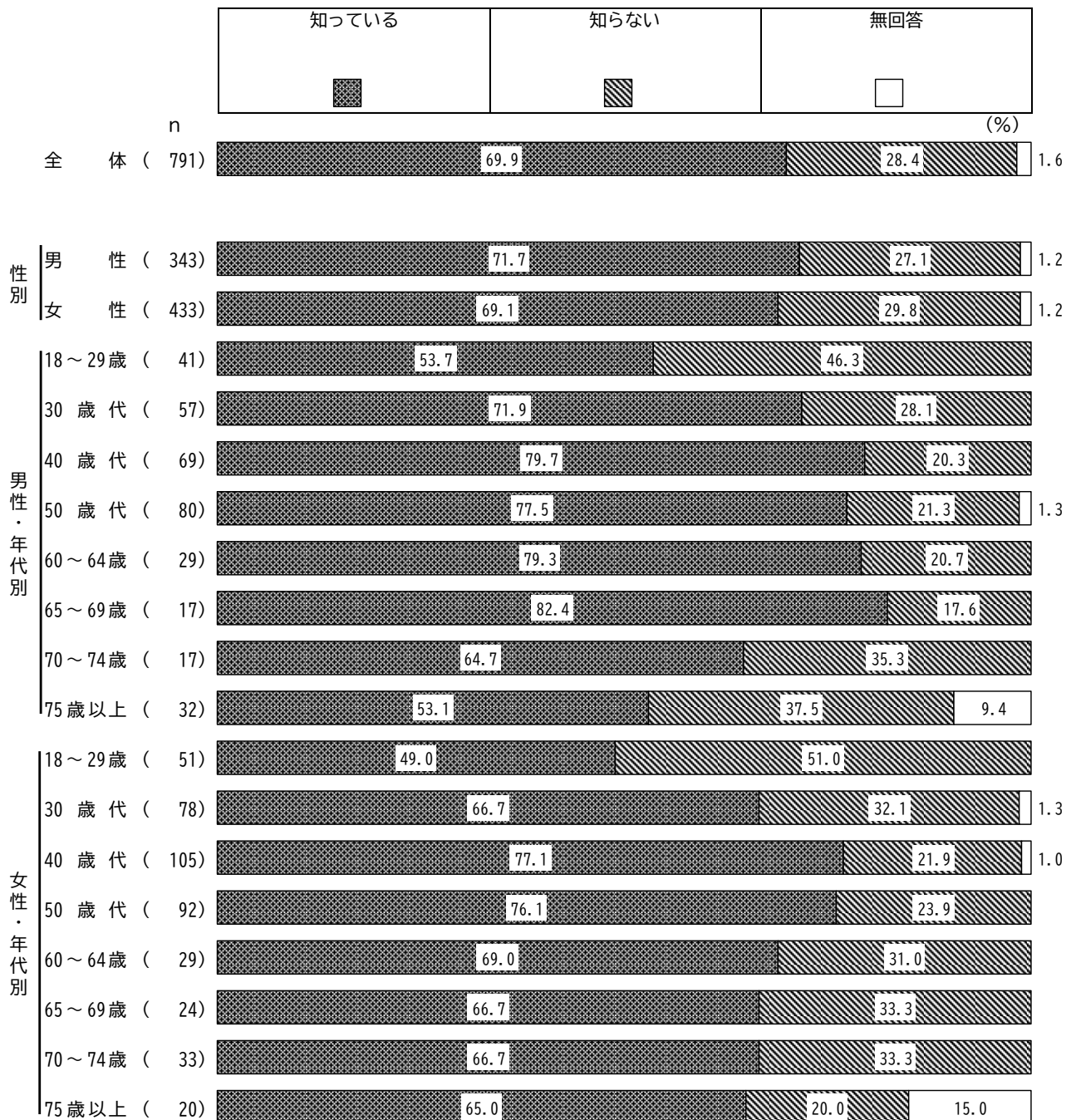


自宅周辺の災害リスクを知っているか聞いたところ、「知っている」(69.9%)が7割弱、「知らない」(28.4%)は3割近くとなっている。(図 20-3-1)

性・年代別にみると、自宅周辺の災害リスクを「知っている」は男性 65～69 歳（82.4%）で8割強と高くなっている。一方、「知らない」は女性 18～29 歳（51.0%）で5割強と高くなっている。

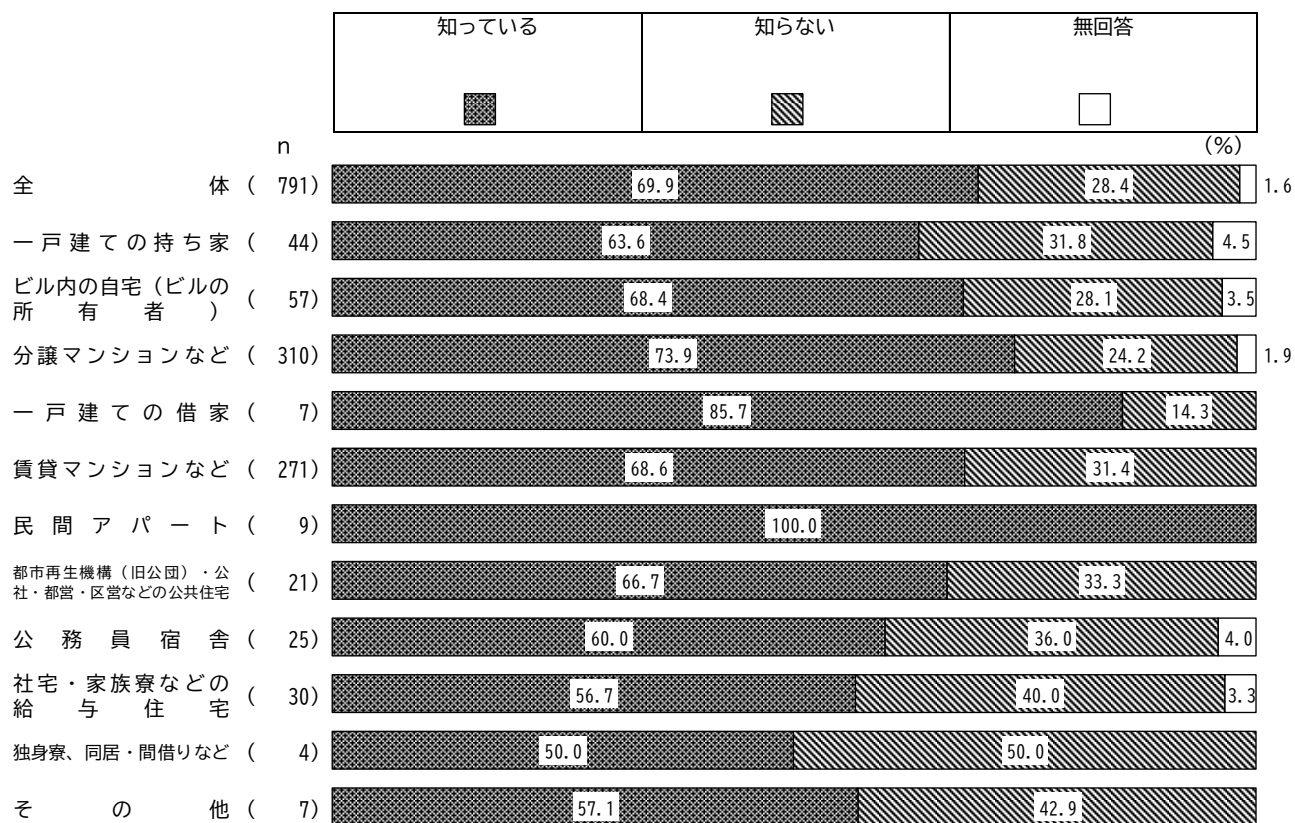
（図 20-3-2）

図 20-3-2 自宅周辺の災害リスクの認知度（性・年代別）



住居形態別にみると、自宅周辺の災害リスクを「知っている」は分譲マンションなど（73.9%）で7割台半ば近くと高くなっている。一方、「知らない」は社宅・家族寮などの給与住宅（40.0%）で4割と高くなっている。（図20-3-3）

図20-3-3 自宅周辺の災害リスクの認知度（住居形態別）

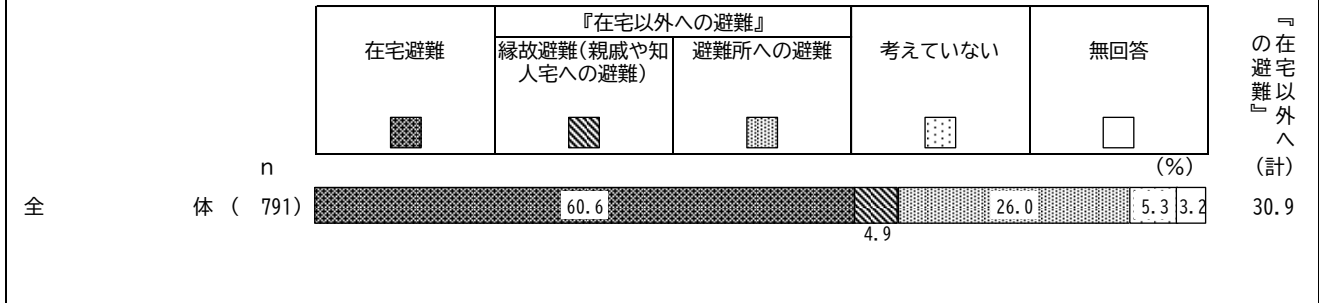


(4) 災害時の避難方法

◇「在宅避難」が約6割

問67 あなたは、災害が起きた時どのような避難方法を考えていますか。(○は1つ)

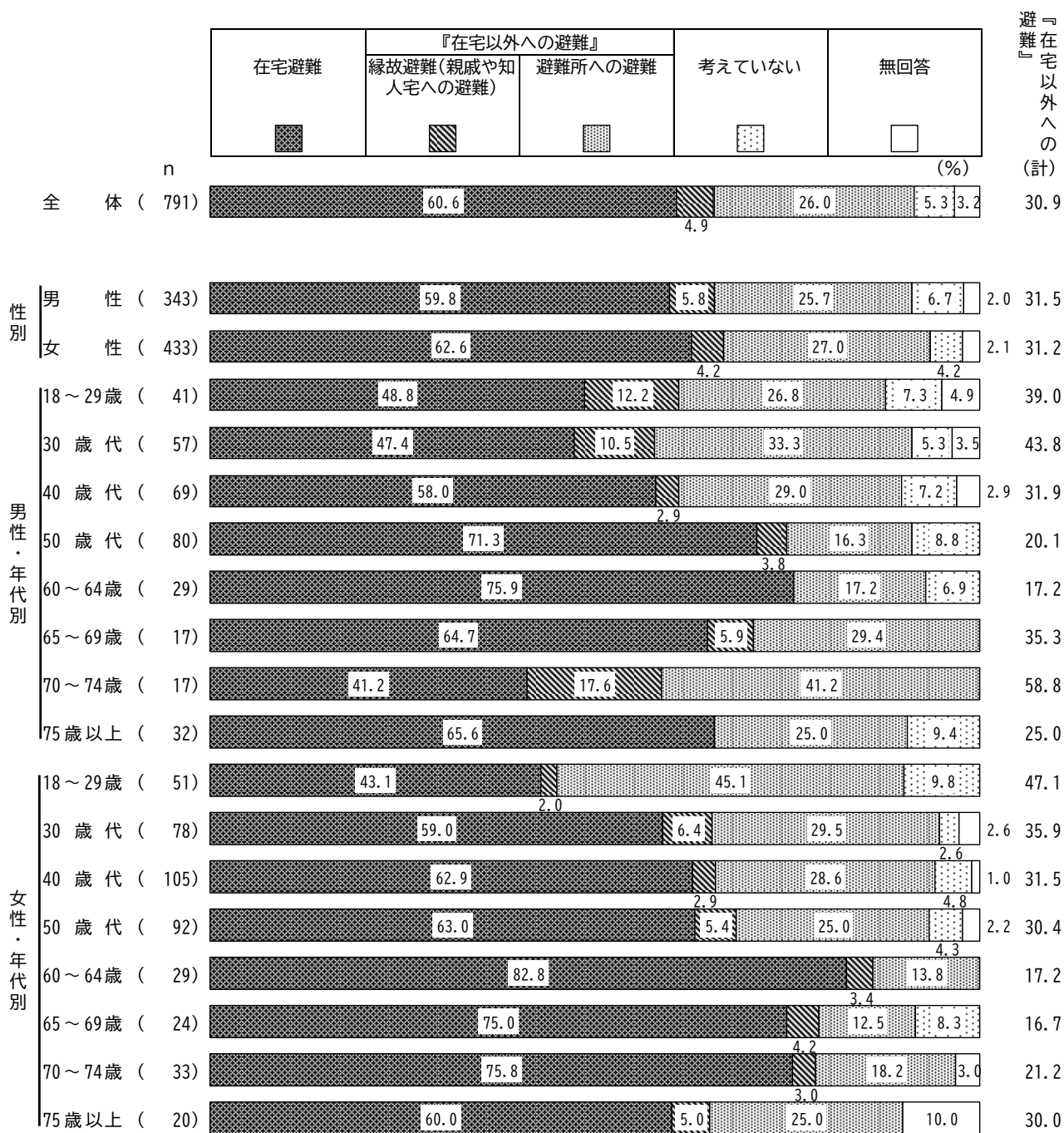
図 20-4-1 災害時の避難方法



災害が起きた時どのような避難方法を考えているか聞いたところ、「在宅避難」(60.6%)が約6割と最も高くなっている。また、「縁故避難(親戚や知人宅への避難)」(4.9%)と「避難所への避難」(26.0%)を合わせた『在宅以外への避難』(30.9%)が約3割となっている。(図 20-4-1)

性・年代別にみると、「在宅避難」は女性 60～64 歳（82.8%）で8割強と高くなっている。また、『在宅以外への避難』は男性 70～74 歳（58.8%）で6割近くと高くなっている。（図 20-4-2）

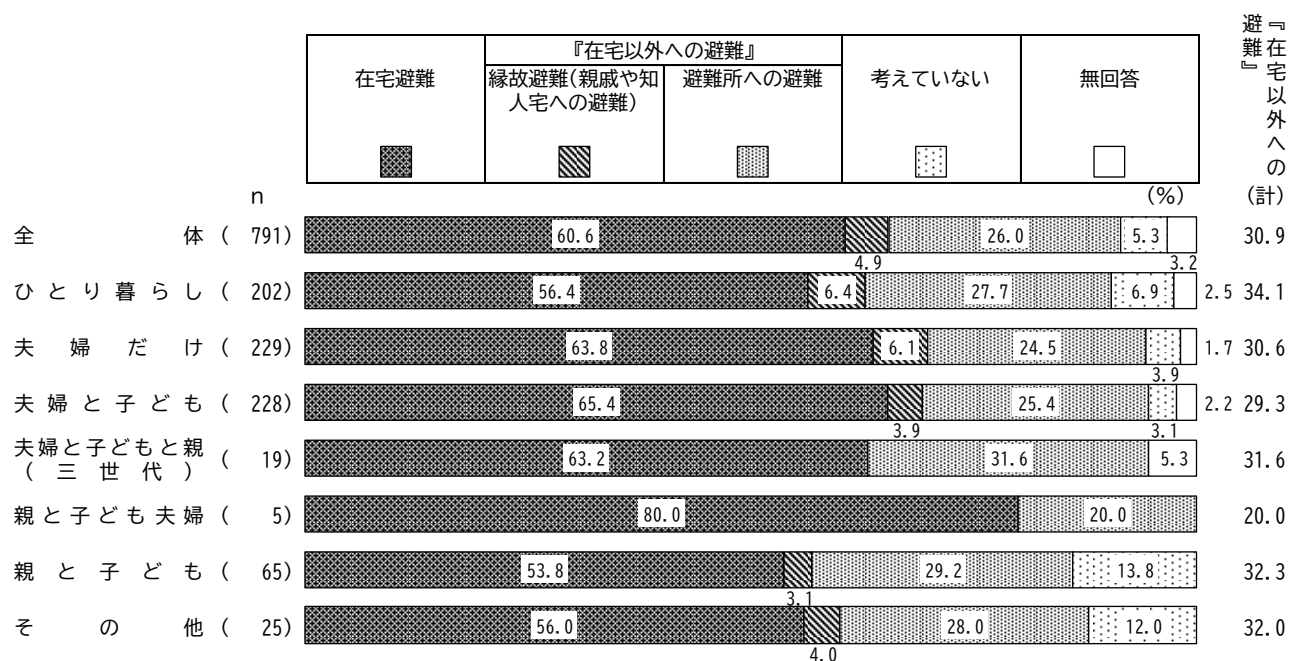
図 20-4-2 災害時の避難方法（性・年代別）



世帯構成別にみると、「在宅避難」は夫婦と子どもの世帯（65.4%）で6割台半ばと高くなっている。また、『在宅以外への避難』はひとり暮らし（34.1%）で3割台半ば近くと高くなっている。

（図 20-4-3）

図 20-4-3 災害時の避難方法（世帯構成別）

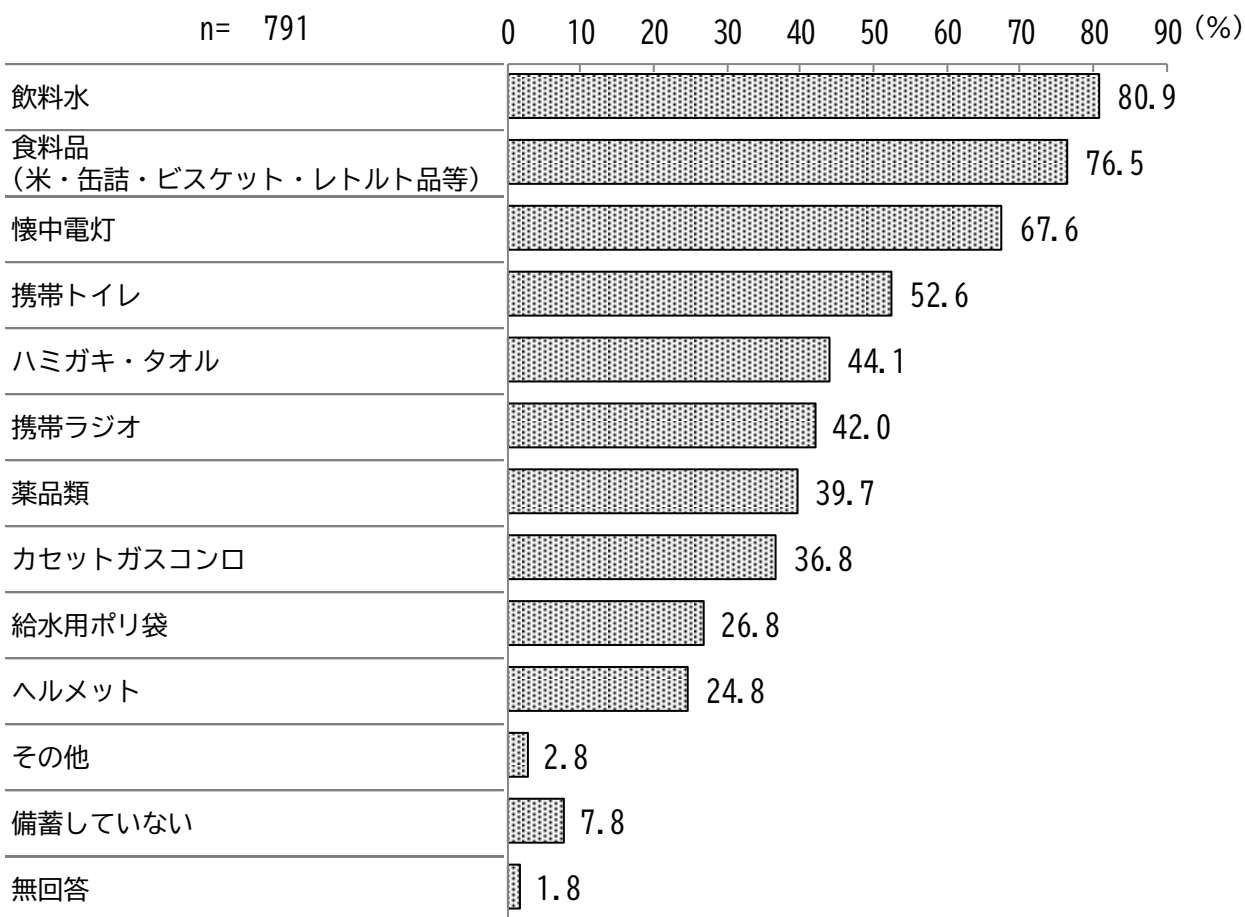


(5) 災害に備えた備蓄状況

◇「飲料水」が約8割

問68 あなたのお宅では、地震等の災害に備えてどのようなものを備蓄していますか。
(〇はいくつでも)

図 20-5-1 災害に備えた備蓄状況

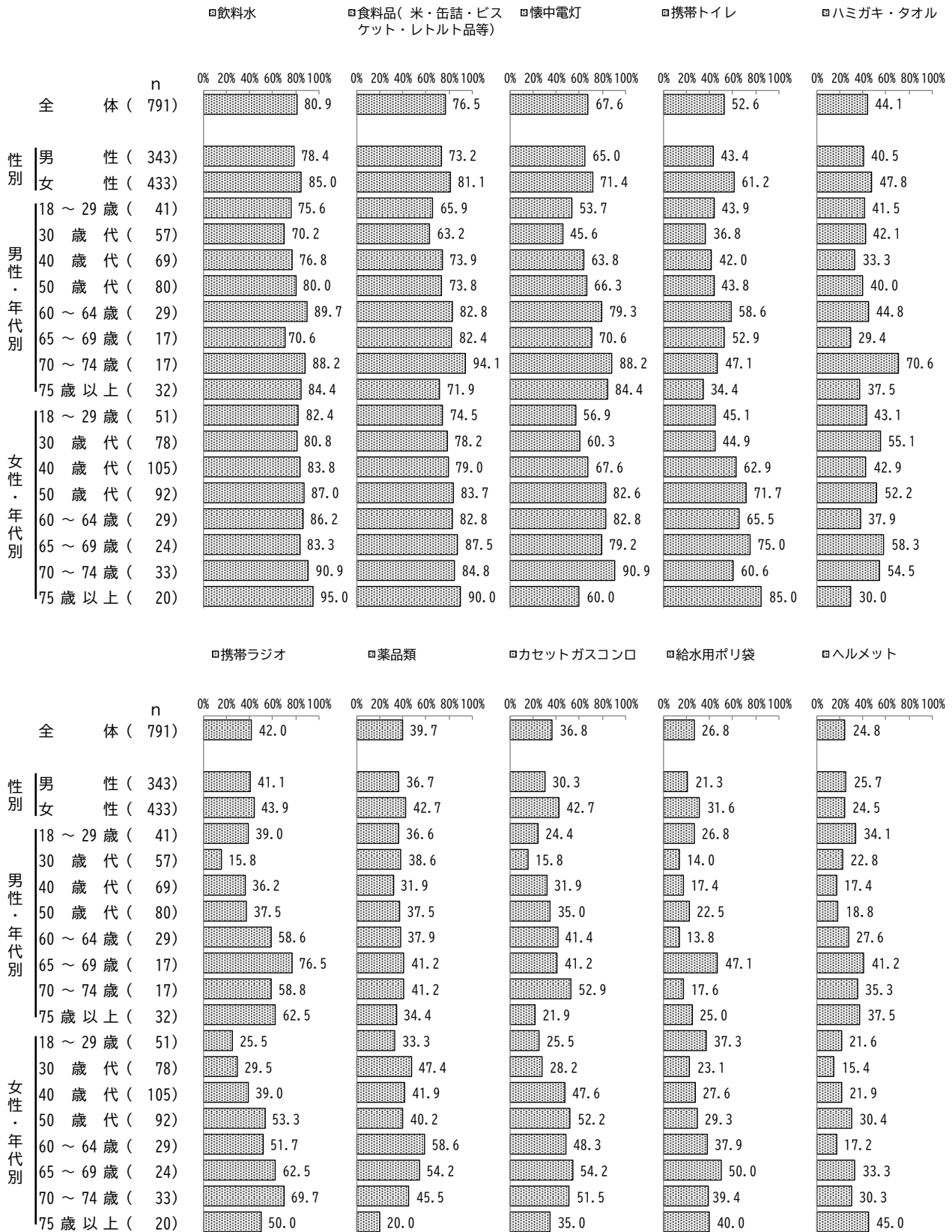


災害に備えた備蓄状況について聞いたところ、「飲料水」(80.9%)が約8割と最も高く、次いで「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」(76.5%)、「懐中電灯」(67.6%)と続いている。

(図 20-5-1)

性・年代別にみると、「飲料水」は女性75歳以上（95.0%）で9割台半ばと高くなっている。また、「食料品（米・缶詰・ビスケット・レトルト食品等）」は男性70～74歳（94.1%）で9割台半ば近くと高くなっている。（図20-5-2）

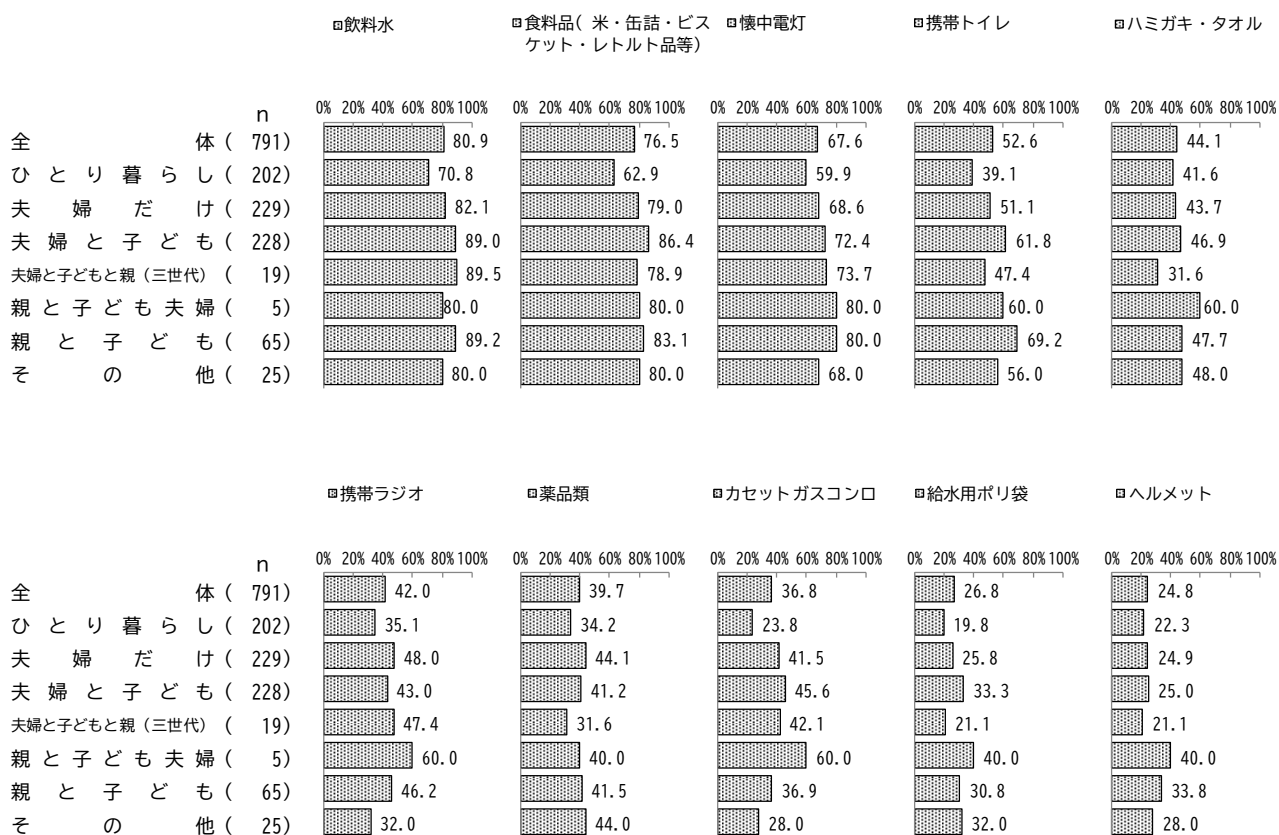
図20-5-2 災害に備えた備蓄状況（性・年代別）



世帯構成別にみると、「懐中電灯」は親と子どもの世帯（80.0%）で8割と高くなっている。

(図 20-5-3)

図 20-5-3 災害に備えた備蓄状況（世帯構成別）



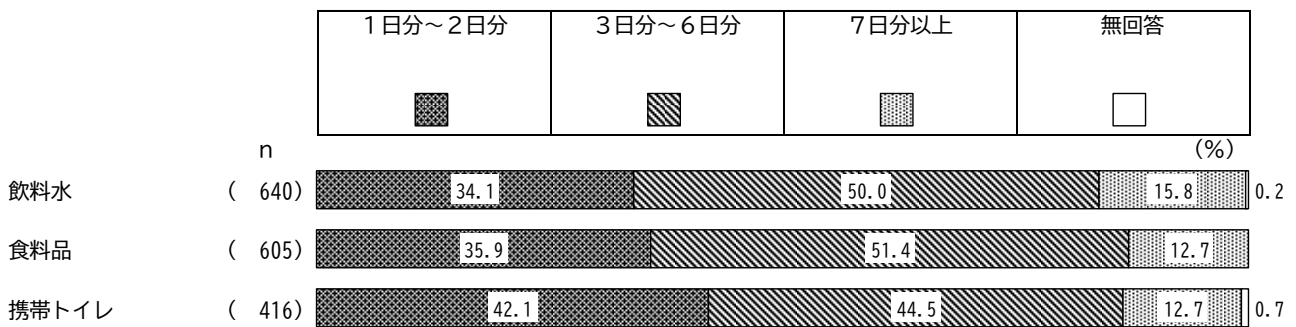
(5-1) 備蓄量

- ◇ “飲料水” の備蓄量は「3日分～6日分」が5割
- “食料品” の備蓄量は「3日分～6日分」が5割強
- “携帯トイレ” の備蓄量は「3日分～6日分」が4割台半ば近く

(問68で「1. 飲料水」「2. 食料品」「3. 携帯トイレ」とお答えの方に)

問68-1 あなたのお宅では、災害に備えて何日分の飲料水・食料品・携帯トイレを備蓄していますか。(参考：1人1日あたり 飲料水 3リットル、保存食等3食、携帯トイレ概ね5枚)
(○は1つ)

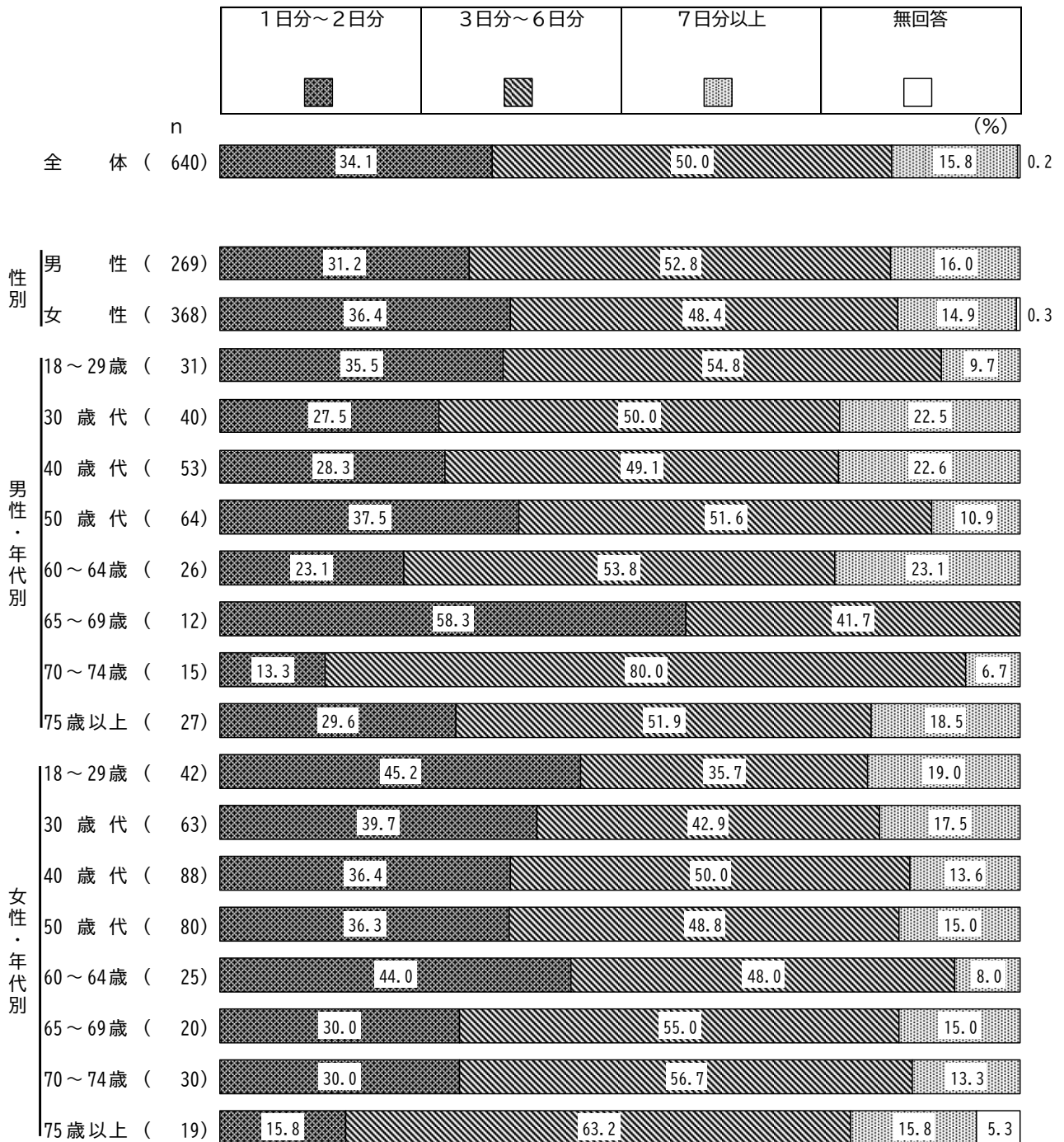
図 20-5-4 備蓄量



“飲料水”、“食料品”、“携帯トイレ” の備蓄量について聞いたところ、“飲料水” では「3日分～6日分」(50.0%) が5割と最も高く、次いで「1日分～2日分」(34.1%)、「7日分以上」(15.8%)と続いている。“食料品” では「3日分～6日分」(51.4%) が5割強と最も高く、次いで「1日分～2日分」(35.9%)、「7日分以上」(12.7%)と続いている。“携帯トイレ” では「3日分～6日分」(44.5%) が4割台半ば近くと最も高く、次いで「1日分～2日分」(42.1%)、「7日分以上」(12.7%)と続いている。(図 20-5-4)

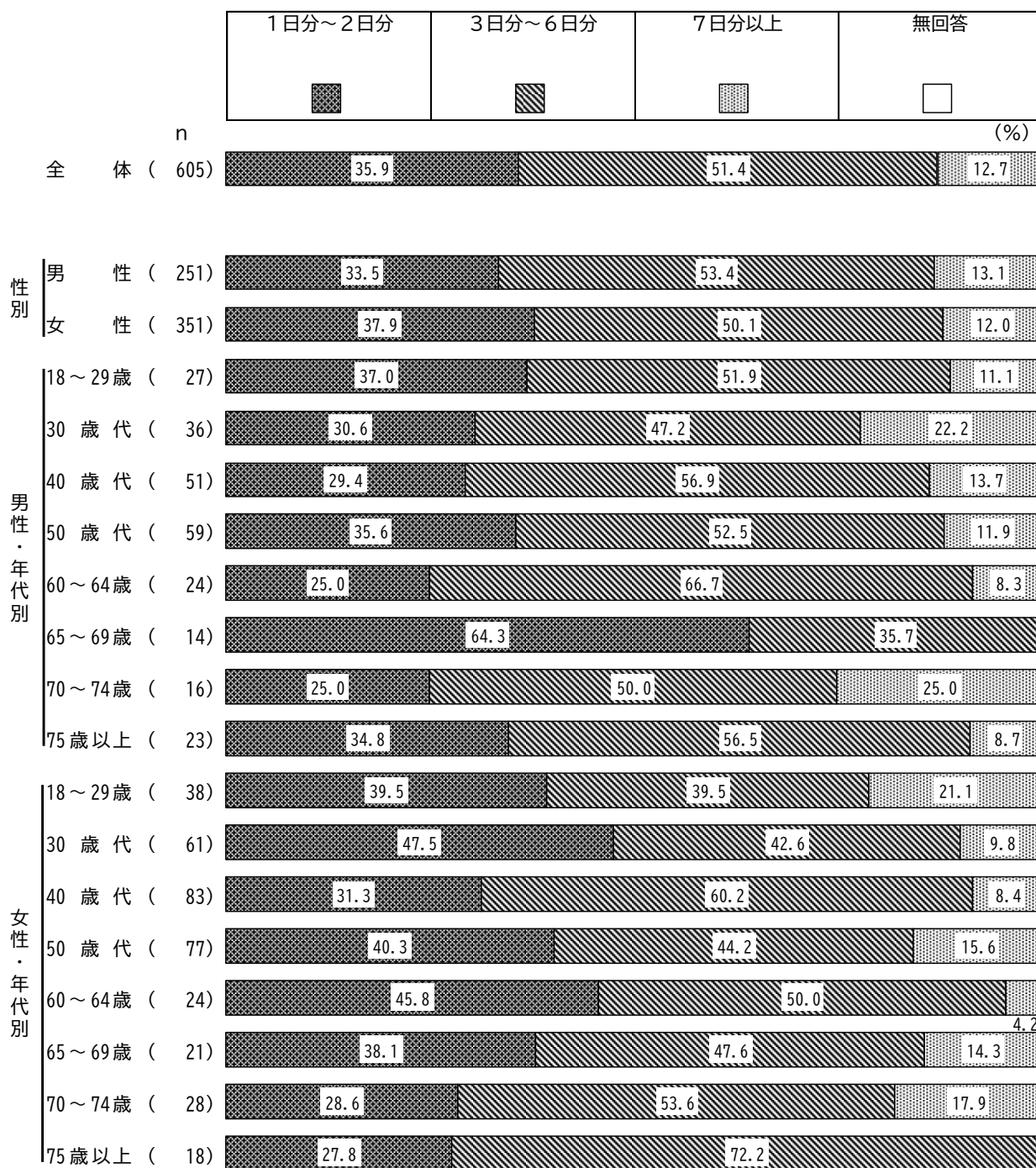
性・年代別にみると、「7日分以上」は男性40歳代（22.6%）、男性30歳代（22.5%）で2割強と高くなっている。（図20-5-5）

図20-5-5 飲料水の備蓄量（性・年代別）



性・年代別にみると、「7日分以上」は男性70～74歳（25.0%）で2割台半ばと高くなっている。
 (図 20-5-6)

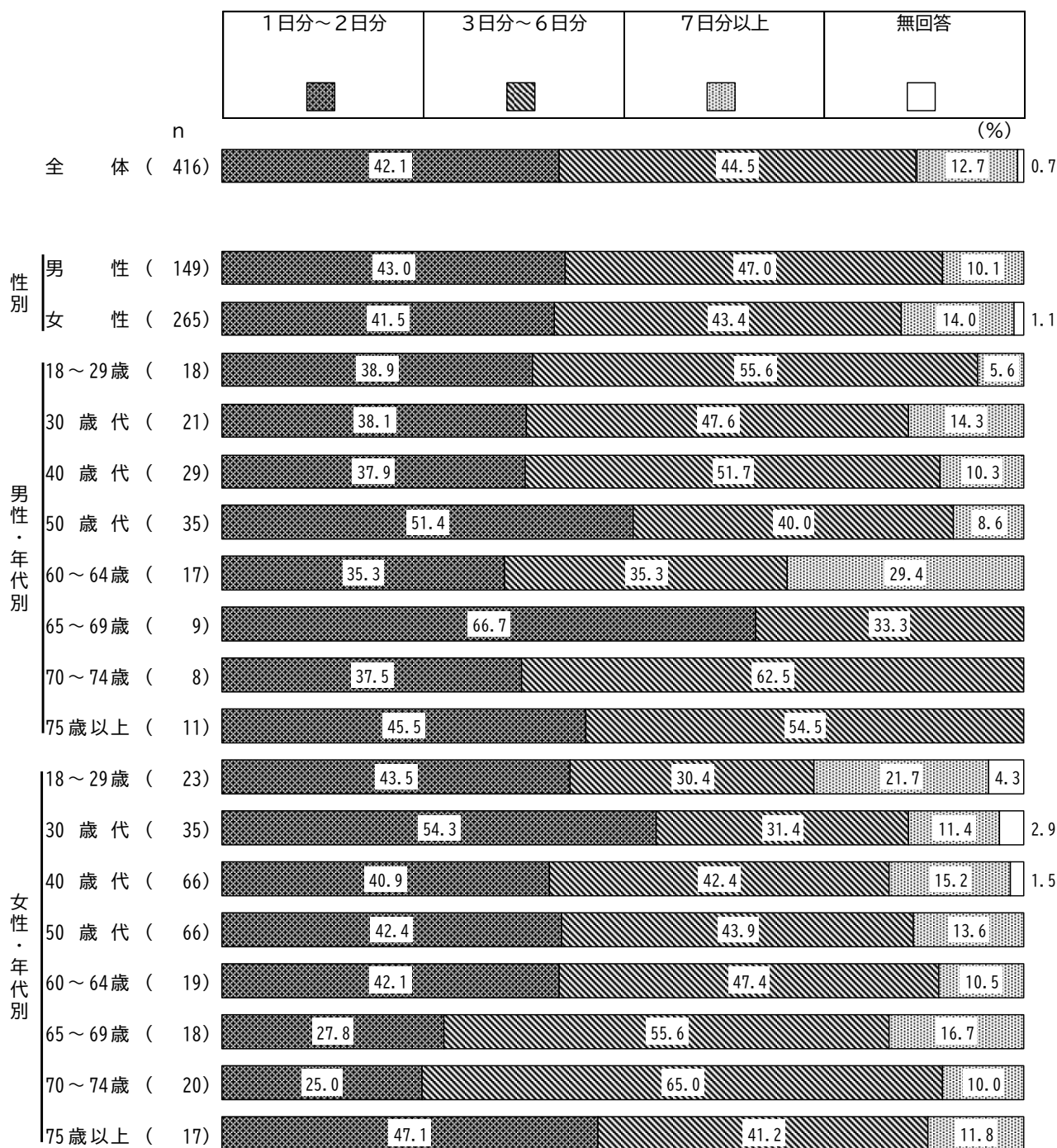
図 20-5-6 食料品の備蓄量（性・年代別）



性・年代別にみると、「7日分以上」は男性 60～64 歳（29.4%）で3割弱と高くなっている。

（図 20-5-7）

図 20-5-7 携帯トイレの備蓄量（性・年代別）

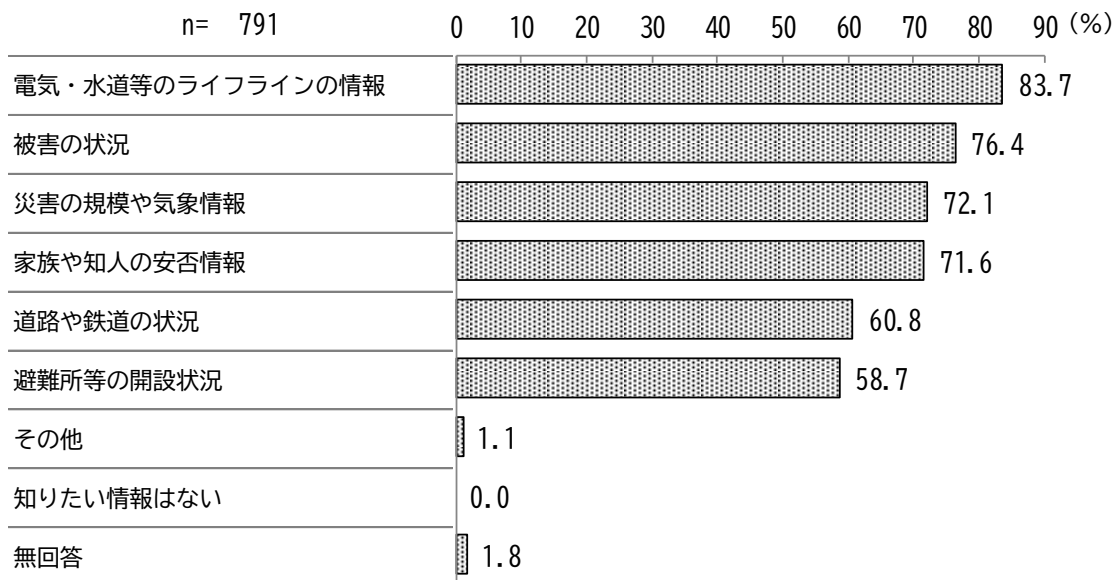


(6) 災害発生時に知りたい情報

◇「電気・水道等のライフラインの情報」が8割台半ば近く

問69 災害が発生したときに、特に知りたい情報は何ですか。(〇はいくつでも)

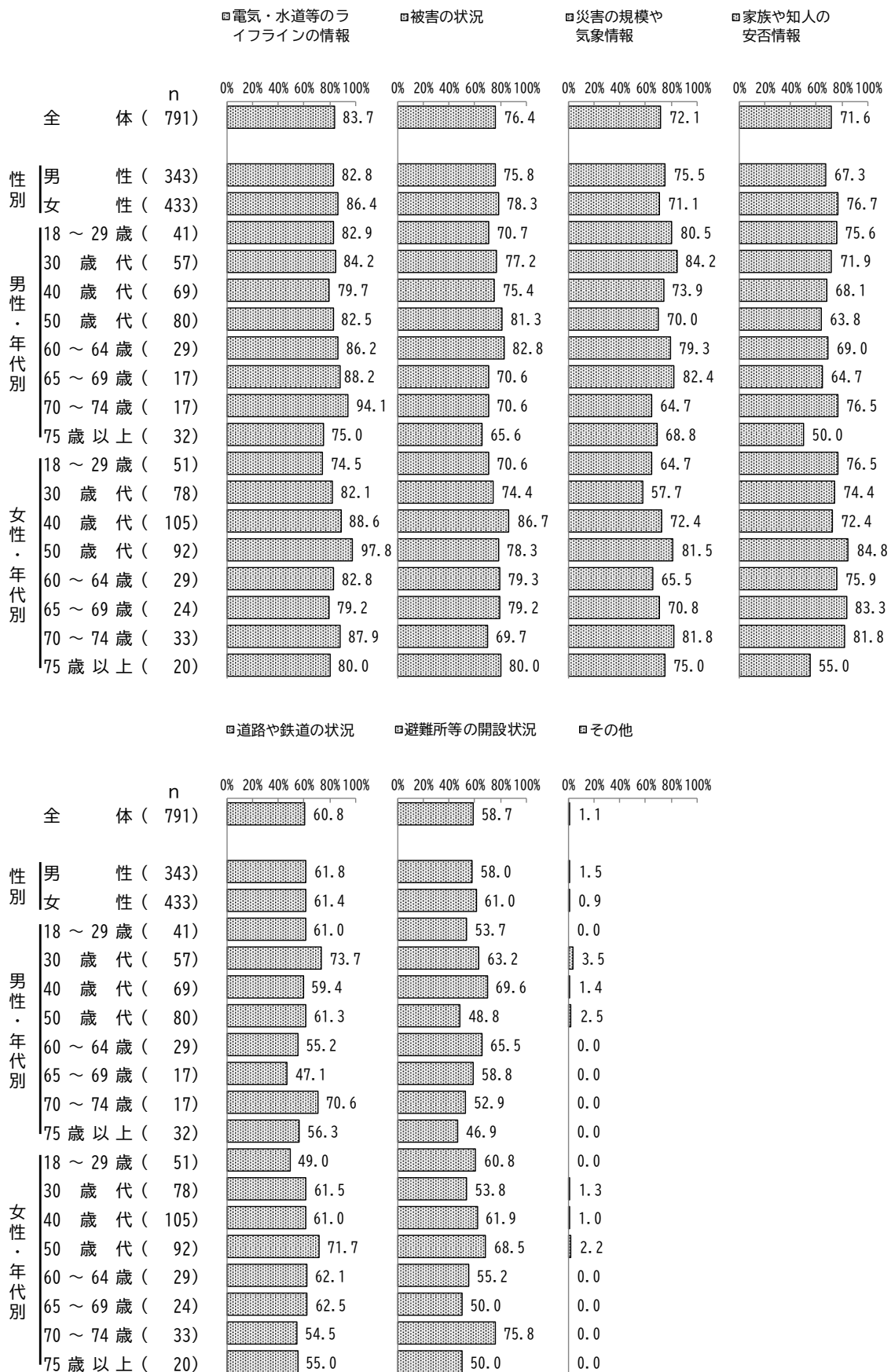
図 20-6-1 災害発生時に知りたい情報



災害発生時に知りたい情報について聞いたところ、「電気・水道等のライフラインの情報」(83.7%)が8割強と最も高く、次いで「被害の状況」(76.4%)、「災害の規模や気象情報」(72.1%)と続いている。(図 20-6-1)

性・年代別にみると、「電気・水道等のライフラインの情報」は女性 50 歳代（97.8%）で 9 割台半ばを超えと高くなっている。（図 20-6-2）

図 20-6-2 災害発生時に知りたい情報（性・年代別）

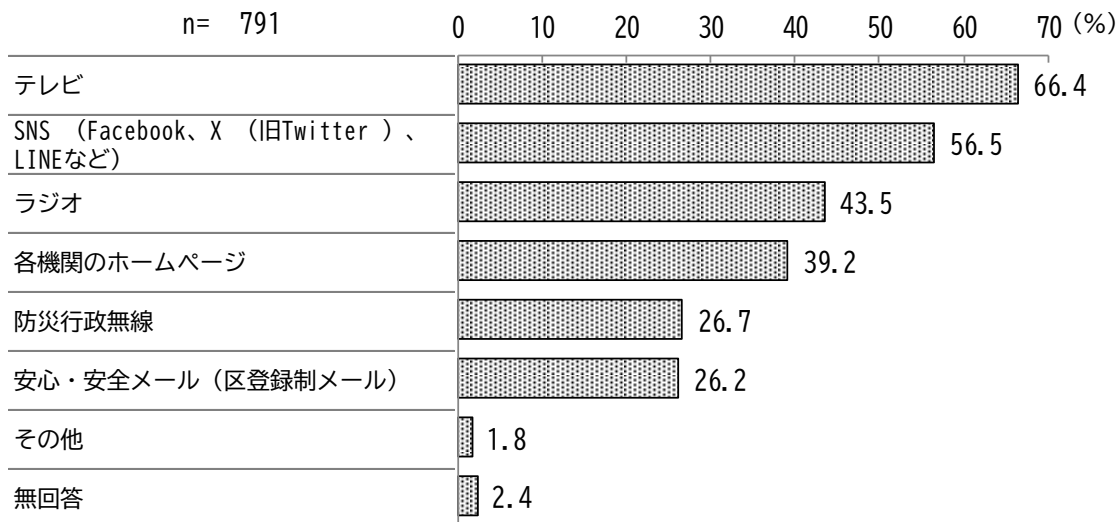


(7) 災害時に情報を取得する媒体

◇「テレビ」が6割台半ば超え

問70 災害時にはどのような媒体から情報を取得しますか。(〇はいくつでも)

図 20-7-1 災害時に情報を取得する媒体



災害時に情報を取得する媒体について聞いたところ、「テレビ」(66.4%)が6割台半ば超えと最も高く、次いで「SNS (Facebook、X (旧 Twitter)、LINE など)」(56.5%)、「ラジオ」(43.5%)と続いている。(図 20-7-1)

性・年代別にみると、「テレビ」は男性 70～74 歳（94.1%）で9割台半ば近くと高くなっている。また、「SNS」は男女ともに概ね年齢層が下がるにつれて、割合が高くなる傾向が見られる。

(図 20-7-2)

図 20-7-2 災害時に情報を取得する媒体（性・年代別）

